

観音寺遺跡（Ⅴ）

道路改築事業（徳島環状線国府工区）関連埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 8

徳島県教育委員会
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

観音寺遺跡（Ⅴ）

道路改築事業（徳島環状線国府工区）関連埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 8

徳島県教育委員会
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター



218号木簡（物忌札）出土状況



221号木簡出土状況

卷頭図版 2



二二〇号木簡 (2/3)



二二九号木簡 (2/3)



二二八号木簡 (1/3)



二二二号木簡 (2/3)



二二一号木簡 (2/3)

木簡 (保存処理前)

序 文

本書は道路改築事業（徳島環状線国府工区）の実施に伴い、県からの委託により、平成19年度に調査を実施した徳島市国府町に所在する観音寺遺跡の発掘調査の成果をまとめたものであります。

当遺跡の調査では、これまでに刊行されています『観音寺遺跡Ⅰ（観音寺遺跡木簡篇）』や『観音寺遺跡Ⅱ（観音寺遺跡木器篇）』（以上国土交通省南環状道路）、『観音寺遺跡（Ⅳ）』におきまして、飛鳥時代から平安時代までの木簡をはじめとした多くの遺物の出土により、阿波における国府の実態を解明する上で大きな成果をあげました。本書では平安時代の「物忌札」をはじめとした木簡や木製祭祀具など、さらに新しい資料が加わってきております。

これらの成果をまとめた本書が阿波の古代史を考える資料として活用され、埋蔵文化財に対する関心と理解を深める一助となれば幸いです。

なお、発掘調査の実施および報告書の作成にあたり、徳島県県土整備部道路建設課および東部県土整備局をはじめ、関係各機関ならびに地元の皆様に多大なご協力・ご指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表すとともに、今後も変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2009年3月20日









財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
理事長 福 家 清 司

例 言

- 1 本書は、道路改築事業（徳島環状線国府工区）に伴って、平成19年度に実施された、徳島市国府町観音寺に所在する観音寺遺跡の発掘調査の成果をまとめたものである。
- 2 発掘調査および整理業務は、徳島県県土整備部都市道路整備局（現東部県土整備局）より委託を受けた徳島県教育委員会文化財課が、（財）徳島県埋蔵文化財センターに再委託を行って実施した。
- 3 方位の表示は、国土座標第Ⅳ座標系の北、高さは東京湾標準潮位（T.P.）を表す。
- 4 第2図の地形図は、国土地理院発行の1：25,000の地形図「石井」を縮小転載、加筆したものである。第3図の地形図は、徳島市発行の1：2,500都市計画図を縮小転載、加筆したものである。
- 5 各遺構を示す記号は、（財）徳島県埋蔵文化財センターが定めたものを使用した。
SR：自然流路・旧河川
- 6 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄『標準土色帳 2001年度版』（日本色研事業株式会社）に拠った。
- 7 木製品の分類は、『木器集成図録 近畿原始篇』（奈良国立文化財研究所 1993）と『木器集成図録 近畿古代篇』（奈良国立文化財研究所 1994）を基準にし、大橋育順が行った。また鉄鏃の分類は、杉山秀宏 1988「古墳時代の鉄鏃について」『橿原考古学研究所論集』第八 吉川弘文館を参考に分類を行った。
- 8 本書の執筆は、第1分冊のⅠ章－1・木村哲也、氏家敏之、Ⅱ章・氏家敏之、それ以外を大橋育順が担当し、大橋が編集した。文責は末尾に記してある。但し、Ⅵ章－2については、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所への「徳島市観音寺遺跡（阿波国府推定地）出土木簡の総合的研究業務委託」の成果報告（都城発掘調査部史料研究室 渡辺晃宏氏作成）をもとに大橋が作成し、京都教育大学名誉教授 和田 萃氏に加筆・監修していただいた。Ⅵ章－6は和田 萃氏に玉稿を賜った。
- 9 写真図版は、遺構および遺物の出土状況については発掘調査の担当者が、出土遺物の写真については大橋育順が撮影を行い編集した。木簡の写真は独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の中村一郎氏が撮影した。
- 10 遺物観察表は、大橋育順が作成した。
- 11 本書に掲載した実測図・遺物写真は保存処理前のものである。

- 12 木簡の保存処理は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所への「徳島市観音寺遺跡（阿波国府推定地）出土木簡の総合的研究業務委託」の一環として実施した。委託には形状確認、釈文の作成、写真撮影が含まれる。
- 13 調査・整理にあたっては、次の機関および個人のご協力・ご指導を得た。
文化庁・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・国立歴史民俗博物館・徳島県東部県土整備局
浅野啓介・市 大樹・馬場 基・山本 崇・渡辺晃宏（敬称略・五十音順）
- 14 本書に収録した出土遺物および図面や写真などの記録の一切は、徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2に所在する、徳島県立埋蔵文化財総合センターにおいて保管している。
- 15 平成19年度は、徳島環状線国府工区部分と国道192号線部分に分かれて調査した。本書は徳島環状線国府工区部分の調査報告書である。整理作業にあたっては07TSKJ-1の遺跡記号をふった。

凡 例

- 1 掲載した出土遺物の実測図は、原則として $S=1/4$ であるが、一部例外として $S=1/2$ 、 $1/8$ のものがある。各図版には、スケールを貼付してあるので参照されたい。
- 2 各木製品の実測図で、木目は平面図・側面図には記入せず、断面図に記してある。ただし、断面が2ヶ所以上になる場合は、1ヶ所にのみ木目を記入し、それ以外は外郭線のみを記した。
- 3 木製品の表面に残存している樹皮、焼き印、漆膜、炭化部分は、網掛けにより表している。
：樹皮 ：焼き印 ：漆膜 ：炭化部分
また、遺物出土位置図には次の記号を使用している。
：木製品 ：土器 ：木簡 ：その他（石製品・鉄製品）
- 4 斎串の両側にある矢印は、刃物による切り込みの方向とその範囲を示している。なお、付してある数字は、矢印の範囲における切り込みの回数を示している。ただし、1回のみ場合は数字を付していない。
- 5 調査区は「観音寺遺跡（Ⅳ）」（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2008）において報告した自然流路（SR3001）に含まれるが、調査時の区名を生かし、各層位ごとに遺物出土位置図を掲載した。これらは第Ⅳ系国土座標を表記することで、絶対位置と方位に代えている。

本文目次

I	発掘調査及び整理業務に関する経緯と経過	
1.	発掘調査の経緯と経過	
(1)	調査にいたる経緯	3
(2)	調査の経過	3
(3)	調査の方法	3
2.	整理業務の方法と経過	4
3.	発掘調査・整理業務の体制	4
4.	調査日誌抄	5
II	遺跡の立地と歴史的環境	
1.	遺跡の立地	9
2.	歴史的環境	11
III	遺跡の地形と基本層序	
1.	遺跡の地形	17
2.	基本層序	17
IV	調査成果	
1.	遺構配置	23
2.	木製品の分類について	23
3.	出土層位と遺物	24
V	まとめ	
1.	自然流路の堆積年代について	85
2.	観音寺遺跡における自然流路の変遷について	86
VI	木簡	
1.	木簡の出土状況	4
2.	出土木簡の観察と积文	4
3.	木簡状木製品	7
4.	出土木簡の製作と廃棄の特徴について	12
5.	まとめ	16
6.	観音寺遺跡（西環状線地点）出土木簡について（和田 萃）	17

挿 図 目 次

- 第1図 観音寺遺跡位置図
第2図 観音寺遺跡周辺の遺跡

- 第3図 徳島環状線国府工区・路線と観音寺遺跡調査区
- 第4図 調査区・グリッド配置図
- 第5図 3区西（西壁）土層断面図
- 第6図 3区西（南壁）土層断面図
- 第7図 3区西（東壁）土層断面図
- 第8図 3区西5層遺物出土位置図
- 第9図 3区西5層出土遺物
- 第10図 3区西6層遺物出土位置図
- 第11図 3区西7層遺物出土位置図
- 第12図 3区西6層出土遺物
- 第13図 3区西7層出土遺物
- 第14図 3区西8層遺物出土位置図
- 第15図 3区西8層出土遺物
- 第16図 3区西9層・10層遺物出土位置図
- 第17図 3区西11層遺物出土位置図
- 第18図 3区西9層出土遺物
- 第19図 3区西10層出土遺物
- 第20図 3区西11層出土遺物
- 第21図 3区北6層出土遺物
- 第22図 3区北7層出土遺物
- 第23図 3区北8層出土遺物
- 第24図 3区北9層出土遺物
- 第25図 3区北11層出土遺物
- 第26図 3区東（西壁）土層断面図
- 第27図 3区東（東壁）土層断面図
- 第28図 3区北・東（北壁）土層断面図
- 第29図 3区北・東3～6層遺物出土位置図
- 第30図 3区東3層出土遺物
- 第31図 3区東5層出土遺物
- 第32図 3区東6層出土遺物
- 第33図 3区北・東7層遺物出土位置図
- 第34図 3区東7層出土遺物(1)
- 第35図 3区東7層出土遺物(2)
- 第36図 3区東7層出土遺物(3)
- 第37図 3区北・東8層遺物出土位置図
- 第38図 3区東8層出土遺物(1)
- 第39図 3区東8層出土遺物(2)
- 第40図 3区東8層出土遺物(3)

- 第41図 3区北・東9層遺物出土位置図
- 第42図 3区東9層斎串出土状況図
- 第43図 3区東10層上面（9層掘削後）の地形図
- 第44図 3区東9層出土遺物(1)
- 第45図 3区東9層出土遺物(2)
- 第46図 3区東9層出土遺物(3)
- 第47図 3区北・東10・11層遺物出土位置図
- 第48図 3区東10層出土遺物(1)
- 第49図 3区東10層出土遺物(2)
- 第50図 3区東11層出土遺物
- 第51図 3区東12層遺物出土位置図
- 第52図 3区東12層出土遺物(1)
- 第53図 3区東12層出土遺物(2)
- 第54図 3区東12層出土遺物(3)
- 第55図 3区東13層遺物出土位置図
- 第56図 3区東13層出土遺物
- 第57図 3区東14層遺物出土位置図
- 第58図 3区東14層出土遺物(1)
- 第59図 3区東14層出土遺物(2)
- 第60図 3区東15層遺物出土位置図
- 第61図 3区東15層出土遺物
- 第62図 3区東 出土遺物
- 第63図 E区（北壁）土層断面図
- 第64図 E区A層遺物出土位置図
- 第65図 E区B層遺物出土位置図
- 第66図 E区C層遺物出土位置図
- 第67図 E区D層遺物出土位置図
- 第68図 E区A層出土遺物
- 第69図 E区B層出土遺物
- 第70図 E区C層出土遺物
- 第71図 E区D層出土遺物
- 第72図 E区F層出土遺物
- 第73図 E区G層出土遺物
- 第74図 E区H層遺物出土位置図
- 第75図 E区I層遺物出土位置図
- 第76図 E区H層出土遺物
- 第77図 E区I層出土遺物
- 第78図 E区 出土遺物

- 第79図 8世紀前半までの自然流路
第80図 8世紀半ば以降の自然流路
第81図 自然流路の復元図（推定）
第82図 出土木簡・木簡状木製品出土位置図
第83図 出土木簡実測図①・木簡状木製品実測図
第84図 出土木簡実測図②

表 目 次

- 表1 出土木製品観察表
表2 出土土器・土製品・その他観察表
表3 観音寺遺跡主要木簡一覧表
表4 出土木簡観察表
表5 出土木簡状木製品観察表
表6 観音寺遺跡（西環状線地点）出土木簡番号・整理番号対応表（87号～222号木簡）

写 真 目 次

巻頭カラー図版

- 巻頭図版1 218号木簡（物忌札）出土状況
221号木簡出土状況

巻頭図版2 木簡（保存処理前）

写真図版

- 図版1 斎串出土状況（3区東9層）
斎串出土状況（3区東9層）
人形出土状況（3区東8層）
図版2 斎串出土状況（3区東9層）
題籤軸出土状況（3区東12層）
刀子出土状況（3区東12層）
図版3 墨書土器出土状況（3区東8層）
土器出土状況（3区東9層）
土器出土状況（3区西11層）

- 図版4 3区東 北壁土層堆積状況
3区東 東壁土層堆積状況
3区東 完掘状況（東から撮影）
- 図版5 3区西5層・6層出土遺物
- 図版6 3区西7層・8層出土遺物
- 図版7 3区西9層・10層出土遺物・11層出土遺物(1)
- 図版8 3区西11層出土遺物(2)
- 図版9 3区北6～9層・11層出土遺物
- 図版10 3区東3層・5層・6層出土遺物
- 図版11 3区東7層出土遺物(1)
- 図版12 3区東7層出土遺物(2)
- 図版13 3区東7層出土遺物(3)・8層出土遺物(1)
- 図版14 3区東8層出土遺物(2)
- 図版15 3区東8層出土遺物(3)
- 図版16 3区東9層出土遺物(1)
- 図版17 3区東9層出土遺物(2)
- 図版18 3区東9層出土遺物(3)
- 図版19 3区東10層出土遺物(1)
- 図版20 3区東10層出土遺物(2)・11層出土遺物
- 図版21 3区東12層出土遺物(1)
- 図版22 3区東12層出土遺物(2)
- 図版23 3区東12層出土遺物(3)
- 図版24 3区東12層出土遺物(4)・13層出土遺物
- 図版25 3区東14層出土遺物(1)
- 図版26 3区東14層出土遺物(2)・15層出土遺物・3区東出土遺物
- 図版27 E区A～C層出土遺物
- 図版28 E区D層・F層・G層出土遺物
- 図版29 E区H層・I層出土遺物・E区出土遺物
- 図版30 木簡(216号～217号)・木簡状木製品
- 図版31 木簡(218号～222号)

I 発掘調査及び
整理業務に関する経緯と経過



1 発掘調査の経緯と経過

(1) 調査にいたる経緯

徳島市の幹線道路は、国道11号、55号、192号が市街地中心部で交差していることから、交通渋滞が慢性化しており、こうした事態を解消するため、徳島市街地を環状に巡る延長約35kmの徳島外環状道路の整備が計画された。そのうち、徳島環状線国府工区は徳島県県土整備部を事業主体とし、平成7年度より地域高規格指定、平成13年度に都市計画決定を受けている。路線延長は徳島市国府町観音寺の国道192号から主要地方道徳島鴨島線に至る約1.5kmである。

当該地域は、阿波国府跡を中心とする条里地割りが残存し、古代・中世と県内で最も濃密に遺跡が分布する地域である。本路線の南に接続する国道192号徳島南環状道路では、平成4年度より建設工事に先立つ発掘調査が実施されているとともに、平成9年度の当該工区の試掘調査においても、全域に古代から中世に至る遺跡の存在が判明した。

発掘調査は年次ごとの事業の進捗に伴い、徳島県県土整備部都市道路整備局(現東部県土整備局)が、徳島県教育委員会文化財課へ依頼し、県の委託を受けた財団法人徳島県埋蔵文化財センターが、平成10年度から19年度の10ヶ年間にわたり順次実施した。平成10年度から15年度は、大規模面積の調査となったことから、効率化を図るために工事請負方式を採用し、併せて測量及び、実測作業の効率化を図るために空中写真撮影図化を導入して調査にあたった。平成16年以降は徳島県埋蔵文化財センターが直営方式で調査にあたり、平成19年度の調査については、本線内の未調査部分と国道192号との交差点左折レーンの拡幅部分の調査を実施した。

尚、遺跡名については、一連の「観音寺遺跡」の呼称を継承することとした。(木村)

(2) 調査の経過

発掘調査は平成10年度より着手され、以後国府工区内は平成19年に至るまで、用地の取得状況に合わせて継続して行われている。

調査の進展に伴い、JR 四国・徳島線付近を境として、南側に古墳時代から古代にかけての流路や水田が広がっており、北側には古墳時代の集落が主に存在することが判明してきたため、JR の線路を境界にして北側を敷地遺跡、南側を観音寺遺跡に便宜的に分けていくこととした。敷地遺跡のほぼ中央部を、東西に横切る県道平島国府線に沿うようにして、西大堀川が敷地遺跡を分断していることが確認できたため、南側を敷地遺跡Ⅰ群、北側を敷地遺跡Ⅱ群として捉えることとした(第3図)。(氏家)

(3) 調査の方法

発掘調査にあたっては隣接する国道192号徳島南環状道路の調査に伴い、第Ⅳ系国土座標軸を基準とした、大規模なグリッド設定が行われていたことから、今回の調査についても、これを利用することとした。そのため基準となる座標の位置は、 $X=116,000$ 、 $Y=89,500$ の交点を基点として用いている。

まず、一辺を500mとするグリッドで区切り、基点から北にアルファベット大文字(A、B、C……)、同じく基点から東にアラビア数字(1、2、3……)をそれぞれ付けることで、大グリッドの絶対位置を表した。さらにこのグリッド内を100mごとに区切って、南から北へ、ギリシャ文字(α 、 β 、 γ 、 δ 、 ϵ)、西から東へは、ローマ数字(I、II、III、IV、V)として、中グリッドを設定している。中グリッ

ドをさらに細分して5mごとに区切って、南から北へは、アルファベット（A、B、C……T）、西から東へは、アラビア数字（1、2、3……20）として、小グリッドを設定して、調査を行うこととした。なお、大グリッドと小グリッドが、混同することがないように、大グリッドには頭の部分に「Location」の略号として、「Loc.」を付けることとし、Loc.G-1（大グリッド）β-II（中グリッド）A-3（小グリッド）というような表現で、絶対位置を表すようにした（第3・4図）。

また調査区の名称と層位については、調査時の名称をそのまま使用している。今回の報告対象となるのは3区・E区である。3区の中でも掘削時期の違いにより3区北、3区西、3区東と区別して表記した。（大橋）

2 整理業務の方法と経過

『観音寺遺跡（V）』の整理作業は、平成20年度より0.5班体制で取りかかり、木製品の洗浄・実測・トレース作業・写真撮影、土器・金属器等の注記・接合・実測・トレース作業・写真撮影、報告書の執筆、編集作業を実施した。

木簡の釈読については京都教育大学名誉教授 和田 萃氏に依頼し、発掘調査期間も含めて、釈読作業を行っていただいた。また木簡の保存処理は、平成20年度に独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所において「徳島市観音寺遺跡（阿波国府推定地）出土木簡の総合的研究業務委託」の一環として行った。木簡の釈文に関しては、奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室の渡辺晃宏室長を中心に検討会を開き、和田氏の立ち会いのもと処理前・処理後の確認を行った。

出土した木簡は以下の日程において報道発表と一般公開を行った。

報道発表 平成20年4月18日

成果説明会と展示解説 平成20年4月19、20日

（大橋）

3 発掘調査・整理業務の体制

○2007年度

・事務局

所長 伊川政文

事務局長 多田升二

（総務課）

次長兼総務課長 一宮一郎

主査兼庶務係長 新居謙輔

事務主任 浦川明美 野田登記子

（事業第一課）

課長 湯浅利彦

第一係長 藤川智之

第二係長 氏家敏之

・発掘調査担当

事業第一課 主任研究員 栗林誠治 大橋育順

研究員 森 直樹 入江正幸

○2008年度

・事務局

所長 阿部修三

事務局長 多田升二

(総務課)

総務課長兼庶務係長 新居謙輔

事務主任 野田登記子

主事 三ヶ田浩

(事業第二課)

次長兼課長 島巡賢二

整理係長 氏家敏之

・整理業務担当

事業第二課 主任研究員 大橋育順

4 調査日誌抄

(平成19年度調査)

2007年 7月20日	3区機械掘削
7月24日	3区(西)人力掘削 側溝掘削 水路水止め作業
7月31日	3区(西)人力掘削 側溝掘削
8月7日	3区(西)人力掘削
8月10日	3区(西)人力掘削
8月14日	3区(西)水抜き 断面図作成
8月16日	3区(西)人力掘削 遺物取り上げ
8月20日	3区(西)人力掘削
8月22日	3区(西)人力掘削 3区(西)南ベルト掘削
8月23日	3区(西)人力掘削 3区(東)人力掘削
8月27日	3区(西)人力掘削 測量 写真撮影 3区(東)人力掘削 遺物取り上げ
8月30日	3区(西)埋め戻し 遺物整理 図面整理
9月6日	3区(東)人力掘削 3区(西)北側人力掘削 遺物取り上げ
9月7日	3区(西)北側人力掘削 3区(東)人力掘削 3区(東)東側人力掘削 遺物取り上げ
9月10日	3区(東)人力掘削 遺物取り上げ 断面図(東ベルト)
9月11日	3区(東)人力掘削 3区(西)北側人力掘削
9月12日	3区(東)南壁人力掘削 遺物取り上げ 断面図作成
9月13日	3区(東)人力掘削 遺物取り上げ 平面図作成 12層 完掘写真撮影
9月19日	3区(東)15層まで人力掘削 南ベルト掘削 壁面精査

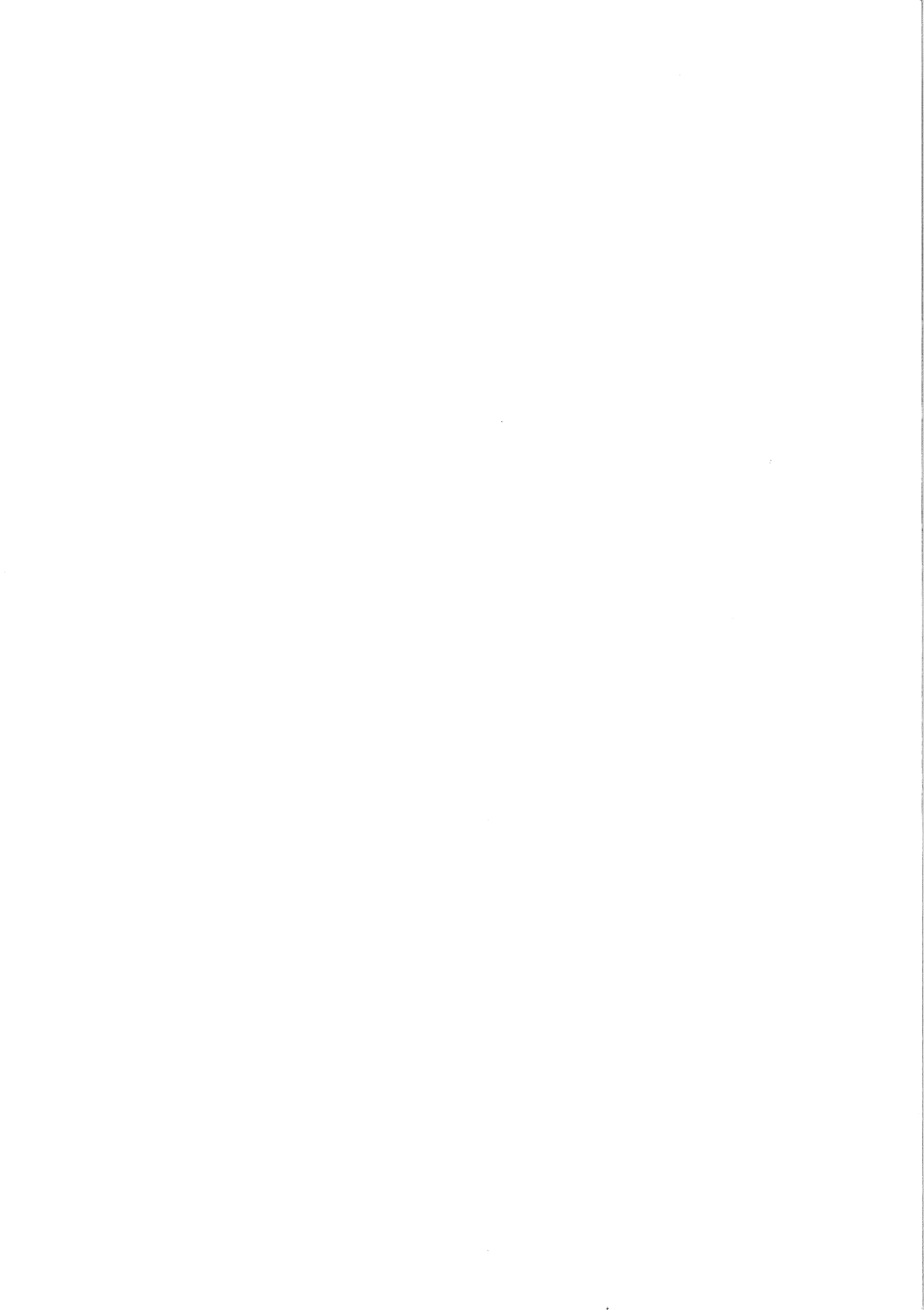
遺物取り上げ

- 9月25日 断面図作成 遺物整理
9月27日 遺物整理 3区(西)・3区(東)埋め戻し
9月28日 現場撤収
12月6日 E区人力掘削 遺物取り上げ 断面図作成
12月18日 E区図面作成
12月19日 現場撤収



作業状況

II 遺跡の立地と歴史的環境



1 遺跡の立地

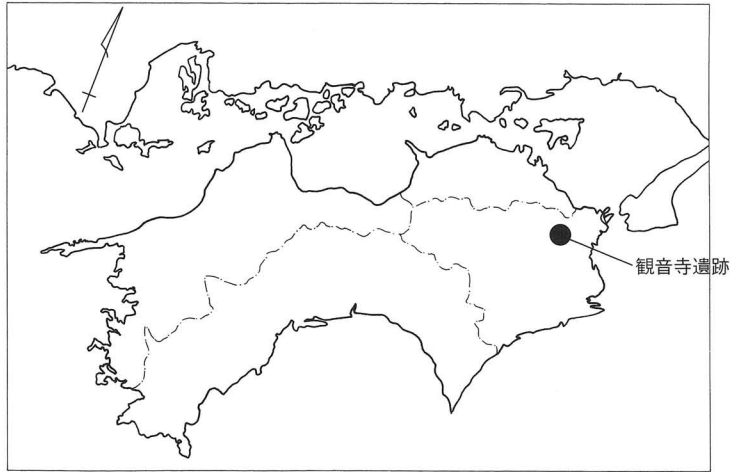
徳島県は四国島の東部に位置する。面積は4,144平方kmであるが、全面積の約8割近くを山地が占める。平野部は、吉野川、勝浦川、那賀川、海部川などの流域に、主として三角州として発達する。山地は、北側の讃岐山脈と吉野川以南の四国山地に大別される。

四国を東西に横断する中央構造線によって、地質の構造は北側の内帯と南側の外帯とに分けられる。中央構造線は、徳島県内では東から鳴門市里浦、美馬市脇町、三好市池田町から愛媛県四国中央市に連なり、讃岐山脈沿いに延びている。県内の地質は、中央構造線を主とする東西方向の構造線によって、内帯の和泉層群、外帯には北から三波川帯、御荷鉾帯、秩父帯、四万十帯からなる。

「四国三郎」吉野川は延長約194km、流域面積約3,750平方kmの規模をもつ四国有数の河川である。石鎚山に源を発し、中央構造線に沿って東流して紀伊水道に注いでいる。吉野川には、外帯側の右岸では鮎喰川などの扇状地が形成され、一方の内帯側の左岸では伊沢谷川、大久保谷川、日開谷川、九頭宇谷川、宮川内谷川などの扇状地が形成されている。内帯側の扇状地はより急勾配に形成され、多くの土砂を押し流していることにより、吉野川の流れも構造谷のより南を通っている（第1図）。

吉野川の河道は時代とともに大きく変動しているが、最大の画期は1701年頃に行われたとされる付け替え（新川掘り抜き）である。これは、新たな河道の開削と堰の構築（第十堰）により、下流域での灌漑用水の確保と城下町の治水の安定化を目指したものであり、北東に流れていた当時の本流（現在の旧吉野川）を現在の河道へと導いた。

観音寺遺跡が所在する徳島市国府町は、主に鮎喰川の堆積作用によって形成された、三角州性扇状地に立地している。この扇状地は延命付近を扇頂とし、半径約6kmの規模をもち、標高は延命で約15m、扇端部の井戸付近では約5mを測る。観音寺遺跡は国府町のほぼ西端に位置しており、標高は高いところで約6.8m、低いところで約5.7mほどである。地形は扇状地の広がりに合わせて、南から北に向かって緩やかに低下しており、付近には旧河道とみられる地形のゆがみが多く残されている。そのうち、観音寺遺跡の地形の形成に大きく影響したと考えられるのは、舌洗川の旧河道である。堆積物中からは古墳時代以降の遺物が多く含まれており、川の流れが当時の生活と密接に結びついていたことを表している。（氏家）



第1図 観音寺遺跡位置図

2 歴史的環境

観音寺遺跡の所在する徳島市国府町の鮎喰川の扇状地およびその周辺地は、徳島県下でも有数の遺跡の密集地帯である。ここでは年代に沿って、各遺跡の特徴を整理するが、年代によっては位置図外の遺跡についても触れることとする（第2図）。

旧石器時代

徳島市域においては、ほとんど遺跡の存在は確認されていない。名東遺跡において、弥生時代住居埋土内から、サヌカイト製のナイフ形石器が出土しているのみである（（財）徳島県埋蔵文化財センター 1995）。

縄文時代

後期以前の遺跡については、確実な例は知られていない。石井町石井城ノ内遺跡からは、流路内より玦状耳飾が出土しており、周辺に前期以前の遺跡の存在が予想される。また、中期末から後期初頭にかけての遺物も出土している（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2003a）。

後期に入ると、矢野遺跡に大規模な集落が現れる。弥生時代遺構面の約1m以上も下の河道の浸食を免れた微高地を中心として、中津式から福田KⅡ式、縁帯文成立期に至る時期の遺構面と包含層が確認されている（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2003b）。

晩期になると、名東遺跡、三谷遺跡、庄遺跡、観音寺遺跡などから遺物が出土している（（財）徳島県埋蔵文化財センター 1999a、b、徳島市埋蔵文化財発掘調査委員会 1997など）。

弥生時代

鮎喰川扇状地上は、県下でも有数の規模の集落が形成されているが、前期にさかのぼる資料は、ごくわずかである。

中期以降になると集落形成が本格化し、中期後葉になると矢野遺跡などで竪穴住居の数が増加する。後期に入ると、矢野遺跡では集落域がさらに拡大する傾向がみられる。矢野遺跡の最盛期は、この時期である。集落の形成は、観音寺遺跡を一部含む北半部分に始まり、布留式併行期にかけて徐々に主体が南寄りとして山沿いに移動する。銅鐸が埋納されたのは後期後半と考えられているが、その位置は併行して存在する竪穴住居密集部の中心である（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2002a）。

古墳時代

鮎喰川扇状地の西側の山塊は気延山と呼ばれ、古墳時代前期から後期にかけての県下でも最大規模の古墳群が築かれている。

前期の古墳としては、宮谷古墳、奥谷古墳群が代表例である。宮谷古墳は、墳丘長約36mの前方後円墳である。主体部として後円部に竪穴式石室が築かれ、三角縁神獣鏡が3面出土している。奥谷古墳群は、埴輪列の確認された1号墳（前方後方墳）と2号墳（円墳）からなる（三宅 2002）。

中期の古墳は実態が明らかなものが少ない。「阿波式石棺」と呼ばれた、板石を用いた組合式の石棺が築かれている。墳丘、副葬品が少ないが、5世紀代に盛行すると考えられ、内谷古墳や尼寺1号墳な

どが知られている。

後期には17基からなる、ひびき岩古墳群があり、横穴式石室を主体とする円墳の内の数基が調査されている（石井町教育委員会 1986）。また、矢野古墳は結晶片岩の巨石を用いた横穴式石室をもつ（天羽 1973）。

集落遺跡については、鮎喰川対岸の南庄遺跡や、庄・蔵本遺跡などで竪穴住居跡が数軒確認されているが、敷地遺跡において100軒を超える、中期から後期にかけての竪穴住居が検出された（(財)徳島県埋蔵文化財センター 2008a）。

古代（奈良・平安時代）

『和名類聚抄』の記述により、阿波国府は、かつての名方郡に属したことが記録されている。これまでの発掘調査において、国衙跡と断定できる遺構群は検出されていないが、観音寺遺跡（南環状道路地点）から検出された河川内より出土した木簡の内容から、その所在地が河川に近接した場所であることは、ほぼ確定したといえる（(財)徳島県埋蔵文化財センター 2002b、2006）。

国府推定地から約1.5km南東に国分寺、西数100mに国分尼寺がそれぞれ所在している。国分寺は、現在の四国霊場15番札所国分寺境内内に、塔心礎と伝えられる結晶片岩の巨石が残されている。1978年からの3次にわたる範囲確認調査によって、二町四方の寺域が想定され、築地状遺構、基壇状遺構、瓦窯跡などが確認されている（天羽・一山 1987）。また隣接する矢野遺跡の調査では、国分寺へ延びる東西方向の道路遺構が確認された（(財)徳島県埋蔵文化財センター 2002a）。

国分尼寺は1970年から2次にわたる範囲確認調査が行われ（田辺・松永 1987）、1999年以降も史跡整備に伴う調査が進行している。これまでに金堂基壇、北門、中門、講堂などが検出されている。

国府推定地の南に位置する矢野遺跡からは、掘立柱建物が50軒以上と竪穴住居が20軒以上確認されている（(財)徳島県埋蔵文化財センター 2006）。

鮎喰川扇状地上には条里地割が広く残されており、福井好行・服部昌之らが、復元を試みている（福井 1959、服部 1966）。

最近では、条里余剰帯に注目した木原克司、岡田啓子の分析がある。国分尼寺から東に向けての旧伊予街道上、国分尼寺東側の南北道上などに存在する余剰帯が直線的で規格性も高いことから、官道（延喜式段階よりも古いルートをとる南海道）の可能性が指摘されている（木原・岡田 1998）。

また、奈良・平安時代にかけては水田域が増大する傾向が指摘できる。延命遺跡、矢野遺跡、観音寺遺跡、池尻・桜間遺跡などでは8世紀以降、水田開発が盛んであり、国府造営や条里地割の形成に関連して周辺の開発が進められていたと考えられる。

中世（鎌倉・室町時代）

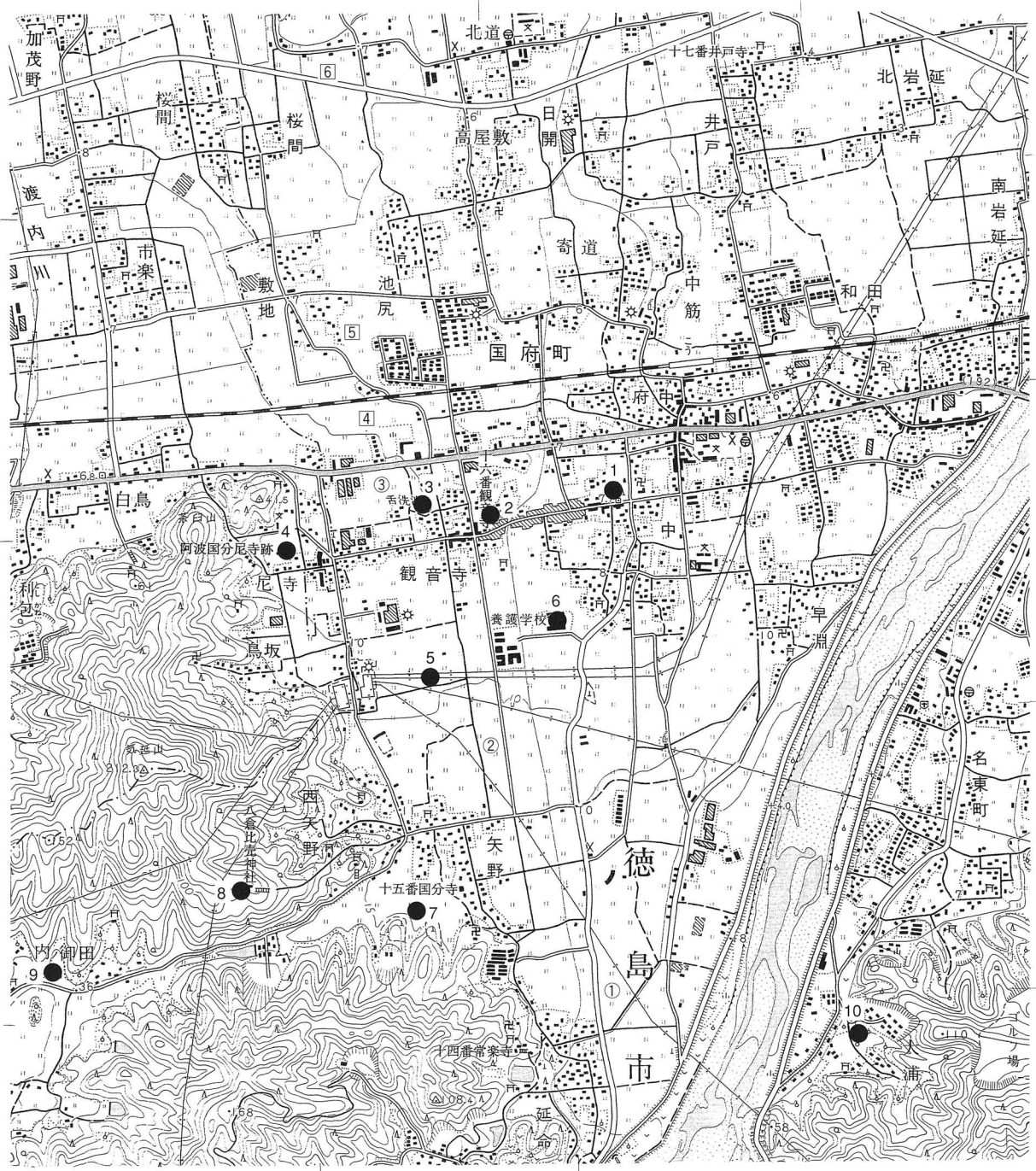
観音寺遺跡（南環状道路地点）など限られた場所で、掘立柱建物や土壙墓などの存在が確認されている（(財)徳島県埋蔵文化財センター 1998）。また、敷地遺跡第Ⅱ群の調査地点においても、鎌倉時代の屋敷地とみられる掘立柱建物や土壙墓が検出されている（(財)徳島県埋蔵文化財センター 1999b、2002c、2008b）。

鮎喰川扇状地の南側の山塊には一宮城が築かれている。一宮城は鎌倉期の守護、小笠原氏が築城したとされ、その後、一宮氏、細川氏、三好氏、長宗我部氏と主が入れ替わった。羽柴秀吉による四国侵攻後、

蜂須賀家政が天正13年(1585)に阿波に移された際に入城し、徳島城に移るまで居城としていた。(氏家)

参考文献

- 天羽利夫 1973 「徳島県における横穴石室の一様相」『徳島県立博物館紀要』4
- 天羽利夫・一山 典 1987 「阿波国分寺」『新修国分寺の研究』第5巻上 吉川弘文館
- 石井町教育委員会 1986 『ひびき岩十六号墳発掘調査報告書』
- 木原克司・岡田啓子 1998 「古代吉野川下流域の条里と交通路」『鳴門教育大学研究紀要』第13巻
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 1995 『名東遺跡』
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 1998 『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.9』
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 1999a 『庄遺跡Ⅲ』
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 1999b 『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.10』
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2002a 『矢野遺跡(Ⅰ)』
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2002b 『観音寺遺跡Ⅰ(観音寺遺跡木簡篇)』
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2002c 『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.13』
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2003a 『石井城ノ内遺跡』
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2003b 『矢野遺跡(Ⅱ)』
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2006 『矢野遺跡(Ⅲ)』
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2006 『観音寺遺跡Ⅱ(観音寺遺跡木器篇)』
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2008a 『敷地遺跡(Ⅰ)』
- (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2008b 『敷地遺跡(Ⅱ)』
- 田辺征夫・松永住美 1987 「阿波国分尼寺」『新修国分寺の研究』第5巻上 吉川弘文館
- 徳島市埋蔵文化財発掘調査委員会 1997 『三谷遺跡』
- 服部昌之 1966 「阿波条里の復元的研究」『人文地理』18-5 人文地理学会
- 福井好行 1959 「阿波の国府と其の附近の条里」『徳島大学学芸学部紀要』8 徳島大学
- 三宅良明 2002 「宮谷古墳・奥谷1号墳の墳丘構造について」『論集徳島の考古学』同刊行会



- | | | |
|--------------|----------------|--------------------|
| ①～③ 南環状道路の遺跡 | 1 大御和神社 (式内社) | 6 高畑遺跡 |
| ④～⑥ 西環状線の遺跡 | 2 観音寺 (現十六番札所) | 7 国分寺 (現十五番札所) |
| ① 延命遺跡 | 3 舌洗池 | 8 天石門別八倉比売神社 (式内社) |
| ② 矢野遺跡 | 4 阿波国分尼寺跡 | 9 内御田瓦窯跡 |
| ③ 観音寺遺跡 | 5 阿波国府跡 | 10 大浦遺跡 |
| | ⑥ 池尻・桜間遺跡 | せんだんの木地区 |

第2図 観音寺遺跡周辺の遺跡

Ⅲ 遺跡の地形と基本層序



1 遺跡の地形

観音寺遺跡は、吉野川の支流である鮎喰川の左岸に形成された扇状地上に立地する。この扇状地は徳島市国府町延命付近を扇の要とし、石井町利包から桜間、不動、佐古を結ぶ地域を扇端とする半径約6kmの規模である。扇状地性の沖積地の発達によって、河道が固定化される弥生時代中期以降には、集落を形成しうる安定した地形環境になったと考えられる。また、鮎喰川は御荷鉾構造線などの破碎帯を通過することによって、礫の供給が豊富であり、下流に至るまで礫床河川となっている。平野部下層においても、同様の傾向が指摘されている。

本遺跡は、この扇状地のほぼ中央に位置する。調査地点の標高は6～8mを測る。遺跡周辺の微地形は扇状地形に従って、南から北に向かって緩やかに傾斜している。前章でもふれているが、周辺には多くの埋没河川や旧河道がある。これらが、洪水時の流路となることで、地形の起伏を残す結果となったと考えられる。また、この地域には鮎喰川の伏流水による湧水地点が多い。現在も調査地の南西約300mには舌洗池がある。その湧水が現在の舌洗川の流れとなり、遺跡の中央部を南東から北西方向へと流れている。古代にはこのような自然流路が形成した低湿地が、観音寺遺跡周辺に広がっていたと考えられる。国府町観音寺坂東家が所蔵する「観音寺村細密図」によれば、舌洗川は現在とほぼ同じ位置に記されている。調査地点周辺では、「深田」を意味する「ふけ」もしくは「ぶけ」の字名が見えることから、湿地帯であったことがうかがえる。(大橋)

参考文献

- 古田 昇 2002 「地理学からみた観音寺遺跡周辺の地形環境の変化」『観音寺遺跡Ⅰ』(財)徳島県埋蔵文化財センター
- 藤川智之 2002 「考古学からみた阿波国府研究の現状」『観音寺遺跡Ⅰ』(財)徳島県埋蔵文化財センター

2 基本層序

観音寺遺跡は徳島環状線国府工区の建設に伴って発掘調査が行われたため、調査範囲は路線幅である東西約60mを、南北に延長約240mの範囲に及んだ。調査は1998年度から2007年度にわたって、現地割り単位で部分的に行われてきた。調査区の大部分は先の『観音寺遺跡(Ⅳ)』(財)徳島県埋蔵文化財センター2008)で報告されているが、本書では観音寺遺跡南東部の一部を扱っているため、自然流路(SR3001)のみが報告対象となる。そこで、調査時に確認した層位を単位に出土遺物を記載する。

まず調査区は、調査時期の違いで大きく3区とE区に区分される。また、3区は西・北・東に細分した(第4図)。それぞれに大きな差異は見られないが、自然流路内は複雑な堆積作用を受けていることが想定されるため、まずは最小単位における層の堆積状況を把握した。3区西では上層においては1～6層において、シルト層の間に粘質シルトの堆積が見られる。標高4.2m付近の7層(7層内でさらに細分される)では細砂の混入が顕著である。また、粗砂が堆積する10層、自然流路南岸を形成する粘質シルト層の16層が鍵層となる(第5～7図)。また3区東の北壁では15層上面に、細砂とシルトが交互に堆積した砂質シルトの14層が見られる(第28図)。

E区では1～7層に粘性の高い層が堆積し、8～13層に細砂もしくは砂質シルト層となる。19～23層

は細砂層となり、24層の粘土層を挟んで25～27層の粗砂層となる（第63図）。

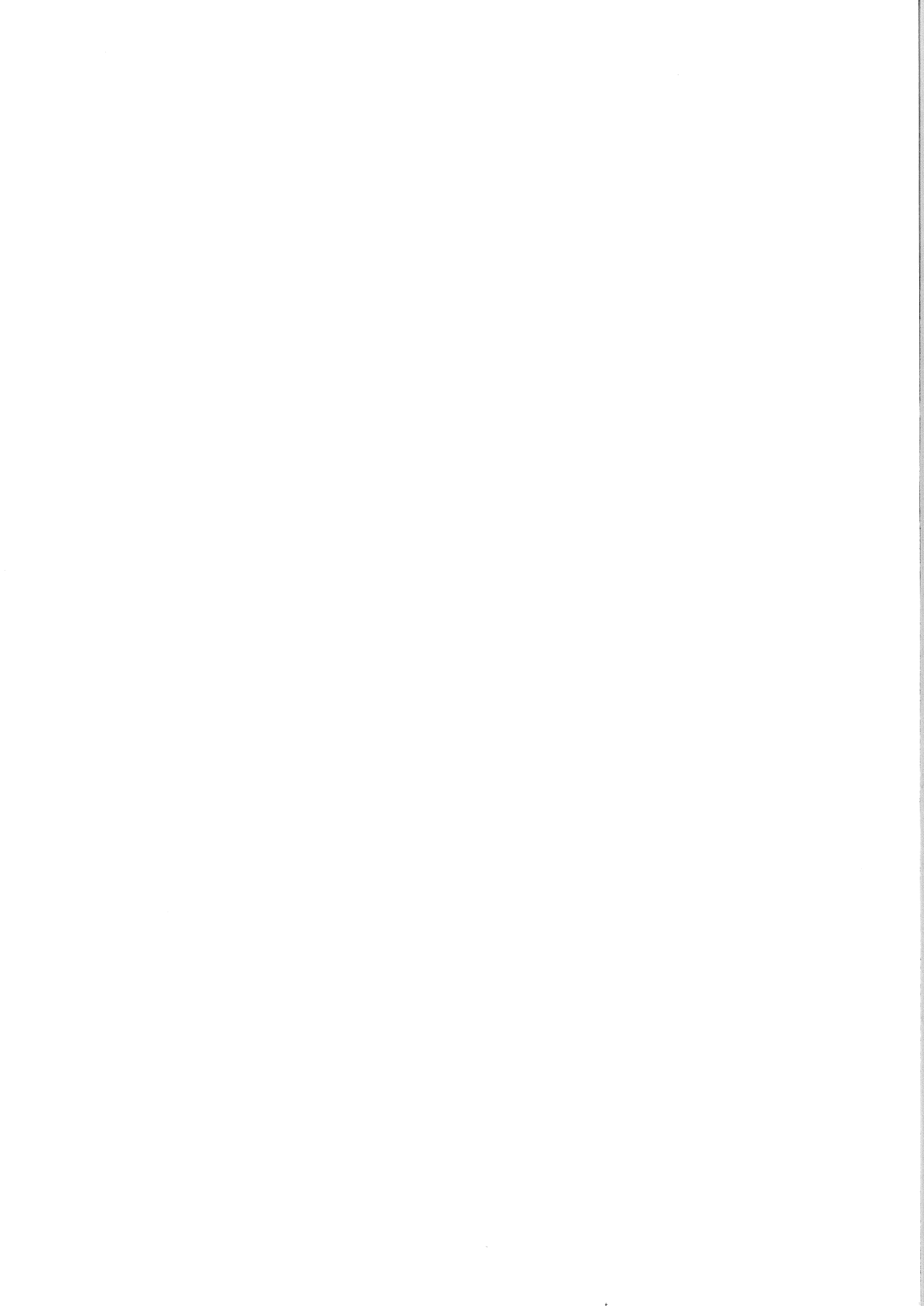
この段階では3区東の7層とE区の8～13層、3区東の14層とE区19～23層、3区東の15層とE区の25～27層の対応が想定される。（大橋）

参考文献

（財）徳島県埋蔵文化財センター 2008 『観音寺遺跡（Ⅳ）』



第3図 徳島環状線国府工区・路線と観音寺遺跡調査区（網掛け部分）



IV 調查成果



1 遺構配置

観音寺遺跡は、国道192号線から JR 四国・徳島線までの範囲に位置する。鮎喰川の扇状地形により緩やかに南へ下る地形であるが、気延山以北では、ほとんど傾斜は見られない。遺跡周辺では逆に、北側の敷地遺跡へ向かって緩やかに上りの傾斜を見せ、微高地が点在する地形になる。微高地に立地する敷地遺跡では、古墳時代後期を中心とした集落が形成されているが、本遺跡はその南側の縁辺部と低地部分にあたると考えられる。よって住居跡などは見られず、自然流路とその周辺の水田面が形成されることとなる。

調査区は『観音寺遺跡（Ⅳ）』において報告した、自然流路（SR3001）の南東部にあたる。1998年度調査区の東に隣接しており、全範囲において自然流路の堆積層を確認した。ここで報告する遺物はすべて自然流路（SR3001）から出土したものであり、各地区において層位ごとに記述する。（大橋）

2 木製品の分類について

本書での木製品の分類は、例言に記したとおり、奈良国立文化財研究所の『木器集成図録 近畿原始編』と『木器集成図録 近畿古代篇』によっている。また、各器種の型式分類においても同様である。型式分類を適用したものは、祭祀具の「斎申」「人形」「舟形」「曲物」である。

「斎申」は形態によって A～D の 4 型式に分類し、切り込みの部位などで I～Ⅷ式に細分される。主に C 型式に多様性が見られ、CⅠ、CⅡ、CⅢ形式のように表記した。但し、遺存状況が悪く判断不可能な場合は、A～D 型式のみの表記とした。

「人形」は正面全身人形、側面全身人形、顔形、立体人形に分類されている。観音寺遺跡では、これまでの報告（『観音寺遺跡Ⅰ・Ⅱ・（Ⅳ）』（財）徳島県埋蔵文化財センター 2002・2006・2008）により、杭状の丸木に目や口を彫り込んで表現した、簡易な人形が圧倒的に多いことが明らかとなっている。これらは立体人形の一種と考えられるが、『木器集成図録』での分類とは若干異なったニュアンスを持つことから、ここでは「円筒状人形」と呼称し、立体人形と区別することにした。前出の『観音寺遺跡（Ⅳ）』では、すでに円筒状人形として分類したものである。

「舟形」は、立体の A 類と板状の B 類に分類される。さらに A 類は、内部を削り抜くものを AⅠ類、切り込み、削り、溝で内部を表現したものを AⅡ類とした。

曲物は底板と側板の結合形態から A～F の 6 種類に分類される。このうち、釘結合曲物 F 型式と樺皮結合曲物 E 型式が多い。『木器集成図録 近畿原始篇』によれば、「8 世紀以降の曲物は F が主流で、蓋に D、E もある」とされる。

本書に掲載する曲物底（蓋）板は、大きく 3 種類に分類できる。①側板の結合痕が見られないもの、②樺皮結合曲物 D、E 型式の痕跡（樺皮結合紐、紐孔、板の片面に残る円周状の傷または圧痕）が見られるもの、③釘結合曲物 F 型式のものである。①は結合方法が不明であり、蓋、底の判断はできない。②は蓋、③は底と分類した。（大橋）

3 出土層位と遺物

(1) 3区西

①土層堆積状況(第5～7図)

3区西は1～16層に分層した。各層をさらに細分した場合は2'層のように表記した。第5図(西壁)では1～5層は、やや北側へ向かって下りの傾斜を見せ、自然流路(SR3001)の南岸の肩が調査区の南側に存在することを示している。6層は鍵となる7層(細砂層)を切ったような堆積であり、調査区北東隅には見られない。逆に7層は南西側に堆積が見られない。さらに10層、11層の堆積は北側への下りの傾斜が顕著となり、自然流路の底部の斜面に堆積した層位であると考えられる。16層は、現時点では古代以前の自然流路の堆積層であると考えられる。10層は鍵層の一つである15層と同様の粗砂層で、15層由来のものと推定される。二次的な堆積である可能性が高い。第6図(南壁)では2～5層までは、ほぼ水平な堆積であるが、6層はやや西側が深い。7層は東側にのみ堆積していることから、この調査区の南西隅には7層が堆積していないことがわかる。10・14層は東へ向かって厚く堆積し、下りの傾斜を示している。11層は南西部のみに堆積し、10層に切られた可能性も考えられる。

第7図(東壁)では、6層は南側にのみ分布することから、6層は7層とは逆に調査区の南東側に厚く堆積していたことがわかる。

②5層出土遺物(第8・9図)

5層は調査区全範囲に堆積する灰オリーブ色のシルト層であるが、遺物は調査区南西部に分布する。1は曲物である。2は棒状祭祀具、3はC型式の斎串である。4は用途不明の木製品である。下端は欠損している。5は土師器の杯である。6は土師器の椀である。7は土師器の皿である。8は羽釜の脚部である。9は平瓦である。10は石製の丸軛である。

③6層出土遺物(第10・12図)

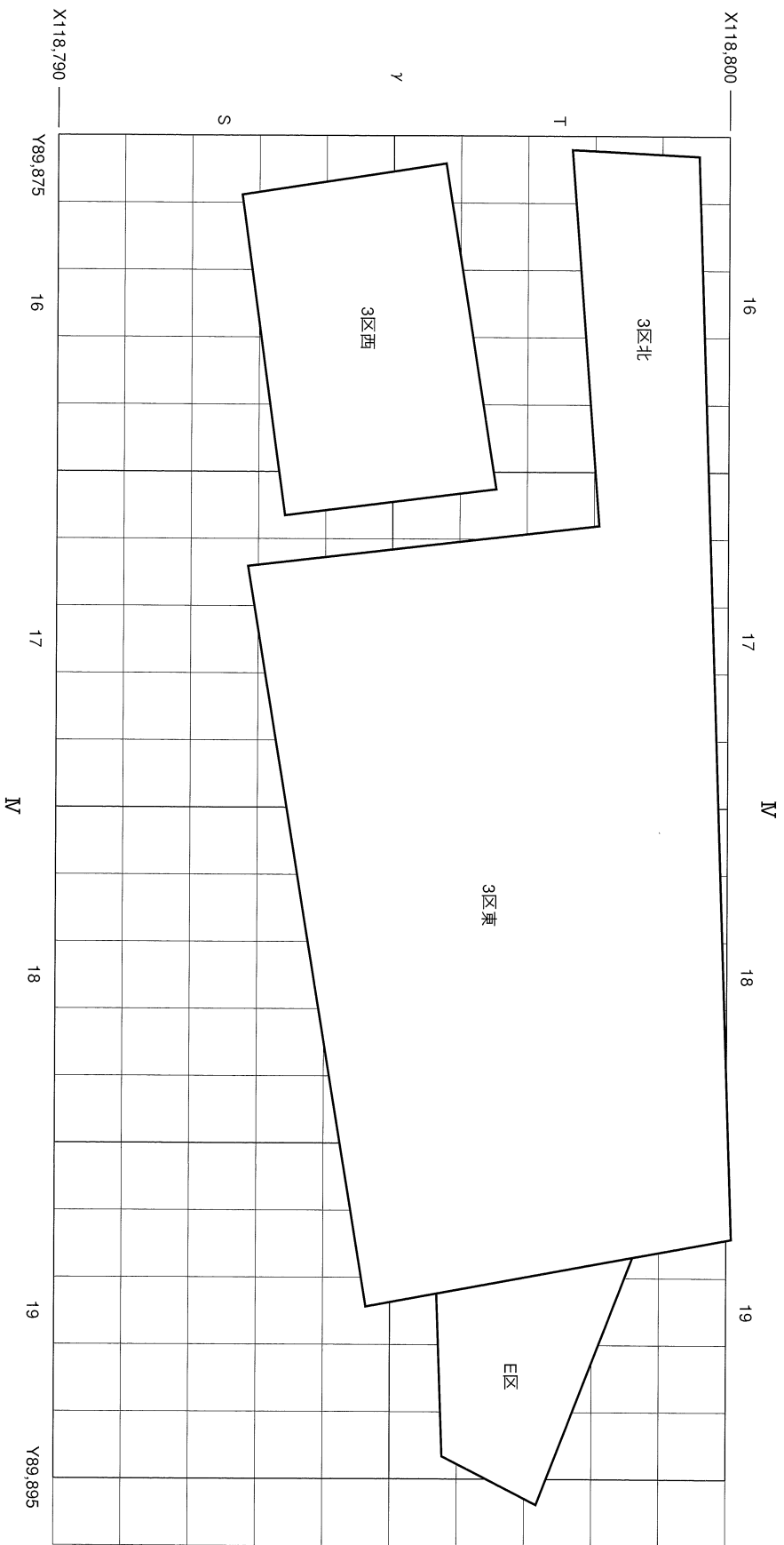
6層は、調査区北東部を除く範囲に堆積する灰色の粘質シルト層である。遺物は東西2ヶ所にまとまりが見られる。11は織機の中筒である。12は檜扇の下端である。13は曲物側板である。内面に罫引線が見られる。14は曲物蓋板である。15は黒色土器B類の椀である。16は土師器の皿である。17は土師器の甑の把手である。18は土師器の羽釜である。

④7層出土遺物(第11・13図)

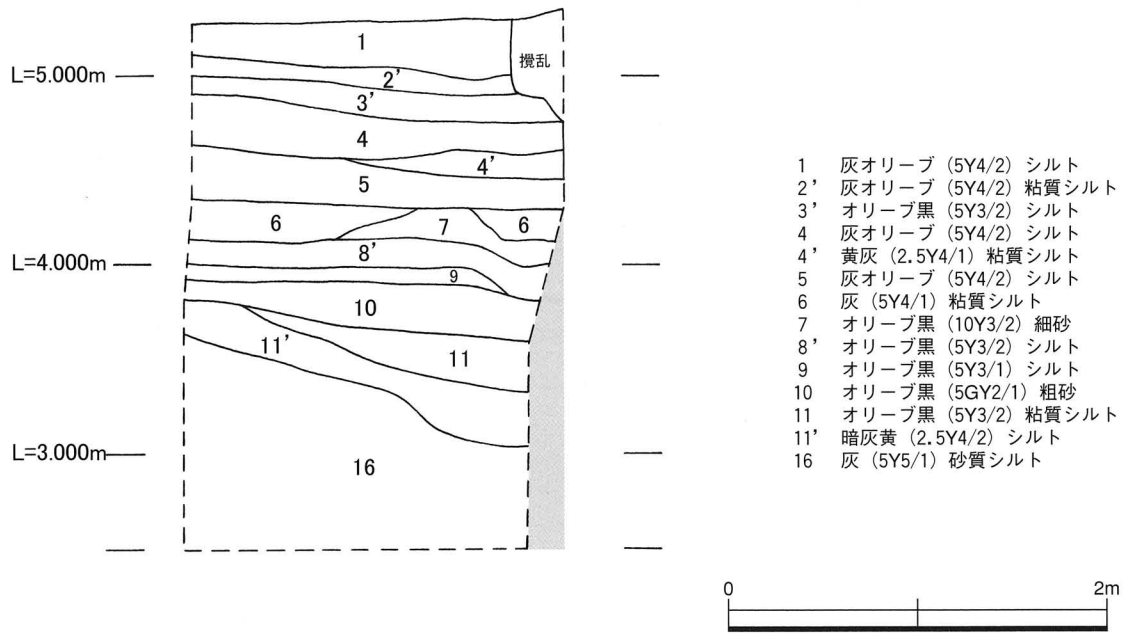
7層は、調査区南西隅以外の範囲に堆積するオリーブ黒色の細砂層である。遺物は3ヶ所にまとまりが見られる。19は工具の柄である。20は織機の中筒か。21、22は編棒である。23、24は曲物の蓋板か。25、26は斎串である。27は棒状祭祀具である。28は部材である。29は土師器の杯である。30、31は土師器の皿である。

⑤8層出土遺物(第14・15図)

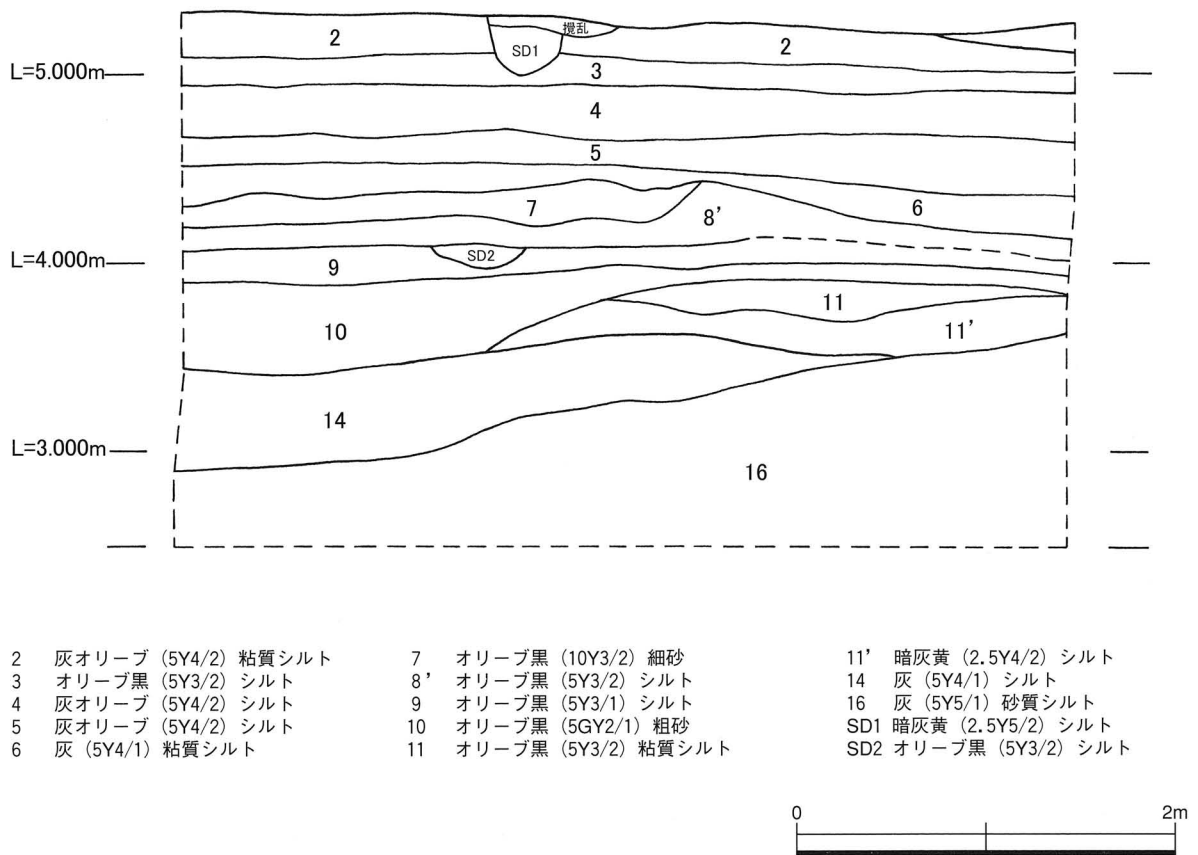
8層は、調査区全範囲に堆積するオリーブ黒色のシルト層である。遺物は大きく3つのまとまりを示す。32は農具の馬鋏である。33、34は檜扇である。35、37、38は曲物蓋板である。36は釘結合曲物(F型式)であることから、底板と考えられる。39～42は箸である。43はC型式の斎串の断片か。44～46は棒状祭祀具である。47～49は土師器の杯である。50は土師器の皿である。曲物は北西部に、檜扇は中央部にまとまって分布する。



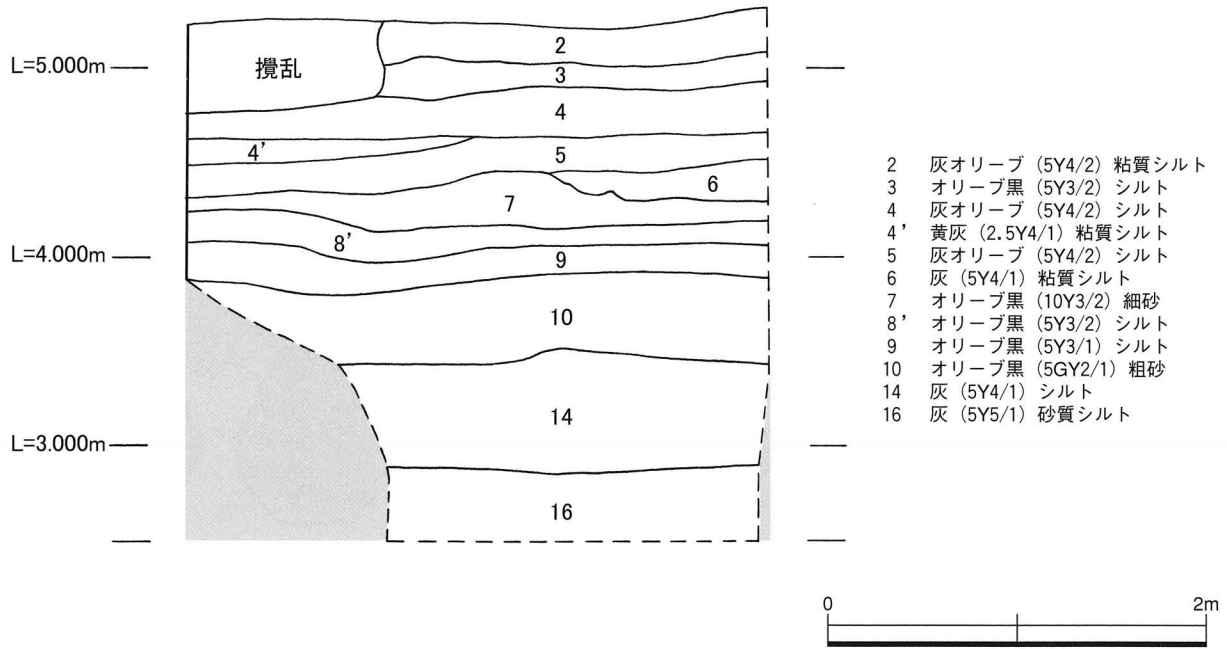
第4図 調査区・グリッド配置図



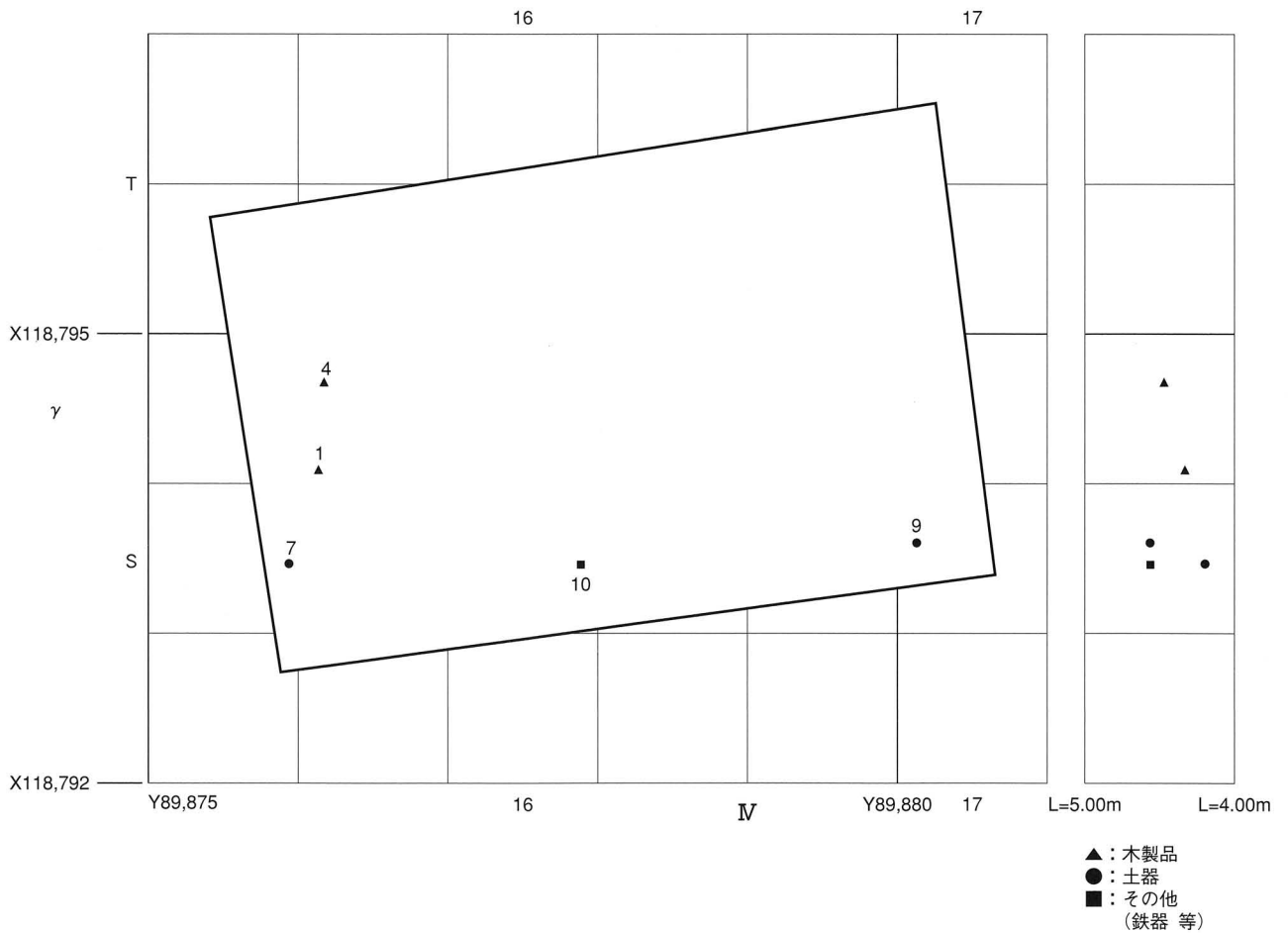
第5図 3区西（西壁）土層断面図



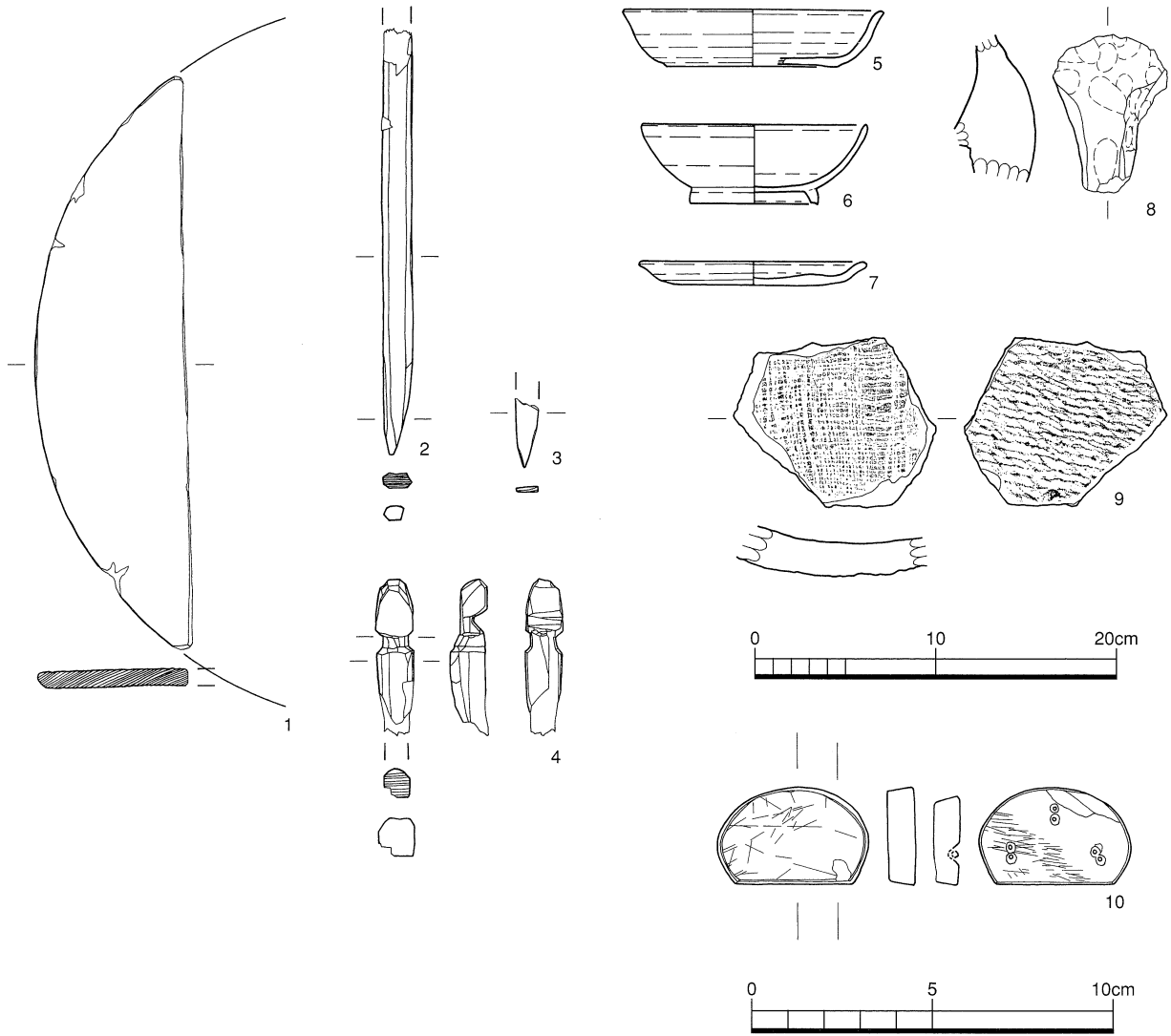
第6図 3区西（南壁）土層断面図



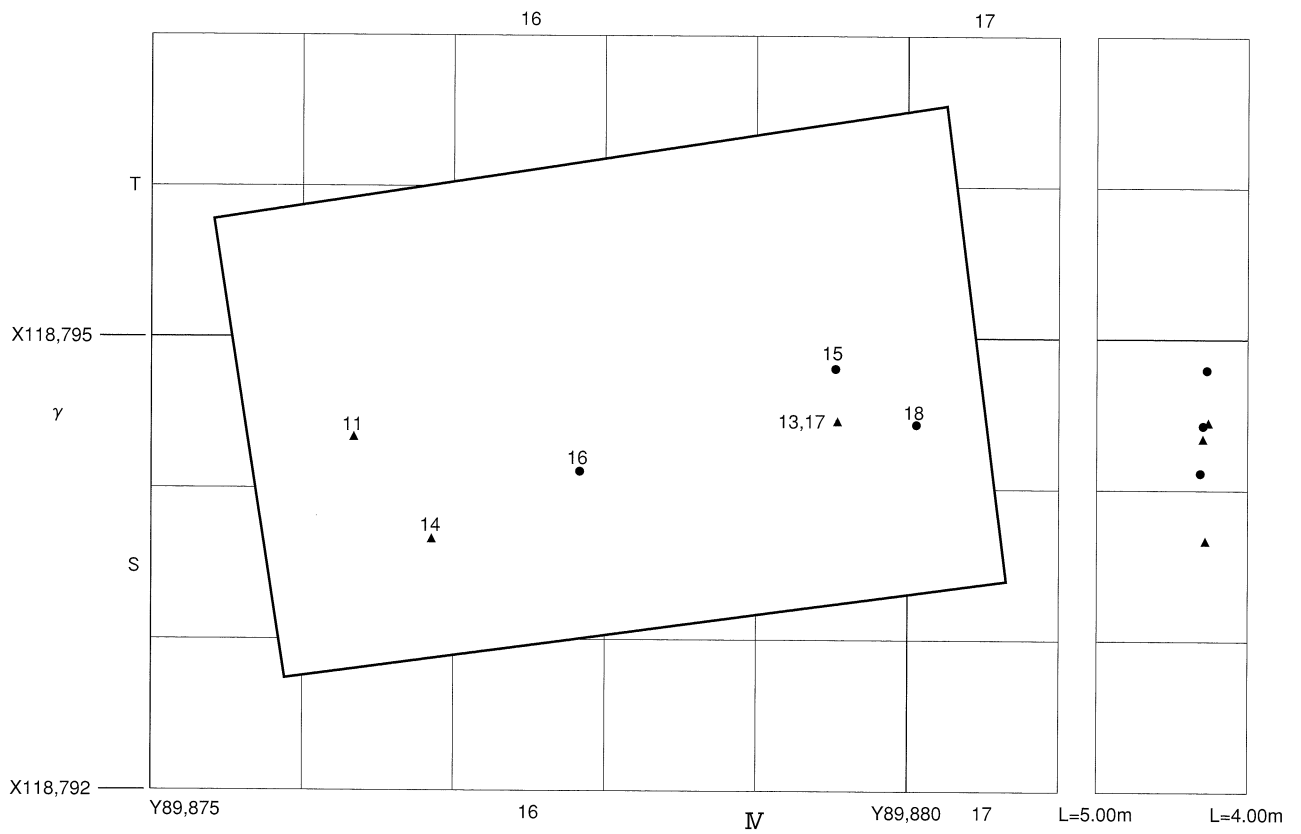
第7図 3区西（東壁）土層断面図



第8図 3区西5層 遺物出土位置図

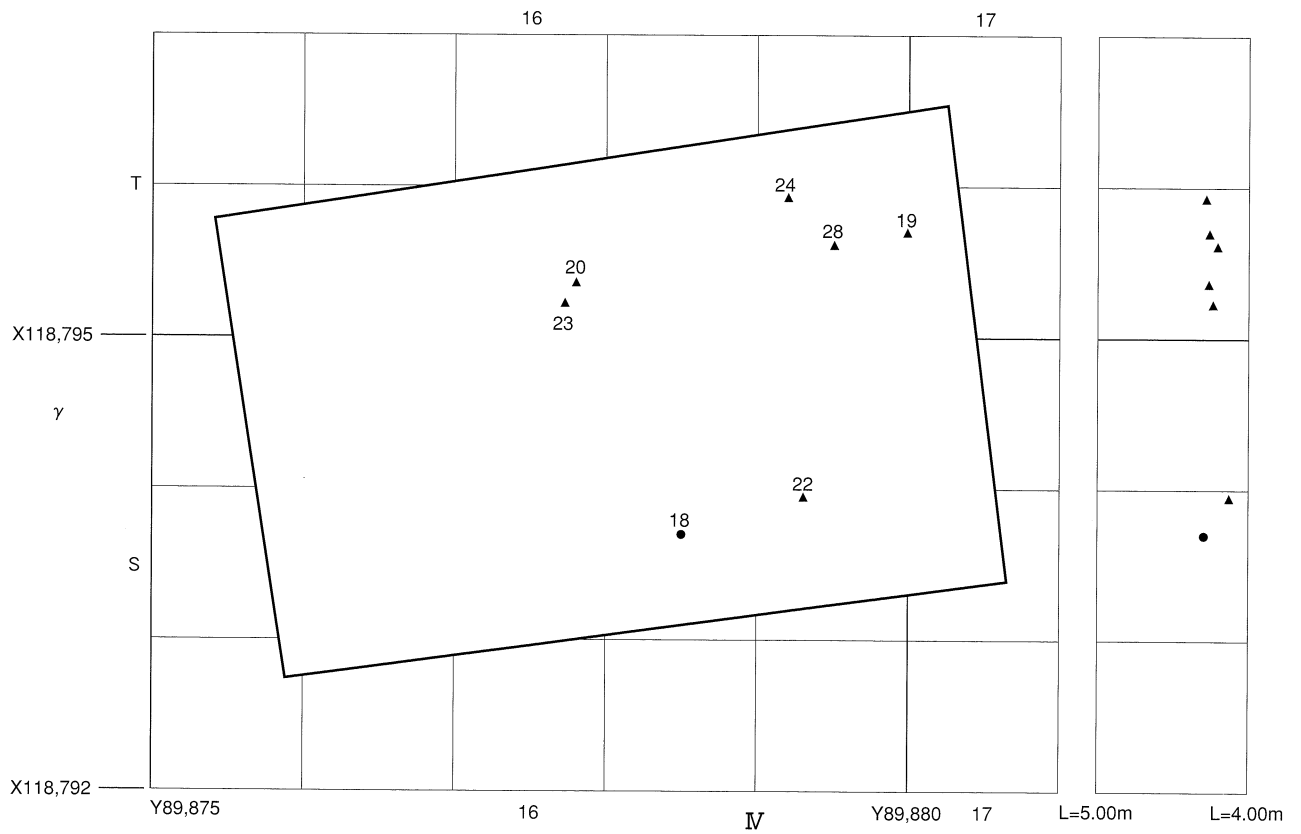


第9图 3区西5层 出土遺物



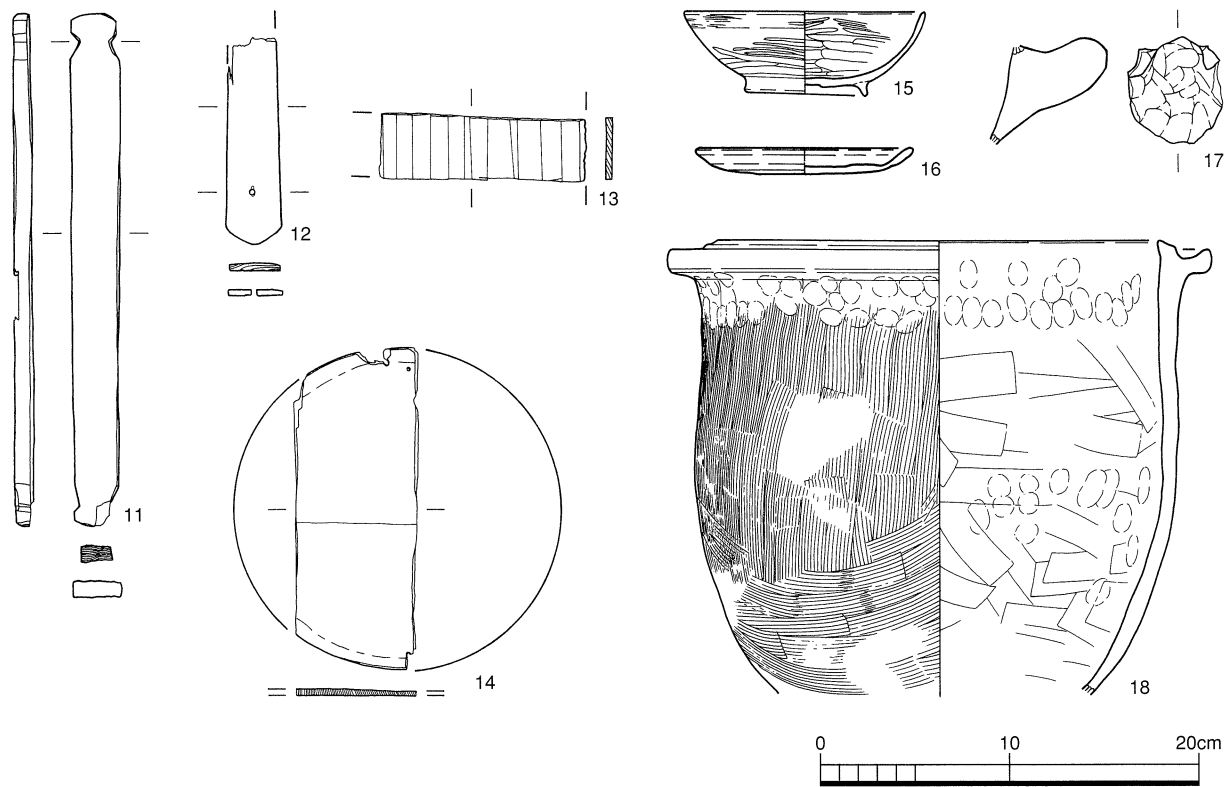
第10図 3区西6層 遺物出土位置図

- ▲ : 木製品
- : 土器
- : その他
(鉄器等)

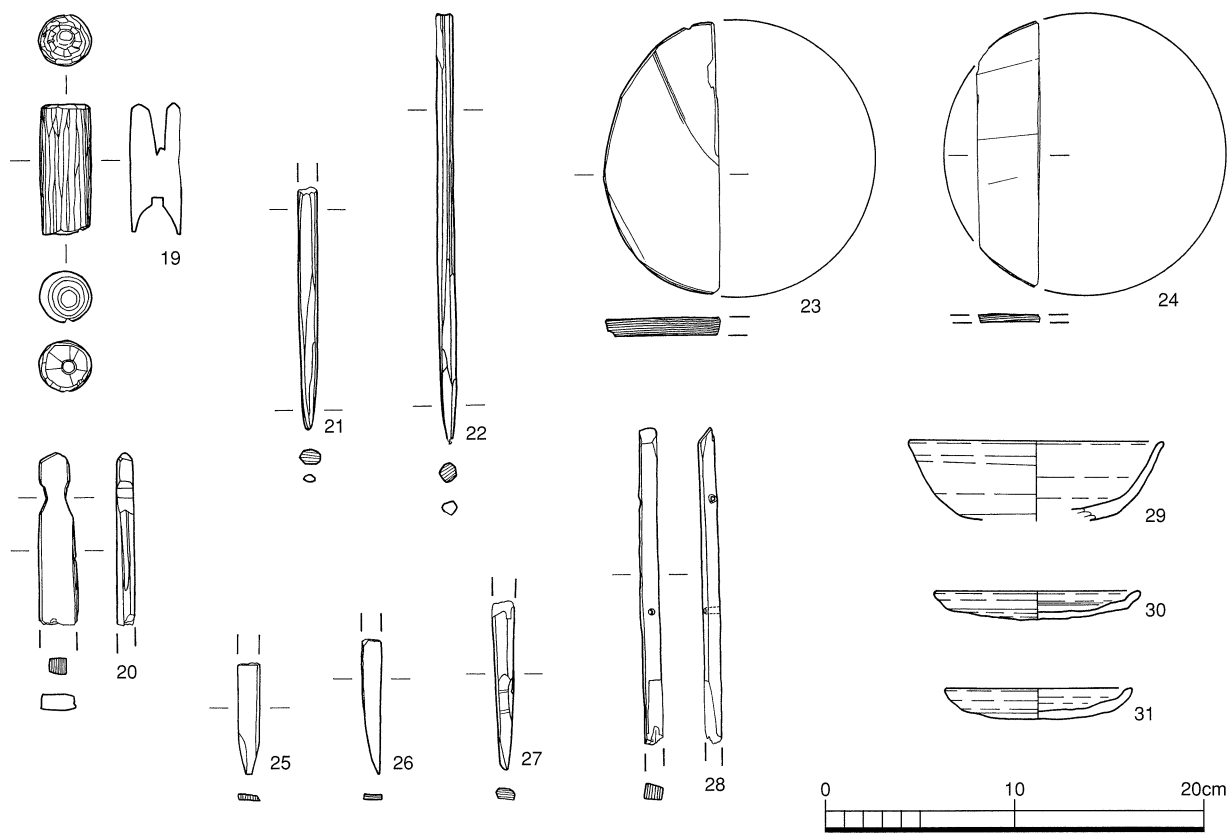


第11図 3区西7層 遺物出土位置図

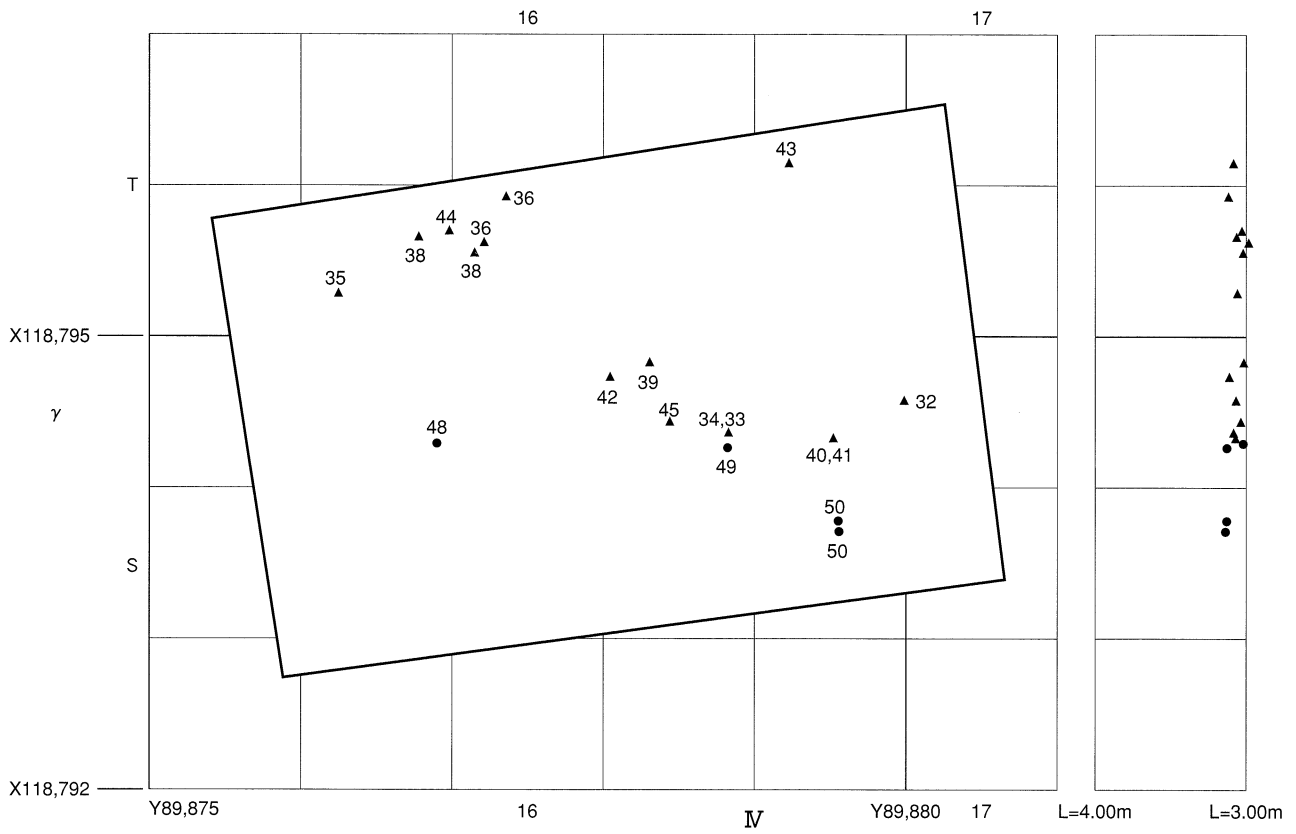
- ▲ : 木製品
- : 土器
- : その他
(鉄器等)



第12图 3区西6層 出土遺物

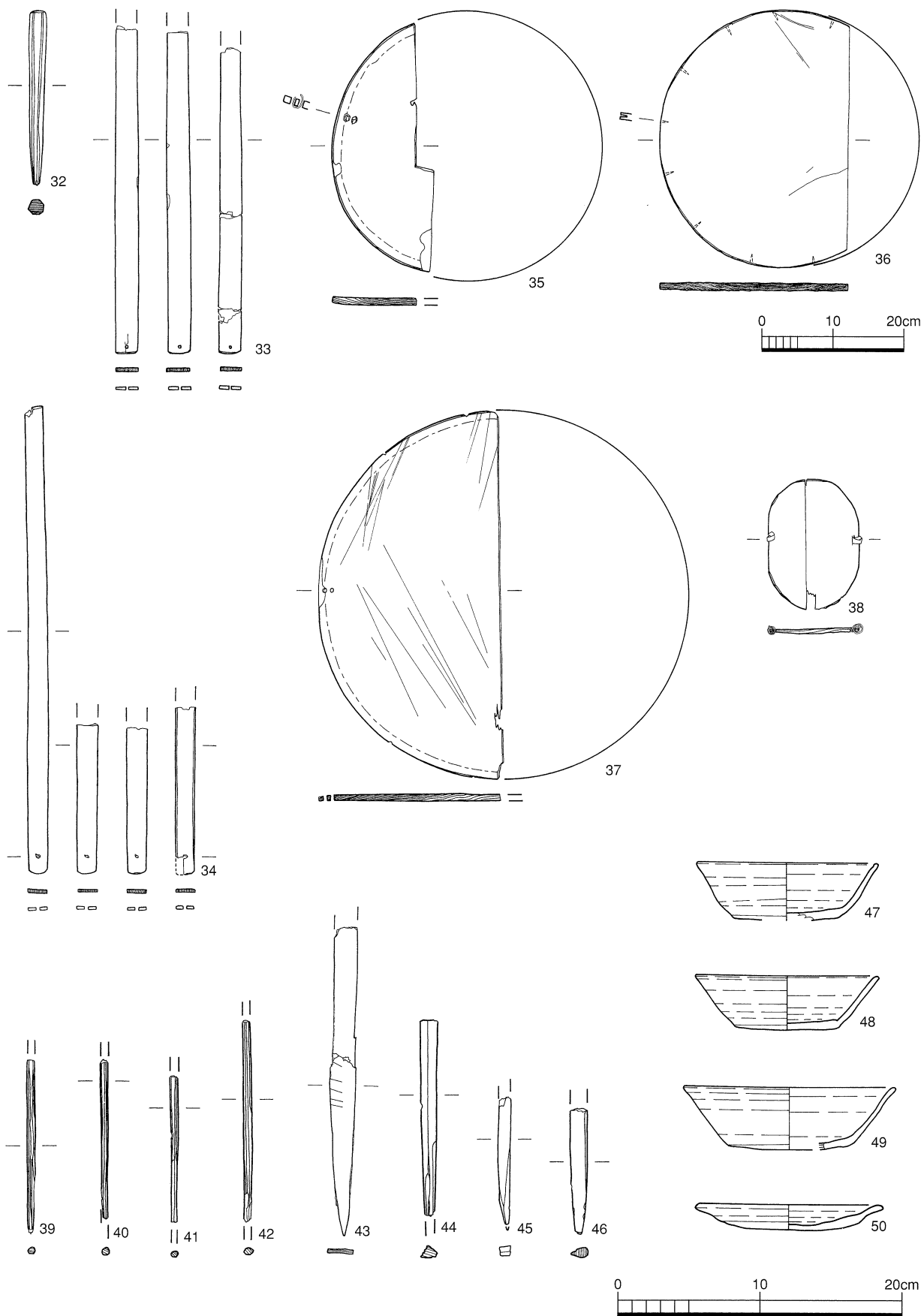


第13图 3区西7層 出土遺物



第14図 3区西8層 遺物出土位置図

- ▲：木製品
- ：土器
- ：その他
(鉄器 等)



第15図 3区西8層 出土遺物

⑥ 9層出土遺物（第16・18図）

9層は、調査区のほぼ全範囲に堆積するオリブ黒色シルトである。遺物の分布は東側に散在している。51は檜扇の下端部である。52は曲物側板である。53、54は箸である。55は一端が欠損しているが、琴の可能性が考えられる。56、57は棒状祭祀具である。58はC V型式の斎串の断片か。59は土師器の甕である。56、57は同じタイプの棒状祭祀具で近接して出土した。

⑦ 10層出土遺物（第16・19図）

10層は、調査区全範囲で10～40cmの厚さで堆積するオリブ黒色を基調とする粗砂層である。60は曲物である。61は棒状祭祀具である。両端を僅かに尖らせてあるため、箸とは区別した。62は土師器の杯である。内面に暗文が施されている。63は甌の把手である。

⑧ 11層出土遺物（第17・20図）

11層は、調査区南西部に堆積する。上部にオリブ黒色の粘質シルト、下部に暗灰黄色のシルトに分かれる。遺物は南半分に散在する。65、66は柄である。67は琴柱である。68は正面全身人形である。腰から下は欠損しているが、左右に切り込みを入れて手を表現している。69は一端が欠損しているがB型式の斎串か。71～73はC型式の斎串である。74は籌木である。75は自在である。76は土師器の杯蓋である。77は須恵器の杯蓋である。78は土師器の皿か。底部内面に螺旋状暗文、体部内面に放射線状暗文が施される。79は土師器の皿の高台部分である。80は土師器の皿である。81は土師器の甕である。82は須恵器の甕である。83は土師器の甌である。84は鉄鏃である。

（2）3区北

① 土層堆積状況（第28図）

3区北は3区東の北壁と一続きに図化した。3区西と層の対応を把握しながら分層した。7層にあたる細砂層が厚く、色調や粒度が若干異なるものを細分し、7A、7B、7Cと表記した。上層の5層までは水平堆積が見られるが、6層は東側には堆積せず、西に向かって厚くなる。逆に7層は西端には堆積せず、東へ向かって厚く堆積する。6層段階の流路に7層が切られた状況が見える。下層の9～11層も6層同様に西へ向かって厚く堆積する状況が見え、この時期の流路が調査区の西側を流れていたと推測できる。

② 6層出土遺物（第21・29図）

6層は調査区西半分に堆積する、オリブ黒色の粘質シルト層である。遺物は北西部に分布する。85は曲物側板である。内面に罫引線があり、漆が付着している。86は棒状祭祀具の一部か。87は土師器の皿である。

③ 7層出土遺物（第22・33図）

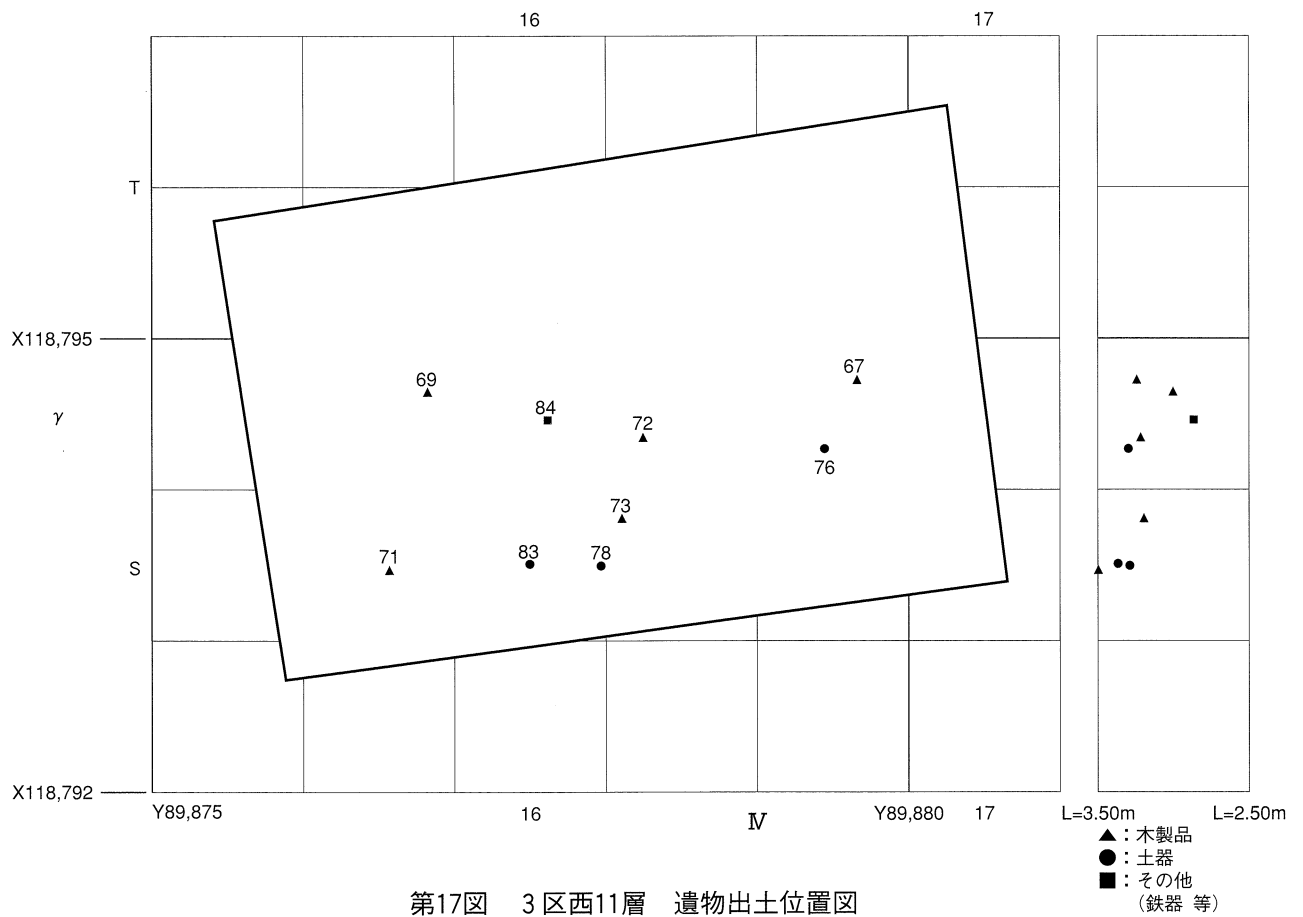
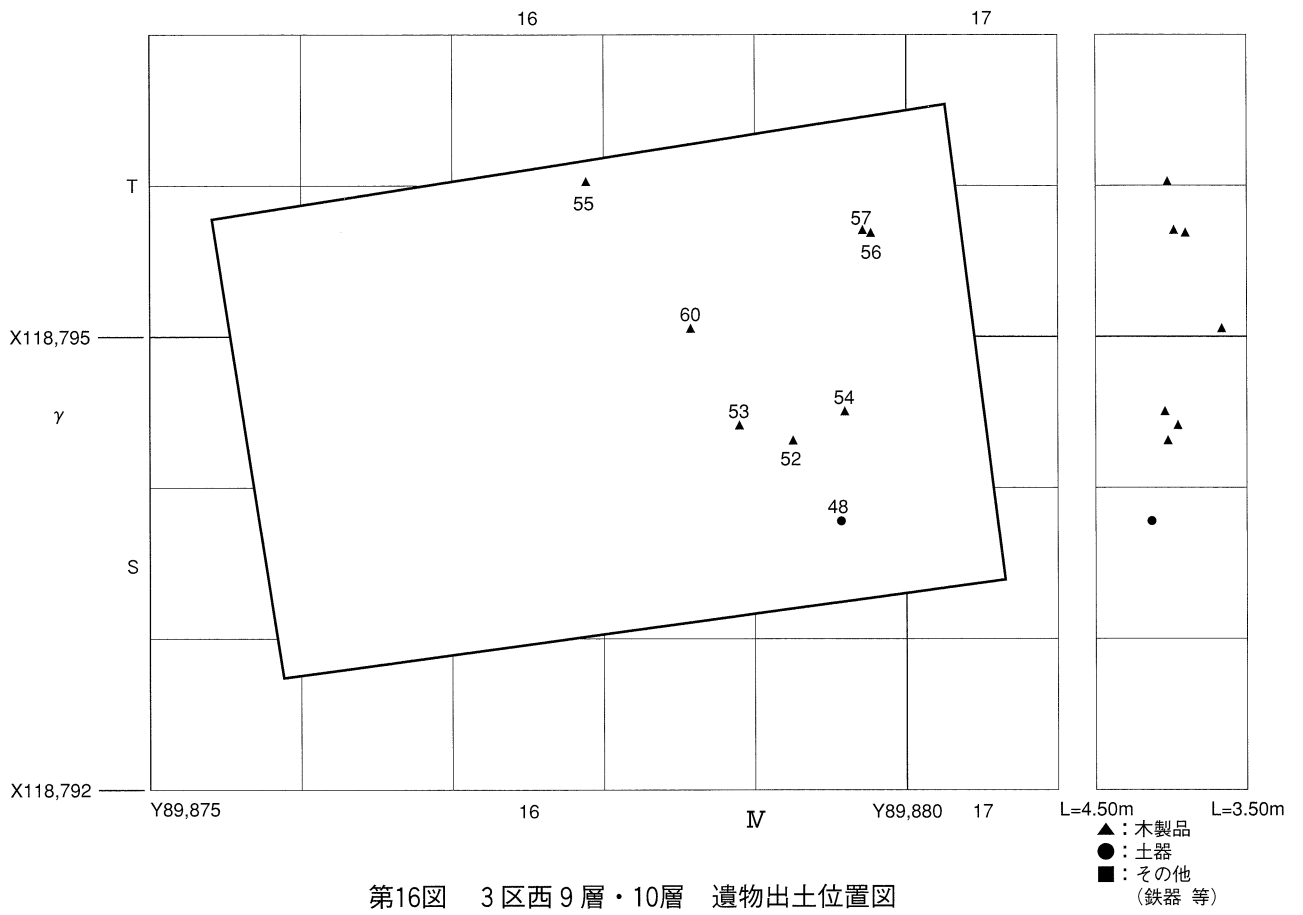
7層は調査区全範囲に堆積する。オリブ黒色の細砂を基調とし、下部に灰色の粘質シルト層を薄く挟む。遺物は調査区の北半分に分布する。88は織機の中筒か。上下両端が欠損している。89は檜扇の下端部である。90は曲物蓋板である。91は側面全身人形の一部か。92は杭である。93は土師器の杯である。

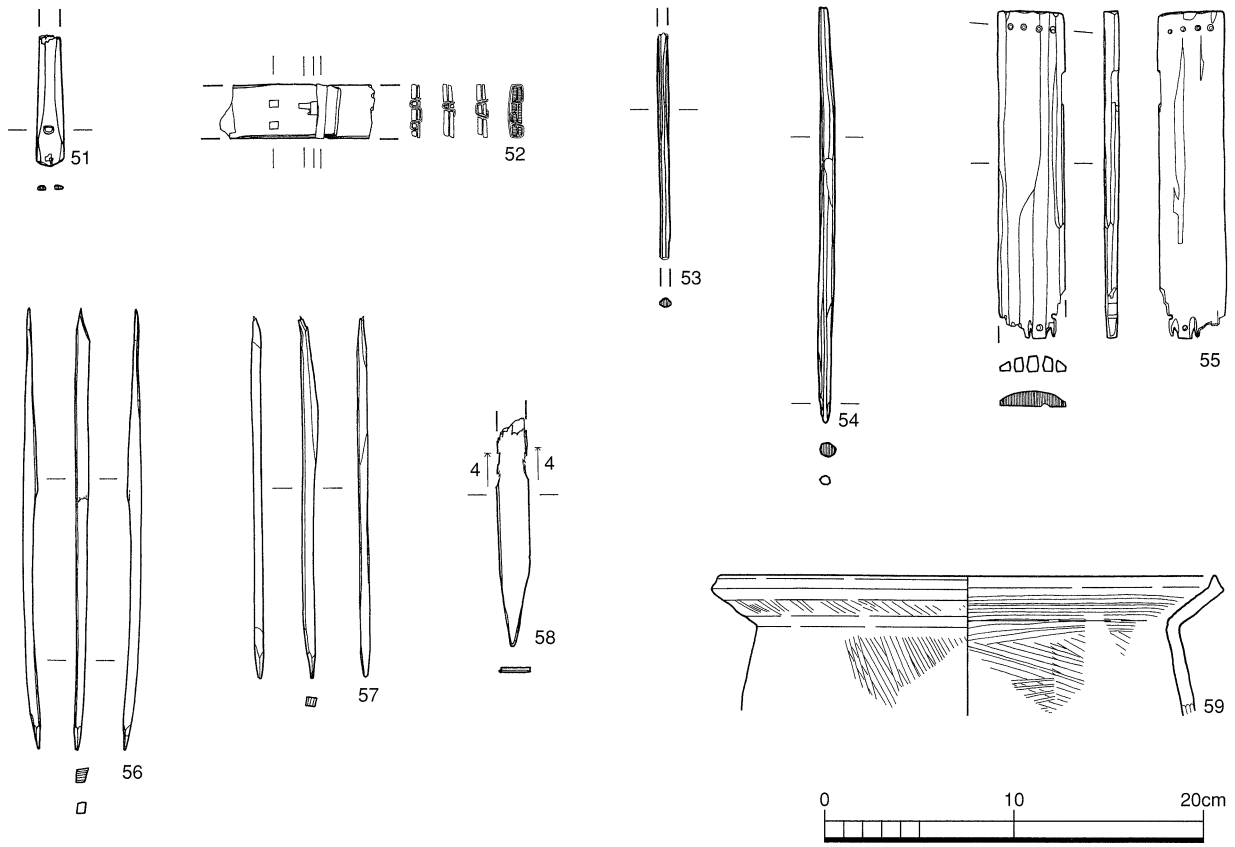
④ 8層出土遺物（第23・37図）

8層は調査区全範囲に堆積する、オリブ黒色のシルト層である。遺物は調査区北東部に散在している。94は土師器の皿である。95、96は鉄鏃である。

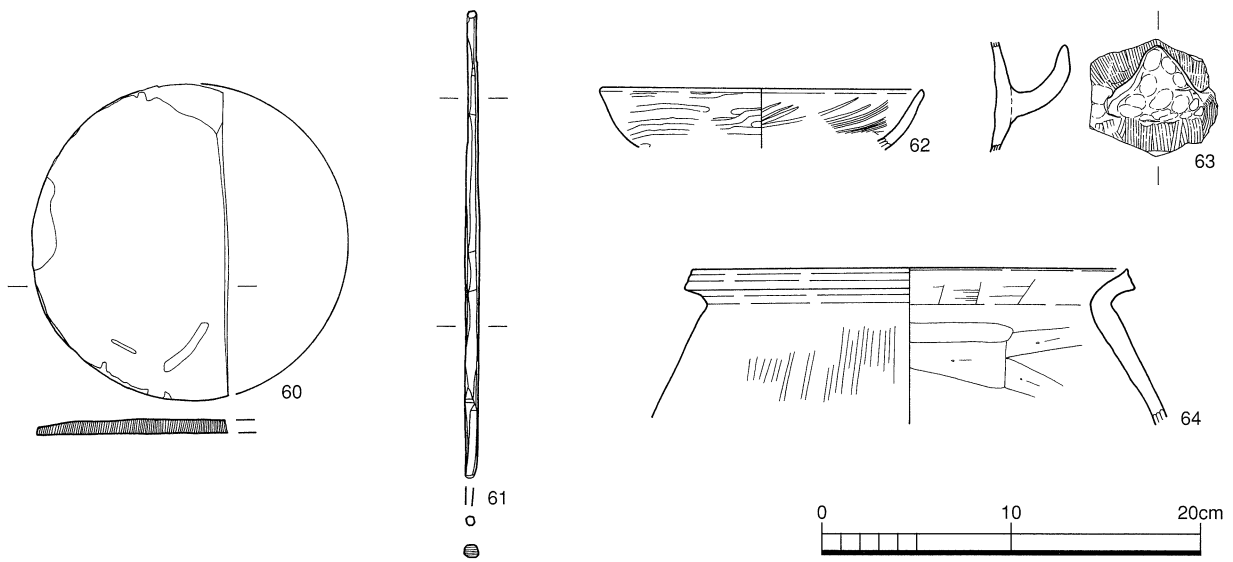
⑤ 9層出土遺物（第24・41図）

9層は調査区全範囲に堆積する、オリブ黒色の粘土層である。97は土師器の皿である。98は土錘で

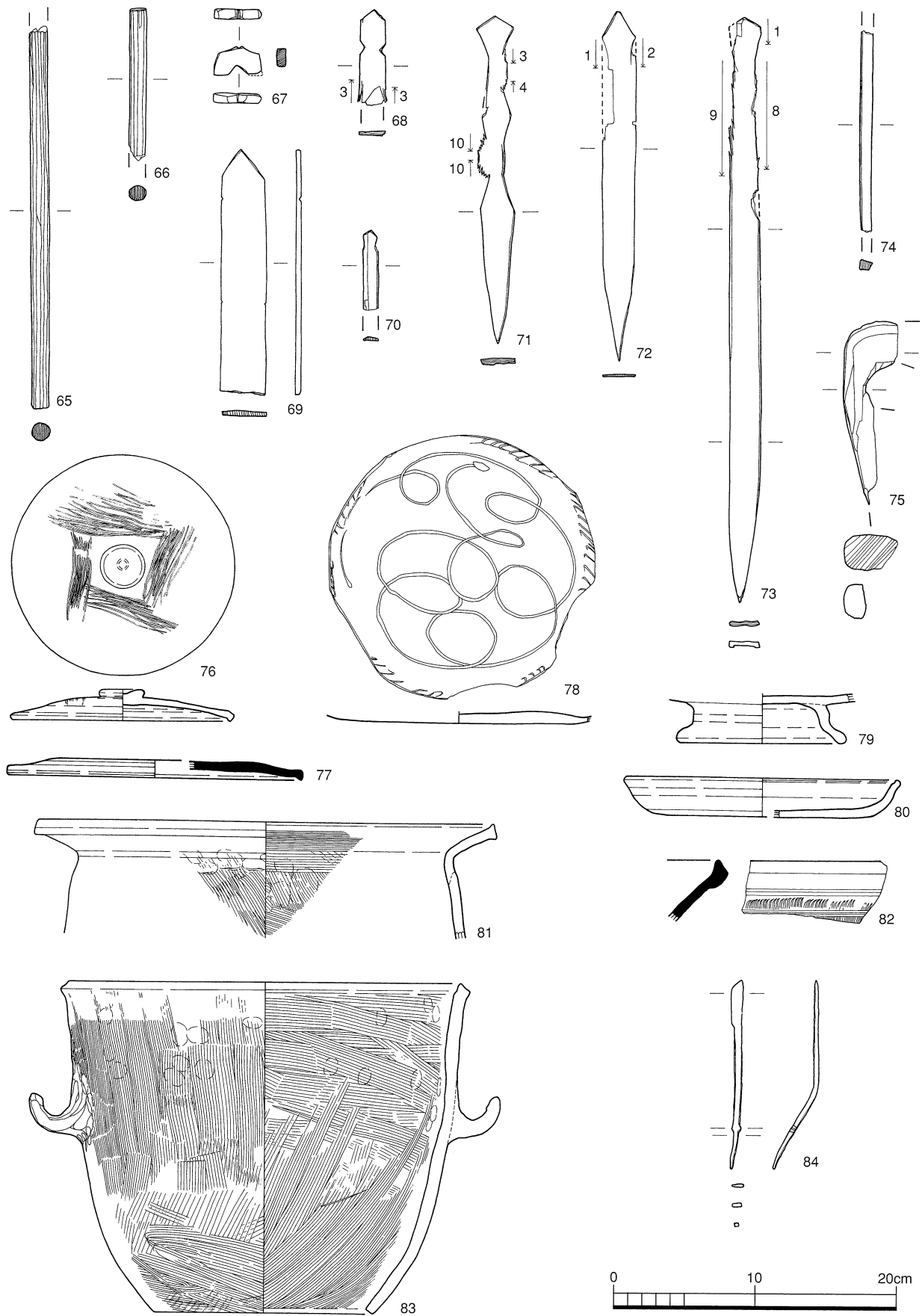




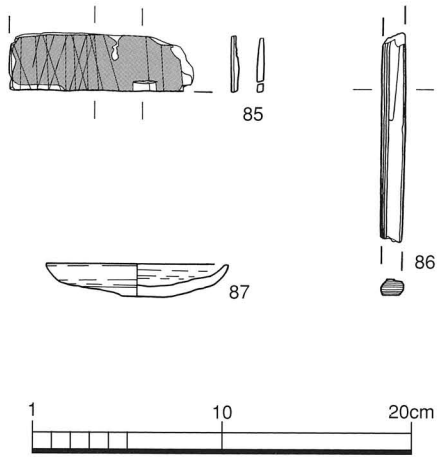
第18图 3区西9層 出土遺物



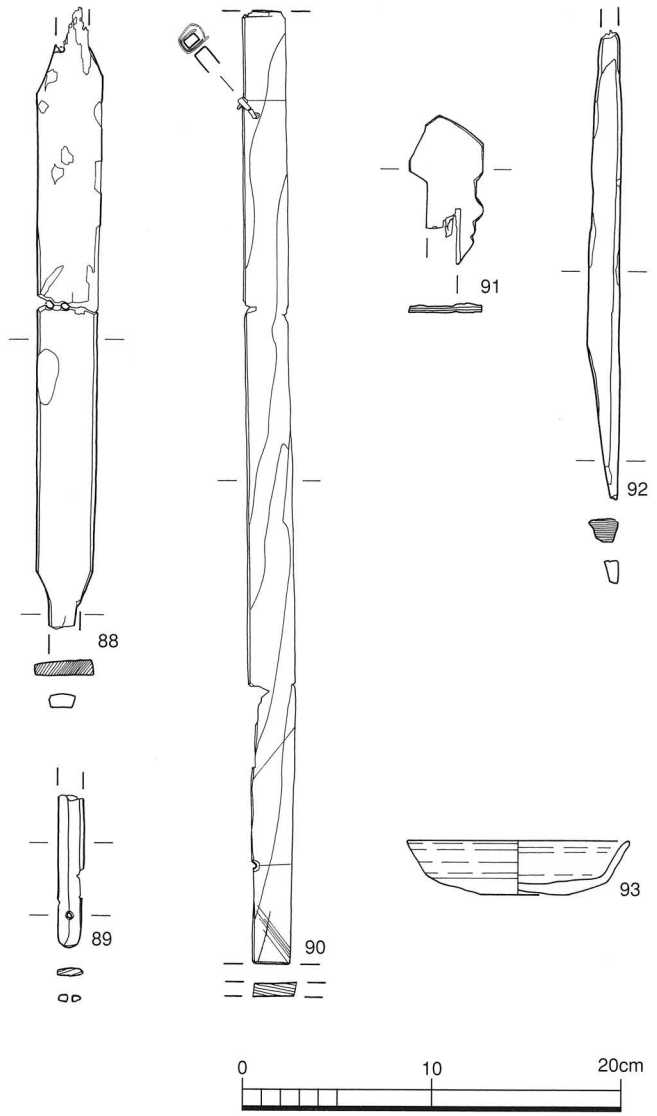
第19图 3区西10層 出土遺物



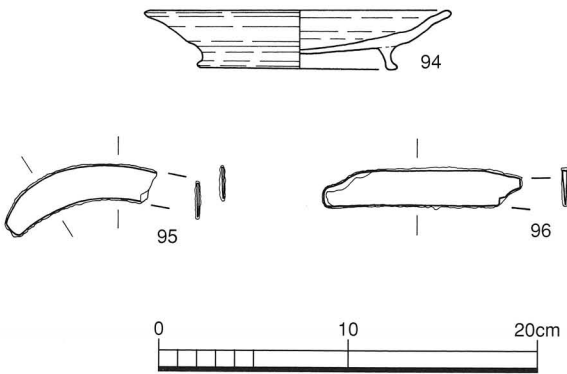
第20图 3区西11層 出土遺物



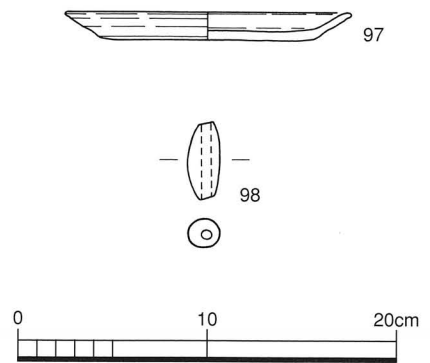
第21図 3区北6層 出土遺物



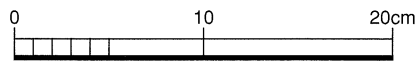
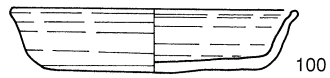
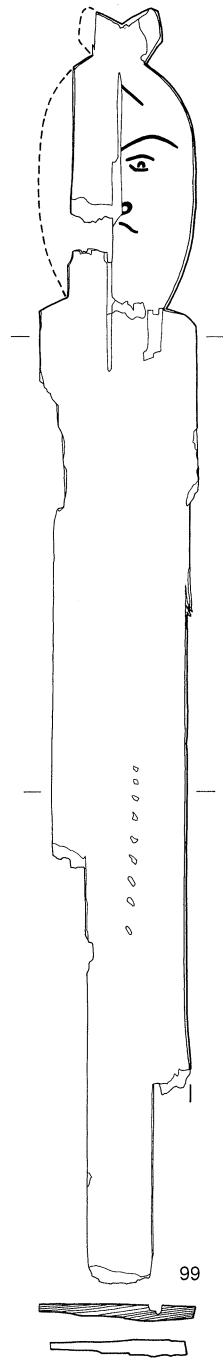
第22図 3区北7層 出土遺物



第23図 3区北8層 出土遺物



第24図 3区北9層 出土遺物



第25図 3区北11層 出土遺物

ある。

⑥11層出土遺物（第25・47図）

11層は調査区西端以外の範囲に堆積する、オリブ黒色の粘土と粘質シルト層である。99は正面全身人形である。墨で顔を表現している。100は土師器の杯である。

（3）3区東

①土層堆積状況（第26～28図）

3区東は、東側の土層に現舌洗川の堆積層が残る。5層までは、ほぼ水平に堆積するが、7、8層は東から西へ向かって傾斜している。9C～9E層は、調査時に3区北の9層に対応すると考えたが、11層に対応するものと想定される。また第27図には現れていないが、10層は調査区南西部のみに堆積していることが第26図から読み取れる。14層、15層は調査区北側に厚く堆積し、標高の高い位置にある。12～13C層（第27図）が堆積した時期には中洲であった可能性がある。

②3層出土遺物（第29・30図）

3層は調査区北東部以外の範囲に堆積する、オリブ黒色のシルト層である。遺物の分布は散漫である。101は下駄の端部である。102は曲物である。103は曲物蓋板である。104は曲物の蓋板か。内面に漆が付着する。105は箸である。106は平瓦である。

③5層出土遺物（第29・31図）

5層は調査区のほぼ全範囲に堆積する、暗オリブ褐色のシルト層である。107は曲物蓋板である。108はC型式の斎串である。109は土師器の杯である。体部外面の下部に線状の墨付きがある。110は土師器の高杯である。111は平瓦である。112は方頭形の鉄族である。

④6層出土遺物（第29・32図）

6層は調査区南西部に堆積する、オリブ黒色の粘質シルト層である。113・114は曲物蓋板である。115は籌木である。116は土師器の皿である。

⑤7層出土遺物（第33～36図）

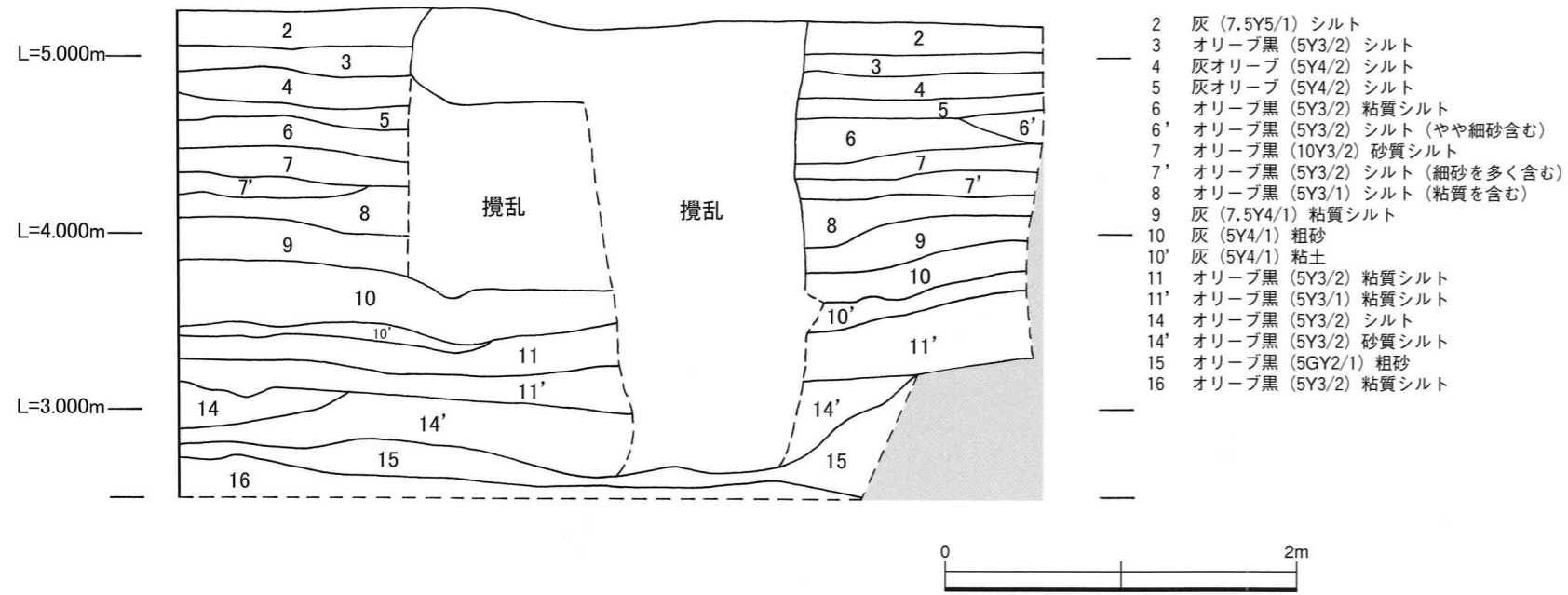
7層は調査区全範囲に堆積する、オリブ黒色を基調とした細砂層で、間に粘質土を挟む。遺物の出土数は多く、南東から北西方向に帯状に分布する。117、118は編棒である。119～122は織機である。123、124は檜扇である。125～129は箸である。130～135は曲物側板、136は箍である。137～139、141、144は曲物底板もしくは蓋板である。140は釘結合曲物（F型式）の底板である。142、143、145は樺皮結合曲物（E型式）で、蓋板である。146は正面全身人形である。墨は残っていないが墨書き部分が浮き上がって見える。147は鳥形か。尾の部分に切り込みがある。舟形B類の可能性もある。148は鏃形か。149～164は斎串または棒状祭祀具である。149、150はC型式、152、154はA型式の斎串である。165は支脚である。166、167は籌木である。168は杭である。169は火付棒である。170～177は部材もしくは用途不明の木製品である。178～187は土師器の杯である。188～190は土師器の皿である。191は陶器の椀である。192は土師器の甕である。193は土師器の竈である。194は土錘である。195は平瓦である。196は圭頭形の鉄鏃である。197は用途不明の鉄製品である。

土器の分布を見ると、調査区北部の小グリッドT-17で179、181、184、191。小グリッドT-18で178、183、186、187のまとまりが見られる（第33図）。

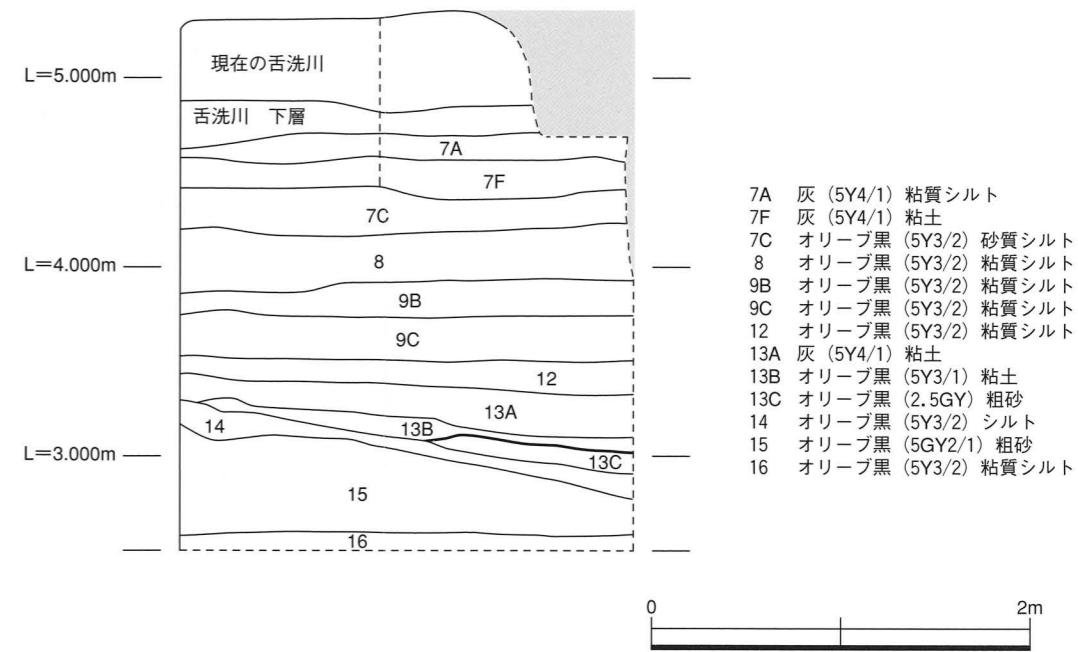
⑥8層出土遺物（第37～40図）

8層は調査区全範囲に堆積する、オリブ黒色の粘質シルト層である。遺物は7層と同様に多く、南

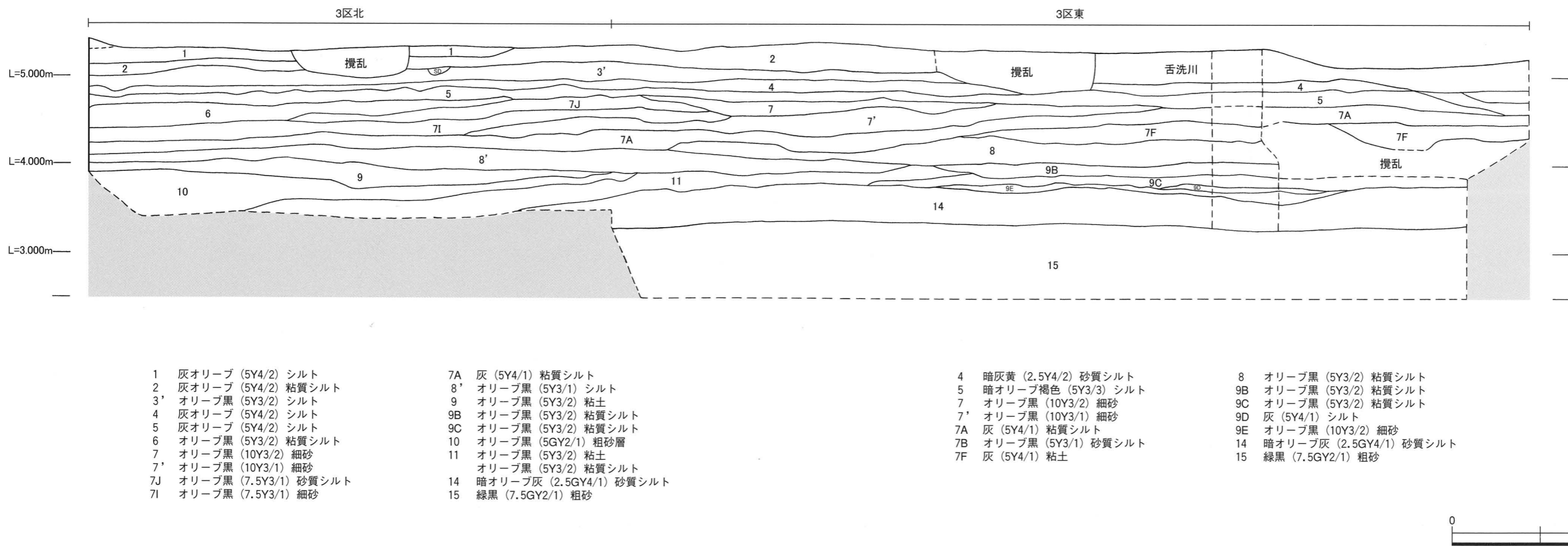




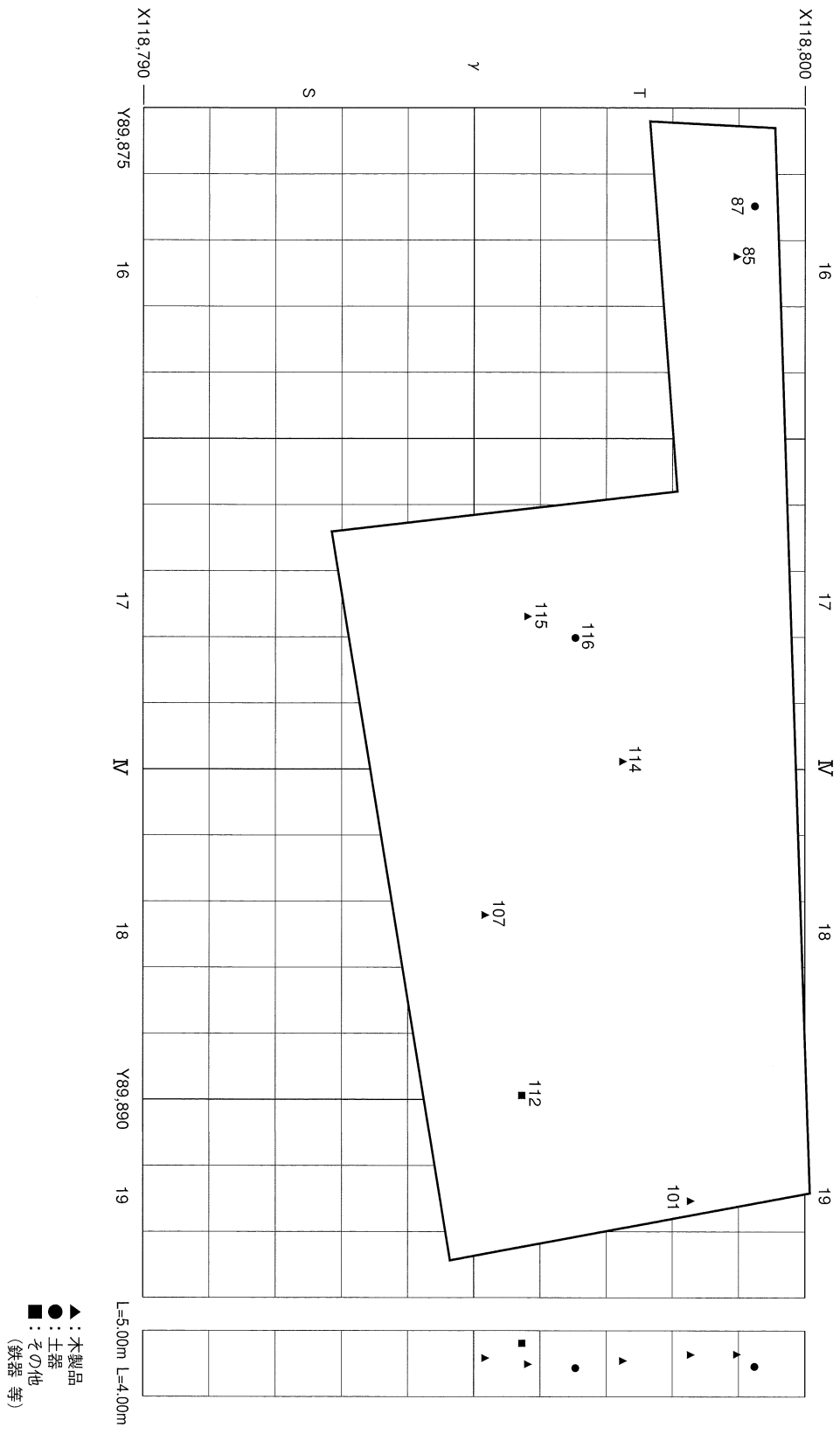
第26図 3区東 (西壁) 土層断面図



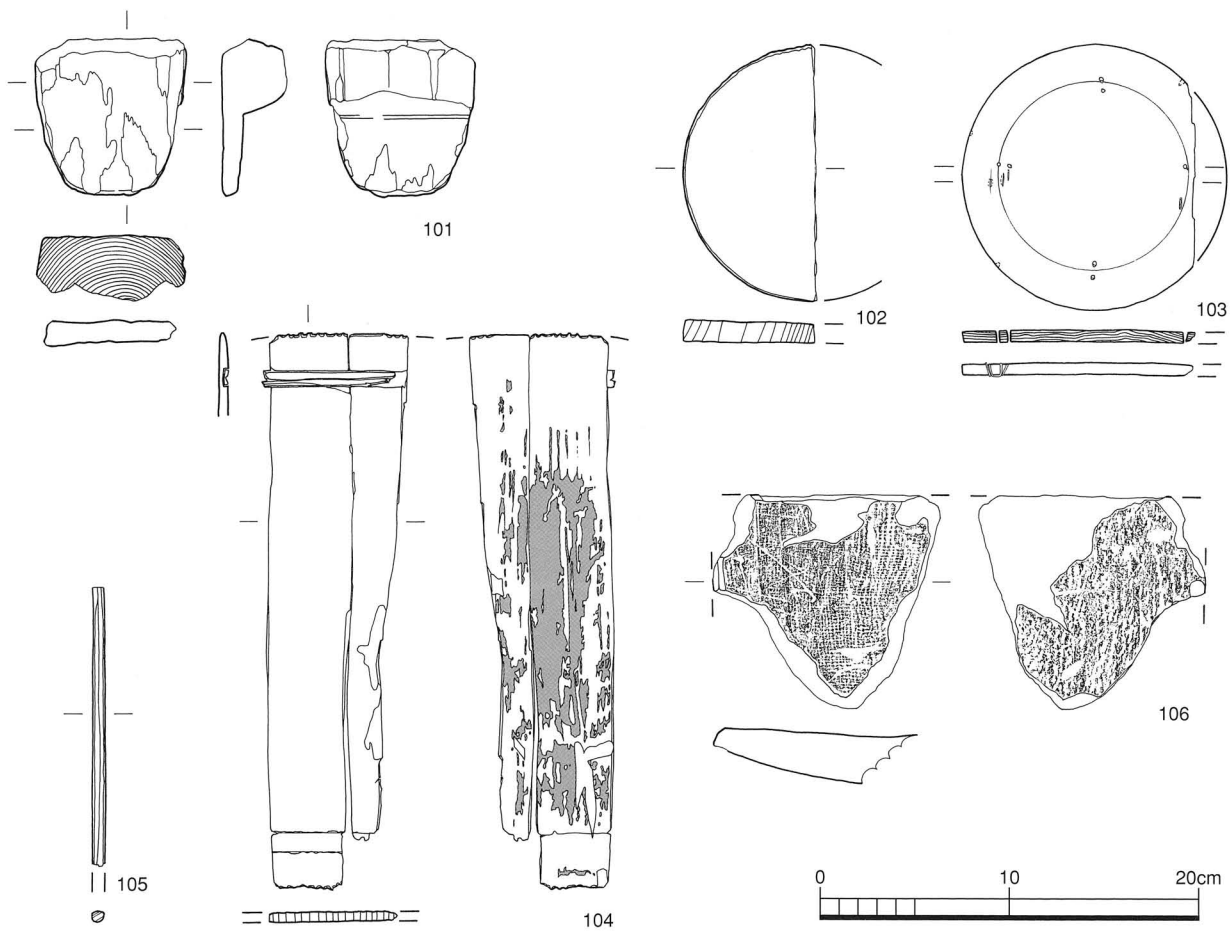
第27図 3区東 (東壁) 土層断面図



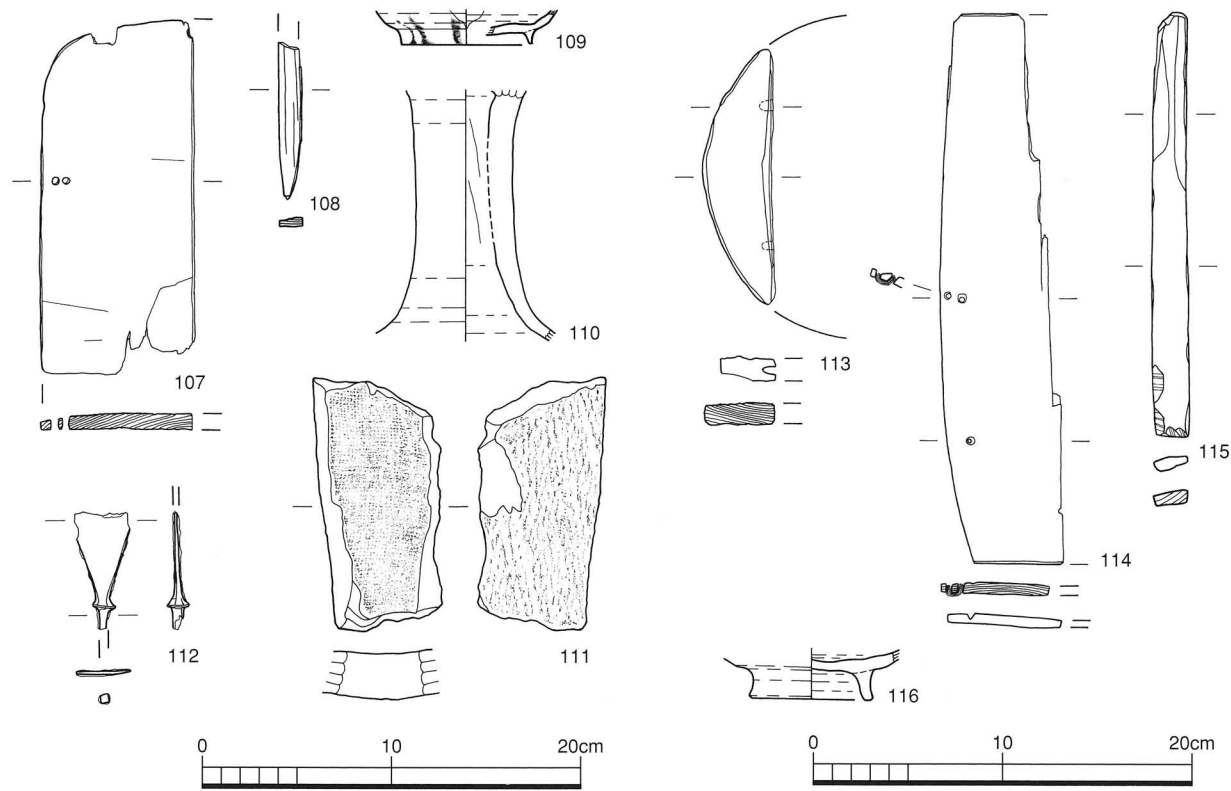
第28図 3区北・東 (北壁) 土層断面図



第29図 3区北・東3～6層 遺物出土位置図

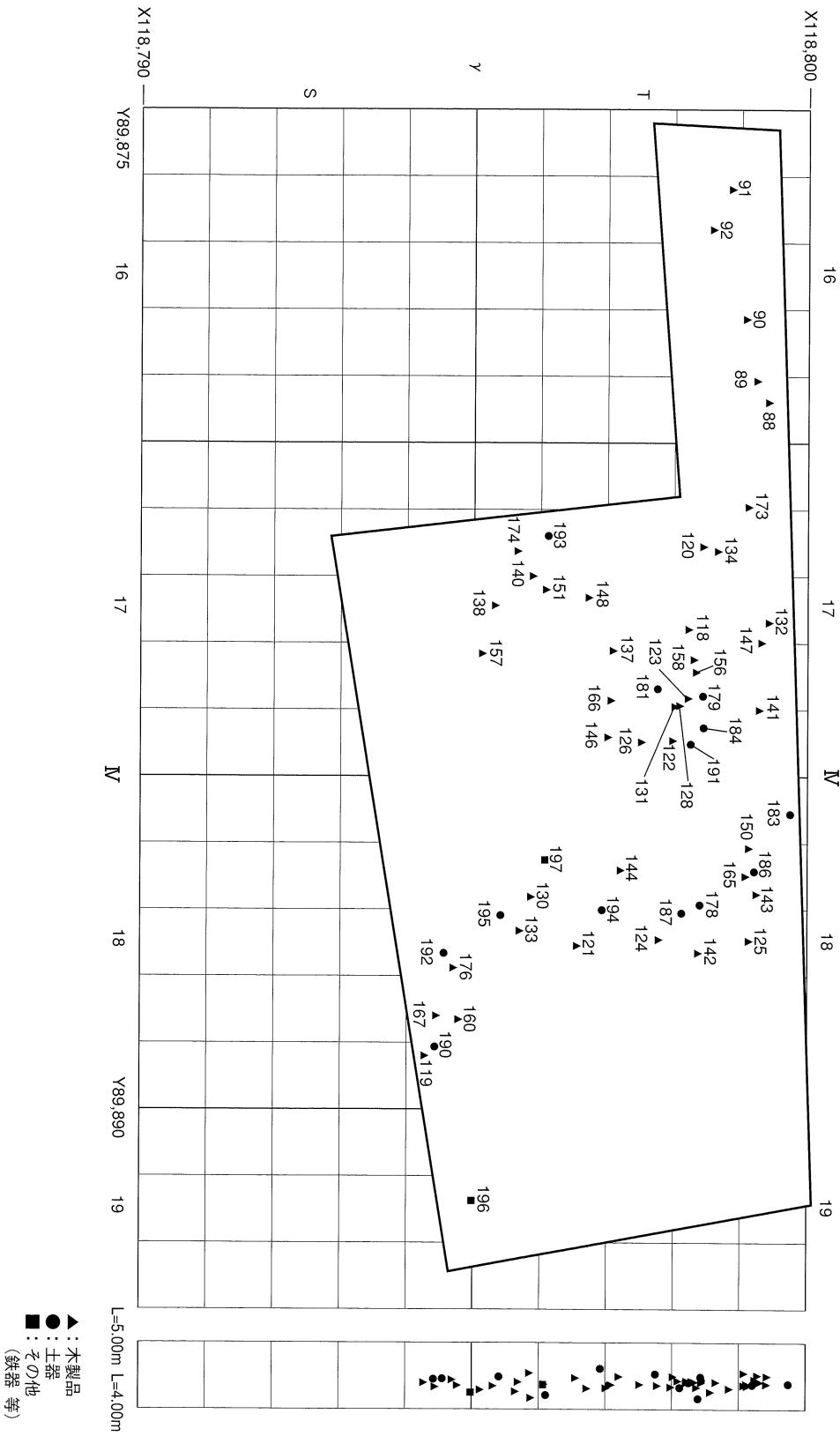


第30图 3区東3層 出土遺物

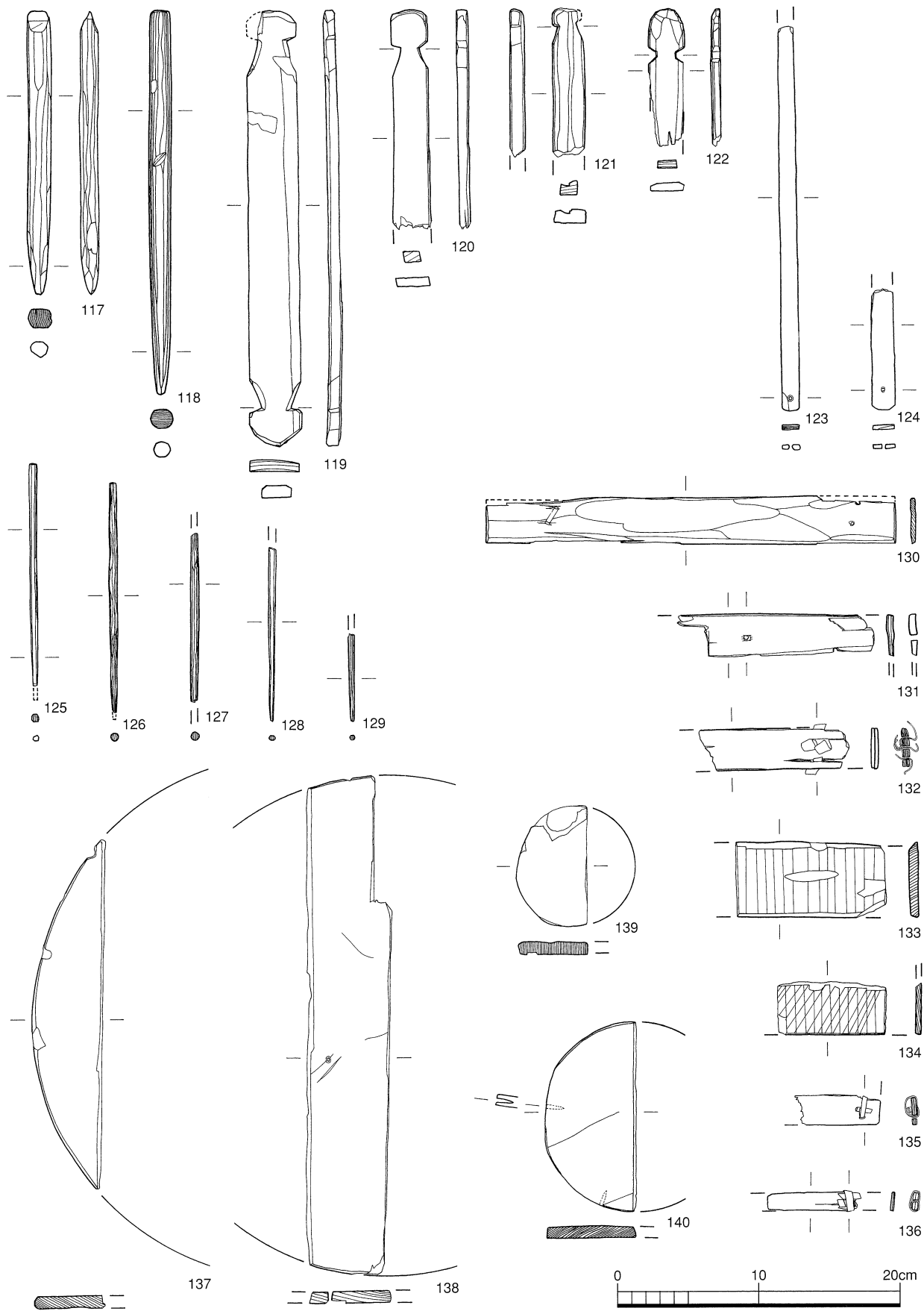


第31图 3区東5層 出土遺物

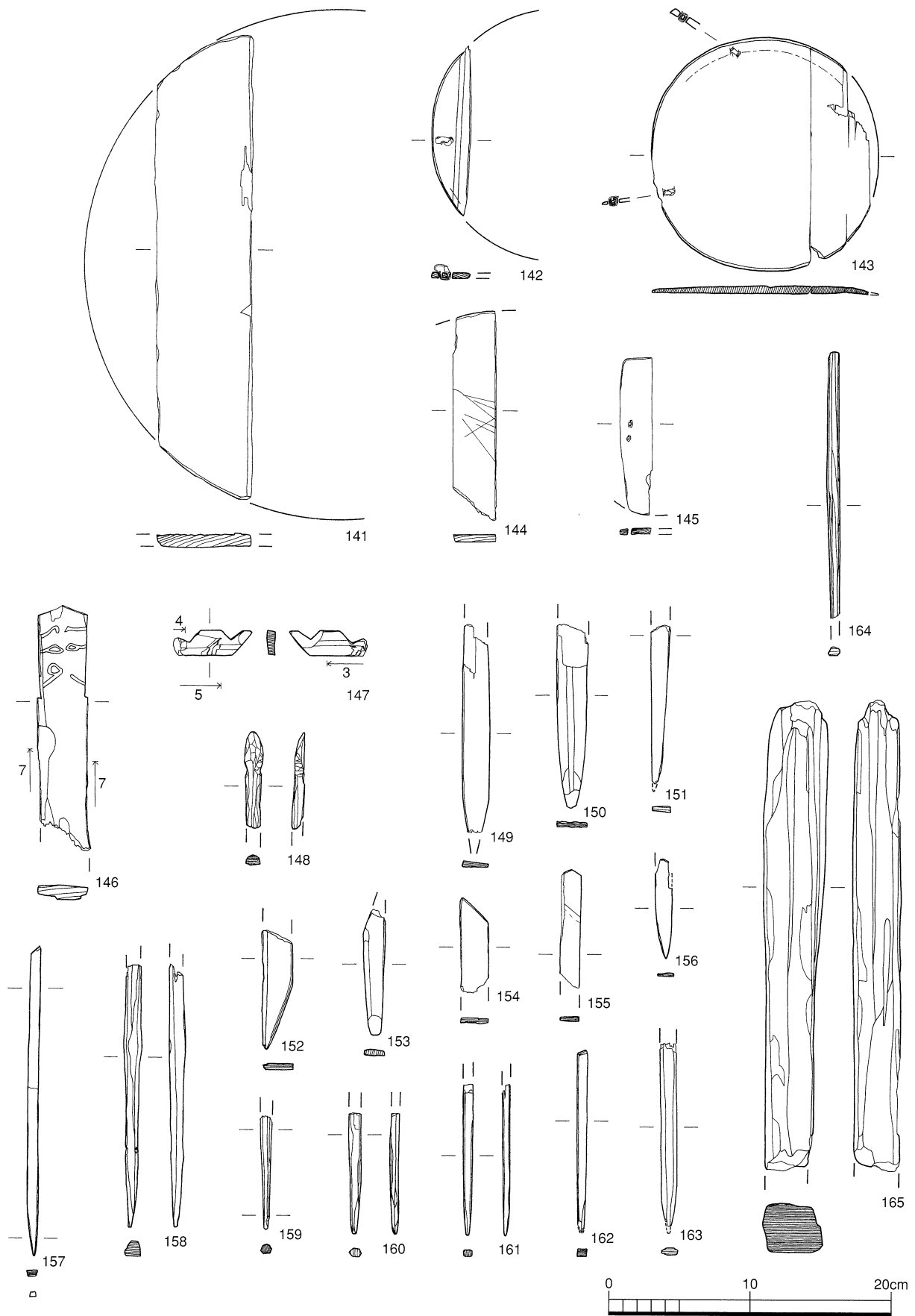
第32图 3区東6層 出土遺物



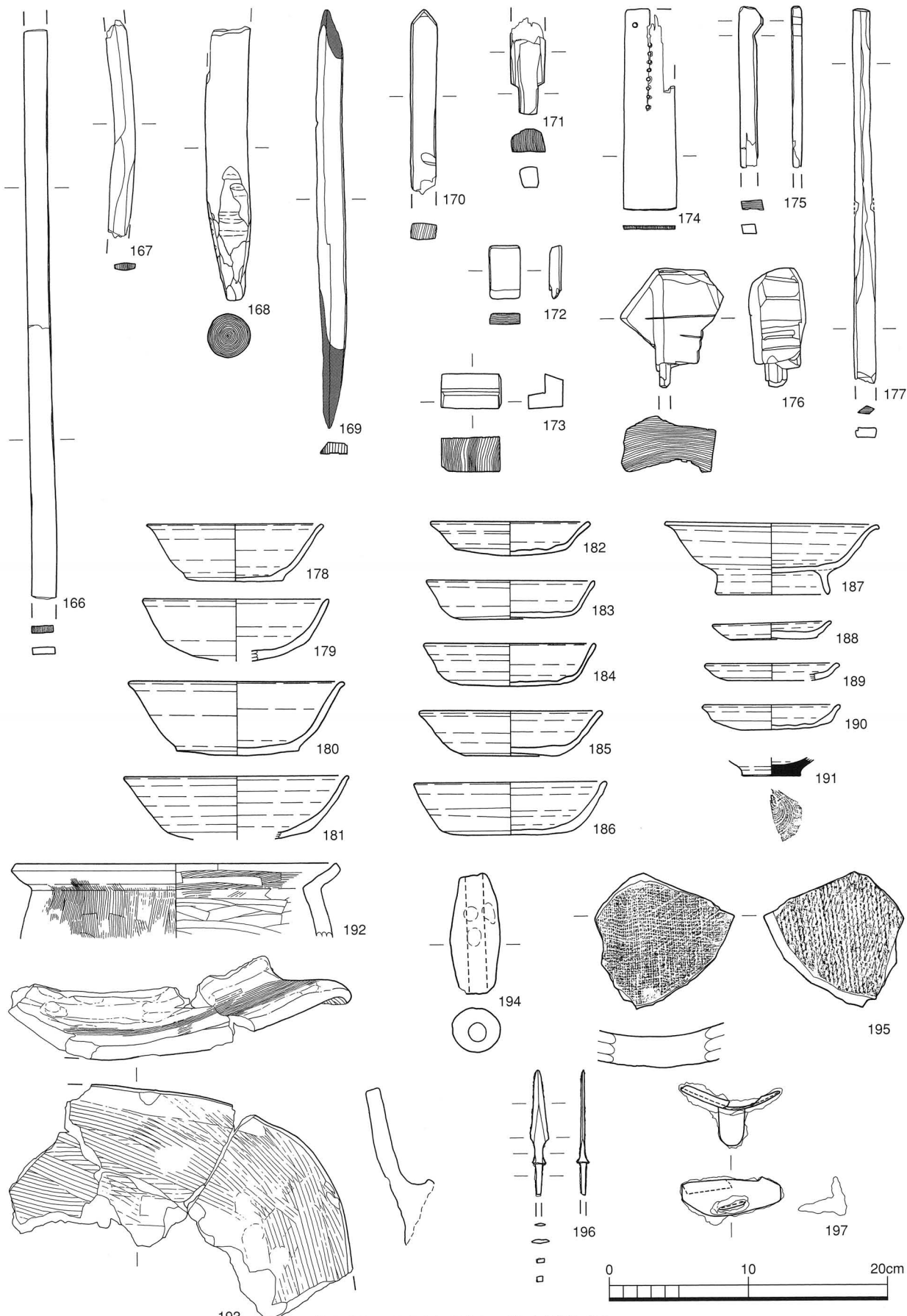
第33図 3区北・東7層 遺物出土位置図



第34图 3区東7層 出土遺物(1)



第35图 3区東7層 出土遺物(2)



第36图 3区東7層 出土遺物(3)

東から北西方向に大部分が分布するが、南西部にもまとまりが見られる。198は横槌か。199～201は織機である。202、203は柄である。204は編棒である。205は檜扇の下端である。206～208は箸である。209～215は曲物蓋板もしくは底板である。210、213には片面に漆が付着している。214、215は樺皮結合曲物（E型式）の蓋板である。212も円周状圧痕が残存しており、樺皮結合曲物（E型式）の可能性もある。216～220は曲物側板である。218は籬の可能性もある。221～224は正面全身人形である。221は顔を表現した墨痕が残る。222は墨痕は残存しないが、浮き上がりが見える。225、226は刀形である。227はA2類の舟形であるが、屋形部は無い。228はA型式、241～244はC型式の斎串である。229～240、245、246は棒状祭祀具である。247～249は部材である。250～254は籌木である。255、256は火付棒である。257、258は用途不明の木製品である。259～267は土師器の杯である。268～273は土師器の皿である。274は墨書土器である。黒色土器A類の椀の底部外面に墨痕が残る。

遺物の分布を見ると、小グリッドT-17とT-18の境界に大きなまとまりが見られる（第37図）。この中には229、231、232、234、236、243、246など、斎串や棒状祭祀具が見られる。また263の杯、272の皿が近接して出土した。この杯と皿のセットは259と268、266と269、261と270、271と274においても見られるが、現時点では、土器が原位置を保っているかどうかは未確定である。

⑦ 9層出土遺物（第41～46図）

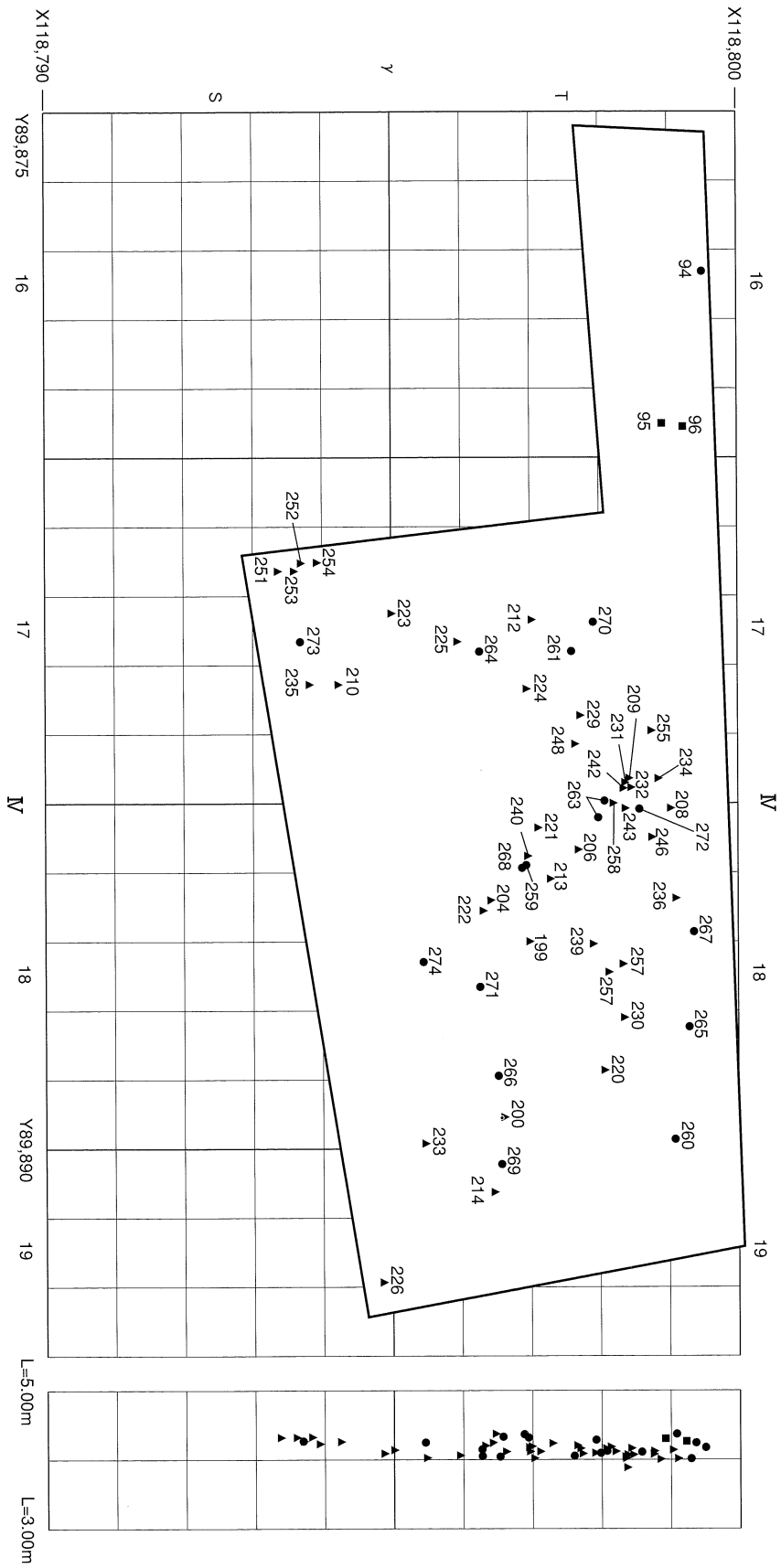
9層は調査区的全範囲に堆積する、オリーブ黒色の粘質シルト層である。遺物は7、8層同様に多い。特に、調査区北側中央部（T-17・18）に集中部が見られる。

275は刀子の柄である。276は櫛である。277～281は箸である。282は曲物側板である。283～285は曲物蓋板である。286は曲物の未製品か。287は正面全身人形の一部である。288は刀形である。289～349は斎串または棒状祭祀具である。289～300、302～311、314、324～326はC型式の斎串である。312はA型式、316はD型式か。350は断面3角形の棒状の木製品を組合せ、樺皮紐で束ねたものである。351、352は杭である。353は火付棒である。354～356は部材である。357は用途不明である。逆三角錐状を呈する。358は須恵器の杯蓋である。359～368は土師器の杯である。369は土師器の皿である。370は火舎の高台部である。371は土錘である。372は刀子である。

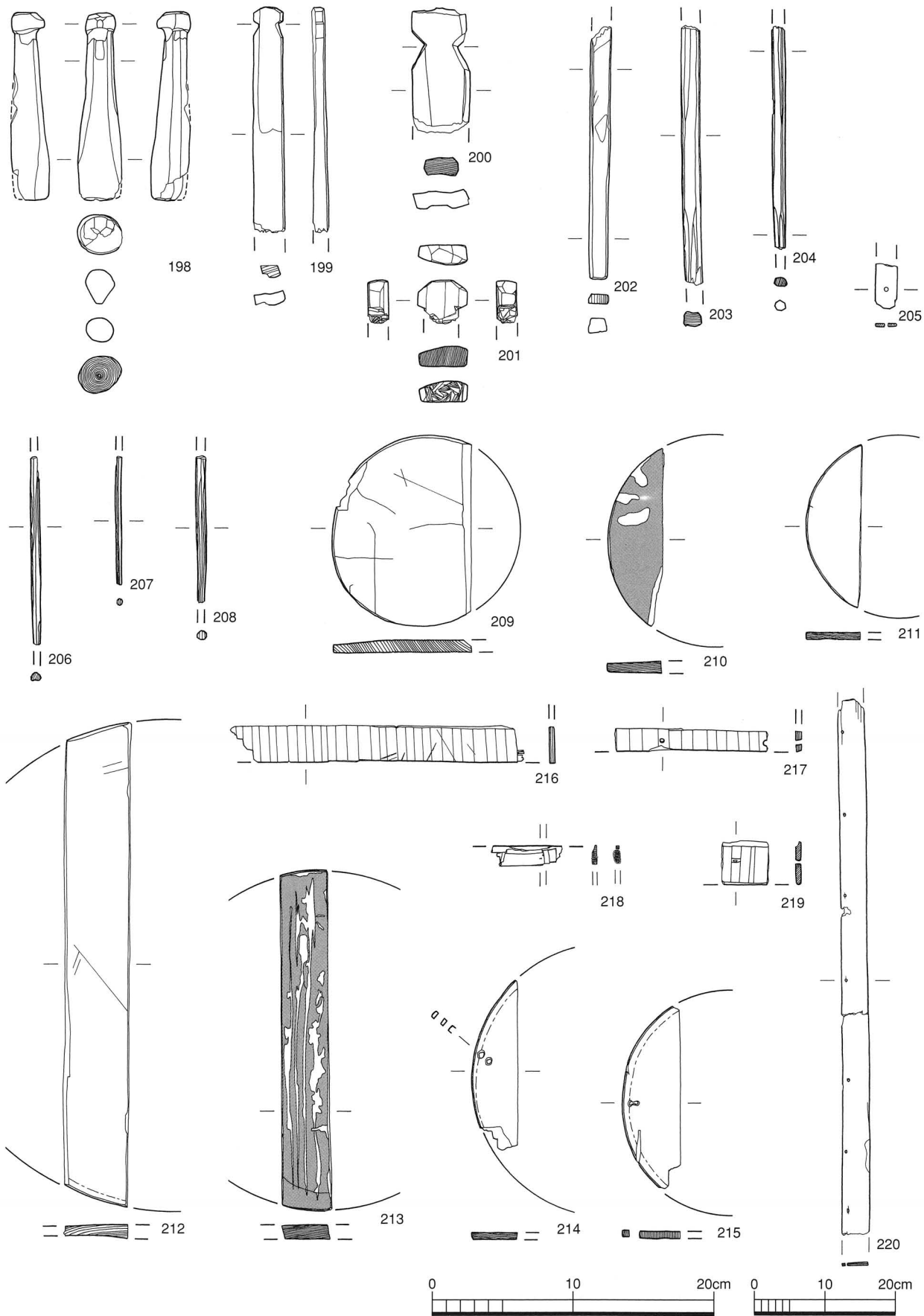
遺物の分布を見ると、小グリッドT-18とT-19の境界付近に斎串が集中する。第42図を見ると、斎串の集中部は北東と南西の2ヶ所に分かれる。南西側の集中部は、まとまりが明確である。8層の斎串のまとまりと同位置であることから、9層由来の斎串が8層で捉えられた結果であろう。第43図は9層を除去した後の地形を表したものであるが、8層、9層で斎串が集中して出土した部分（網掛け部）は、標高3.7m以上の中洲の南斜面に位置することがわかる。祭祀の後にまとめて遺棄、または廃棄した可能性が考えられる。斎串集中部の西側には、364の杯と369の皿、363の杯と97の皿が近接して出土した。

⑧ 10層出土遺物（第47～49図）

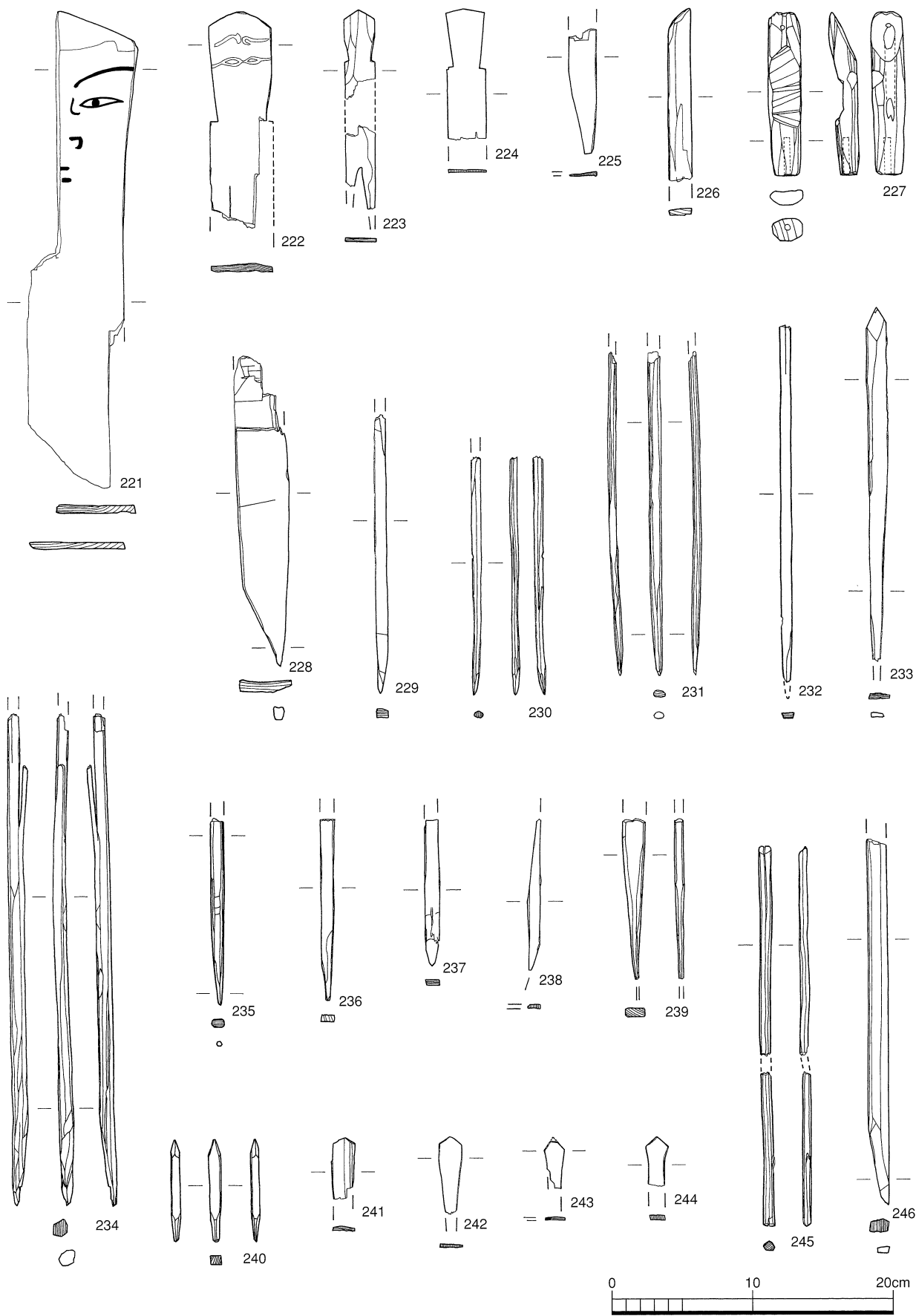
10層は調査区南西部にのみ堆積する、オリーブ黒色を基調とした粗砂層で、3区西の10層と一連の層であると考えられる。373は竖杵の一部か。374～377は曲物である。376、377は樺皮結合曲物（E型式）で、蓋板である。378は挽物の皿である。379は鳥形である。380はA型式、381、382はC V型式の斎串である。383は部材である。384は用途不明である。385は須恵器の杯蓋である。386、387は土師器の蓋である。388は土師器の杯である。390は土師器の皿である。体部内外面に墨書による波線と内面に十字の模様が墨書される。391高杯の脚部である。392～394は土師器の甕である。



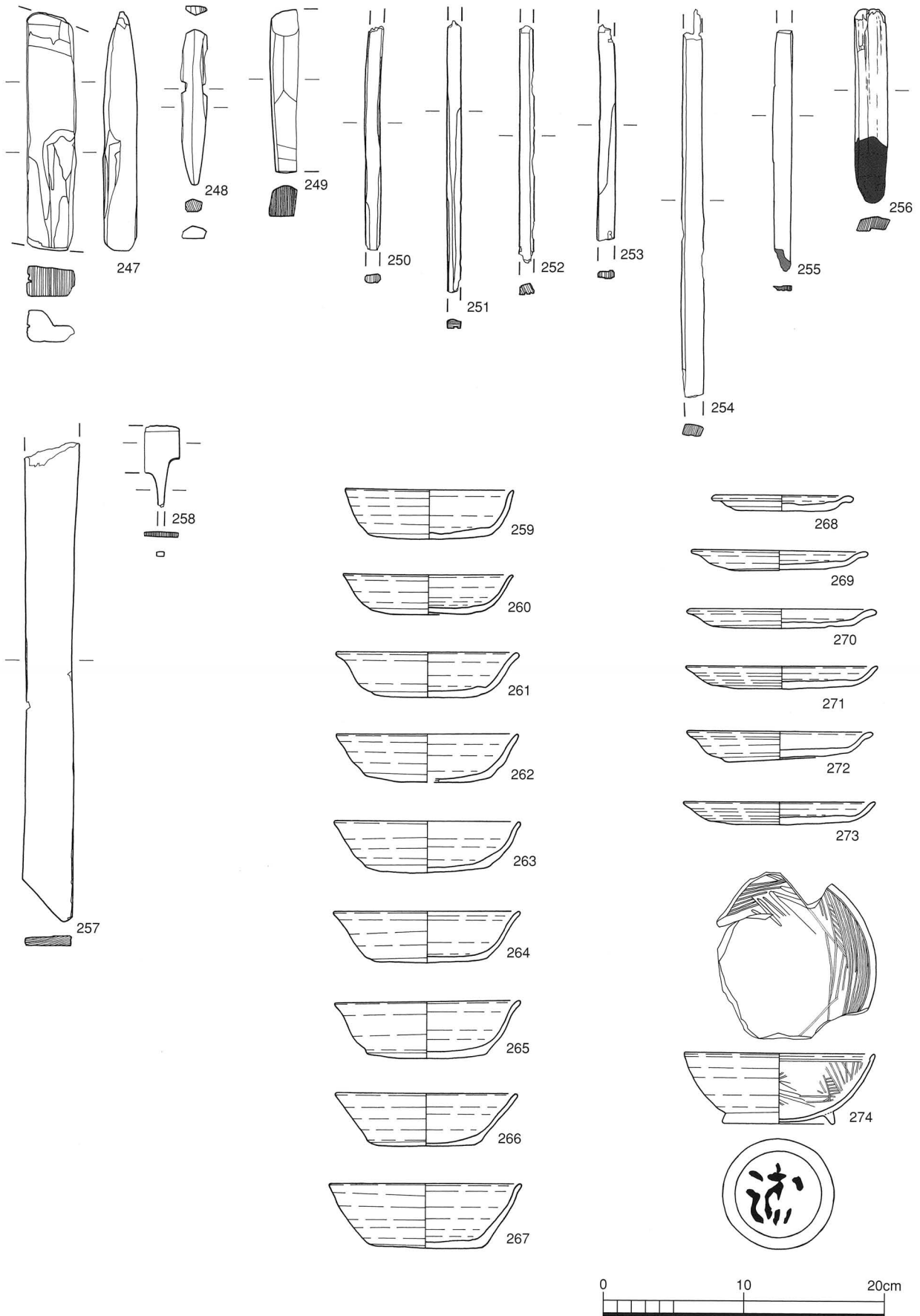
第37図 3区北・東8層 遺物出土位置図



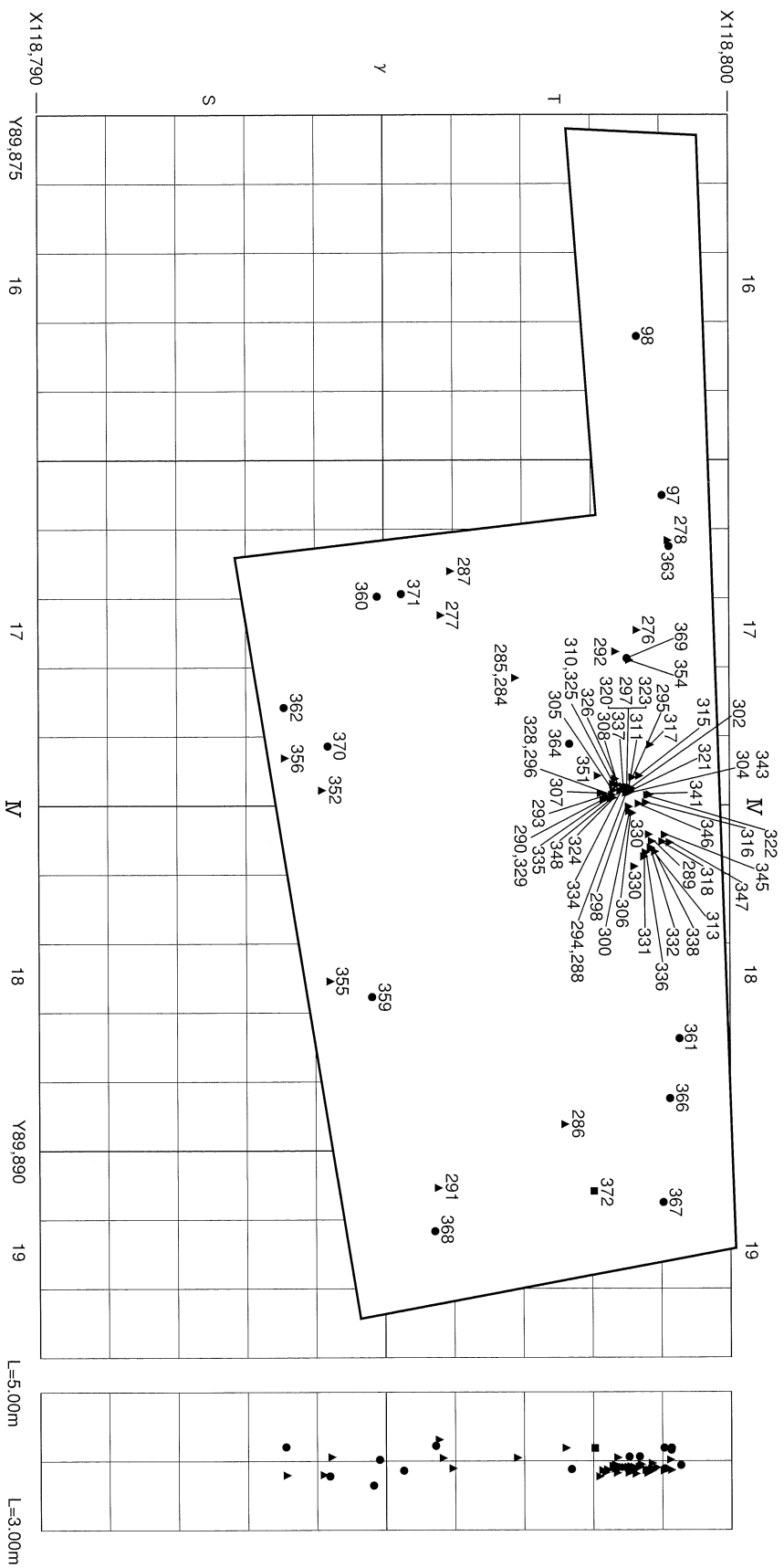
第38图 3区東8層 出土遺物(1)



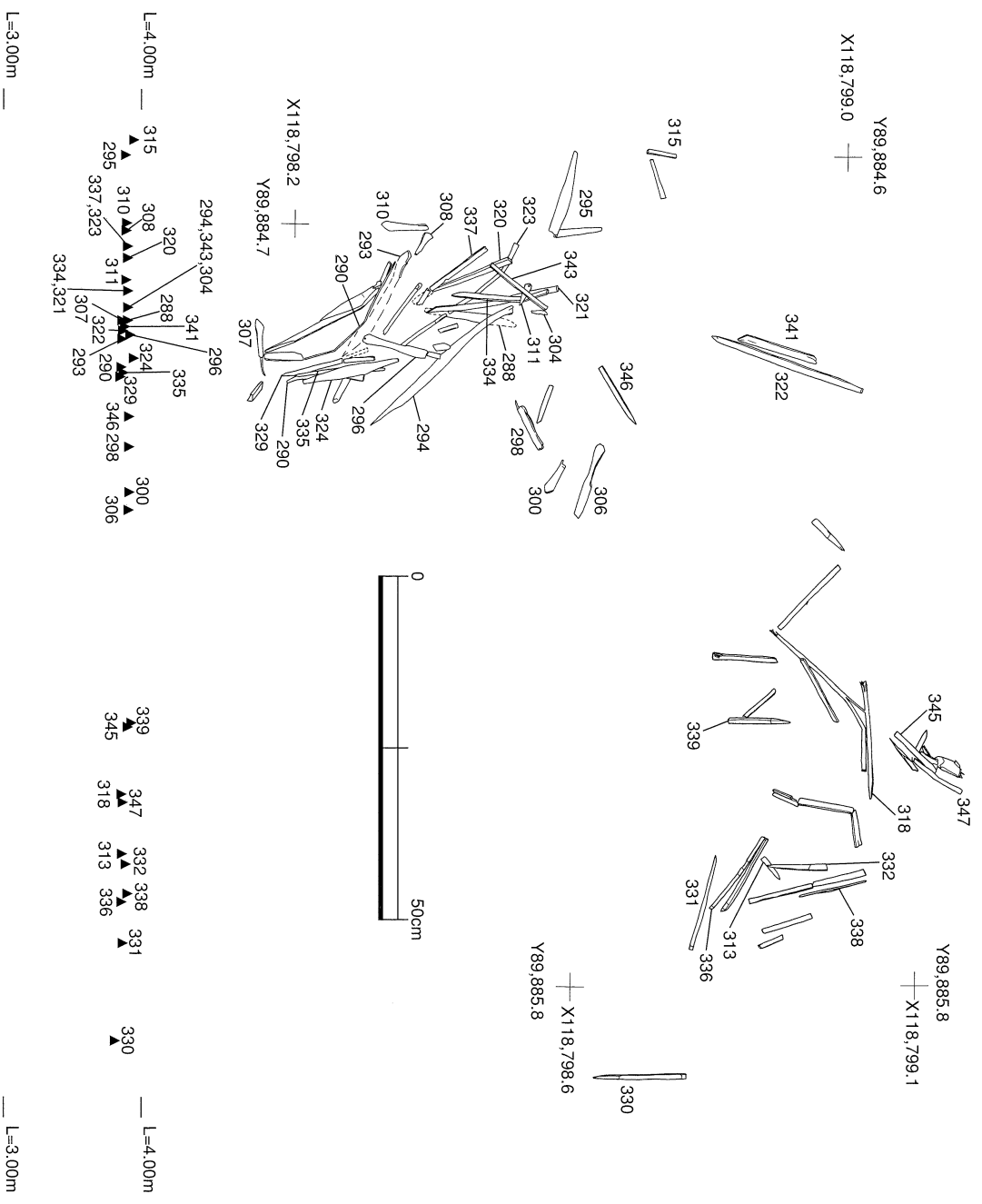
第39图 3区東8層 出土遺物(2)



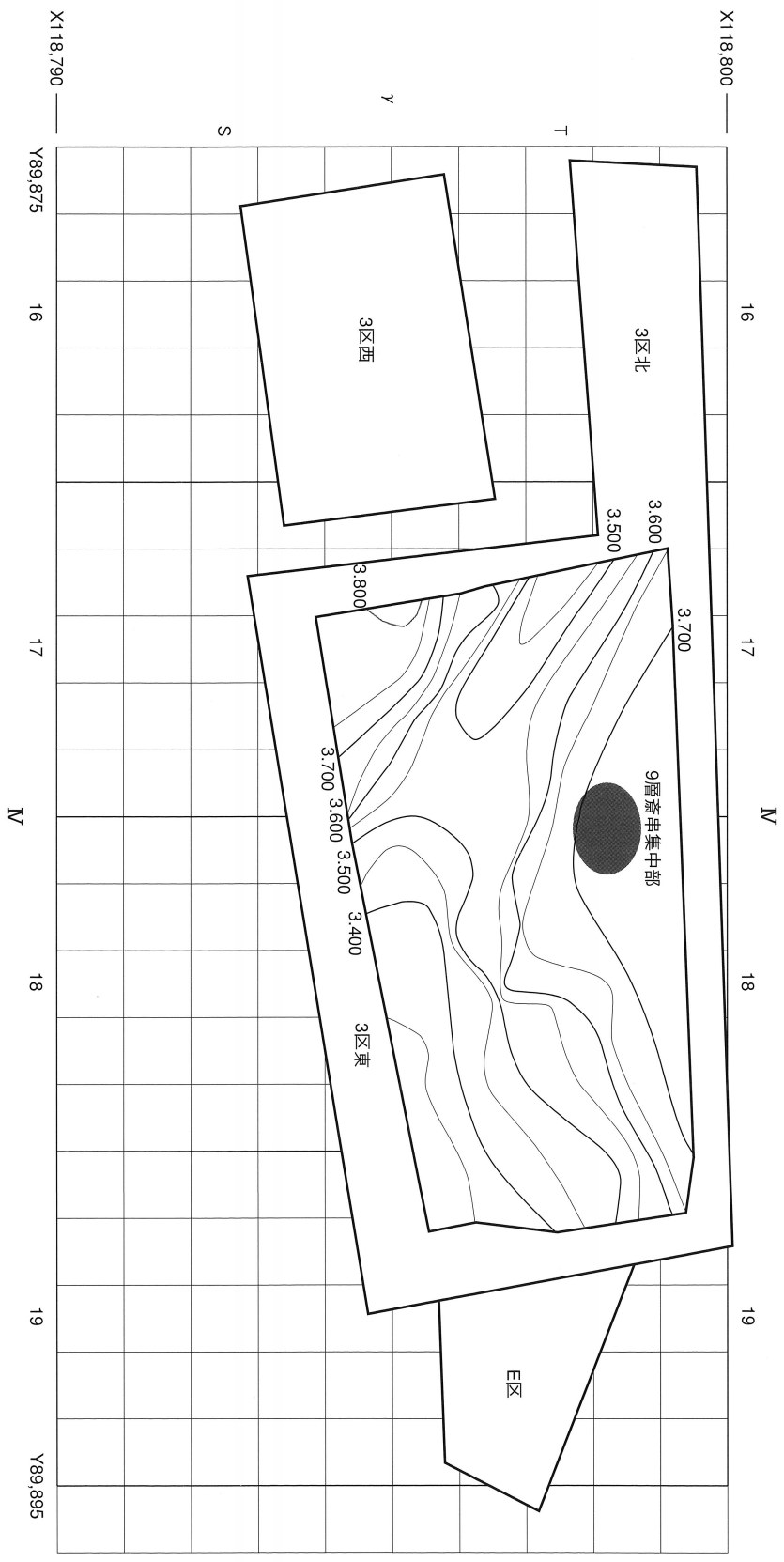
第40図 3区東8層 出土遺物(3)



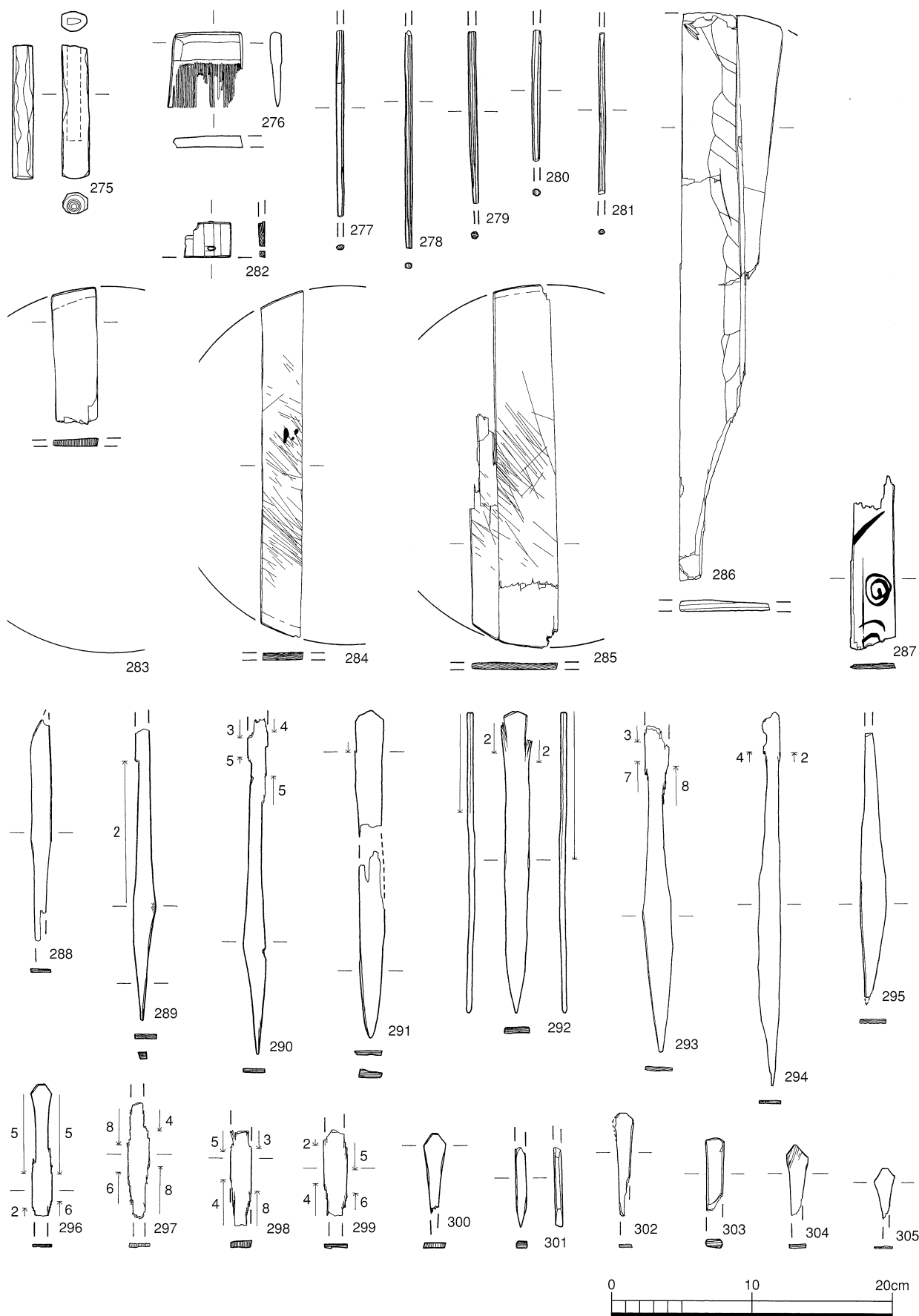
第41図 3区北・東9層 遺物出土位置図



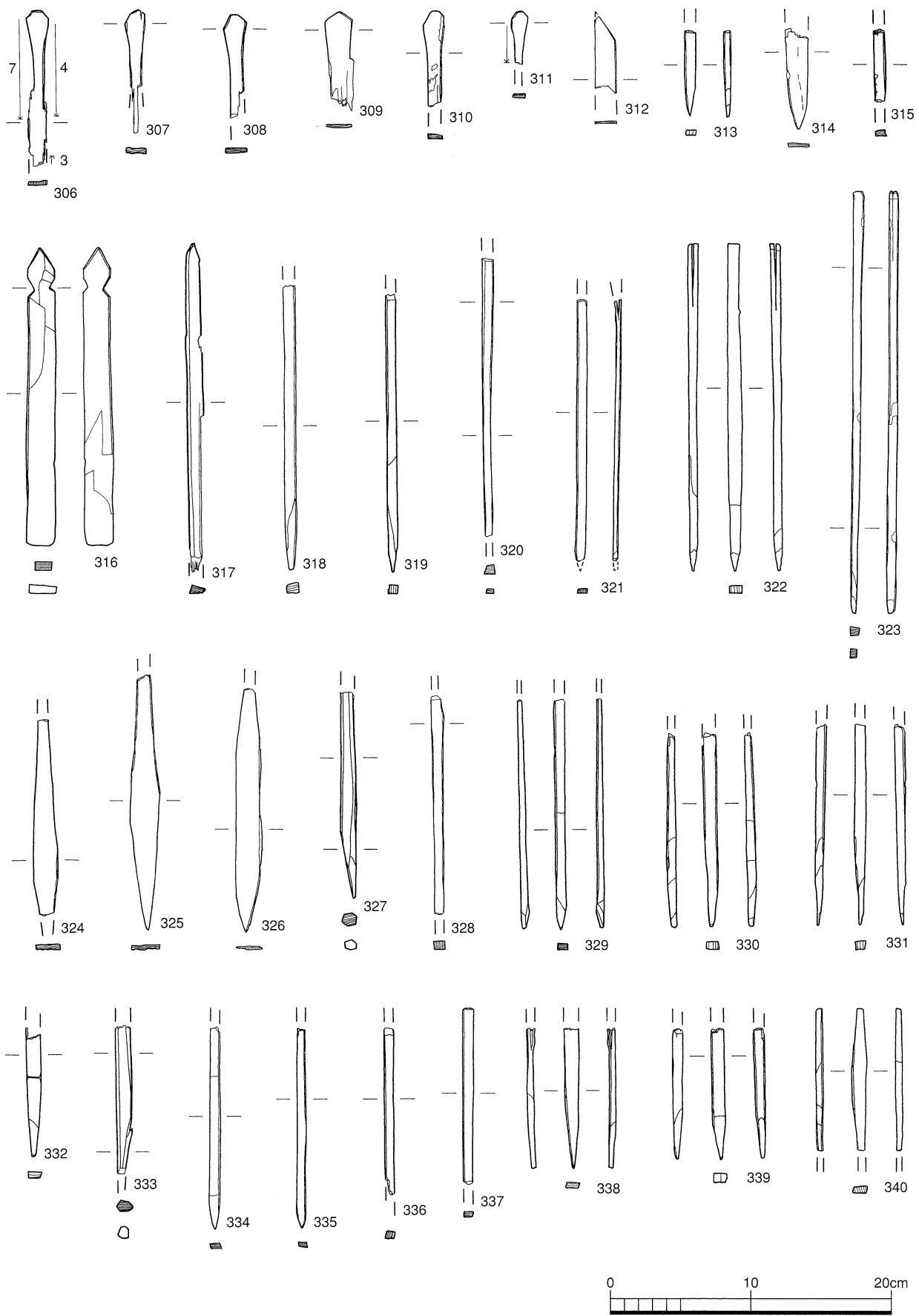
第42图 3区東9層 斎串出土状況图



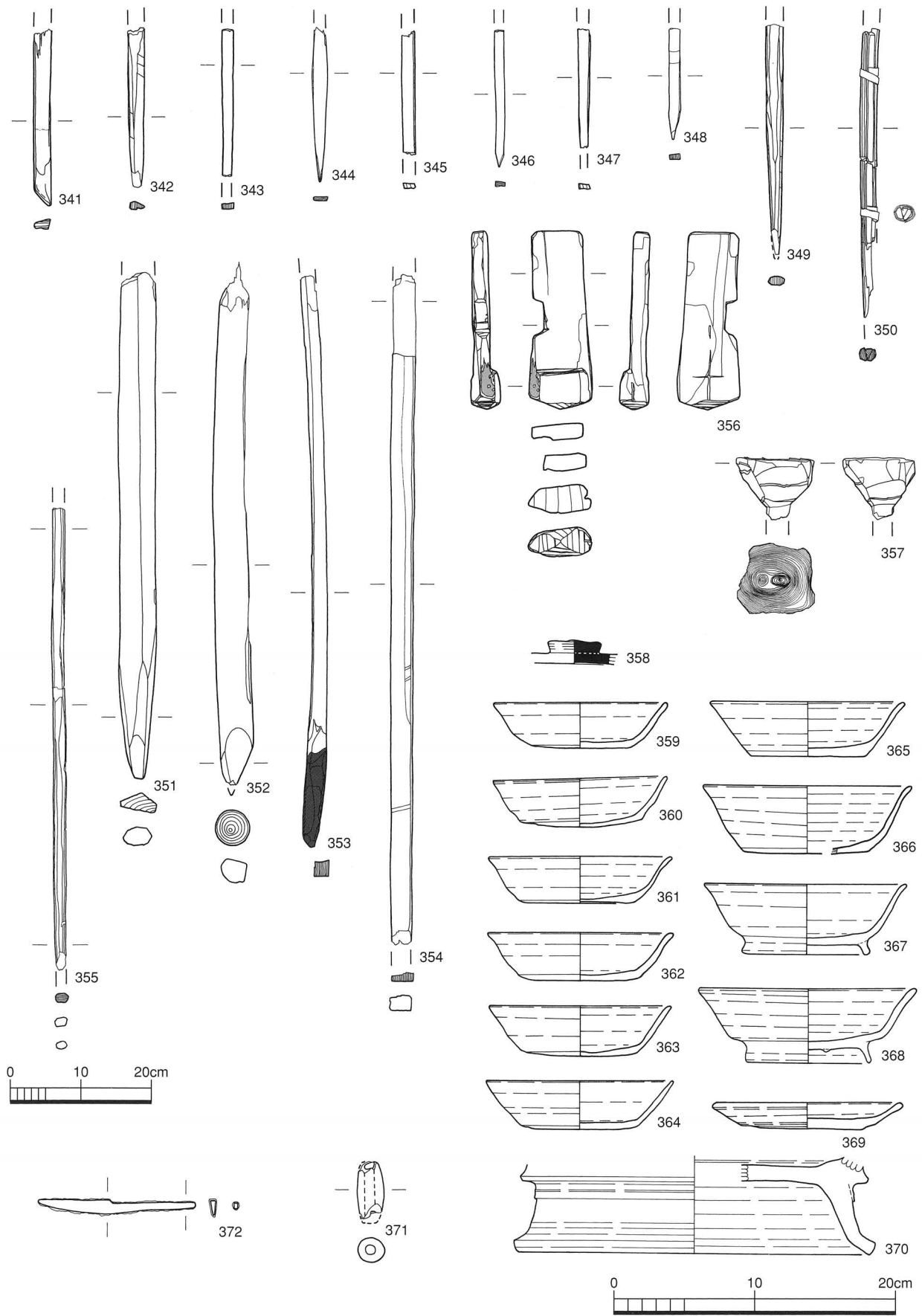
第43図 3区東10層上面（9層掘削後）の地形図



第44図 3区東9層 出土遺物(1)



第45图 3区東9層 出土遺物(2)



第46图 3区東9層 出土遺物(3)

⑨11層出土遺物（第47・50図）

11層は調査区南西部に厚く堆積する、オリーブ黒色の粘質シルト層である。395、396は曲物である。396は樺皮結合曲物（E型式）で蓋板である。397は棒状祭祀具である。398は火付棒である。

⑩12層出土遺物（第51～54図）

12層は調査区南東部に堆積する、オリーブ黒色の粘質シルト層である。399は下駄である。400は蝙蝠扇である。401は題籤軸である。402、403は櫛である。404～406は箸である。407、408は曲物側板である。409～411は曲物である。409は片面に漆が残存する。410は樺皮結合曲物（E型式）の蓋板である。412は円筒状人形である。413はA型式の斎串である。414～418はC型式であるが、415はC V形式、417はC III型式と見られる。419～428は棒状祭祀具である。429は杭である。430は籌木である。431は火付棒である。432～435は用途不明である。436は土師器の蓋である。437は土師器の杯蓋である。内面に墨書がある。これは、『観音寺遺跡（IV）』の墨書土器2666と接合することが明らかになった。438は土師器の杯である。439は土師器の皿である。440～456は土師器の杯である。457～459は土師器の皿である。460は土師器の高杯である。461、462は須恵器の杯である。463は黒色土器A類の椀である。464～466は土師器の甕である。467は土師器の竈である。468は平瓦である。469～471は土錘である。472は刀子である。473はスラグである。

⑪13層出土遺物（第55・56図）

13層は調査区南東部に堆積する、オリーブ黒色の粘土層で15層由来の粗砂を含む。474は木製の留針である。475は曲物蓋板である。476は楕円形曲物底板である。477は棒状祭祀具、478はC I型式の斎串である。479は土師器の杯である。

⑫14層出土遺物（第57～59図）

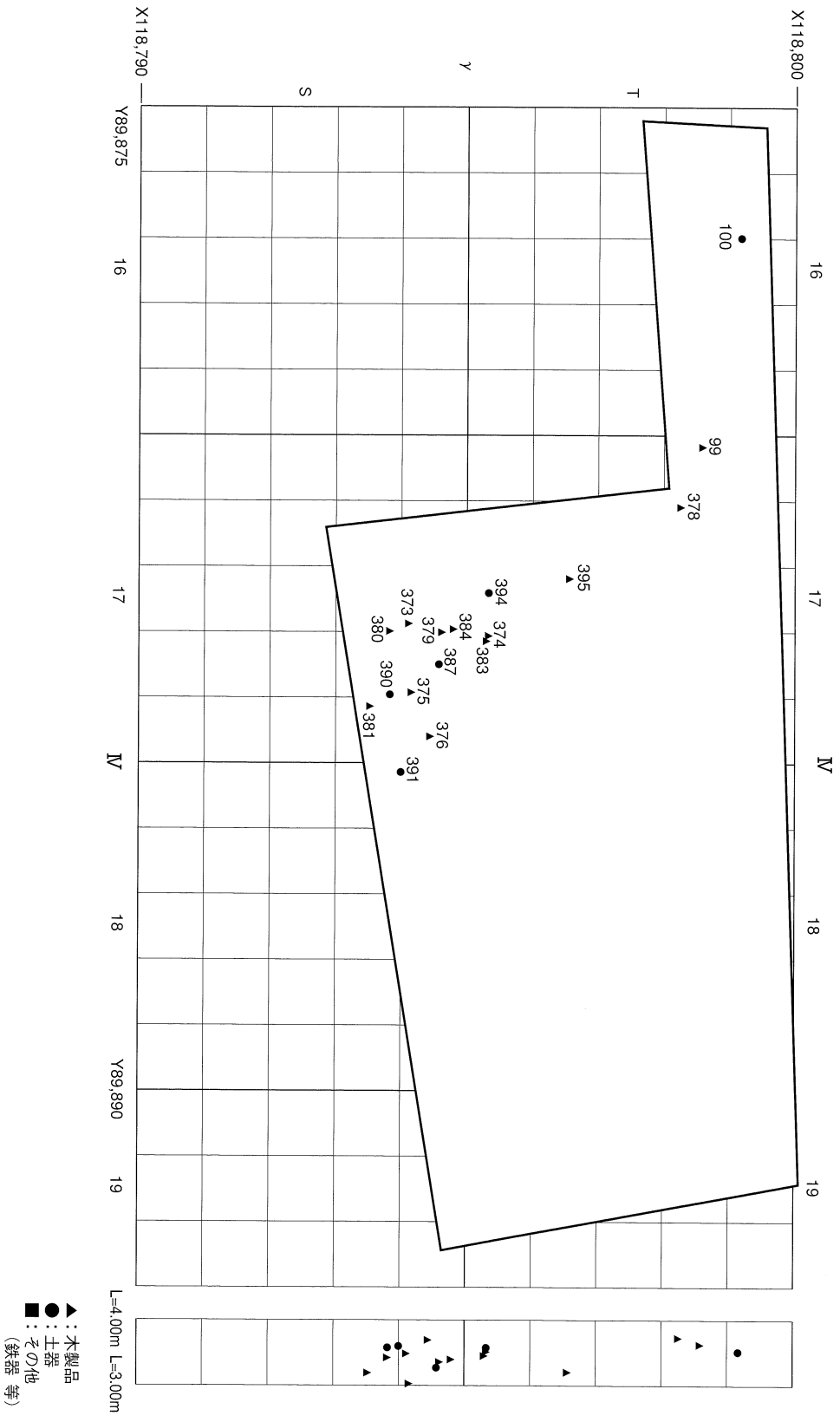
14層は調査区全範囲に分布する、オリーブ黒色のシルト及び砂質シルト層である。480は横槌である。481は糸巻梓木である。482、483は編棒である。484～487は曲物である。486は樺皮結合曲物（E型式）で、蓋板である。488、489は円筒状人形である。490～492はA 2類の舟形である。492は船首部のみで、船首上部が欠損している。屋形部に穿孔があり、船尾部と組み合わせた可能性がある。493～496は斎串である。493はC IV型式、494はC I型式、495はA型式、496はC型式である。497は馬鋏である。498は部材である。499は須恵器の杯蓋である。500～502は土師器の杯である。502は底部内面に螺旋状暗文と体部内面に放射状暗文を施す。503は土師器の皿である。504は羽釜である。

⑬15層出土遺物（第60・61図）

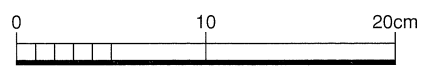
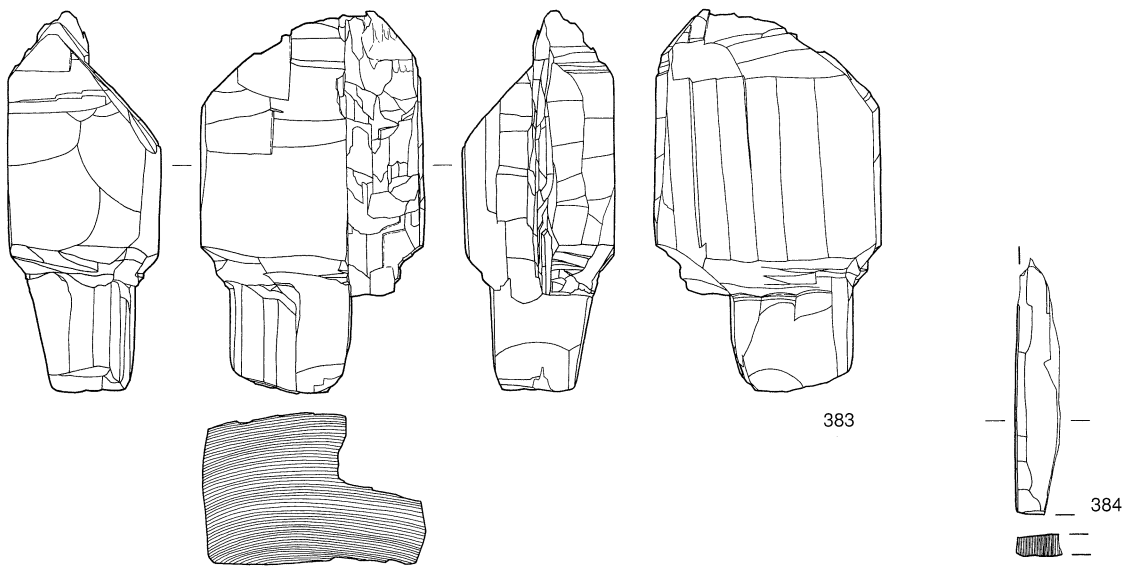
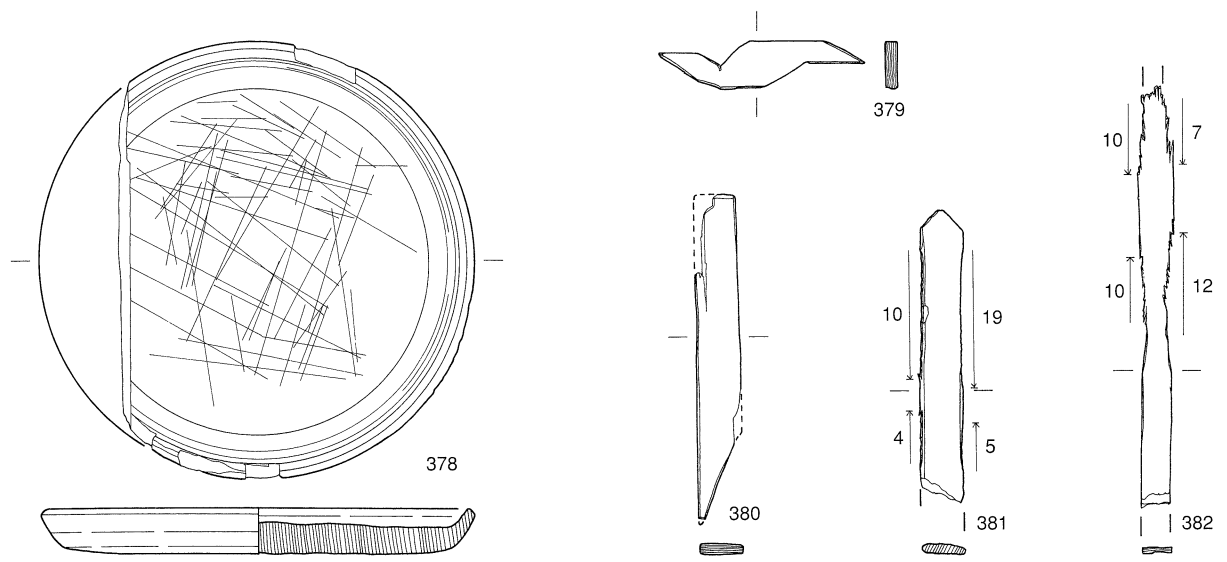
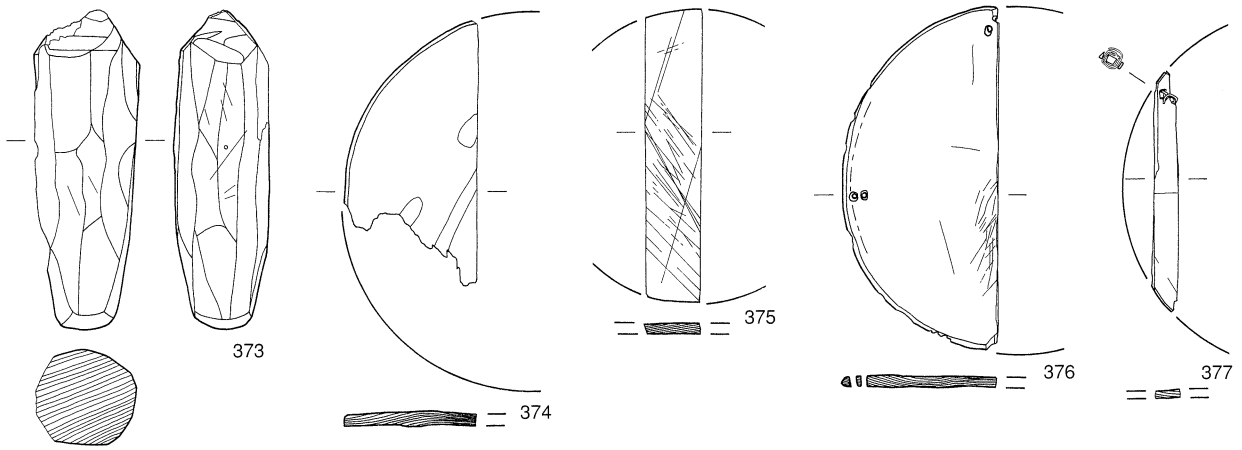
15層は調査区全範囲に堆積する、緑黒色もしくはオリーブ黒色の粒子の粗い砂層である。遺物の出土数は少ない。505は木製の留針である。506、507は曲物である。507は円周状の圧痕が見られるため樺皮結合曲物（E型式）の蓋板の可能性はある。508は杭である。509は土師器の杯である。510、511は土師器の甕である。512は甌の把手である。513は方頭形の鉄鏃である。

⑭出土遺物（第62図）

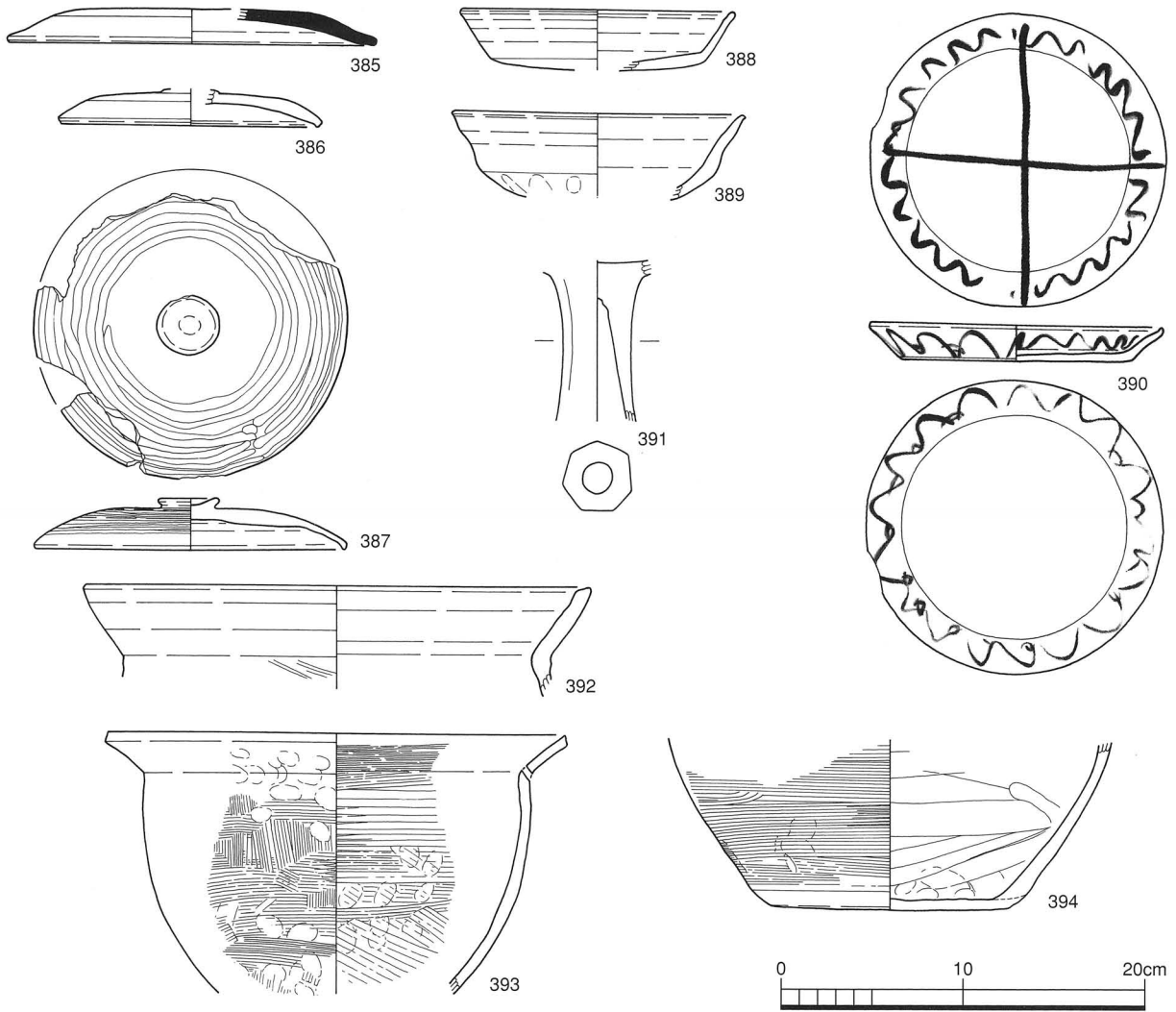
514、515は曲物である。516、517は杭である。



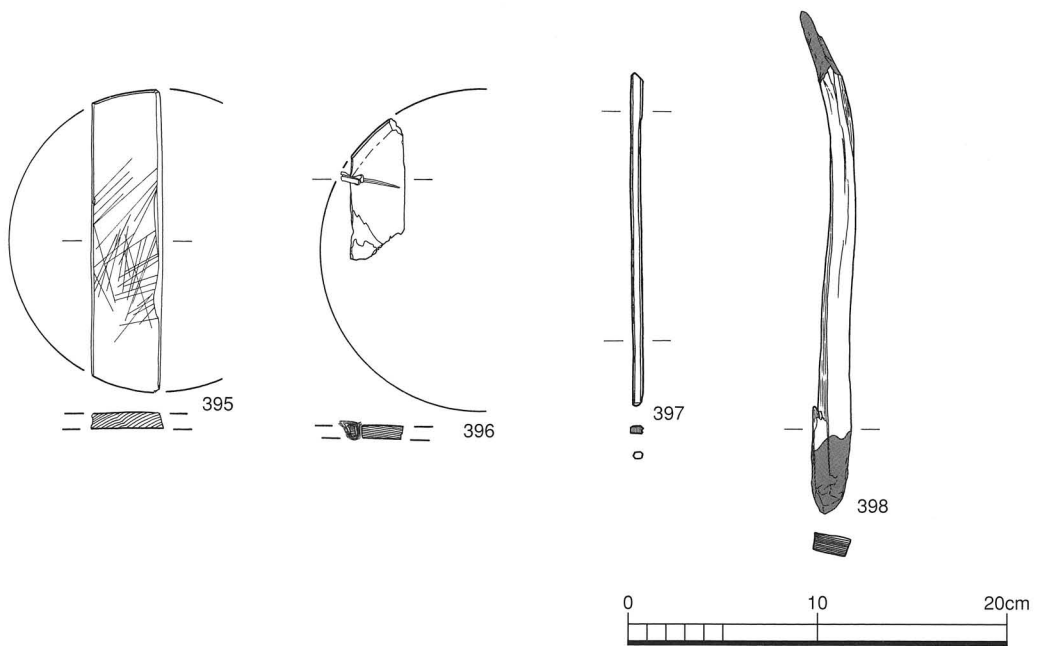
第47図 3区北・東10・11層 遺物出土位置図



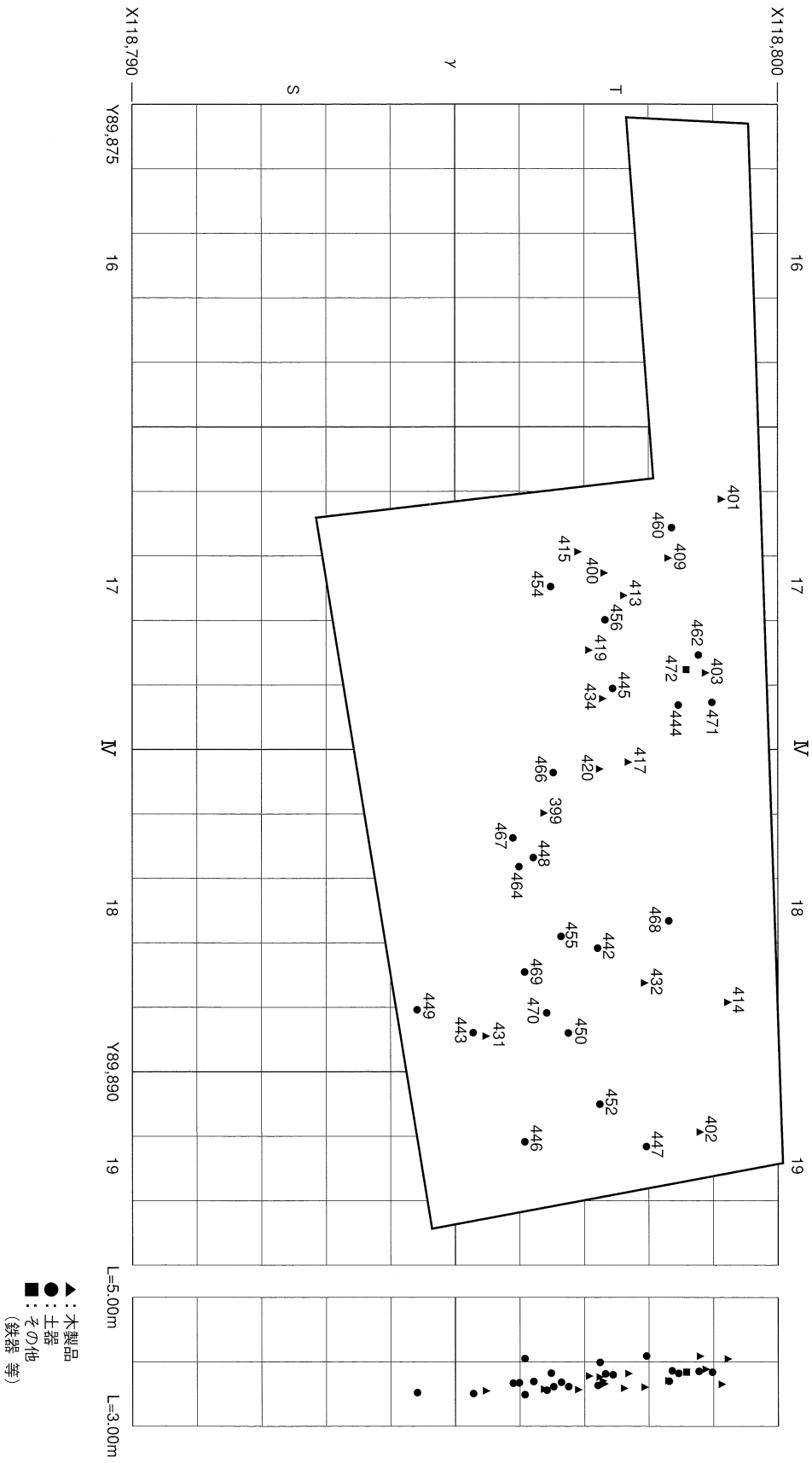
第48图 3区東10層 出土遺物(1)



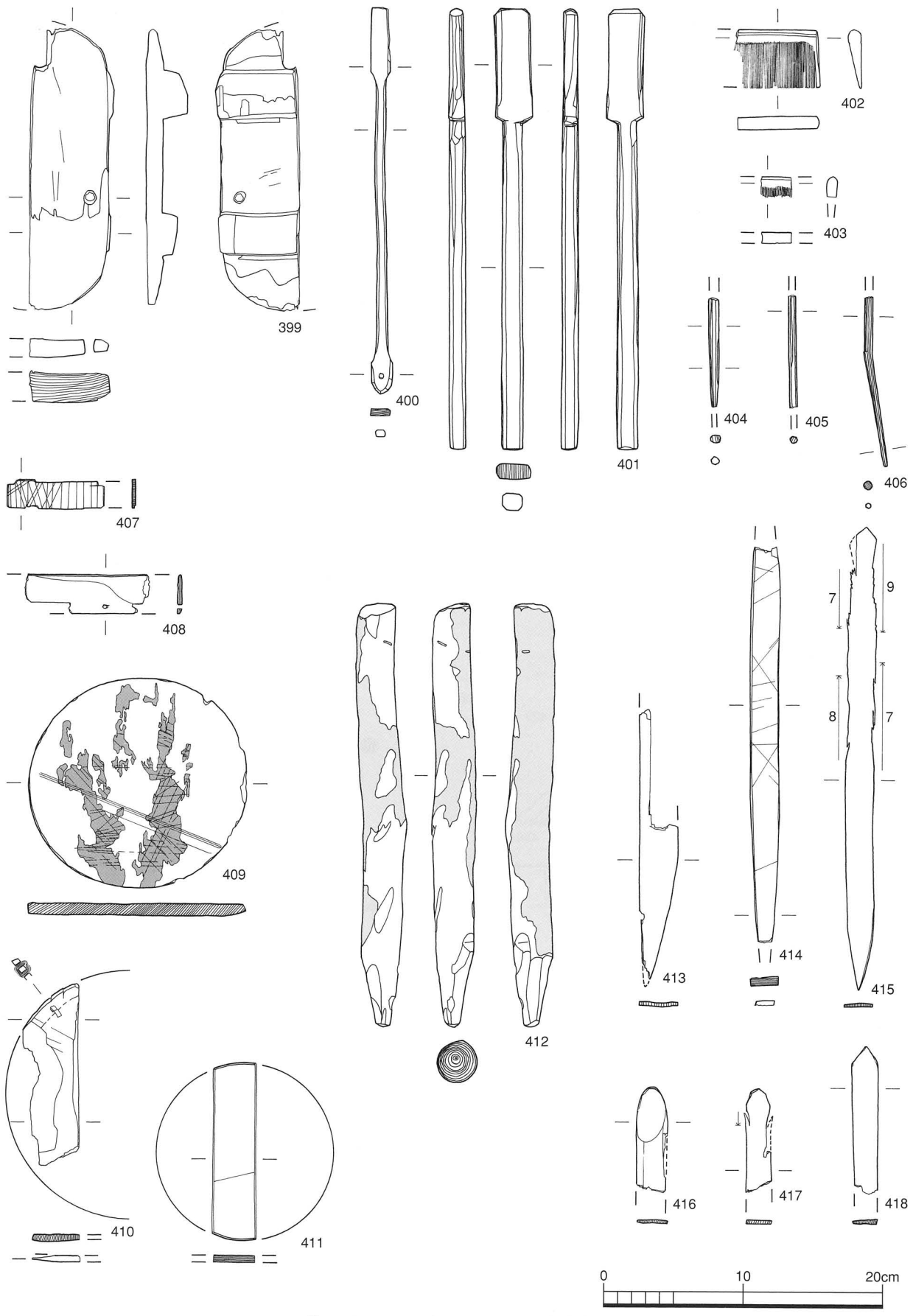
第49図 3区東10層 出土遺物(2)



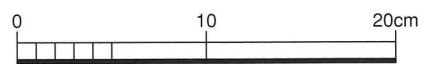
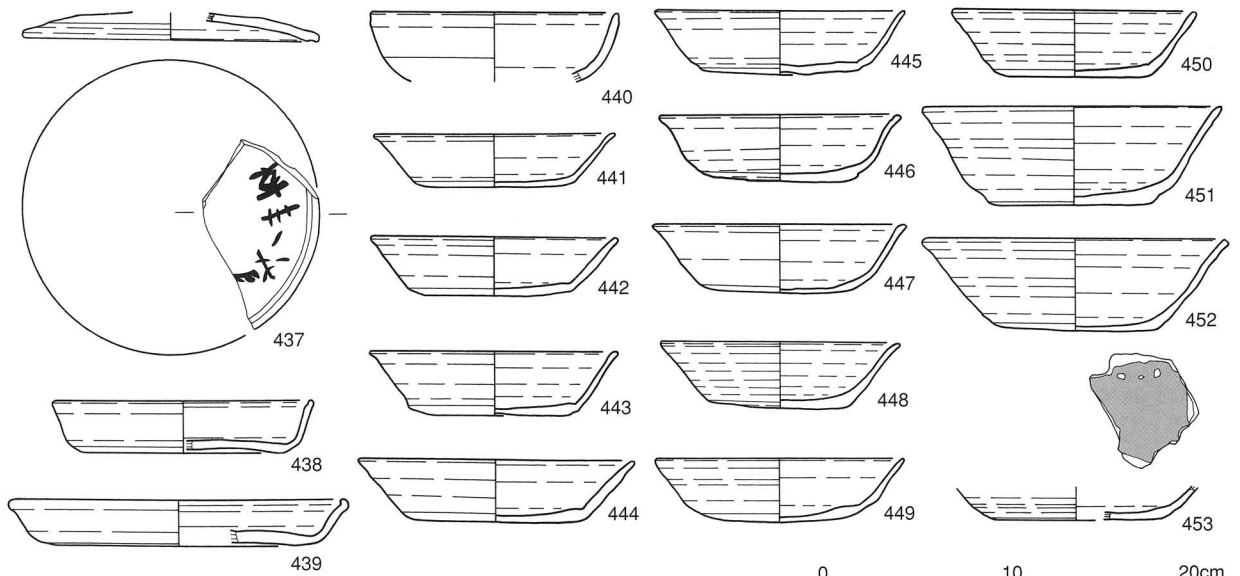
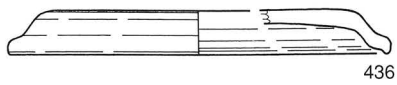
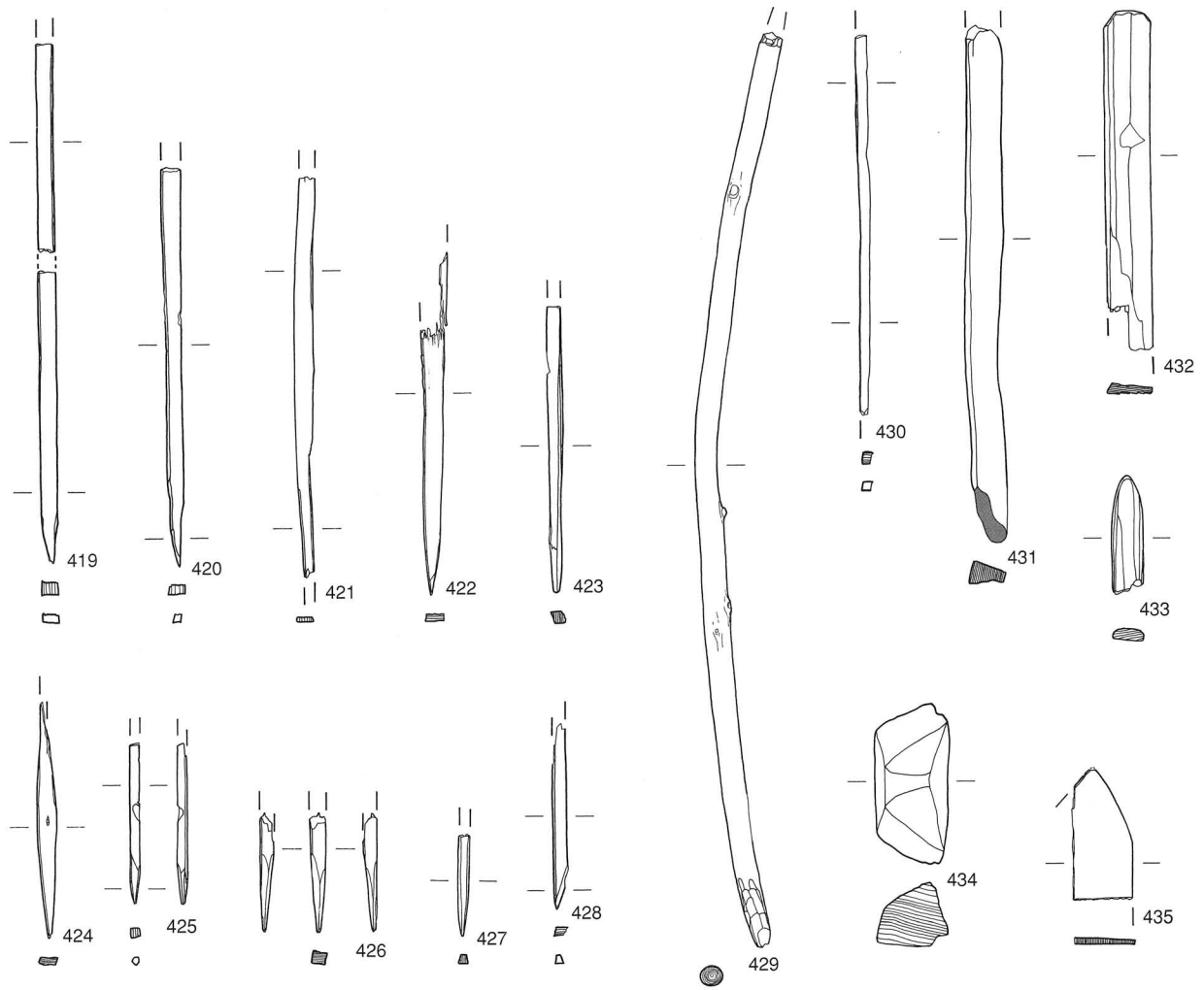
第50図 3区東11層 出土遺物



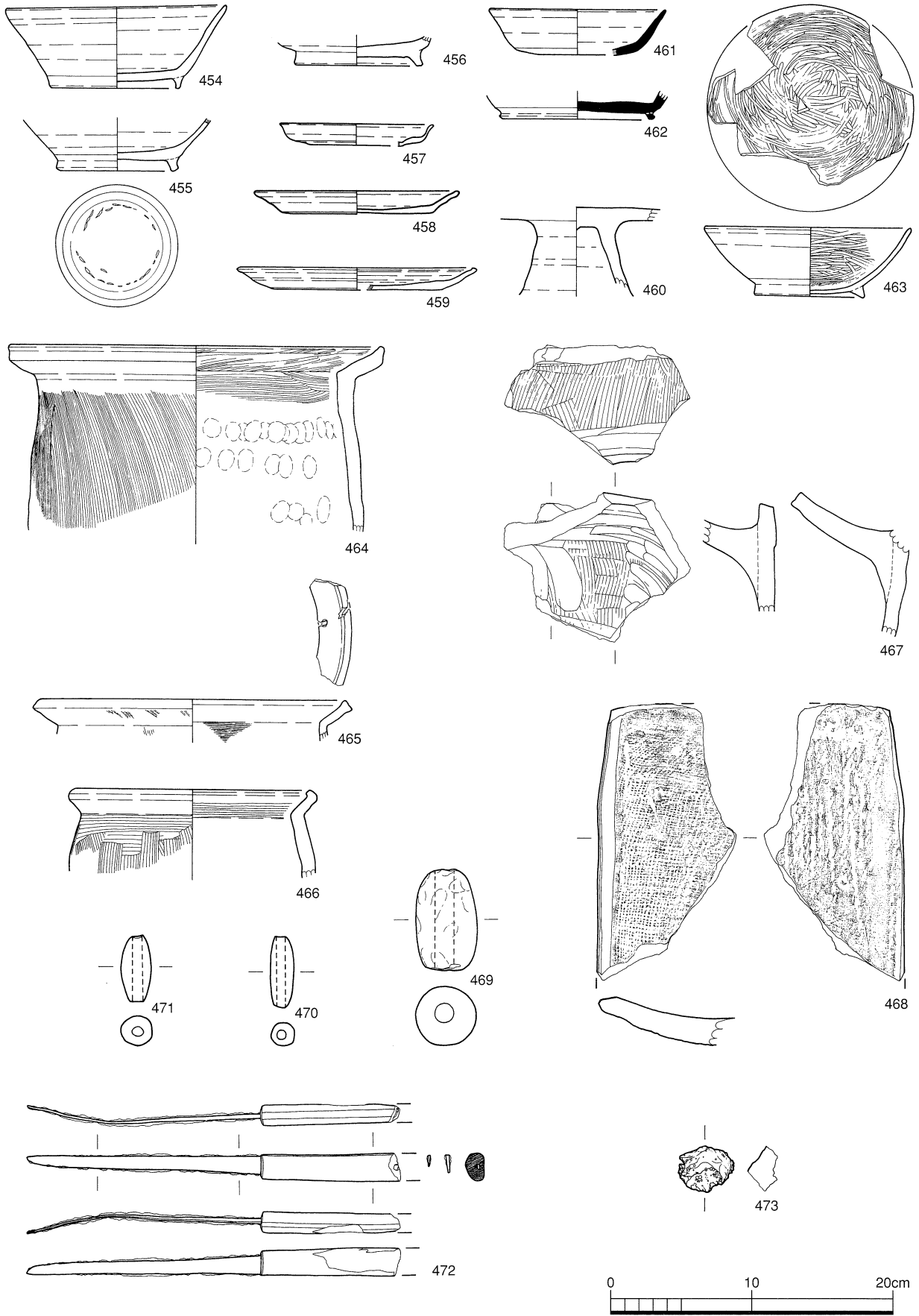
第51図 3区東12層 遺物出土位置図



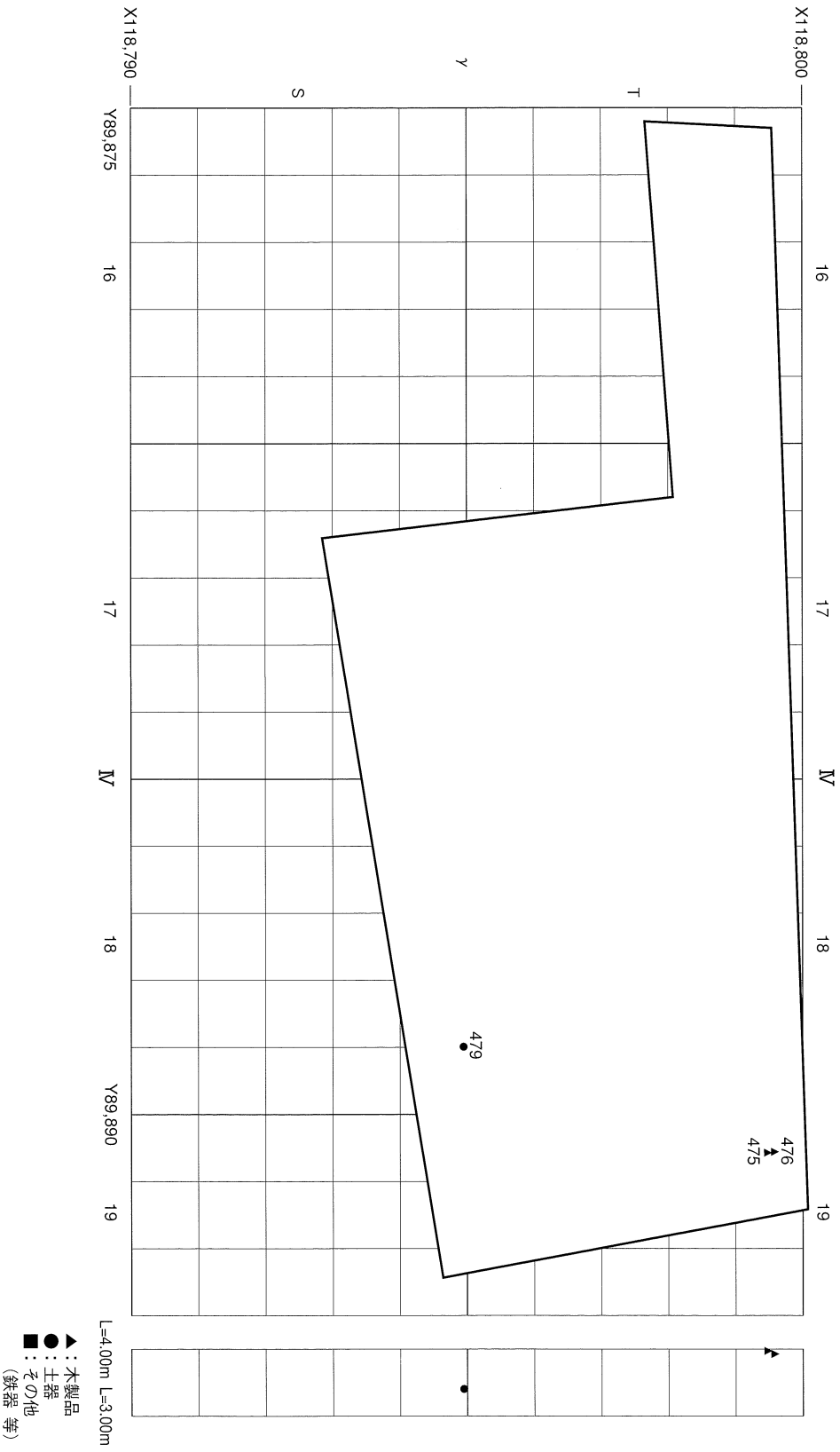
第52图 3区東12層 出土遺物(1)



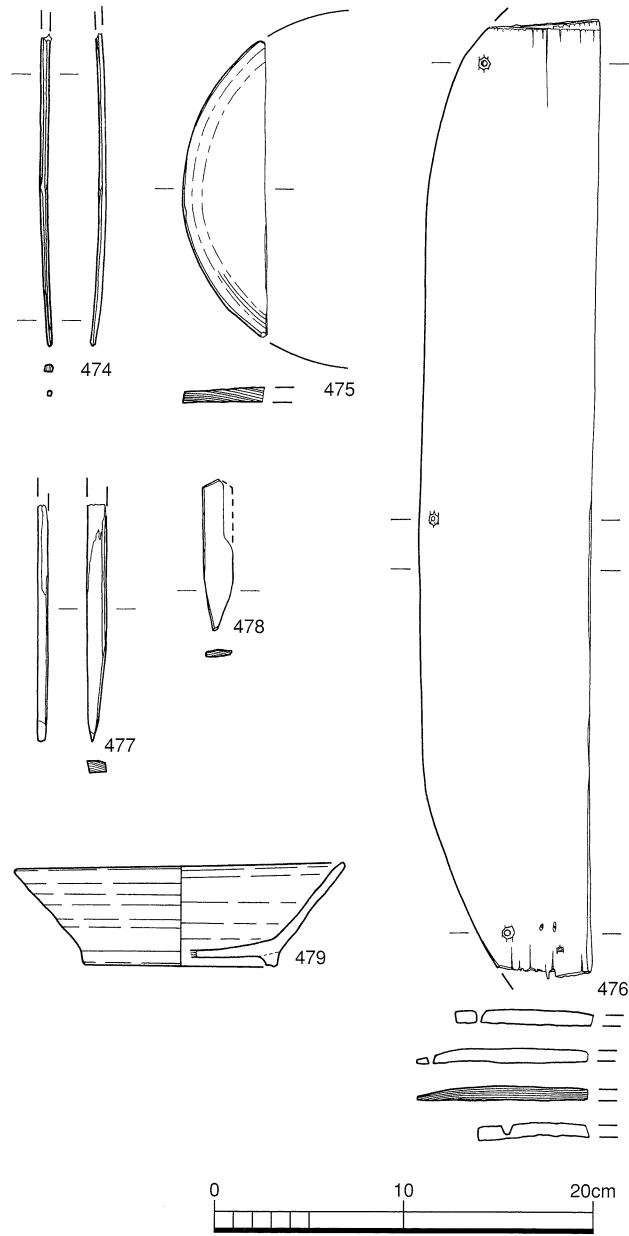
第53図 3区東12層 出土遺物(2)



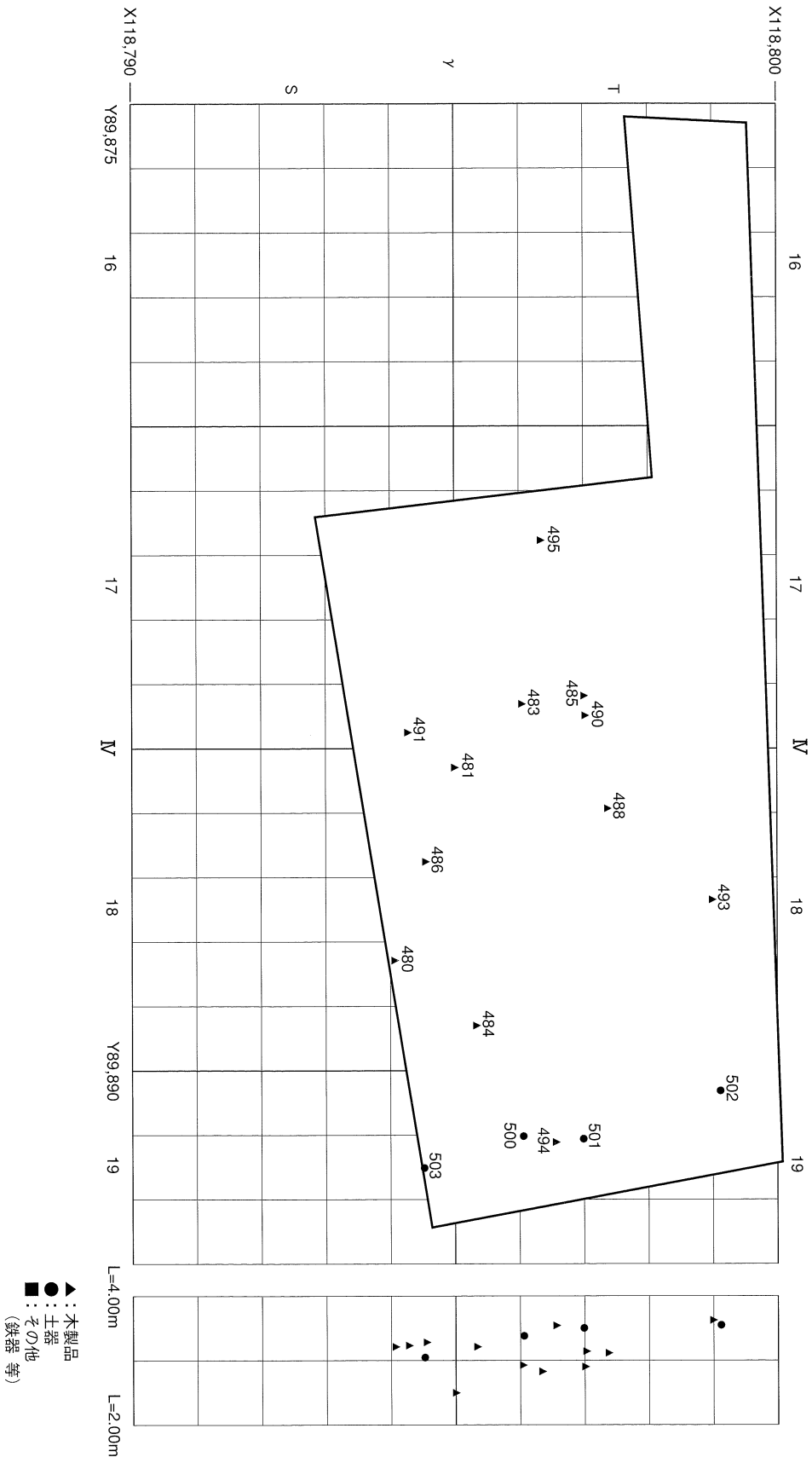
第54图 3区東12層 出土遺物(3)



第55図 3区東13層 遺物出土位置図

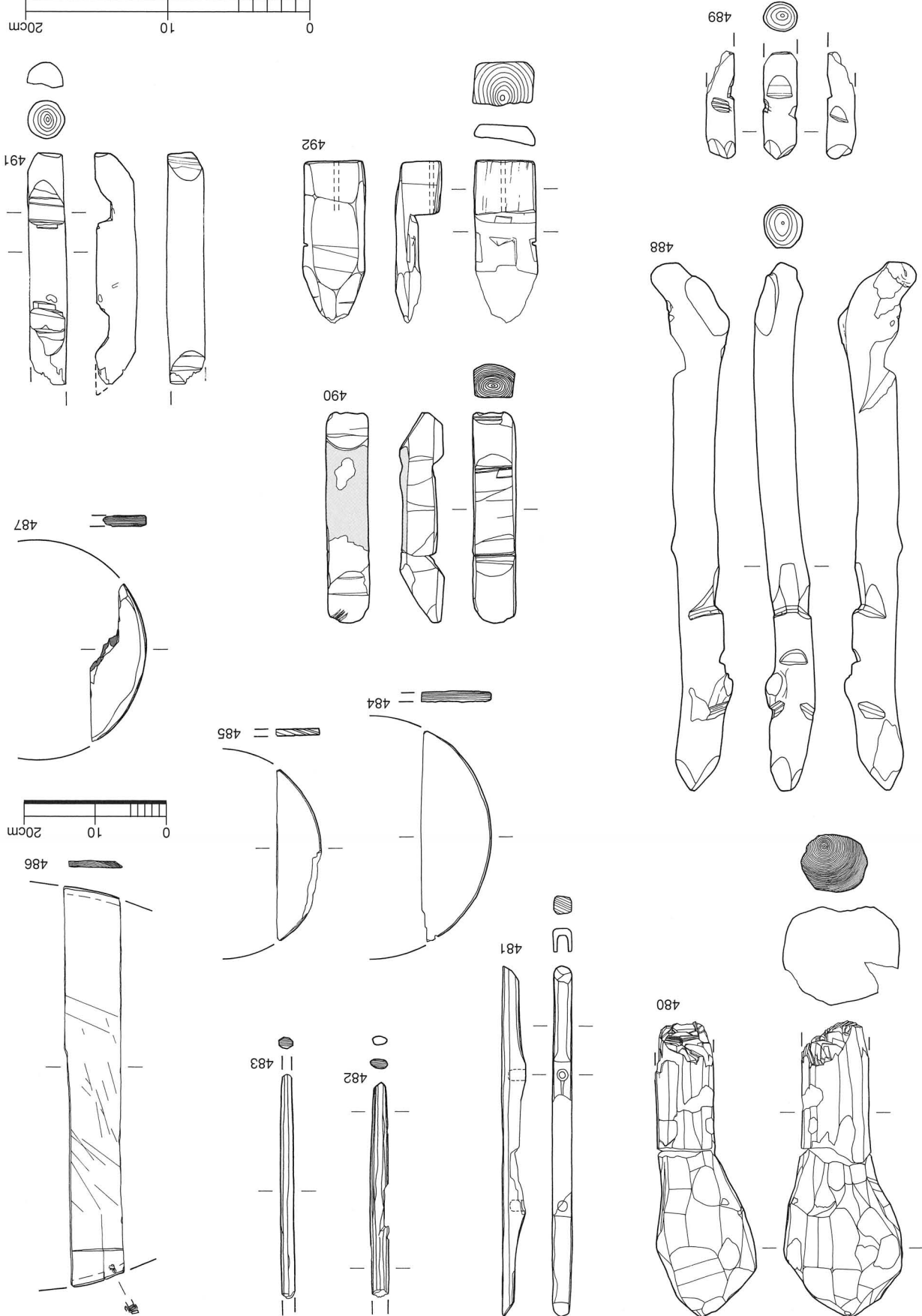


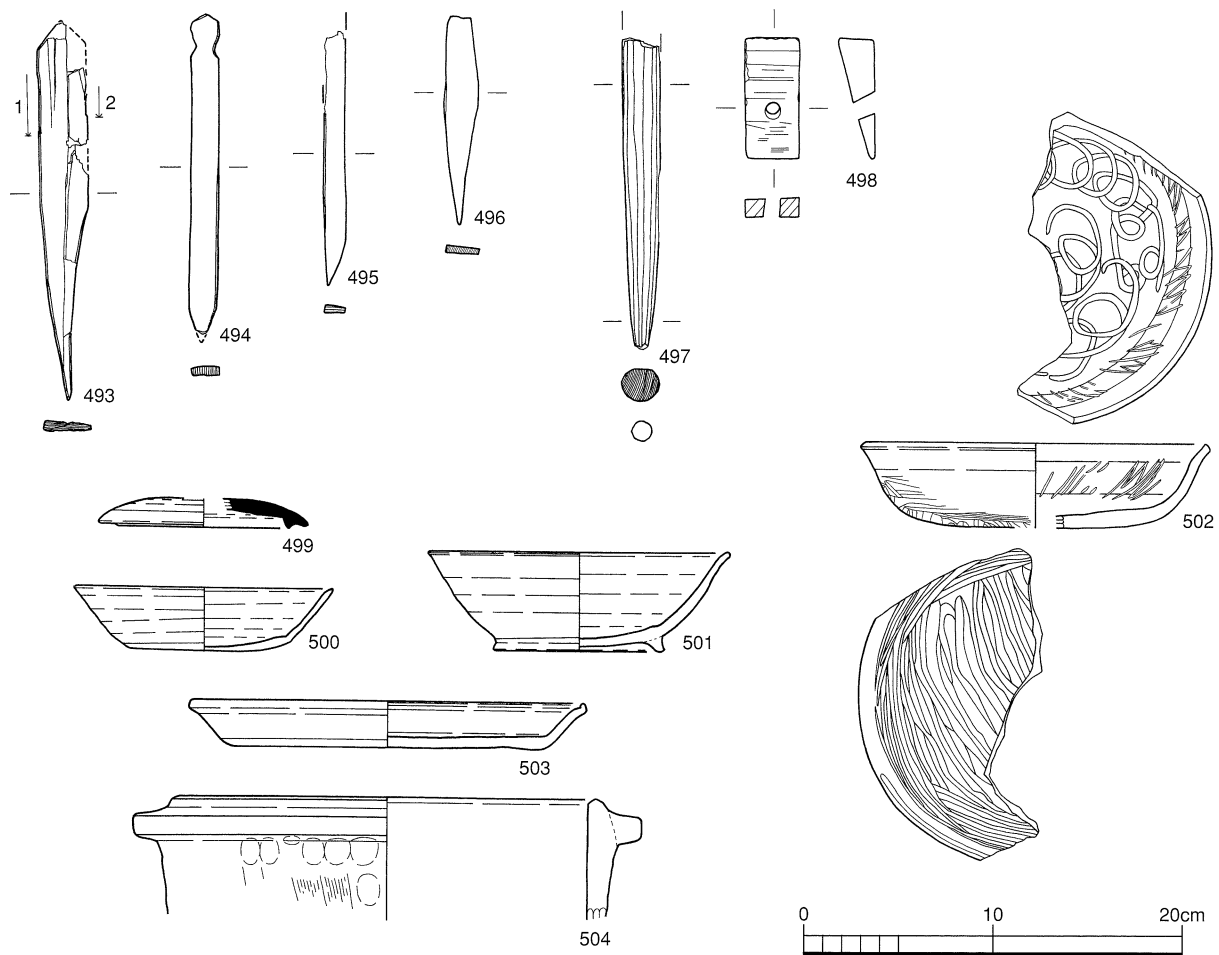
第56図 3区東13層 出土遺物



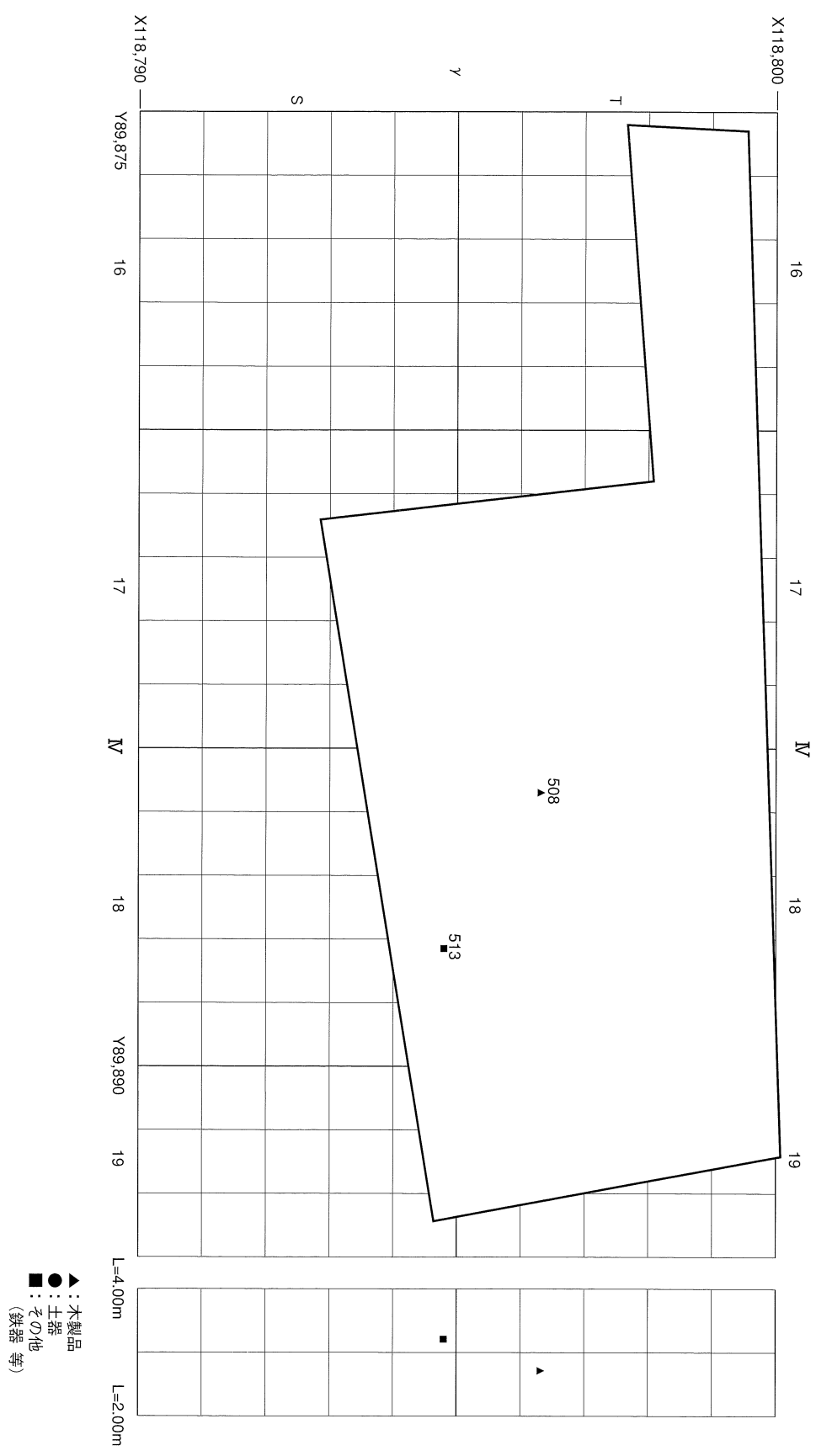
第57図 3区東14層 遺物出土位置図

第58図 3区東14層 出土遺物(1)

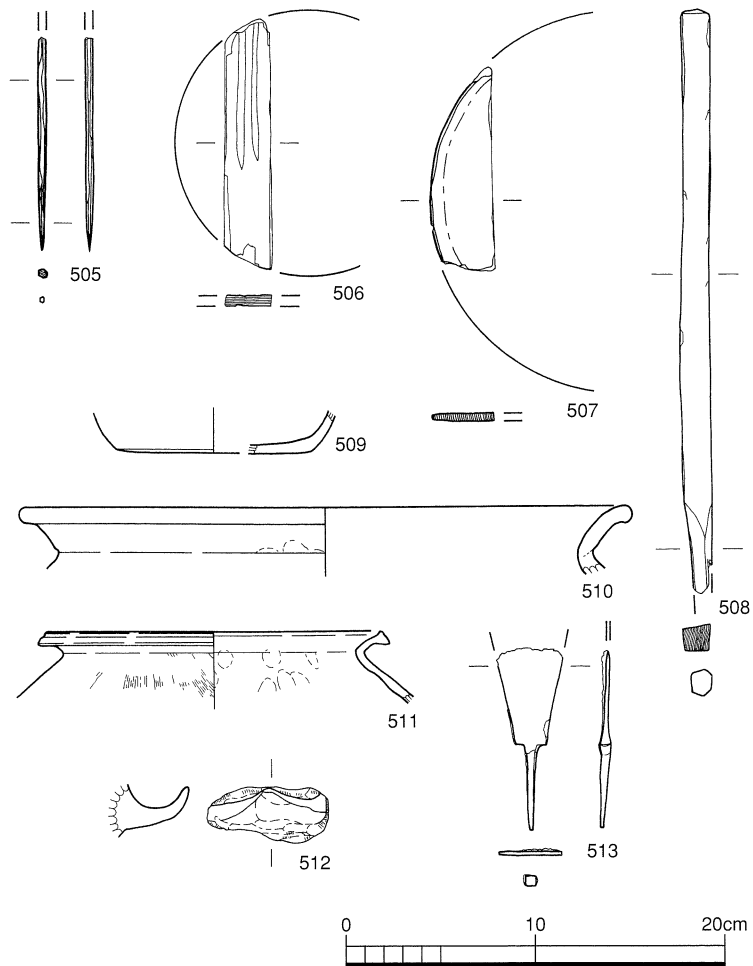




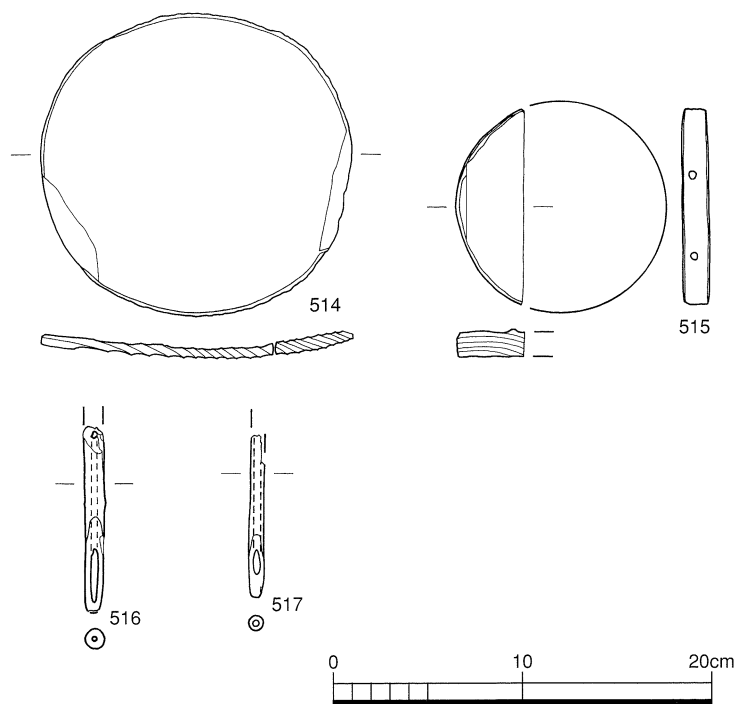
第59図 3区東14層 出土遺物(2)



第60図 3区東15層 遺物出土位置図



第61图 3区東15層 出土遺物



第62图 3区東 出土遺物

(4) E区

①土層堆積状況(第63図)

E区は3区東の東側に拡張した部分である。1層は現在の舌洗川の堆積層である。上層の2～4層は粘土、5～14層は細砂もしくは砂質シルトで、ほぼ水平に堆積している。15～18層は粘質シルト、19層以下は粗砂層となり、わずかに東へ下りの堆積を示す。基本的な層の重なりは3区東と同様である。

以下に各層ごとに出土遺物を記述するが、上記の1、2層をA層、3～5層をB層、6層をC層、7、8層をD層、9～14層をE層、15～17層をF層、18層をG層、19～23層をH層、24層をI層、25層をJ層としてまとめた。

②A層出土遺物(第64・68図)

A層は、灰色の砂層(第63図・1層)とその周囲のオリーブ黒色粘土層(2層)からなり、調査区内での最上層である。518は漆器椀の蓋である。519は土師器の杯である。

③B層出土遺物(第65・69図)

B層は、オリーブ黒色の粘土層(3、4層)と灰色の砂層(5層)からなり、調査区的全範囲に堆積する。520は編棒である。521は杭である。522～524は土師器の杯である。

④C層出土遺物(第66・70図)

C層は、オリーブ黒色の砂質シルト層(6層)である。北壁の断面(第63図)には東側のみに見えるが、調査区の北西側を除いた範囲に堆積する。遺物の分布は、E区の中央部西よりに集中する。525は木錘である。526は曲物側板である。527は部材である。528は用途不明である。529～531は土師器の杯である。

⑤D層出土遺物(第67・71図)

D層は、オリーブ黒色の粘質シルト層(7層)と灰色の砂層(8層)からなる。調査区全範囲に堆積する。遺物の分布はE区の北東部に多い。532、533は棒状祭祀具である。534は杭である。535は用途不明である。この形状のものは他の地点に出土例がある。536、537は土師器の杯である。

⑥F層出土遺物(第72図)

F層は、オリーブ黒色の粘質シルト層(15～17層)からなる。調査区東側に厚く堆積する。538～540は土師器の杯である。541、542は土師器の甕である。

⑦G層出土遺物(第73図)

G層は、オリーブ黒色の粘質シルト層(18層)である。543～545は土師器の杯である。

⑧H層出土遺物(第74・76図)

H層は、暗オリーブ灰色の砂層(19～22層)と暗緑灰色の砂層(23層)からなる。546はC型式の斎串の断片である。547は部材である。548、549は土師器の杯である。550は土師器の皿である。内部に墨書による模様が僅かに残る。

⑨I層出土遺物(第75・77図)

I層は、オリーブ黒色の粘土層(24層)である。555は土師器の杯である。556、557は土錘である。

⑩出土遺物(第78図)

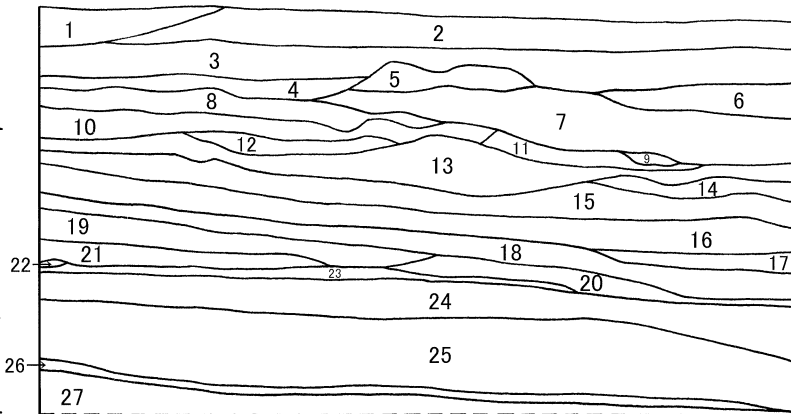
558は曲物である。片面に漆が付着している。559は剣形である。

(大橋)

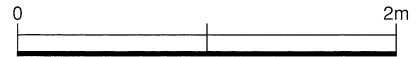
L=5.000m

L=4.000m

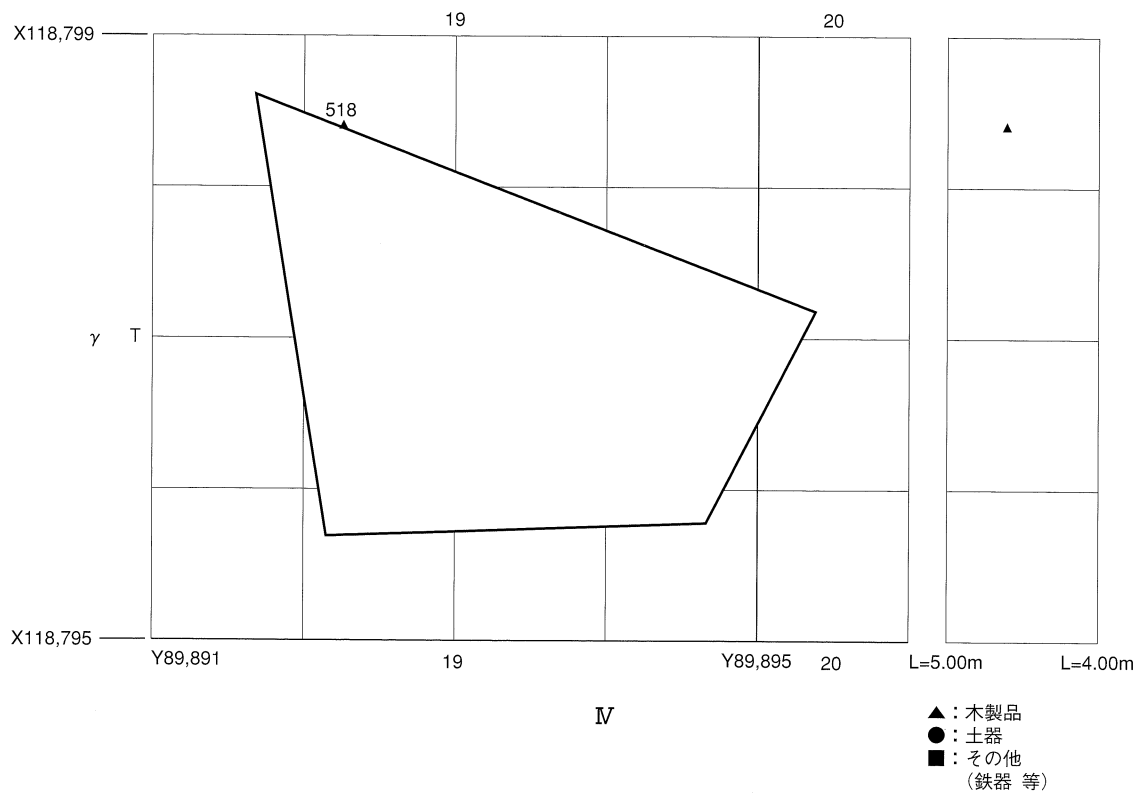
L=3.000m



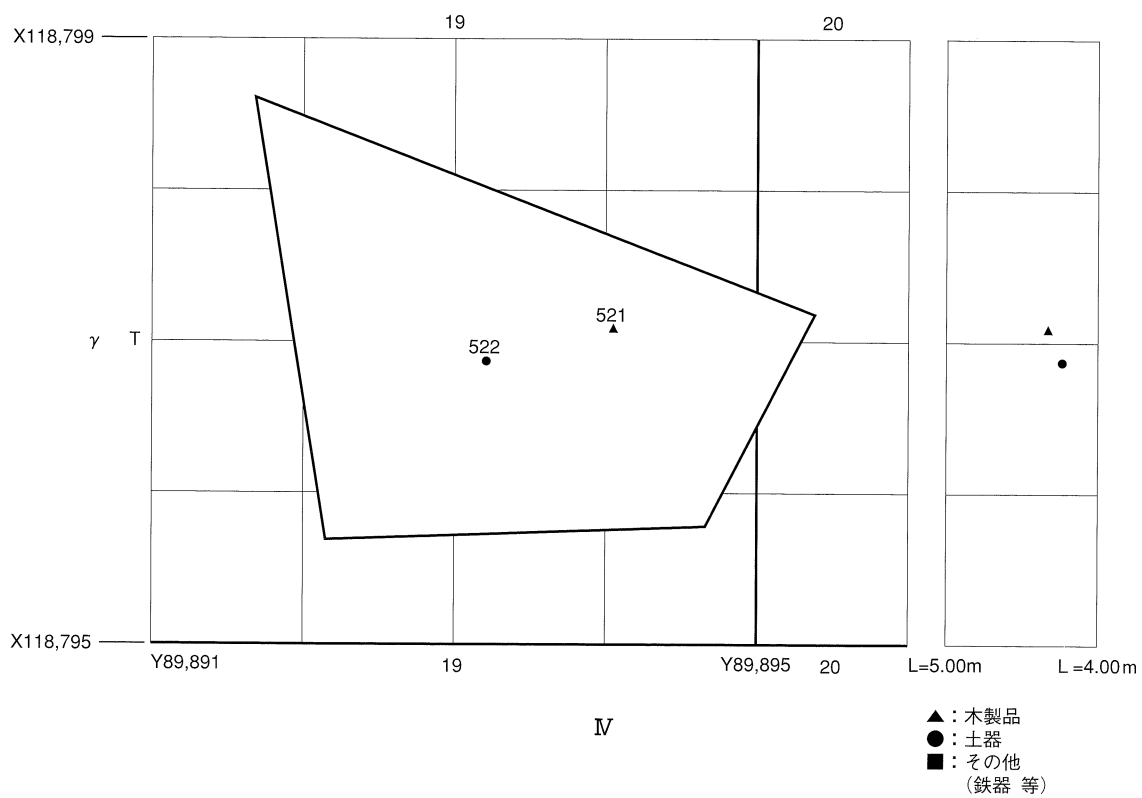
- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 灰 (10Y4/1) 砂 | 15 オリーブ黒 (10Y3/1) 粘質シルト |
| 2 オリーブ黒 (5Y3/1) 粘土 | 16 オリーブ黒 (7.5Y3/1) 粘質シルト |
| 3 オリーブ黒 (5Y3/2) 粘土 | 17 オリーブ黒 (7.5Y3/2) 粘質シルト |
| 4 オリーブ黒 (5Y3/2) 粘土 | 18 オリーブ黒 (7.5Y3/1) 粘質シルト |
| 5 灰 (5Y4/1) 砂 | 19 暗オリーブ灰 (2.5GY3/1) 砂 |
| 6 オリーブ黒 (5Y3/1) 砂質シルト | 20 暗オリーブ灰 (2.5GY3/1) 砂 |
| 7 オリーブ黒 (5Y3/1) 粘質シルト | 21 暗オリーブ灰 (5GY4/1) 砂 |
| 8 灰 (7.5Y4/1) 砂 | 22 暗オリーブ灰 (5GY4/1) 砂 |
| 9 灰 (10Y4/1) 砂 | 23 暗緑灰 (7.5GY4/1) 砂 |
| 10 灰 (10Y4/1) 砂 | 24 オリーブ黒 (7.5Y3/2) 粘土 |
| 11 オリーブ黒 (5Y3/2) 砂質シルト | 25 暗オリーブ灰 (5GY4/1) 砂 |
| 12 オリーブ黒 (5Y3/2) 砂質シルト | 26 暗オリーブ灰 (5GY4/1) 砂 |
| 13 灰 (10Y4/1) 砂 | 27 暗オリーブ灰 (5GY4/1) 砂 |
| 14 オリーブ黒 (5Y3/2) 砂質シルト | |



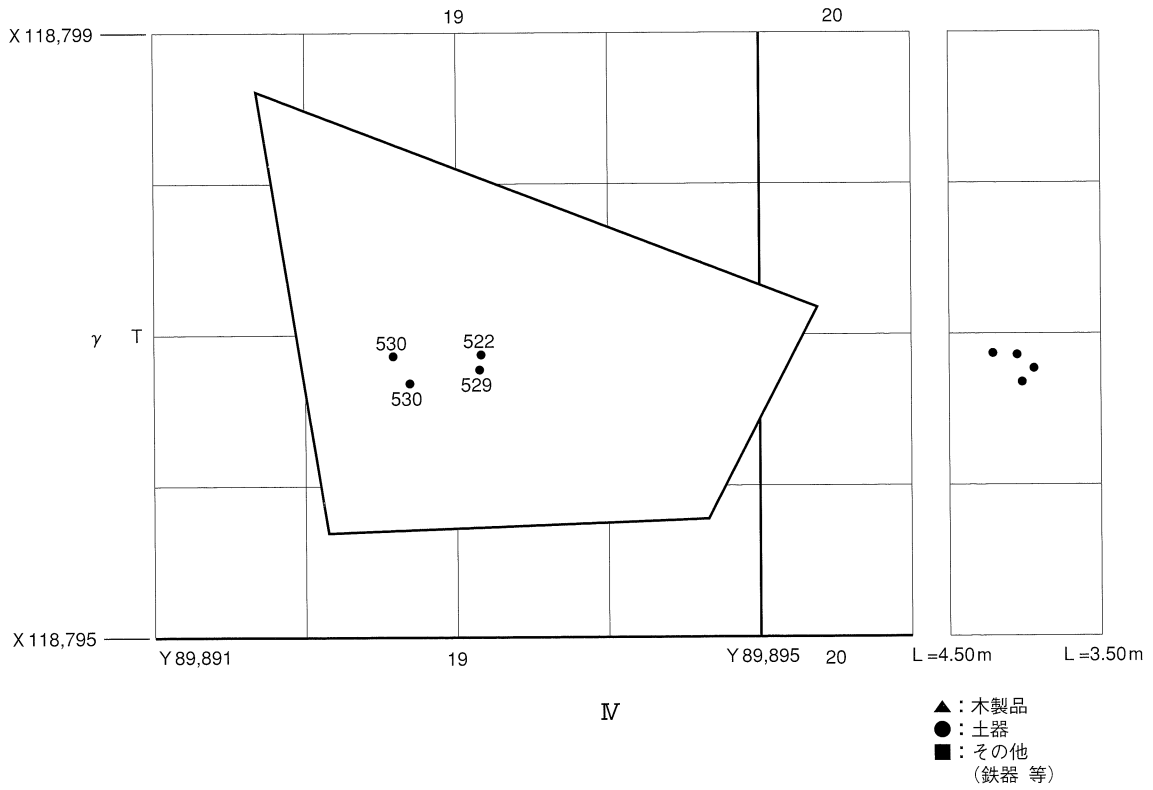
第63図 E区(北壁)土層断面図



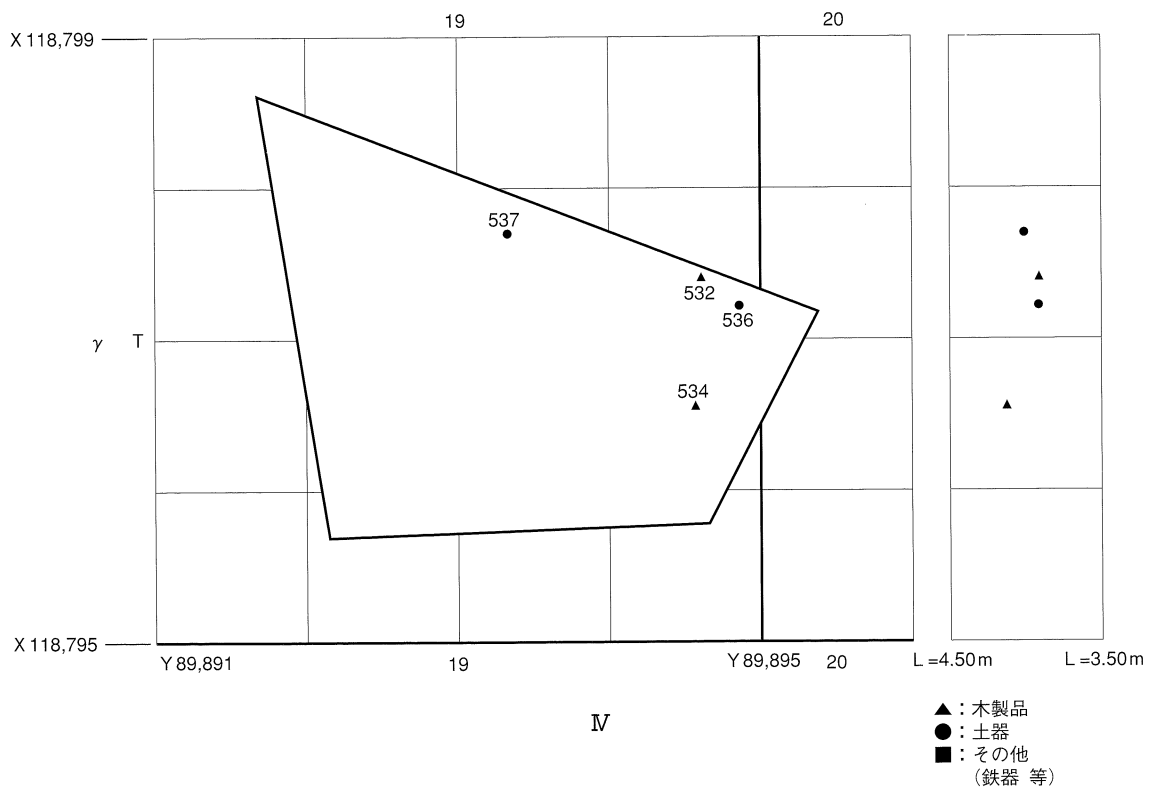
第64図 E区A層 遺物出土位置図



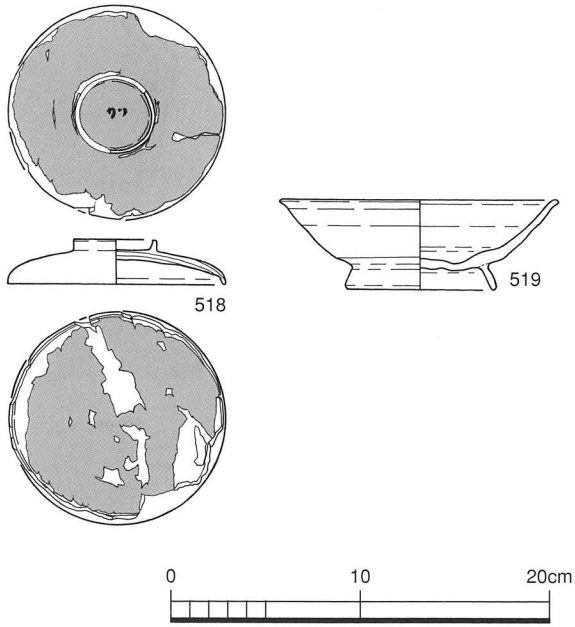
第65図 E区B層 遺物出土位置図



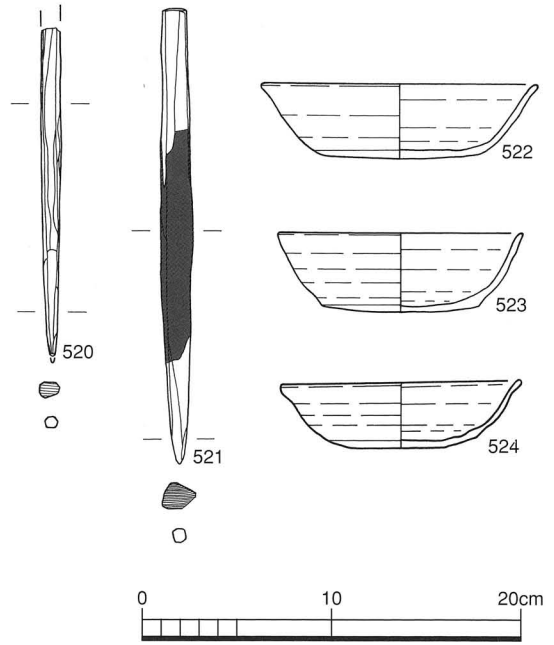
第66図 E区C層 遺物出土位置図



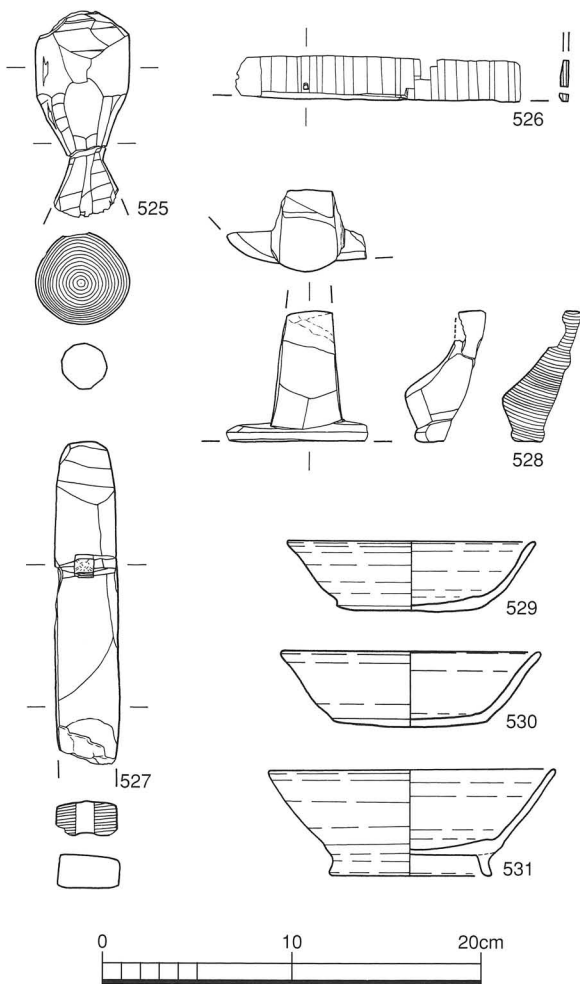
第67図 E区D層 遺物出土位置図



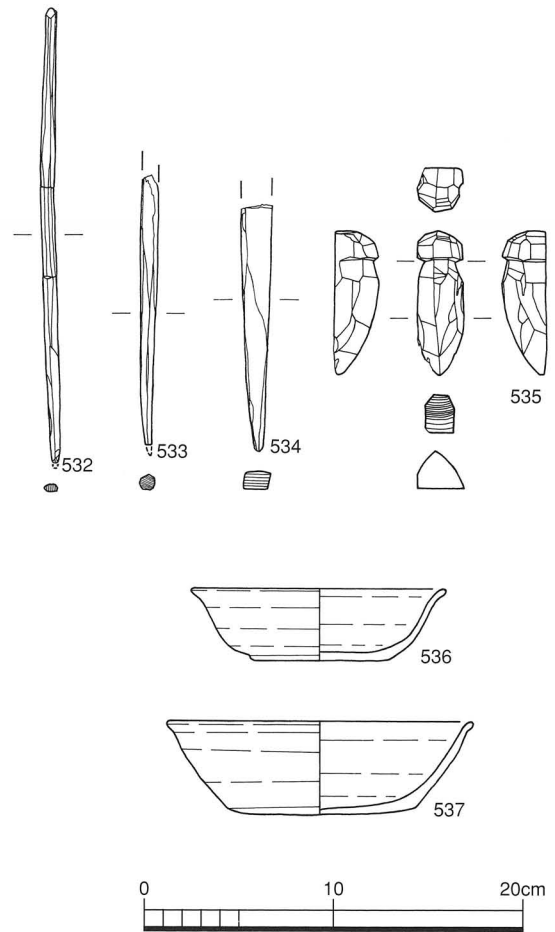
第68图 E区A層 出土遺物



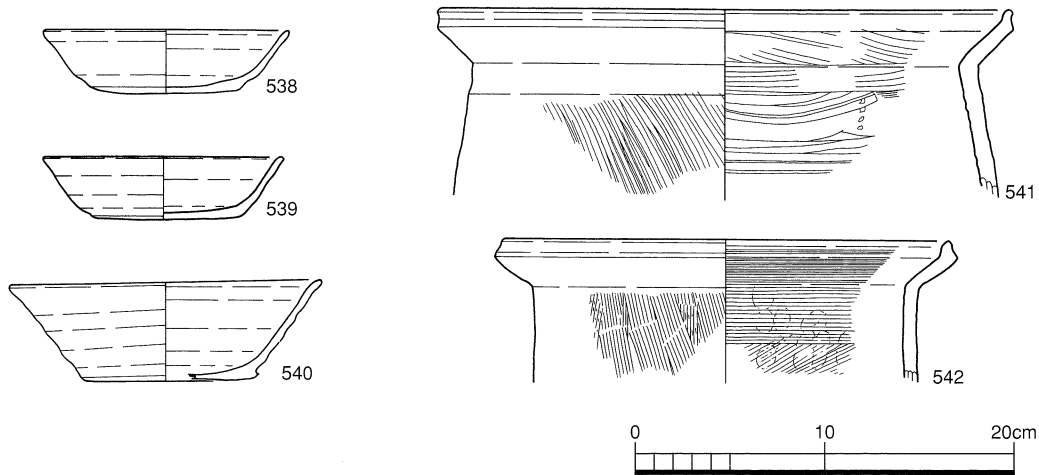
第69图 E区B層 出土遺物



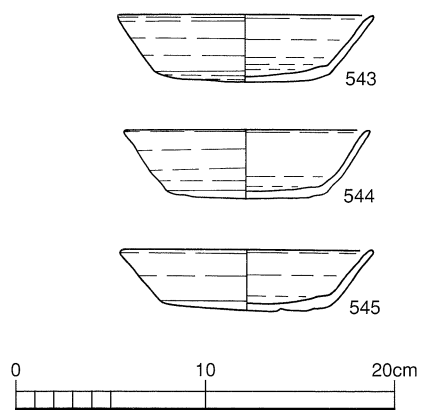
第70图 E区C層 出土遺物



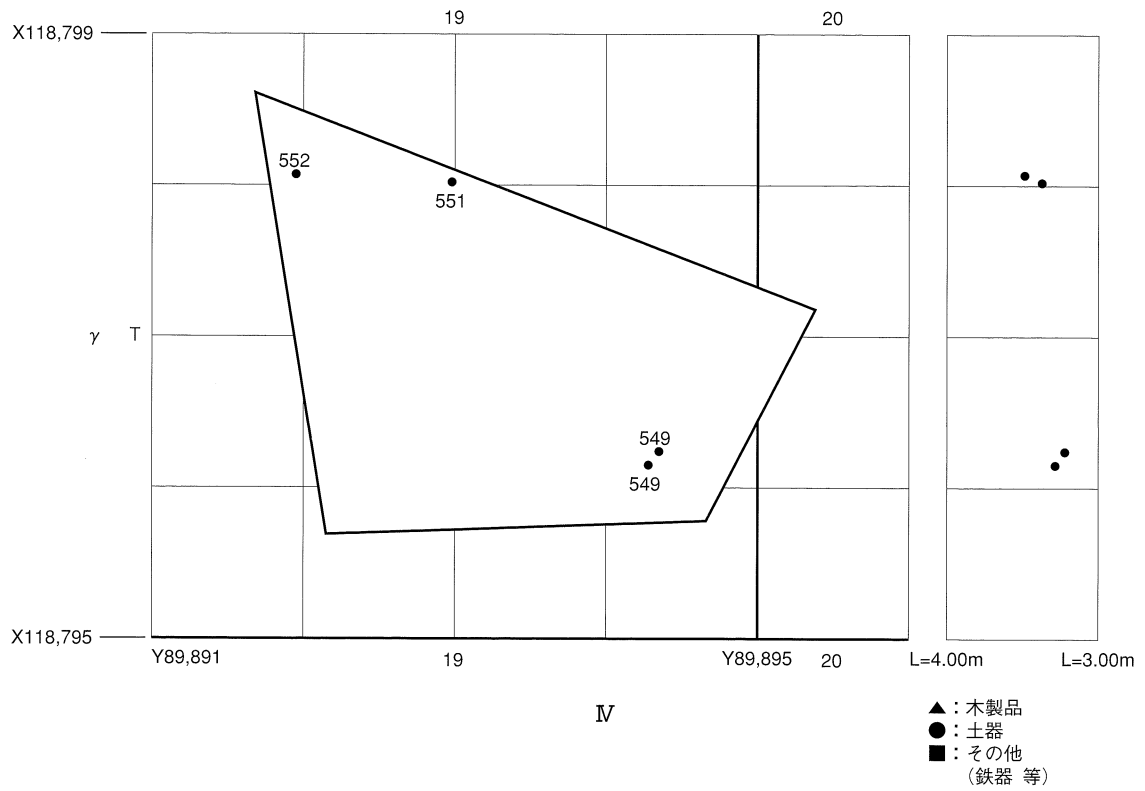
第71图 E区D層 出土遺物



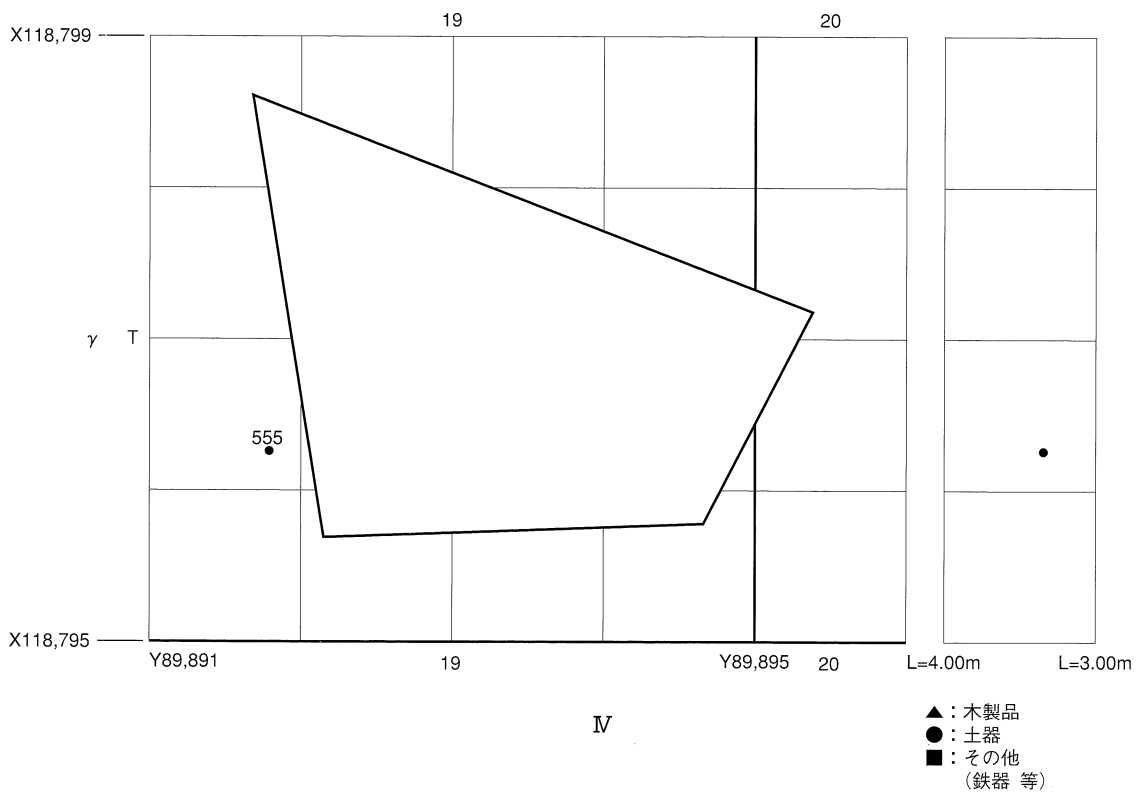
第72図 E区F層 出土遺物



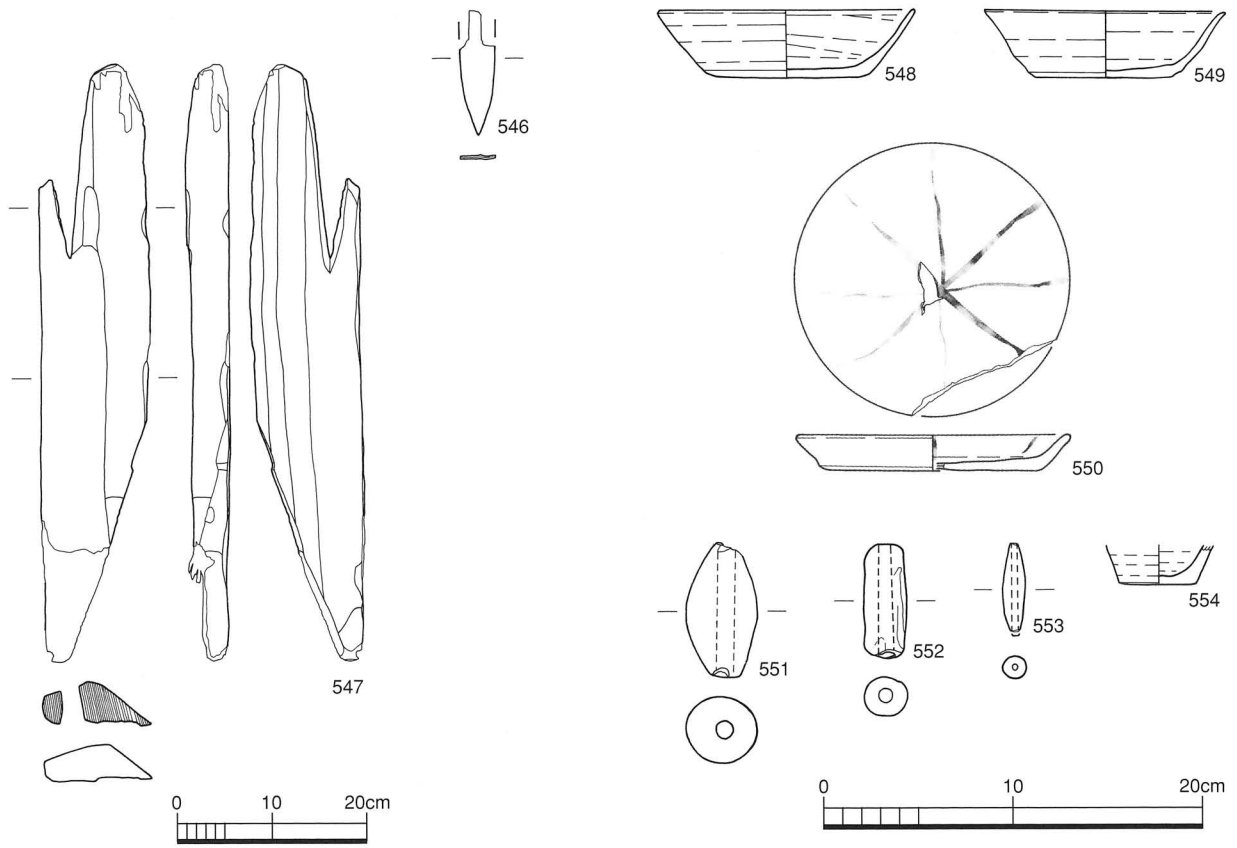
第73図 E区G層 出土遺物



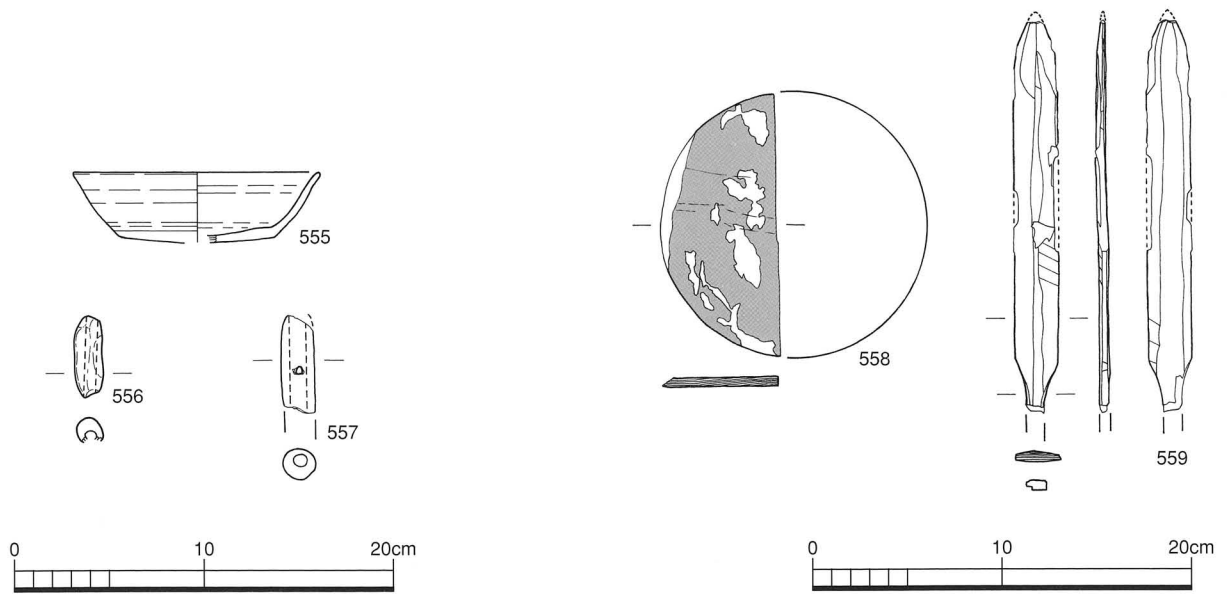
第74図 E区H層 遺物出土位置図



第75図 E区I層 遺物出土位置図



第76图 E区H層 出土遺物



第77图 E区I層 出土遺物

第78图 E区 出土遺物

∅ ʀ ≠ Δ



観音寺遺跡では、4条の自然流路が確認されている。南環状道路地点のSR1001（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2002『観音寺遺跡Ⅰ』）、西環状線地点のSR3001、SR4001、SR5001（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2008『観音寺遺跡（Ⅳ）』）である。SR4001はSR5001が埋没した後の小さな流れと想定されるが、それ以外の3条は同一の流れか、別のものかは明確にはなっていない。SR1001が6世紀末から8世紀前半までの堆積を中心としているのに対し、SR3001は8世紀後半から10世紀までの時期を中心としていること（それ以前の層位は、調査区の大部分において未調査である）、前者が幅20m程の規模であるのに対し、後者は幅90mの流域をもつなどの差異が明らかになっている。またSR3001の北側に位置するSR5001はSR1001と時期や規模が類似しており、その関係も考慮する必要があると考えられる。

本書で報告する調査区は、SR1001とSR3001の中間地点に位置する。大半がSR3001に含まれるものの、合流地点に近接した位置にあたると推測される。下層にはSR1001の堆積層が残存し、上層にSR3001の堆積層が見られると予想された。ここでは、これらの状況を踏まえて自然流路の堆積年代を検討し、SR3001の層位との対応関係を整理することとする。またこれまでの調査成果をまとめて、観音寺遺跡周辺の自然流路の位置関係について言及する。

1. 自然流路の堆積年代について

『観音寺遺跡（Ⅳ）』ではSR3001の堆積をⅠ～Ⅸ層に大別した。このうちⅢ～Ⅸ層が古代の自然流路の堆積層である。Ⅲ層は10世紀前半から11世紀初頭、Ⅳ層は9世紀後半から10世紀前半、Ⅴ層は8世紀後半から9世紀前半、Ⅵ～Ⅸ層は8世紀前半とした。

ここでは、これらに基づいて最も面積の広い3区東の土層堆積を検討する。3区東の1～6層は遺物の出土量が少なく、時期を特定することは困難である。7層は木製品、土器を多く含む。10世紀後半から11世紀初頭に位置づけられる。8層と9層は土器や斎串の出土状況から、ほぼ同一時期の堆積層であると考えられ、10世紀前半に位置づけられる。218号木簡はこの層から出土した。10層は下層の15層由来の粗砂層が堆積するが、9世紀代の二次的な堆積と考えられる。11～13層は遺物量が減少する。ほぼ同質の層で一部に8世紀後半の遺物を含むが、10層と同様に9世紀代の堆積作用によるものと考えられ、220号木簡が出土している。14層は木製品に舟形、円筒状人形の増加など8世紀代の様相を見せるが、土器には時期幅が見られる。付札である222号木簡は「里」表記であり、8世紀初頭の堆積を含む可能性も考えられる。8～9世紀代の遺物が混在した状況である。15層は、過去の調査では掘削上の最下層となった厚い粗砂層である。以上からSR3001の層位と比較すると、7～9層はⅢ層に、10～13層はⅣ層に、14層はⅣ～Ⅶ層に、15層はⅧ層に対応させることが可能であると考えられる。

次に出土遺物の多い3区西では、5～7層は10世紀後半に位置づけられる。8・9層はおおむね同質層であり、10世紀前半と見られる。10層は3区東の10層と一連の粗砂層である。11層は遺物が多く、221号木簡も出土している。8世紀前半と推定される。16層には遺物がなく、自然流路南岸の堆積層である可能性が高い。よって、ここでは5～9層はⅢ層に、10層はⅣ層に、11層はⅦ層に対応させることが可能である。

最も東に位置するE区では、A～G層までに遺物が多く見られる。それぞれ10世紀代におさまる年代を示すと見られⅢ層に対応する。H、I層は遺物が減少するが、9世紀代のⅣ層に位置づけられる。J

層は遺物が見えないが層の特徴からⅥ層、Ⅶ層より下層はⅧ層に対応すると考えられる。

以上の結果、本調査区ではSR3001の一部であるにもかかわらず、『観音寺遺跡（Ⅳ）』での報告とは相違が見られた。最も大きな相違は、木簡を多く含むⅤ層（8世紀後半）の堆積が見られないことである。3区西にわずかにⅦ層に対応するⅪ層が残存する以外は、8世紀代の遺物を含む堆積層は堆積していない。これは9～10世紀の層であるⅣ・Ⅲ層の堆積により、Ⅴ・Ⅶ層の堆積層が二次的に削り取られてしまったためであると考えられる。9世紀の段階で新たな流れが、この調査区内に形成されたことがうかがえる。

さらにここで、今回の調査区内でのSR3001の変遷を層ごとに復元する。まず、最も下層のⅧ層は調査区の全範囲で厚く堆積する粗砂層である。調査区の南側では薄く、北側では厚い傾向がある。南側にはSR3001の南岸の傾斜面が見られることから、堆積が薄いと考えられる。一方、北側には盛り上がった部分が見られ、中洲を形成していたと考えられる。Ⅶ層は調査区南西部以外には見られず、大部分は上層によって浸食されてしまったと考えられる。Ⅵ層はおもに北側のⅧ層の盛り上がった部分に厚く堆積する。やはり後世の流れに浸食されずに残存した層が、中洲状の高まりを形成したものであると考えられる。Ⅳ層は南東部で厚く堆積し北西方向に伸びる。南東方向からの新しい流れであり、下層のⅥ～Ⅷ層を浸食して南岸と中洲の間を流れていたと考えられる。南東部では、かなり深い位置にも堆積が見られることから、淵のような部分であったとも想像される。Ⅲ層は中洲が埋没した後の堆積で、調査区全体を薄く覆っている。細砂層やシルト層が小さな単位で交互に堆積していることから、短期間に水量の変動が繰り返された様子が見られる。

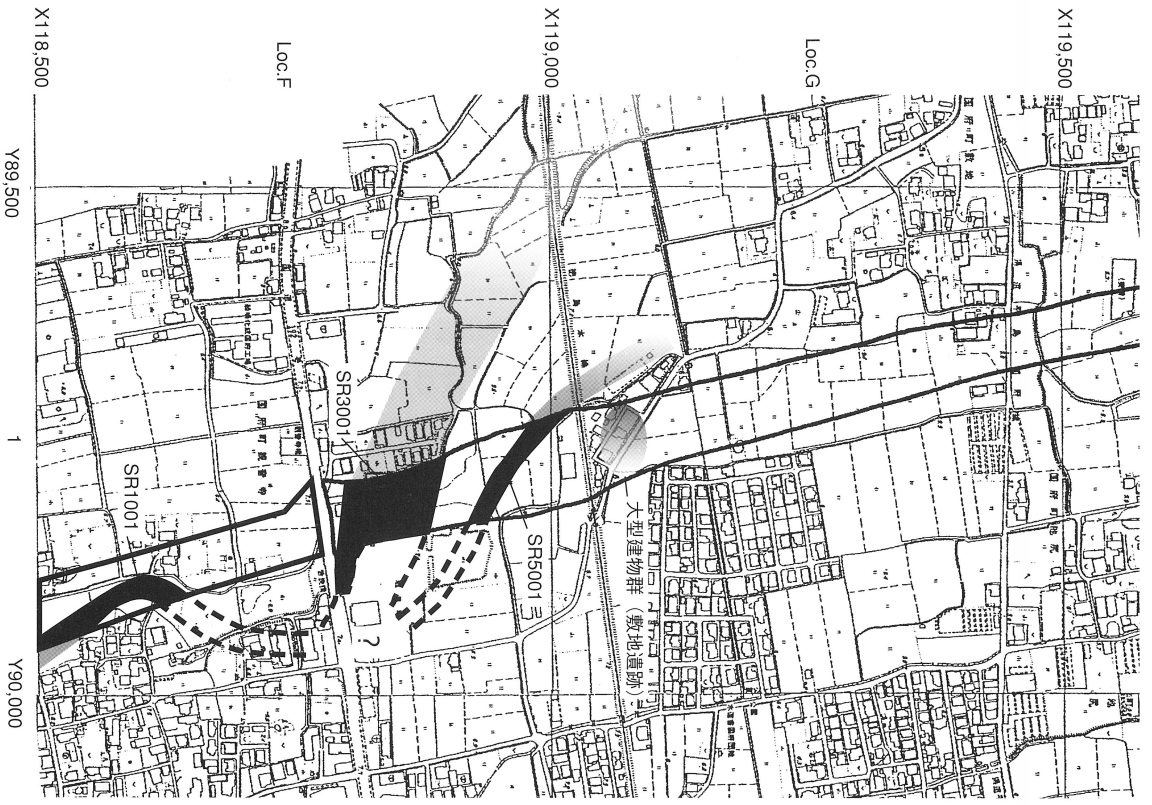
『観音寺遺跡（Ⅳ）』においても、自然流路の変遷について触れた。8世紀後半を中心とするⅤ層段階の流れが、中洲を縫うように流れる状況が明らかになっていた。そして、中洲はⅣ層段階で埋没していた。今回の変遷を見ると、Ⅴ層はほとんど残存しないことから、Ⅳ層段階での流れが自然流路の南岸に沿って流入したことにより、Ⅴ層以下の堆積層が浸食を受け、北側に中洲を形成することになったと推測される。同様に南からのSR1001の河道も近辺に存在していたと推定できるが、西環状線地点ではSR3001の河道によって浸食されてしまった可能性が高いと考えられる。（大橋）

2. 観音寺遺跡における自然流路の変遷について

これまでの観音寺遺跡の調査では、各自然流路の切り合いは確認されていないが、SR1001とSR3001は調査区の南東側で、SR3001とSR5001も調査区の東側で切り合う可能性が想定される。これらのことから自然流路の河道を推測し、観音寺遺跡周辺の自然流路の変遷について考察する。

第79、80図は、自然流路の推定河道を平面図にあらわしたものである。まず初めに、SR1001、SR3001、SR5001の規模と埋没時期について記述する。SR1001は南環状道路地点に位置する。南東方向から流れ込み、調査区内で北東へと蛇行する。幅約20m、最深部が標高約2.8mである。8世紀前半までに大部分が埋没し、それ以降は小さな流れであったと考えられる。木簡が出土したⅢ～Ⅷ層のうち、最古のⅧ層の底は標高3.4～4.5mに位置し、最も新しい8世紀前半のⅢ層では標高4.7～5.5mに位置する。いずれの層の堆積も南から北への下りの傾斜が見られる。

SR3001は西環状線地点に位置し、南東から北西方向へ流れる幅約90mの流域をもつ。自然流路の最深部は標高0mまで掘削したが、底は確認されなかった。遺物を多く含む層は標高2.5m以上で、木簡



第79図 8世紀前半までの自然流路 (黒塗り部分は調査で検出した範囲)



第80図 8世紀半ば以降の自然流路 (黒塗り部分は調査で検出した範囲)

を多く含むのはⅢ～Ⅴ層である。8世紀後半のⅤ層の底の標高は約3.1～3.6m、流路が埋没した10世紀代のⅢ層では、標高3.5～4.2mである。いずれの堆積も西側への下りの傾斜が見られるが、Ⅴ層は調査区の南西側、Ⅲ層は北西側が深くなっており、流域内での河道の変化がうかがわれる。SR3001は、調査区の南東側でSR1001と切り合っていた可能性が高い。層の標高を単純に比較すると、埋没時期の新しいSR3001がSR1001よりも深い位置にあるが、これは南から北への地形の傾斜の影響と考えられる。また、SR3001の流れが本格的になった時期には、SR1001は大部分が埋没していたと推測できる。

SR5001はSR3001の北側に位置する。SR3001同様、南西から北東方向へ流れであるが、SR3001よりも真北に近い方向に流れるため、やはり調査区の東側でSR3001と切り合っていたと推測される。幅約30m、最深部が標高約0.5mである。木簡は標高2.3～2.8mの位置で出土している。堆積時期は7～9世紀である。標高3.5mで流路の上面を検出したことから、SR3001のⅢ層が堆積した頃には大部分が埋没し、小規模な流路（SR4001）として存続したと考えられる。

SR4001はSR5001の埋没後に形成された、幅7m、延長70mの直線状の流路である。深さ約0.4mで、最深部の標高3.8mである。直線的に流れるため、人為的に掘られた溝の可能性もある。8世紀代の遺物を含むが、周辺の出土遺物から9世紀頃まで機能していたと考えられる。

また第79・80図には、敷地遺跡の調査成果を図示した。SR5001のすぐ北には館跡と推定される建物群が検出された部分がある（(財)徳島県埋蔵文化財センター 2008『敷地遺跡（Ⅰ）』）。また北側には、調査区内において西から東へ流れ、その後、北へ蛇行する自然流路も検出されている。この周辺にも大型の建物群が検出されている（(財)徳島県埋蔵文化財センター 2008『敷地遺跡（Ⅱ）』）。

以上をふまえて、それぞれの自然流路の関連と変遷についての仮説を記述する。

仮説（A）SR3001がSR1001、SR5001と同時期から存在していた場合

3つの自然流路が8世紀前半以前の時期に、同時に存在していたと仮定すると、以下の4つのケースが想定される。

（A-1）SR1001とSR3001が一連の流れであり、SR5001はSR3001から分流したもの（第81図A-1）

SR1001がSR3001と一連の流れであった場合は、SR1001の堆積層はSR3001の下層に堆積しているか、もしくはSR3001の8世紀半ば以降の流れによって削りとられてしまったために存在しないことが考えられる。一部掘削を行ったSR3001の最下層では「里」表記の付札（211号木簡）など、8世紀初頭以前の遺物も見られるので、下層にはSR1001の堆積層が残存する可能性もある。SR1001の水源は、現在の舌洗池（SR1001から東へ約50mに位置する）と同様に扇状地扇端部の湧水によるものだったと考えられている。このことから、SR1001は南側の湧水地点から流れ出して蛇行しながら北上し、やがてSR3001となって北西方向へと流れたことが想定できる。しかし、この流れは8世紀半ばに埋没するため、それ以降の水源はSR1001とSR3001の調査区の間で求めることとなる。しかしSR3001の規模が圧倒的に大きいので、もう少し距離の離れた地点に水源を求めた方が妥当であると考えられる。よって、8世紀前半にSR1001が埋没した後は、東側の別の水源からSR3001の新たな流れが形成されたと想定する。

これ以下は便宜的に、SR3001の8世紀前半までの流れをSR3001a、8世紀半ば以降の流れをSR3001bとする。以上を整理すると、8世紀前半までの流れはSR1001からSR3001aへ、SR5001はSR3001aか

ら分流したと想定できる。これらは8世紀前半までには大部分が埋没し、その後にSR3001bが形成され、SR5001は小規模なSR4001になる。SR4001が調査区内で直線状に検出されており、この延長上にSR3001bが位置すると考えられるので、SR4001はSR3001bから分流した可能性が高い。

(A-2) SR1001とSR3001が一連の流れであるが、SR5001はSR3001とは別の流れ(第82図A-2)

SR1001とSR3001aが一連の流れであり、水源が湧水であると仮定し、SR5001は東側の別の水源からの流れであると仮定する。8世紀前半までの時期には、SR1001・SR3001aの流れとSR5001の流れが近接していたことが想定される。しかし、これらは8世紀前半までに埋没し、それ以降は(A-1)と同様の流れが想定される。

(A-3) SR1001とSR3001は別水源からの流れであり、SR5001はSR3001から分流したもの

(第81図A-3)

SR1001は南からの流れであるのに対して、SR3001aはこれとは別の東側の水源から流れてきたと仮定すると、SR1001は北へ流れている以上、必ずSR3001aと合流する進路をとる。SR5001はSR3001aから分流したものと想定する。

(A-4) SR1001とSR3001、SR5001は別水源からの流れ(第81図A-4)

この場合は(A-3)と同様に、SR1001とSR3001aは別の水源からの流れであり、SR5001もさらに東側の水源から独立して流れたと想定する。

仮説(B) SR3001が8世紀半ば以降に形成された場合

8世紀半ばになって初めて、SR3001bが形成されたと仮定する(SR3001aは存在しない)。それ以前にはSR1001とSR5001が存在していたので、両者の関連は以下の2つのケースが想定される。

(B-1) SR1001とSR5001が一連の流れ(第81図B-1)

8世紀前半にSR3001aが存在しなければ、規模や堆積時期から考えて、SR1001とSR5001は一連の流れであった可能性は皆無ではない。ともに8世紀前半までの堆積層を含み、それぞれに「里」表記の木簡が出土している。8世紀半ばにSR3001bの東からの流れが新たに形成されると、交差する地点の堆積層は、削平を受けて大部分が残存してないと考えられる。この場合、SR3001bの下流側(西側)にはSR1001に含まれていた遺物が堆積することになり、原位置を保った状態で出土したことが明確な場合以外は、仮説(A)と区別ができない。規模の大きなSR3001bの流れが8世紀半ばのある時期に形成されたにも関わらず、8世紀前半以前の遺物が下層から出土したとしても矛盾はない。ただし、上流側(東側)においても8世紀前半以前の堆積層の存在が明らかになれば、この仮説は成立しない。

(B-2) SR5001がSR1001から分流(第81図B-2)

8世紀前半にSR3001aが全く存在しない前提で、SR1001とSR5001が別の流れであったと仮定する。これまでの調査成果や地形を考慮すると、SR1001とSR5001は東側のどこかで接点を持たざるをえないため、両者が交差していると考えよりは、SR5001はSR1001から分流したものと想定する。

まとめ（第81図）

以上の6つの仮説を提示したが、あらためて自然流路の変遷を整理する。対象となる自然流路は、8世紀前半までに存在したSR1001、SR3001a、SR5001、8世紀半ば以降に形成されたSR3001b、SR4001となる。

仮説（A） 8世紀前半以前の様相（SR3001aが存在した場合）

（A-1） SR1001 → SR3001a（一連の流れ） → SR5001（分流）

（A-2） SR1001 → SR3001a（一連の流れ） ≠ SR5001（別水源から）

（A-3） SR1001 ≠ SR3001a（別水源から合流） → SR5001（分流）

（A-4） SR1001 ≠ SR3001a（別水源から合流） ≠ SR5001（別水源から）

仮説（B） 8世紀前半以前の様相（SR3001aが存在しなかった場合）

（B-1） SR1001 → SR5001（一連の流れ）

（B-2） SR1001 → SR5001（分流）

8世紀半ば以降の様相

SR3001b → SR4001（分流）

以上の組み合わせから、問題となるのは8世紀前半以前の様相であるが、それぞれに可能性があると思われる。今後、西環状線の東側での調査の進展によって明らかになることを期待する。8世紀半ば以降の様相は、ほぼ確定したと考えられるが、SR3001bの水源の位置も今後の課題である。SR1001の流れとは異なる位置から流れ出していると考えられることから、国府内での建物配置や廃棄場所の変化などに影響した可能性が高いと考えられる。今後、国府内の調査成果が期待される。（大橋）



観 察 表

表 1 出土木製品観察表

表 2 出土土器・土製品・その他観察表



観察表凡例

・木製品の分類、名称および型式：

『木器集成図録・近畿原始編』（奈良国立文化財研究所 1993）と『木器集成図録・近畿古代編』（奈良国立文化財研究所 1994）を基準にし、これに従った。

・法量：

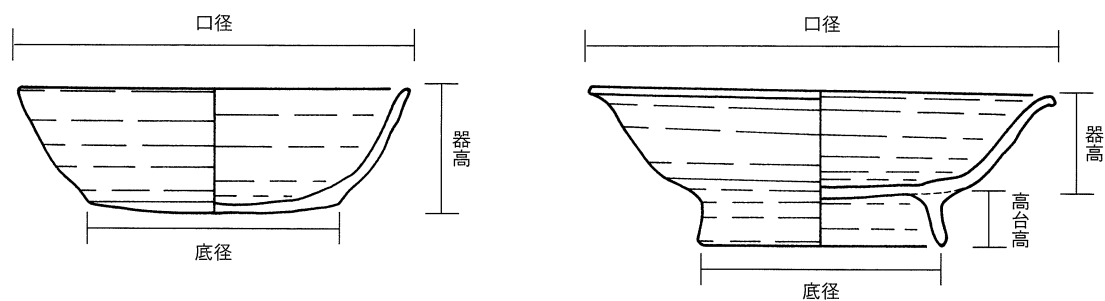
土器の計測部位は下図のとおりとした。木製品などの残存値および復元値は（ ）で表し、計測値は cm、重量の単位は g で表記した。

・表面の状態：

整理作業担当者が、保存処理前の実測の際に肉眼観察を行った結果を記した。

・色調：

小山正忠・竹原秀雄『標準土色帳 2001年度版』（日本色研事業株式会社）と太田昭雄・川崎秀昭『標準色彩図表 A』（日本色研事業株式会社 1981）に拠った。



土器 計測部位

表1 出土木製品観察表

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴1 (残存部分に関する情報)	特徴2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
1	容器	円形曲物	3区西	S・T-16	5	(31.5)	(8.3)	1.1	全体の1/5残存。	復元径=40.2cm。	粗い	Eか	板目
2	祭祀具	棒状祭祀具	3区西	S-16	5~10	(23.6)	1.7	0.8	上部欠損。	両面の角を面取り。下端部は尖らせる。右側からの削りが大きい。	やや滑らか		板目
3	祭祀具	斎串	3区西	S・T-16	5~10	(3.8)	1.3	0.35	下端部のみ残存。	下端部左右より削り落とし、尖らせる。	滑らか	C	柾目
4	不明	不明	3区西	S-16	5	(8.5)	2.0	2.15	下部欠損。	表面は両側面からの削りにより頭部を成形、胴部は丸く成形。上部部、裏面は平坦で、上部に横方向の溝を成形。部材か。	やや滑らか		板目
11	紡織具	織機 (中筒)	3区西	S-16	6	27.0	2.5	1.0	ほぼ完形。下端部右側と裏面中央部欠損。	上下とも先端近くに左右両側から三角形に削り込むことにより頭部を成形。端部は緩やかな曲線になるように削っている。	やや粗い		板目
12	服飾具	檜扇	3区西	3区	6	(10.8)	2.9	0.35	上部欠損。	裏面は腐蝕が進行。要孔残存。	やや粗い		板目
13	容器	円形曲物 側板	3区西	S-16	6	(3.5)	(10.8)	0.35	右端のみ残存。他の3辺は欠損。	昇引線12本残存。	やや粗い		板目
14	容器	円形曲物 蓋板	3区西	S-16	6	(16.9)	(6.3)	0.35	1/3残存。	榫皮結合紐用孔2ヶ所有り。(1ヶ所は欠損)。側板部分と中央に刃物傷有り。復元径=17.0cm。	粗い	E	柾目
19	工具	柄	3区西	T-16	7 (砂層)	6.9	2.75	2.65	ほぼ完形。	上下に貫通しない穿孔有り。外周全体を細かく削り、滑らかに仕上げる。断面円形。	滑らか		芯持ち材
20	紡織具	織機	3区西	T-16	7	(8.2)	2.0	0.9	下部欠損。全体的に摩滅。	上端部に左右両側から切り込みを入れ、頭部を成形。中筒か。	粗い		柾目
21	農具	編棒	3区西	3区	7	(12.7)	1.0	0.75	下端部のみ残存。	全体に削って、断面を楕円に近い多角形に成形。下端部に向けて徐々に細くなるように削る。	粗い		板目
22	農具	編棒	3区西	S-16	7	(22.5)	0.95	1.0	ほぼ完形。	断面は多角形。下端部は断面六角形で尖らせる。	滑らか		辺材
23	容器	円形曲物	3区西	T-16	7	(14.3)	(6.1)	1.0	2/5残存。	不整円形。表面に3ヶ所刃物傷有り。左側上半部の側面は二次に削った可能性有り。復元径=14.6cm。	粗い		板目
24	容器	円形曲物	3区西	T-16	7	(13.9)	(3.3)	0.45	1/4残存。表面はかなり摩滅。	表面の3ヶ所に刃物傷有り。復元径=14.9cm。	粗い		板目
25	祭祀具	斎串	3区西	3区	7	(5.9)	1.15	0.35	下端部のみ残存。	下端部を左右両側から削って尖らせる。	やや粗い		柾目
26	祭祀具	斎串	3区西	3区	7	(7.1)	1.0	0.35	下端部のみ残存。	下端部を左側から削って尖らせる。	滑らか		板目
27	祭祀具	棒状祭祀具	3区西	T-16	7	(8.8)	1.2	0.6	上部欠損。	下端部は4面から削って尖らせる。圧痕が2ヶ所に残存。	やや粗い		板目
28	部材	不明	3区西	T-16	7	(16.8)	1.0	0.9	下部欠損。	断面正方形。上端を表裏から斜めに削る。上部の側面方向に金属製の釘を、下部の表裏面方向に木製の釘を打ち込んでいる(釘一部残存)。	やや粗い		柾目
32	農具	馬鍬	3区西	S-16	8	12.3	1.2	1.1	ほぼ完形。	全体に削って、楕円に近い断面多角形に成形。下端に向けて徐々に尖らせる。	やや粗い		辺材
33	服飾具	檜扇	3区西	S-16	8	(23.0)	1.6	0.3	3枚とも上部欠損。	要孔各1ヶ所。3枚残存。	滑らか		柾目
34	服飾具	檜扇	3区西	S-16	8	32.9	1.4	0.3	4枚残存(内1本は、ほぼ完形)。	要孔各1ヶ所残存(内1ヶ所は一部欠損)。下端部はやや右上がり気味に丸く削って成形。1枚のみ表面両側の角を面取りする。4枚とも表面に墨痕が見られる。	やや滑らか		柾目
35	容器	円形曲物 蓋板	3区西	T-16	8	(16.9)	(5.9)	0.5	1/3残存。	榫皮結合紐用小孔1対残存。側板による圧痕有り。復元径=19.0cm。	やや滑らか	E	板目
36	容器	円形曲物 底板	3区西	S・T-16	8~9	36.3	(26.3)	1.1	3/4残存。	木釘孔9ヶ所残存(内、1ヶ所木釘残存)。復元径=36.3cm。	粗い	F	板目
37	容器	円形曲物 蓋板	3区西	3区	8	27.8	(12.7)	0.5	1/2残存。	榫皮結合紐用小孔1対残存。縁辺から約5mm内側に側板の圧痕有り。表面に数カ所の刃物傷有り。復元径=25.8cm。	やや粗い	E	板目
38	容器	円形曲物 蓋板	3区西	T-16	8	9.1	6.6	0.7	ほぼ完形。	左右2ヶ所に榫皮結合紐残存。楕円形の形状。板厚は中央が僅かに厚く、左右端部に向けてやや薄く成形。	やや粗い	E	板目
39	食事具	箸	3区西	S-16	8	(12.1)	0.5	0.5	上部欠損。	細かい面取りを施して、断面不整円形の棒状。一端をやや細く尖るように成形。	やや滑らか		辺材
40	食事具	箸	3区西	S-16	8	(11.1)	0.55	0.55	上下両端欠損。	多方面から削られている。	滑らか		辺材
41	食事具	箸	3区西	S-16	8	(10.25)	0.6	0.4	上下両端欠損。	多方面から削られており、下部は細く、断面正方形。	滑らか		辺材
42	食事具	箸	3区西	S-16	8	(14.1)	0.6	0.45	上下両端欠損。	上部は細かく面取りするが、下部は削りが少ない。腐蝕により穴が無数にあいている。	やや粗い		辺材
43	祭祀具	斎串	3区西	T-16	8	(21.6)	1.8	0.3	上部欠損。	下部は左右両側から削り、下端を尖るように成形。	やや滑らか	Cか	板目
44	祭祀具	棒状祭祀具	3区西	T-16	8	(13.7)	1.25	0.9	下端欠損。	全体に成形が粗く、下端部のみ細かく削って先を尖らせる。	粗い		板目
45	祭祀具	棒状祭祀具	3区西	S-16	8	(9.0)	0.8	0.7	上部と下端欠損。	下端部は角を削りて尖らせる。	やや滑らか		板目
46	祭祀具	棒状祭祀具	3区西	T-16	8	(8.7)	1.2	0.7	上部欠損。	下端を左右両側から削って尖らせる。	粗い		柾目
51	服飾具	檜扇	3区西	S・T-16	9	(6.9)	1.45	0.25	下部のみ残存。	両側面を面取り。穿孔1ヶ所。	滑らか		柾目
52	容器	曲物 側板	3区西	S・T-16	9	2.8	(8.1)	0.8	大部分欠損。	側板2枚を2ヶ所で榫皮結合紐で留める。	やや滑らか		柾目
53	食事具	箸	3区西	0817-4	9	(11.8)	0.55	0.45	上下両端欠損。	細かい面取りを施して、断面不整円形の棒状。一端をやや細く尖るように成形。	やや滑らか		辺材
54	食事具	箸	3区西	S-16	9	21.8	0.75	0.7	ほぼ完形。	細かい面取りを施して、断面不整円形の棒状。上端をやや細く、下端を尖らせるように成形。	やや滑らか		辺材

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
55	遊戯具	琴か	3区西	T-16	9	(17.1)	3.4	0.8	ほぼ完形。	上部に4孔の集弦孔有り。下部は欠損しているが、一部に穿孔が残存。	やや滑らか		柀目
56	祭祀具	棒状祭祀具	3区西	T-16	9	23.3	(0.7)	(0.75)	左右両側割れ。	上部部は左右両側から鋭く削る。下端部は四角から削って尖らせる。	やや粗い		板目
57	祭祀具	棒状祭祀具	3区西	T-16	9	19.0	0.9	0.5	ほぼ完形。	下端部は細かく削って尖らせる。	やや粗い		柀目
58	祭祀具	斎串	3区西	T-16	9	(12.0)	1.7	0.25	上部欠損。	切り込み：左右両側の下から4回。	滑らか	C Vか	板目
60	容器	円形曲物蓋板	3区西	T-16	10	(16.7)	(10.3)	0.8	約2/3残存。	腐蝕により表面が凸凹。復元径=16.6cm。	粗い	E	柀目
61	祭祀具	棒状祭祀具	3区西	S・T-16	10	(24.6)	0.7	0.65	下端欠損。	断面多角形。上部部は片側から削って尖らせる。上下両端部はやや細く成形。	滑らか		板目
65	工具	柄	3区西	S・T-16	11	(27.0)	1.3	1.3	上部欠損。	全体を細かく削って断面円形に成形。上部欠損で、上端に焦げ痕有り。	滑らか		辺材
66	工具	柄	3区西	3区	11	(10.7)	1.2	1.05	下部欠損。	細かい面取りを施して、断面不整形の棒状。	やや滑らか		辺材
67	遊戯具	琴柱	3区西	S-16	11	2.1	(3.4)	0.7	右脚下端と裏側一部欠損。全体に摩滅。	上部中央に琴糸を渡した溝有り。	やや粗い		柀目
68	祭祀具	人形	3区西	T-16	11	(6.8)	1.8	0.3	下部欠損。	頭部上端を尖らせる。手の部分に各3回の切り込み有り。	滑らか	正面全身人形	板目
69	祭祀具	斎串	3区西	S-16	11	(17.4)	3.2	0.4	下端欠損。	上部部を左右両側から三角形に削る。裏面に切り折りのための切り込み有り。	やや滑らか	B Iか	柀目
70	祭祀具	斎串	3区西	3区	11	(5.6)	1.0	0.3	下部欠損。	上部部は僅かに尖らせる。	やや滑らか	不明	柀目
71	祭祀具	斎串	3区西	S-16	11	23.2	2.6	0.3	左右両側の一部が欠損。	上部部は山形に成形。下部部は左右両側から斜めに削って尖らせる。切り込み：左側中央部に上から10回、下から10回。右側上部に上から3回、下から4回。	やや滑らか	C V	板目
72	祭祀具	斎串	3区西	S・T-16	11	24.7	2.3	0.15	左側上部に欠損。	上部部は左右両側から削って鋭角に、下部部も鋭く尖らせる。切り込み：左側に1回、右側に上から2回。	やや滑らか	C III	柀目
73	祭祀具	斎串	3区西	S-16	11	41.3	2.2	0.5	ほぼ完形。	切り込み：左側上部に上から9回。右側上部に上から8回。右側上部部に上から1回。	やや滑らか	C V	板目
74	雑具	籬木	3区西	3区	11	(14.1)	0.85	0.7	上下両端欠損。	棒状に成形。上下両端欠損。	粗い		柀目
75	雑具	自在	3区西	3区	11	(12.9)	(3.8)	2.5	下部欠損。右半分欠損。	穿孔が1ヶ所残存。自在の一部か。	やや粗い		柀目
85	容器	曲物側板	3区北	T-16	6	(3.0)	(9.8)	0.4	上部と右側は欠損。	内面に引絞線有り。漆が残存。樺皮結合紐用の孔が有り、紐が付いていたと思われる場所には漆が付着していない。	粗い		板目
86	祭祀具	棒状祭祀具	3区北	T-16	6	(11.0)	1.2	0.8	上下両端欠損。	側面は面取りを施す。上下両端欠損。	やや滑らか		板目
88	紡織具	織機	3区北	T-16	7	(32.8)	3.45	0.8	上下両端欠損。	中央部に穿孔2ヶ所、上部に1ヶ所有り。上下両端を側面から削って細くする。中筒か。	やや粗い		柀目
89	服飾具	檜扇	3区北	T-16	7	(8.0)	1.4	0.4	上部欠損。	要孔1ヶ所残存。やや厚めの板を素材にする。	やや滑らか		板目
90	容器	曲物蓋板	3区北	T-16	7	50.2	(2.4)	0.8	全体の形状不明。	樺皮結合紐1ヶ所、樺皮結合紐用小孔1ヶ所残存。孔の部分に水平に刃物傷有り。	滑らか	E	板目
91	祭祀具	不明	3区北	T-16	7	(7.8)	(3.9)	0.5	上部のみ残存。	右側面に横顔を表現した、側面全身人形の一部か。	やや滑らか		板目
92	杭	杭	3区北	T-16	7	24.6	1.55	1.2	上部欠損。	下部部は左側から削って尖らせる。裏面は削られていない。	やや粗い		辺材
99	祭祀具	人形	3区北	S・T-16	11	(67.3)	8.2	0.9	頭部の左側1/5欠損。下部欠損。長さ1m程の大型の人形。	頭部に凸部有り。髻または冠か。顔は墨が取れて目眉鼻ひげが浮き上がる。右手部分に切り込み有り。体部に9ヶ所の圧痕有り。	粗い	正面全身人形	板目
101	服飾具	下駄	3区東	T-19	3層下	(8.25)	7.85	(3.45)	後歯より後部のみ残存。	芯に近い辺材を削り出す。上部の大半を欠損。全体に摩滅。表面に黒色の付着物有り。	粗い		辺材
102	容器	円形曲物	3区東	T-19	3~5	13.5	(7.0)	1.2	1/2残存。	割れ面に2ヶ所木釘孔が有り、木釘が残存。復元径=13.5cm。	やや粗い		柀目
103	容器	円形曲物蓋板	3区東	3区	3層以上	14.0	(12.2)	0.7	5/6残存。	樺皮結合紐2ヶ所残存。樺皮結合紐用以外の1対の小孔が4ヶ所有り。側面に3ヶ所の釘孔が残存。孔又は側板の位置決めのための目印と思われる傷痕有り。	やや粗い		板目
104	容器	曲物蓋板	3区東	T-19	3~5	29.5	(7.75)	0.6	両側面欠損。	上下両端に棧木を差し込むための溝が切られ、片方に棧木が残存。裏面に漆が付着。	粗い		柀目
105	食事具	箸	3区東	T-19	3~5	(14.7)	0.7	0.6	下部欠損。	全体に面取り。断面半円形に成形。	やや滑らか		辺材
107	容器	曲物蓋板	3区東	T-18	5~7	(17.6)	(8.0)	0.8	一端の角の部分のみ残存。	楕円形か方形曲物の一部。樺皮結合用孔が2ヶ所に残存。	やや粗い		板目
108	祭祀具	斎串	3区東	T-17	5~7	(8.2)	1.2	0.5	下部部のみ残存。	側面から削って先端を細く尖らせる。	やや滑らか	C	板目
113	容器	曲物蓋板	3区東	3区	6	(13.5)	(3.6)	1.2	1/5残存。	右側面に穿孔2ヶ所。復元径=17.0cm。	やや粗い		板目
114	容器	曲物蓋板	3区東	T-18	6	29.0	(6.5)	0.6	上下両端及び左側面は残存。	樺皮結合紐1ヶ所残存。樺皮結合紐用の穿孔1ヶ所。貫通していない穿孔1ヶ所有り。表面には縦方向の細かな削り痕が見える。	滑らか		板目
115	雑具	籬木	3区東	T-17	6	22.4	1.85	0.85	ほぼ完形。	上部は表面の左右を削ってやや薄くする。先端は斜めに削る。	やや粗い		板目
117	農具	編棒	3区東	T-19	7	20.0	1.7	1.3	完形。	全体を細かく削る。上部部は表裏から削って断面形状が山形に成形。下部は左右両側から、細かな削りで尖らせる。	やや粗い		辺材
118	農具	編棒	3区東	T-17	7	27.1	1.55	1.35	ほぼ完形。	全体を削って断面楕円形の棒状。下部部は細く削って尖らせる。	やや粗い		辺材

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
119	紡織具	織機	3区東	T-18	7	30.8	3.5	0.9	上端左側欠損。	上下両端に、左右両側から切り込みを入れて頭部を成形。上端部は丸く、下端先は尖るように成形。中筒か。	粗い		板目
120	紡織具	織機	3区東	T-17	7	(15.5)	(2.6)	0.8	下部欠損。	上端部の両側面を削って頭部を成形。表裏面とも摩滅。使用痕か。	粗い		板目
121	紡織具	織機	3区東	T-18	7	(10.4)	2.2	1.0	下部欠損。上端部右側欠損。	上部の左右両側から切り込みを入れて頭部を成形。上端部は摩滅のため丸くなっている。	やや滑らか		板目
122	紡織具	織機	3区東	T-17	7	(9.7)	2.35	0.6	下部欠損。	上端部は表面から側面にかけて面取りする。上部に左右両側から切り込みを入れ、頭部を成形。人形の可能性有り。	滑らか		板目
123	服飾具	櫛扇	3区東	T-17	7	(27.1)	1.3	0.4	上部欠損。	下端に要孔残存。やや厚めの板を素材にする。	やや滑らか		板目
124	服飾具	櫛扇	3区東	T-18	7	(8.5)	1.7	0.35	上部欠損。	要孔残存。やや厚めの板で、下端部を丸く成形。左側面は削りが粗い。	やや滑らか		板目
125	食事具	箸	3区東	T-18	7	(15.7)	0.6	0.5	下端欠損。	断面正方形に成形。下部は削って尖らせる。上端部は切り折るか。	やや粗い		辺材
126	食事具	箸	3区東	T-17	7	(16.2)	0.55	0.55	下端欠損。	全体に細かく削って、ほぼ楕円形断面に成形。上端部も削って成形。	滑らか		辺材
127	食事具	箸	3区東	T-18	7	(11.9)	0.55	0.55	上下両端欠損。	細かい面取りを施して、断面は不整形とした棒状。一端をやや細く尖るように成形。	やや滑らか		辺材
128	食事具	箸	3区東	T-17	7	(12.2)	0.55	0.3	上端欠損。	下部が細くなるよう成形。	やや滑らか		辺材
129	食事具	箸	3区東	T-18	7	(6.1)	0.4	0.3	下端部のみ残存。	全体に細かな削りで成形。上部欠損。	滑らか		辺材
130	容器	曲物側板	3区東	T-18	7	3.5	28.85	0.4	ほぼ完形。	穿孔が左右両端に各2ヶ所有り。内側は浅く削られる。側面は二次的に削って成形。左側の孔に紐の折れたものが残存か。紐による圧痕有り。	滑らか		柁目
131	容器	曲物側板	3区東	T-17	7	(3.0)	(13.95)	0.6	左右両端と下部欠損。	木釘孔2ヶ所残存。	やや滑らか		板目
132	容器	曲物側板	3区東	T-17	7	2.9	(10.6)	0.6	左右両端欠損。	樺皮結合紐3ヶ所と樺皮結合紐用のスリットが別に1ヶ所残存。約2mm厚の板を重ねて樺皮結合紐で留めている。	粗い		板目
133	容器	曲物側板	3区東	T-18	7	(5.3)	(10.5)	0.7	大部分が欠損。	罫引線が13本。上端部は斜めに削る。	やや滑らか		柁目
134	容器	曲物側板	3区東	T-17	7	(3.7)	(7.7)	0.4	下端部のみ残存。左右両側と上部は欠損。	垂直と斜め(右上～左下)方向の罫引線有り。	やや滑らか		板目
135	容器	曲物側板	3区東	3区南壁	7	2.1	(6.0)	0.9	左側と上部欠損。	樺皮結合紐1ヶ所残存。2枚の板を重ねて樺皮結合紐で留めていたものか。	粗い		板目
136	容器	曲物蓋	3区東	T-19	7	1.3	(6.6)	0.7	左右欠損。	樺皮結合紐1ヶ所残存。2枚の板を重ねて樺皮結合紐で留める。紐は三重に巻かれている。蓋か。	やや滑らか		板目
137	容器	円形曲物	3区東	T-17	7	(24.7)	(5.0)	0.9	1/6程度残存。	復元径=37.0cm。	粗い		板目
138	容器	円形曲物	3区東	T-17	7	(35.2)	(5.8)	0.9	1/6程度残存。	中央に近い位置に孔有り。復元径=35.4cm	粗い		板目
139	容器	円形曲物	3区東	T-19	7	(8.4)	(4.9)	0.85	2/3残存。	復元径=8.4cm。	やや粗い		柁目
140	容器	円形曲物底板	3区東	T-17	7	(13.4)	(6.5)	0.9	1/2残存。	表面に2ヶ所刃物傷有り。不整形円形。木釘孔2ヶ所残存。復元径=13.5cm。	やや粗い	F	板目
141	容器	円形曲物	3区東	T-17	7	(32.8)	(6.9)	1.0	1/6程度残存。	復元径=36.0cm。	粗い		板目
142	容器	円形曲物蓋板	3区東	T-18	7	(12.0)	(2.7)	0.4	1/6残存。	樺皮結合紐用小孔に樺皮結合紐残存。復元径=17.8cm。	やや滑らか	E	板目
143	容器	円形曲物蓋板	3区東	T-18	7	16.5	(15.25)	0.6	ほぼ完形。	樺皮結合紐用小孔2ヶ所に樺皮結合紐残存。側板による圧痕が一部に有り。復元径=16.5cm。	やや粗い	E	柁目
144	容器	曲物	3区東	T-18	7	(14.8)	(3.0)	0.5	上端部のみ残存。	表面に数本の刃物傷有り。表面に摩滅有り。	やや粗い		板目
145	容器	円形曲物蓋板	3区東	T-18	7	11.05	(2.3)	0.4	下端部のみ残存。	底板の上面と左側面を二次的に削って成形する。樺皮結合紐用の穿孔有り。	やや滑らか	E	板目
146	祭祀具	人形	3区東	T-17	7	(17.8)	3.5	1.0	下部欠損。	上端を山形に成形。左右の手の部分に下からの切り込みが各7回。以下欠損のため不明。墨痕は残存しないが、顔の表現が浮き上がっている。	やや粗い	正面全身人形	板目
147	祭祀具	鳥形か	3区東	T-17	7	(5.5)	1.8	0.6	ほぼ完形。	板を削って頭と尾を表現。翼部分には表側に5回、裏側に3回の切り込みが有る。尾は4回の切り込みで表現。	滑らか	舟形(B類)の可能性有り。	柁目
148	祭祀具	楕形か	3区東	T-17	7	(6.8)	1.3	0.8	下部欠損。	表面は細かく削って丸く、裏面は平面に成形。	滑らか		板目
149	祭祀具	斎串	3区東	3区東	カクラン	(14.7)	1.9	0.4	上部・下端欠損。	上部欠損。下部は左右両側から削って尖らせる。	滑らか	C	柁目
150	祭祀具	斎串	3区東	T-18	7	(12.9)	2.1	0.4	上部欠損。	下端部は側面と前面から削って尖らせる。	やや滑らか	C	板目
151	祭祀具	斎串	3区東	T-17	7	(11.2)	1.3	0.4	上部・下端欠損。	下部は右側から削って、先端を尖らせる。	滑らか		板目
152	祭祀具	斎串	3区東	T-18	7	(8.4)	(2.1)	0.45	上部欠損。	下部は右側から削って、先端を尖らせる。	やや滑らか	A	板目
153	祭祀具か	不明	3区東	T-18	7	(8.8)	1.5	0.5	上端欠損。	下端を表裏から薄く削る。上部は左側から斜めに削る。	やや粗い		柁目
154	祭祀具	斎串	3区東	T-18	7	(6.7)	(2.0)	0.4	下部欠損。	上端部は右側面から削って尖らせる。	やや滑らか	A	板目
155	祭祀具	斎串	3区東	T-18	7	(8.4)	1.4	0.3	下部欠損。	上端部は左右両側から削って僅かに山形に成形。表面の、やや上寄りに圧痕有り。	やや滑らか		板目
156	祭祀具	斎串	3区東	T-17	7	(7.0)	1.2	0.1	上部欠損。	下端部は両側から削り、先を尖らせる。	やや滑らか		板目

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
157	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	7	21.75	0.85	0.45	完形。中央部折れ。	上部部は斜めに、下部部は左右両側から浅く削って、先端を尖らせる。	滑らか		板目
158	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	7	(18.5)	1.3	1.0	上部欠損。	下部部は杭状に尖らせる。	やや滑らか		板目
159	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	7	(8.0)	0.8	0.65	上部欠損。	全体に削って、下部部へ徐々に細くなるよう成形。	やや粗い		柃目
160	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	S-18	7	(8.5)	0.9	0.6	上部欠損。	側面は細かい面取りをして成形。先端は細く尖らせる。	やや粗い		柃目
161	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	7	(10.7)	0.7	0.55	上部欠損。	四方から削って下部部を尖らせる。角は面取り。	やや粗い		柃目
162	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	7	(12.9)	0.7	0.5	ほぼ完形。下部部少し欠損。	下部部は細く尖らせる。上部部も成形されている。	やや滑らか		板目
163	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	3区東	7~9	(12.9)	1.2	0.5	上部、下部欠損。	全面を削り、下部部は尖るように成形。	やや滑らか		板目
164	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	7~9	(18.75)	0.85	0.6	下部欠損。	上部部は裏から表へ斜めに削り落とす。断面楕円形状。	やや滑らか		板目
165	部材	支脚	3区東	T-18	7	(33.2)	4.5	3.4	上部、下部欠損。	上部部をホゾ状の凸形に成形。	粗い		辺材
166	雑具	籬木	3区東	T-17	7	40.8	1.85	0.55	上下両端欠損。	上下両端、折った形跡有り。表裏は割ったまま、両側面は成形されている。	滑らか		柃目
167	雑具	籬木	3区東	T-18	7	(15.6)	1.7	0.5	上下両端欠損。	表裏両面とも面全体を大まかに削って成形。	粗い		柃目
168	杭	杭	3区東	T-18	7	(19.7)	3.1	3.1	上部欠損。	芯持ち材の先端を、3方向から斜めに削って尖らせる。成形は粗い。	滑らか		芯持ち材
169	雑具	火付棒	3区東	T-17	7	30.0	1.95	0.8	完形。	上下両端炭化。	やや粗い		辺材
170	部材	不明	3区東	T-18	7	(13.3)	1.9	1.2	下部欠損。	上部の表裏両面とも摩滅。刃物傷、圧痕有り。上部部は左右両側から削って尖らせる。	やや粗い		柃目
171	部材	不明	3区東	T-17	7	(6.9)	2.4	1.65	上部欠損。	表面は丸く、裏面は平坦。下部部は両側から削ってホゾ状に細く成形。	やや粗い		柃目
172	部材	不明	3区東	T-17	7	3.8	2.2	0.8	完形。	下部部を前後から削ってホゾ状に成形。	やや滑らか		板目
173	部材	部材	3区東	T-17	7	2.5	4.2	2.45	完形。	部材の一部か。上部は斜めに成形。	やや滑らか		柃目
174	不明	不明	3区東	T-17	7	14.3	3.7	0.25	右側上部欠損。	上部に10個の穿孔が1列に並ぶ。上部部左側に単独で穿孔有り。	やや粗い		柃目
175	不明	不明	3区東	T-17	7~8	(11.5)	1.6	0.7	下部欠損。	上部の右側面のみ削って頭部を成形。用途不明。	やや滑らか		板目
176	不明	不明	3区東	T-18	7	(8.5)	6.7	3.9	完形?	表面上部部は摩滅。両側面を削って頭部を成形。下部欠損。	やや滑らか		板目
177	不明	不明	3区東	3区	7	(26.9)	1.5	0.7	下部欠損。	下部の1/4は断面長方形。上部は断面菱形になるように角を面取りする。下部欠損部分で表裏右側面の3方向から斜めに削る。刀形の可能性有り。	滑らか		板目
198	農具	横楯か	3区東	T-19	8	13.3	3.1	2.75	上部表面欠損。全体的に摩滅。	柄を細く削って先端を有頭状にする。首の部分にも紐を掛けた痕が見られる。木鐺の可能性有り。	粗い		芯持ち材
199	紡織具	織機	3区東	T-18	8	(16.0)	2.3	(1.0)	下部欠損。	上部部の左右両側に切り込み有り。上部部は丸く成形。下部欠損。中筒か。	粗い		板目
200	紡織具	織機	3区東	T-18	8	(8.8)	4.1	1.4	下部欠損。	上部部の左右両側に三角形の切り込み有り。中筒の一部か。	粗い		板目
201	紡織具	織機	3区東	T-18	8	3.1	3.5	1.45	下部欠損。	上部部は角を面取りして丸みを帯びる。表面は柔らかな曲線。下部部は反時計回りに多数刃を入れて意図的に切断した痕跡が見られる。	滑らか		柃目
202	工具	柄	3区東	T-19	8	(17.9)	1.4	1.1	上部欠損。	下部は断面台形。上部は薄く成形。裏面は、やや粗い。	やや滑らか		柃目
203	工具	柄	3区東	3区	8	(18.4)	12.5	1.0	上下両端欠損。	上下両端欠損しているが、面取りした形跡有り。	やや粗い		辺材
204	農具	編棒	3区東	T-18	8	(15.8)	1.9	0.7	上下両端欠損。	全体に面取り。下部はやや細く成形。	滑らか		柃目
205	服飾具	楯扇	3区東	T-18	8	(3.2)	1.5	0.25	下部部のみ残存。	要孔残存。下部部やや丸く成形。	粗い		柃目
206	食事具	箸	3区東	T-18	8	(13.3)	0.6	0.55	上下両端欠損。	細かい面取りを施して、断面不整形の棒状。一端をやや細く尖るように成形。	やや滑らか		辺材
207	食事具	箸	3区東	T-18	8	(9.1)	0.5	0.4	上部欠損。	細かい面取りをして断面多角形(円に近い)に成形。	やや滑らか		辺材
208	食事具	箸	3区東	T-17	8	(10.3)	0.65	0.6	上下両端欠損。	細かい面取りを施して、断面不整形の棒状。一端をやや細く尖るように成形。	やや滑らか		辺材
209	容器	円形曲物	3区東	T-17	8	13.5	(9.8)	0.85	3/4残存。	細い傷が6本有り。復元径=13.4cm。	やや粗い		柃目
210	容器	円形曲物	3区東	T-17	8	(12.6)	(3.9)	(0.85)	1/4残存。	表面に漆が残存。中央から端部に向けやや薄くなっている。復元径=15.1cm。	滑らか		板目
211	容器	円形曲物	3区東	T-19	8	(11.5)	(3.8)	0.5	1/4残存。	復元径=13.0cm。	やや滑らか		板目
212	容器	円形曲物 蓋板	3区東	T-17	8	(34.3)	(4.6)	1.0	1/6程度残存。	下部に側板の圧痕有り。復元径=34.8cm。	やや滑らか	Eか	板目
213	容器	円形曲物	3区東	T-18	8	24.1	(3.6)	1.0	1/6残存。	下部に傷有り。表面に漆が残存。上下の側面にも漆が流れた跡が見られる。復元径=24.1cm。	滑らか		板目
214	容器	円形曲物 蓋板	3区東	T-19	8	(12.0)	(3.2)	0.5	1/5残存。表面は摩滅が激しい。	側板による圧痕有り。径約5mmの樺皮結合紐用孔1対残存。復元径=19.4cm。	粗い	E	板目
215	容器	円形曲物 蓋板	3区東	T-19	8	(12.5)	(4.2)	0.5	1/4残存。	樺皮結合紐用孔が1対残存。側板による圧痕有り。復元径=16.0cm。	やや粗い	E	柃目
216	容器	円形曲物 側板	3区東	T-18	8	(2.6)	(20.8)	0.4	下部部のみ残存。	内面に罫引線有り。刃物傷が数カ所有り。	滑らか		板目
217	容器	円形曲物 側板	3区東	T-18	8	(1.6)	(10.9)	0.4	下部部のみ残存。	罫引線有り。底板と結合する樺皮結合紐用孔2ヶ所有り。	滑らか		板目

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴1 (残存部分に関する情報)	特徴2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
218	容器	円形曲物側板	3区東	T-17	8	(1.4)	(5.05)	0.3	側板の一部。留具から下の部分欠損。	2枚の板が榫皮結合紐で留められる。箍か。	滑らか		柾目
219	容器	円形曲物側板	3区東	T-18	8	(3.1)	(3.4)	0.4	下端部のみ残存 (3方は欠損)。	榫皮結合紐用小孔1ヶ所残存。異引線4本有り。	やや滑らか		柾目
220	容器	円形曲物側板	3区東	T-18	8	4.2	(76.05)	0.45	両端欠損。	木釘孔7ヶ所残存 (内5ヶ所に木釘残存)。	滑らか		板目
221	祭祀具	人形	3区東	T-18	8	(34.0)	(6.7)	0.6	左半分欠損。	眉・目・鼻・口が墨で描かれている。	やや滑らか	正面全身人形	板目
222	祭祀具	人形	3区東	T-18	8	(15.3)	4.4	0.4	下部欠損。	眉・目を墨で表現する。墨は残存せず、盛り上がっている。	粗い	正面全身人形	板目
223	祭祀具	人形	3区東	T-17	8	(12.2)	2.15	0.25	胴部、下端欠損。	細かく削って表面を成形。	滑らか	正面全身人形	板目
224	祭祀具	人形	3区東	T-17	8	(9.2)	2.7	0.25	下部欠損。	上端を僅かに山形に削って頭部を表現する。	やや滑らか	正面全身人形	柾目
225	祭祀具	刀形	3区東	T-17	8	(8.9)	1.95	0.3	上部欠損。	下端部は左側から削って尖らせる。	やや滑らか		柾目
226	祭祀具	刀形	3区東	T-19	8	(12.3)	1.6	0.45	下部欠損。	薄い板の上端を左側から削って切っ先を成形。	やや滑らか		板目
227	祭祀具	舟形	3区東	T-18	8	(11.65)	2.0	2.3	ほぼ完形。	船尾部分に貫通しない径4mm、長さ2.7cmの穿孔有り。船首部分には底から上へ径4mmの杭が残存。全体に角を面取りし、上部を深く削るが、屋形部は成形されていない。屋形船形。平底。	滑らか	A2	柾目
228	祭祀具	斎串	3区東	T-19	8	(21.9)	3.65	0.85	上部欠損。裏面上半分剥離。	上部切り込み2ヶ所有り。下端部は左側面から斜めに削って尖らせる。	やや滑らか	A	板目
229	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	8	(19.75)	0.8	0.65	上部欠損。	下部は左右両側から削り、下端部は表裏からも削って尖らせる。上部に横に切り込み有り。	滑らか		板目
230	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	8	(16.9)	0.6	0.6	上部欠損。	全体に面取りし、断面楕円形。特に下端部は3方面から削って尖らせる。	滑らか		柾目
231	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	8	(22.9)	0.9	0.6	上部欠損。	全面を削って箸状に成形。	滑らか		板目
232	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	8	(25.3)	0.75	0.35	下端欠損。	上端に3.5cm程の切り込み有り。下端部を尖らせるが、表裏面の削りは部分的である。	やや滑らか		板目
233	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	8	(25.1)	1.5	0.4	上端・下部・右側上部に欠損。	上端を山形に成形。左側上半に面取りを施す。刀形か。	やや粗い		板目
234	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	8	(34.9)	1.0	1.1	上部欠損。	下部は細かく面取りし、断面楕円形。下端部は尖らせる。上部の一面に切り込み有り。	やや滑らか		柾目
235	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	8	(13.2)	1.0	0.6	上端欠損。	全体に削って角を面取りする。下端部は尖らせる。	滑らか		板目
236	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	8	(12.8)	0.9	0.5	上部欠損。	下部は左側と正面から削る。下端部は左右の角を削って尖らせる。	やや粗い		柾目
237	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	3区	カケラン	(10.3)	1.0	0.4	上部欠損。下端部近くにひび割れ有り。	下端部は四方から削って薄く尖らせる。	滑らか		板目
238	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	8	(10.7)	(0.9)	0.3	上下両端・左側に欠損。	下部は右側から斜めに削る。祭祀具の断片か。	やや滑らか		柾目
239	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	8	(11.3)	1.45	0.6	上下両端欠損。	下部は細かく面取りし、丸く成形。	やや滑らか		板目
240	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	8	7.2	0.9	0.6	完形。	上下両端ともに4方向から削り、上端部は尖らせる。	やや滑らか		柾目
241	祭祀具	斎串	3区東	T-17	8	(4.3)	1.5	0.3	上端部のみ残存。	上端部は山形に成形。上部表面に圧痕有り。	やや滑らか	C	板目
242	祭祀具	斎串	3区東	T-18	8	(5.5)	1.6	0.3	上端部のみ残存。	上端部は山形に成形。	やや粗い	C	柾目
243	祭祀具	斎串	3区東	T-18	8	(3.4)	1.45	0.2	上端部のみ残存。	上端部は山形に成形。左右とも下方向へ緩やかに削られる。	滑らか	C	板目
244	祭祀具	斎串	3区東	T-18	8	(3.5)	1.6	0.35	上端部のみ残存。	上端部を山形に成形。下部の左右両側に上からの切り込み有り。	やや粗い	C	柾目
245	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	8	(25.85)	0.9	0.75	中央部は折れているが、接合はできない。	全面に細かな面取り。上端部は表側から、下端部は表裏両側から削って尖らせる。上端部に切り込み有り。	やや滑らか		辺材
246	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	8	(25.7)	1.35	0.9	上部欠損。	下端部は左から削って細く尖らせる。表面のみに削りによる成形。	やや滑らか		柾目
247	部材	不明	3区東	T-18	8	15.9	(3.4)	2.2	左右両側面欠損。	上端部はやや細く削られ、下端部は平坦。中央部に凹部有り。	やや粗い		柾目
248	部材	不明	3区東	T-17	8	11.0	(1.8)	0.9	左右両側面一部が僅かに欠損。	厚手の板の表面と側面を丁寧に削って成形。裏面は平坦。下端部は尖らせる。上端部も丁寧に削り。左右に台形状の切り込み有り。	やや滑らか		柾目
249	部材	不明	3区東	T-19	8	11.6	(1.9)	2.15	右側欠損。	断面長方形の棒状で、上端部は斜めに削られる。	やや粗い		辺材
250	雑具	籌木	3区東	T-18	8	(15.9)	1.1	0.6	上下両端欠損。	中央部で僅かに屈曲する。表裏両面は割ったまま、左右両面は削りにより成形。	やや粗い		柾目
251	雑具	籌木	3区東	T-17	8	(19.1)	0.9	0.55	上下両端欠損。	表面の下部のみ成形。	やや粗い		板目
252	雑具	籌木	3区東	T-17	8	(16.8)	1.0	0.8	上下両端欠損。	籌木の断片か。	粗い		柾目
253	雑具	籌木	3区東	T-17	8	(15.1)	1.1	0.5	上下両端欠損。	片方の側面は付着物(墨か)有り。	やや粗い		柾目
254	雑具	籌木	3区東	T-17	8	(27.6)	1.6	0.8	上下両端欠損。	断面長方形。成形は粗い。左側面に黒色の付着物有り。	粗い		柾目
255	雑具	火付棒	3区東	T-17	8	(17.1)	1.35	0.35	上部欠損。	右側面は削って成形。籌木状の木製品を火付棒として使用。	やや粗い		辺材
256	雑具	火付棒	3区東	T-18	8	13.8	2.35	1.0	完形。	両側面は元の部材の削り面。表裏両面は割ったままの粗い成形。一端に火をつけた痕有り。	粗い		辺材

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
257	不明	不明	3区東	T-18	8	(34.0)	3.2	0.7	上端欠損。	下端部は斜めに削る。	やや滑らか		板目
258	不明	不明	3区東	T-18	8	(5.7)	(2.5)	0.35	左側と下端部は欠損。	上端部は表面から斜めに削る。左右両側から曲線的に削って、下端を細く成形。	粗い		柾目
275	工具	刀子の柄	3区東	T-18	9	9.5	1.75	1.5	完形。	刃部側が右側。刀子の穴=幅1cm、厚さ0.45cm、奥行き6.8cm。柄の左側面は細かな面取りが施される。	やや滑らか		芯持ち材
276	服飾具	櫛	3区東	T-17	9	5.35	(5.35)	0.85	一端残存。	刻歯式横櫛。歯=43本残存(内、19本完形、24本欠損)。背の部分を滑らかに面取りする。	滑らか	A II	不明
277	食事具	箸	3区東	T-17	9	(13.2)	0.5	0.35	上下両端欠損。	細かな面取りにより、断面楕円形。	滑らか		柾目
278	食事具	箸	3区東	T-17	9	(15.3)	0.5	0.4	上部欠損。	細かい面取りを施して、断面不整形。下端部は、やや細く尖るように成形。	やや滑らか		辺材
279	食事具	箸	3区東	3区	9	(12.1)	0.5	0.5	上下両端欠損。	全体を削って円形に近い断面にし、下部に向けて、やや細く成形。	やや滑らか		辺材
280	食事具	箸	3区東	T-17	9	(9.3)	0.6	0.4	上下両端欠損。	全体に面取りを施して多角形に成形。	滑らか		辺材
281	食事具	箸	3区東	T-17	9	(11.5)	0.5	0.4	上下両端欠損。	全体に面取りを施して多角形に成形。	やや滑らか		辺材
282	容器	曲物 側板	3区東	T-17	9	(2.5)	(3.3)	0.4	大部分が欠損。	罫引線 4本、穿孔 1ヶ所。器高=2.5cm。	やや滑らか		板目
283	容器	円形曲物 蓋板	3区東	T-17	9	(9.8)	(3.2)	0.55	全体の約1/12残存。	側板による圧痕有り。復元径=26.0cm。	滑らか		柾目
284	容器	円形曲物 蓋板	3区東	T-17	9	(24.7)	(3.2)	0.5	全体の約1/8残存。	表面に刃物傷が多数。一部に焼け跡が残る。下部に側板の圧痕有り。復元径=25.6cm。	やや滑らか		板目
285	容器	円形曲物 蓋板	3区東	T-17	9	25.8	(6.15)	0.5	底板の左1/4、右1/2欠損。	側板による圧痕有り。上下に樺皮結合用孔(2ヶ所)が僅かに残る。中央部に刃物傷が多数有り。復元径=25.8cm。	やや滑らか		板目
286	容器	円形曲物 底板か蓋 板の未製 品	3区東	T-18	9	(40.4)	(7.25)	0.8		上端部裏面に切り折りの痕跡有り。右側に削りを施して再加工の途中のものか。	滑らか		板目
287	祭祀具	人形	3区東	T-17	9	(12.3)	(3.1)	(0.3)	四辺欠損。	墨で顔を表した人形の断片。	やや粗い	正面全身人形	板目
288	祭祀具	刀形	3区東	T-17	9	(15.7)	1.4	0.3	上下両端欠損。	上端部は斜めに削って尖らせ、下半部は左右両側から削って細く成形。	やや滑らか		板目
289	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(20.6)	1.5	0.3	上端欠損。	下部は幅広に、下端部を鋭く尖らせる。切り込み：左側に下から2回。	やや滑らか	C	板目
290	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(23.8)	1.45	0.2	上端欠損。	289と類似した形状。切り込み：左側上部に上から3回、下から5回。右側上部に上から4回、下から5回。	滑らか	C	板目
291	祭祀具	斎串	3区東	T-19	9	(23.3)	2.0	0.6	上端と下端のみ残存。途中欠損。表面は層状に剥離する。	上端部は山形に、下端部は左右両側から緩やかに削って尖らせる。切り込み：左側上部に上から1回。右側は欠損のため不明。	滑らか	C	板目
292	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	21.3	1.75	0.4	ほぼ完形。	切り込み：左右両側上部に上から各2回。上端部の側面に深い切り込み有り。右側面では中央部に達する。	滑らか	C	板目
293	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(23.15)	1.95	0.3	上端欠損。	289、290に類似した形状。切り込み：左側上部に上から3回、下から7回。右側上部に下から8回。	滑らか	C	板目
294	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(26.6)	1.5	0.2	上端欠損。	切り込み：左側上部に下から4回。右側上部に下から2回。下端部は鋭く尖らせる。	やや滑らか	C	板目
295	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(18.8)	1.9	0.3	上下両端欠損。	下端部は右側から斜めに削って尖らせる。	滑らか	C	板目
296	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(9.3)	1.45	0.15	上部残存。	切り込み：左側上部に上から5回、下から2回。右側上部に上から5回、下から2回。	滑らか	C	板目
297	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(8.3)	1.6	0.3	上下の大部分を欠損。	切り込み：左側上部に上から8回、下から6回。右側上部に上から4回、下から8回。	やや粗い	C	柾目
298	祭祀具	斎串	3区東	T-18・19	9	(6.8)	1.45	0.45	上下の大部分を欠損。	切り込み：左側上部に上から5回、下から4回。右側上部に上から3回、下から8回。	滑らか	C	柾目
299	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(6.2)	1.6	0.2	上下の大部分を欠損。	切り込み：左側上部に上から2回、下から4回。右側上部に上から5回、下から6回。	やや滑らか	C	板目
300	祭祀具	斎串	3区東	T-18	9	(5.6)	1.5	0.35	上端部のみ残存。	上端部は左右両側から山形に削られているが、頂上部は平坦。	やや粗い	C	柾目
301	祭祀具	棒状祭祀 具	3区東	T-19	9	(5.7)	0.75	0.5	上部の大部分を欠損。	下端部は両側からの削りにより尖らせる。	滑らか		板目
302	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(7.3)	(1.2)	0.3	下部と上端左側欠損。	上端部は山形に削られるが、頂上部は平坦。	やや粗い	C	板目
303	祭祀具	斎串か	3区東	T-19	9	(5.2)	1.3	0.65	下部欠損。	上端部は左右両側からの削りで僅かに山形に成形。側面は削り。表面が黒く変色するが墨ではない。	滑らか	C	板目
304	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(5.0)	1.5	0.3	上端部のみ残存。	上端部は山形。上部に線状痕有り。	滑らか	C	板目
305	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(3.6)	1.35	0.1	上端部のみ残存。	上端部は山形に削られるが、頂上部は平坦。	滑らか	C	板目
306	祭祀具	斎串	3区東	T-18	9	(11.1)	1.55	0.4	下部欠損。	切り込み：左側上部に上から7回。右側上部に上から4回、下から3回。	やや粗い	C	柾目
307	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(8.8)	1.4	0.3	上端部のみ残存。	上端部は山形に削られるが、頂上部は平坦。	やや粗い	C	板目
308	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(7.3)	1.5	0.3	上端部のみ残存。	上端部は山形に削られるが、頂上部は平坦。	やや滑らか	C	板目

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
309	祭祀具	斎串	3区東	T-18	9	(7.0)	(2.0)	(0.2)	上部のみ残存。左右切り込み部から欠損。	上部は山形。肩部が見られ、人形の可能性有り。	やや滑らか	C	板目
310	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(6.3)	1.5	0.3	上部のみ残存。上部右側は欠損。	上部は山形に削られるが、頂上部は平坦。	滑らか	C	板目
311	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(3.8)	1.2	0.25	上部のみ残存。	上部は山形に削られるが、頂上部は平坦。左側に上から1回の切り込み有り。	やや粗い	C	板目
312	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(5.5)	1.5	0.15	上部のみ残存。	上部部を右から削って尖らせる。	やや滑らか	A	板目
313	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	9	(6.1)	0.8	0.4	ほとんど欠損。	下部部の左右両側から削って鋭く尖らせる。	やや滑らか		柱目
314	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(7.15)	1.55	0.2	上部欠損。表面一部剥がれている。	下部部の左右両側から削って尖らせる。	滑らか	C	板目
315	祭祀具	斎串か	3区東	T-17	9	(5.15)	0.75	0.4	上下両端欠損。	棒状祭祀具の断片か。	やや滑らか	C	板目
316	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	21.2	1.95	0.65	ほぼ完形。	上部に左右両側に切り込み有り。上部は左右両側から削り尖らせる。表面上部は刃物で細かく削る。裏面下部は欠損。木筒の可能性有り。	やや滑らか	D	板目
317	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(23.2)	1.1	0.6	下部欠損。	上部部は左右両側から削って尖らせる。	やや粗い		板目
318	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	9	(20.3)	0.8	0.7	上部欠損。	下部部の表面を削って尖らせる。	滑らか		板目
319	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	9	(19.7)	0.7	0.65	上部欠損。	断面正方形。下部部を左右両側から削って尖らせる。	やや粗い		柱目
320	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(19.7)	0.8	0.7	上下両端欠損。	四面削り。	やや滑らか		板目
321	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(18.6)	0.8	0.3	上部・下部部に欠損。	上部部の側面に切り込み有り。	やや滑らか		柱目
322	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	23.3	1.0	0.6	ほぼ完形。	上部部の側面に切り込み有り(約4.5cm)。下部部を削って尖らせる。	やや粗い		柱目
323	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	30.0	0.65	0.65	4片接合でほぼ完形。	上部部の側面に切り込み有り(約5cm)。下部部を4方向から削って尖らせる。	やや滑らか		板目
324	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	13.9	1.7	0.4	上下両端欠損。	下部部のすぐ上をふくらませる形状。	やや粗い	C	板目
325	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(18.2)	2.0	0.3	上部欠損。	293などと類似した形状か。	やや滑らか	C	板目
326	祭祀具	斎串	3区東	T-17	9	(17.35)	(1.85)	0.25	上部欠損。	下部部を左右両側から削って尖らせる。293などと類似した形状。		C	板目
327	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	9	(14.65)	1.1	0.9	上部欠損。	下部部は左右両側から削って尖らせる。上部もやや細く成形。	やや滑らか		柱目
328	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(15.5)	0.8	0.6	上下両端欠損。	四面削り。	やや滑らか		柱目
329	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(16.3)	0.6	0.6	上端欠損。	断面長方形。下部部を表側と左右両側から削って尖らせる。	やや滑らか		板目
330	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	9	(13.8)	0.95	0.6	上部欠損。	断面長方形。下部部を左右両側から削って尖らせる。	やや滑らか		柱目
331	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	9	(19.3)	0.8	0.75	上部欠損。	断面長方形。下部部を左右両側から削って鋭く尖らせる。	やや粗い		柱目
332	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	9	(9.1)	0.95	0.45	上部欠損。表面に工具による切れ目有り。	下部部は左右両側から削って尖らせる。	滑らか		板目
333	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(10.5)	1.1	0.8	上下両端欠損。	面取りを施して断面多角形に成形。右側から削って下部部を尖らせる。右側1ヶ所深い切り込み有り。	やや粗い		板目
334	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(14.3)	0.75	0.4	上部欠損。	左右両側から削って下部部を尖らせる。			板目
335	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(14.2)	0.7	0.4	上部欠損。	下端を左右両側から削って尖らせる。左側からの削りは急角度。	やや滑らか		板目
336	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	9	(12.3)	0.7	0.5	上下両端欠損。	四面削り。	やや滑らか		柱目
337	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(12.6)	0.75	0.4	下部欠損。	四面削り。	滑らか		板目
338	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	9	(10.0)	1.05	0.6	上部欠損。	側面を左右両側から削って尖らせる。上部の側面に切り込みが残存。	滑らか		板目
339	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	9	(9.3)	0.9	0.7	上部欠損。	下部部は表側と左右両側から削って尖らせる。	滑らか		柱目
340	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-19	9	10.2	1.1	0.5	下部欠損。	上部部は左右両側から削って細く成形。	やや粗い		柱目
341	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(12.5)	1.15	0.65	上部欠損。表面に圧痕が見られる。	下部部は左側から斜めに削って尖らせる。	やや粗い		板目
342	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-19	9	(11.3)	1.2	0.6	上部欠損。	全体的に削って左側を厚く、右側を薄く成形。	滑らか		柱目
343	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(10.3)	0.8	0.4	上下両端欠損。	四面削り。	やや滑らか		柱目
344	祭祀具	斎串	3区東	T-19	9	(11.0)	1.1	0.3	上部欠損。全体的に痛みが激しい。	下部部は左右両側から削って尖らせる。	粗い	Cか	板目
345	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	9	(8.8)	0.9	0.4	上下両端欠損。	四面削り。	やや滑らか		柱目
346	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(9.7)	0.7	0.4	上端欠損。	下部部は左右両側から削って尖らせる。	やや滑らか		板目
347	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	9	(8.5)	0.8	0.4	上下両端欠損。	四面削り。	粗い		柱目
348	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	9	(7.9)	0.8	0.4	上端欠損。	下部部は左右両側から削って尖らせる。	やや粗い		柱目

掲載 番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に 関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
349	祭祀具	棒状祭祀 具	3区東	T-19	9	(16.3)	1.2	0.6	上下両端欠損。	全体を削って扁平な断面多角形。下端部 に向けて徐々に細く成形。	やや滑らか		柾目
350	不明	棒卷棒	3区東	T-18	9	(20.4)	1.2	0.95	上下両端欠損。	樺皮結合紐2ヶ所残存。3本の部材を樺 皮結合紐で円形に束ねる。	やや粗い		
351	杭	杭	3区東	T-17	9	(35.7)	2.45	1.4	上端欠損。	断面が三角形の辺材の下端部を削って尖 らせる。	やや粗い		辺材
352	杭	杭	3区東	T-17	9	(37.1)	2.4	2.5	上下両端欠損。	上端を欠損するが、僅かに削りが残る。 下端部は大きく削って尖らせる。	滑らか		芯持ち材
353	雑具	火付棒	3区東	T-17	9	(40.5)	1.4	1.1	上部欠損。	一端が炭化。	滑らか		辺材
354	部材	部材	3区東	T-17	9	(47.2)	1.55	1.1	上下両端欠損。	両側面は割ったままで、上端部は薄く割 れているが欠損の可能性有り。	やや粗い		柾目
355	部材	不明	3区東	T-18	9	(65.6)	1.7	1.3	上下両端欠損。	棒状の材を全体的に削って角を丸く成 形。柄杓の柄の可能性有り。	やや滑らか		板目
356	部材	不明	3区東	T-17	9	12.7	4.5	2.1	ほぼ完形。用途不明 の部材。	下端部は4方向から削って尖らせる。表 面は下約1/6位を残して薄く削る。左側 面に台形の切り込み有り。部分的に漆が 残存している。	やや粗い		柾目
357	不明	不明	3区東	T-17	9	(4.4)	(5.5)	(5.0)	下部欠損。	全体に削りが粗い。木錘の可能性有り。	やや粗い		芯持ち材
373	農具	竪杵か	3区東	T-17	10	(16.9)	5.6	5.0	上部欠損。	右側面の中央辺りに深さ2~3mmの穿 孔有り。辺材の周囲を削って下部をやや 細く成形。上端部は4方向からの大きな 削りによって尖らせ、その先端で折れて いる。表面はやや摩耗する。	粗い		辺材
374	容器	円形曲物	3区東	T-17	10	(14.0)	(7.0)	0.8	1/4残存。	表面に圧痕が3ヶ所有り、全体的に波 打っている。復元径=19.8cm。	やや滑らか		板目
375	容器	円形曲物	3区東	T-17	10	15.5	(3.0)	0.55	1/5残存。	表面に刃物傷多数有り。復元径=15.5cm。	やや滑らか		板目
376	容器	円形曲物 蓋板	3区東	T-18	10	(18.0)	(8.2)	0.6	1/2程度残存。	側板による圧痕有り。樺皮結合紐用孔2 対(1対は欠損)有り。復元径=18.4cm。	粗い	E	板目
377	容器	円形曲物 蓋板	3区東	T-17	10	(12.7)	(1.4)	0.4	約1/12残存。	樺皮結合紐1ヶ所残存。表面に刃物傷2 ヶ所有り。復元径=19.1cm。	やや滑らか	E	板目
378	容器	挽物皿	3区東	T-17	10上	(22.9)	(18.7)	2.4	3/4残存。	両面に刃物傷多数有り。外面に轆轤の爪 痕有り(3ヶ所)。内面に削り工具線多 数。復元径=23.0cm。	やや粗い		横木取り
379	祭祀具	鳥形	3区東	T-17	10	2.5	10.7	0.65	中央部と右側の下部 側面に割られたよう な痕跡有り。欠損 か?	左側が頭部、右側が尾か。	滑らか		板目
380	祭祀具	斎串	3区東	T-17	10	(17.1)	2.25	0.65	上部左側と下端部が 欠損。	下端部は右側から削って尖らせる。	やや粗い	A	板目
381	祭祀具	斎串	3区東	T-17	10	(15.4)	2.3	0.6	下部欠損。	上端部を山形に削る。切り込み：左側上 部に上から10回、下から10回。右側上部 に上から7回、下から12回。	粗い	C V	柾目
382	祭祀具	斎串	3区東	3区東	10	(22.2)	1.9	0.3	上下両端部欠損。	上部の切り込み(左上から10回、右上か ら7回)。中央部の切り込み(左下から 10回、右下から12回)。以下欠損のため 不明。	やや滑らか	C V	板目
383	部材	不明	3区東	T-17	10	20.1	12.0	8.05	ほぼ完形。	上部は四方から削って尖らせ、下部は細 く削って凸部を成形。上部右側は直角に 削る。削りは粗い。未製品か。	やや粗い		辺材
384	不明	不明	3区東	T-17	10	(13.4)	(2.4)	1.1	上部右側欠損。	左側と表裏両面削り。舟形の可能性有り。	やや滑らか		柾目
395	容器	円形曲物	3区東	T-17	11	(15.8)	(3.8)	0.9	1/4残存。	表面に多数の刃物傷有り。復元径=15.8cm。	やや滑らか		板目
396	容器	円形曲物 蓋板	3区東	T-17	11	(7.4)	(2.85)	0.8	全体の約1/10残存。	樺皮結合紐1ヶ所残存。側板による圧痕 有り。復元径=17.0cm。	やや滑らか	E	柾目
397	祭祀具	棒状祭祀 具	3区東	T-17	11	17.3	0.6	0.4	完形。	上部は左右両側から削り、僅かに尖らせ る。下部は裏側からの削りで尖らせる。	やや滑らか		柾目
398	雑具	火付棒	3区東	T-17	11	26.5	2.0	1.2	完形。	全面割ったままの粗い成形。上下両端と も炭化。	粗い		辺材
399	服飾具	下駄	3区東	3区東	12	(20.1)	(5.8)	2.9	右側約2/3残存。	鼻緒の孔2ヶ所残存(内1ヶ所欠損)。 右足用。裏側上下両端摩滅。歯は前後と も摩滅。後歯の摩滅が顕著。	粗い		板目
400	服飾具	蝙蝠扇	3区東	T-17	12	27.6	1.5	0.5	ほぼ完形。頭部右側 のみ欠損。	やや厚めの板で上下両端部を広めに、軸 の部分の細く成形。要孔残存。	滑らか		板目
401	文房具	題籤軸	3区東	T-17	12	31.5	2.6	1.2	ほぼ完形。題籤部= 8.0cm、軸部=23.5 cm。	題籤部と軸部との接続部分を細かく削 る。左側面に細かな削りが見られる。	やや粗い		柾目
402	服飾具	櫛	3区東	T-19	12	4.1	(5.1)	0.95	全体の約4割残存。	刻歯式横櫛。歯=53本残存(内、完形は 44本)。背部分は削りで成形。	滑らか		不明
403	服飾具	櫛	3区東	T-17	12	(1.5)	(2.2)	0.8	大部分欠損。	刻歯式横櫛。歯=24本残存(全て欠損)。 表面に鉄分が付着する。歯の根元に圧痕 か。	滑らか		不明
404	食事具	箸	3区東	T-19	12	(7.8)	0.7	0.6	上下両端欠損。	下端部を削って細く成形。断面多角形。	やや滑らか		辺材
405	食事具	箸	3区東	T-19	12	8.0	0.5	0.45	上下両端欠損。	上部裏側を斜めに削る。	やや滑らか		辺材
406	食事具	箸	3区東	T-19	12	(12.1)	0.6	0.6	上部欠損。	細かい面取りをして、断面不整円形。下 端部は細く尖らせる。	やや滑らか		辺材
407	容器	曲物 側板	3区東	T-18	12	2.1	(6.8)	0.25	一端欠損。	内面に昇引線有り。	やや滑らか		柾目
408	容器	曲物 側板	3区東	T-19	12	2.8	(8.8)	0.3	両端欠損。	下から5mmの位置に釘穴有り。上下両端 を斜めに削って成形。	滑らか		板目
409	容器	円形曲物	3区東	T-17	12	15.0	15.5	1.0	ほぼ完形。表面はか なり剥離。	表面に漆が残存。下半部に斜め方向に圧 痕有り。表面残存部分に無数に刃物傷有 り。	粗い		柾目
410	容器	円形曲物 蓋板	3区東	T-17	12	(12.9)	(3.9)	0.5	全体の1/5程度残存。	側板による圧痕有り。樺皮結合紐1ヶ所 残存。復元径=17.8cm。	粗い	E	柾目

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
411	容器	円形曲物	3区東	T-19	12	12.6	(3.0)	0.5	1/4残存。	内面に刃物傷が1本有り。復元径=12.6cm。	滑らか		板目
412	祭祀具	人形	3区東	T-17	12	30.3	3.1	3.0	ほぼ完形。表面は腐蝕のため樹皮が剥離。	目・口を浅く彫り込んで表現。下部部は右側を削って尖らせる。	粗い	円筒状人形	芯持ち材
413	祭祀具	斎串	3区東	T-17	12	(19.2)	2.8	0.2	上下両端欠損。	下部部の右側を削って尖らせる。	やや滑らか	A	板目
414	祭祀具	斎串	3区東	T-19	12	(28.3)	2.2	0.6	上下両端欠損。	両面に刃物傷多数有り。	やや滑らか	C	板目
415	祭祀具	斎串	3区東	T-17	12	33.1	2.0	0.3	ほぼ完形。上端左側欠損。	下部部は左右両側から削って尖らせる。上部部は山形に成形。切り込み：左側上部に上から7回、下から8回。右側上部に上から9回、下から7回。	やや粗い	C V	板目
416	祭祀具	斎串	3区東	T-17	12	(7.5)	2.2	0.25	上部部のみ残存。	上部部は左右両側から丸く成形。表裏側から薄く削る。	やや滑らか	C	板目
417	祭祀具	斎串	3区東	T-18	12	(7.4)	1.8	0.3	上部部のみ残存。	切り込み：左側上部に上から1回。右側欠損。	やや粗い	C III	板目
418	祭祀具	斎串	3区東	T-19	12	(10.8)	1.9	0.35	下部欠損。	上部部は左右両側から削って尖らせる。	やや粗い	C	板目
419	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	12	(27.1)	(0.9)	(0.8)	上端欠損。途中欠損。(同一個体だが接点なし)	下部部を左右両側から削って尖らせる。	やや粗い		板目
420	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	12	(21.6)	1.1	0.6	上部欠損。	下部部を左右両側から削って尖らせる。	やや粗い		板目
421	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-19	12	(21.7)	0.9	0.4	上下両端欠損。	下部部を左右両側から削って尖らせる。	やや滑らか		板目
422	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	12	(18.7)	1.3	0.4	上部欠損。	下部部は左右両側から削って尖らせる。先端のみ表面からも削る。	滑らか		板目
423	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-18	12	(15.5)	0.8	0.6	上部欠損。	全体は棒状に成形。下部部は四方から削って尖らせる。	やや滑らか		板目
424	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-19	12	(12.8)	1.05	0.4	上部部は欠損。中央部に串状のもので刺した痕跡有り。	上下両端とも左右両側から削って尖らせる。	やや滑らか		板目
425	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-19	12	(8.75)	0.55	0.55	上部欠損。	下部部は細かく削って尖らせる。	やや滑らか		板目
426	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-19	12	(6.4)	0.9	0.7	下部部のみ残存。	下部部は角を削って尖らせる。	やや粗い		板目
427	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-19	12	(5.5)	0.6	0.5	下部部のみ残存。	下部部は4方向から削って尖らせる。	滑らか		板目
428	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-17	12	(10.0)	0.7	0.5	上部欠損。	上部欠損により表面が反り返る。下部部は右側から削って尖らせる。左右両側面は割り。	やや粗い		板目
429	杭	杭	3区東	T-18	12	(49.6)	1.25	1.05	上部欠損。	上部部は細かい削りが残存。下部部は表裏から細かく削って尖らせる。	滑らか		芯持ち材
430	雑具	籌木	3区東	T-18	12	(20.6)	(0.7)	0.6	上下両端欠損。右側は割れ。	左右両側面は割り。	滑らか		板目
431	雑具	火付棒	3区東	T-18	12	(28.1)	2.0	1.2	上部欠損。	下部部は炭化。	やや粗い		辺材
432	不明	不明	3区東	T-18	12	(18.4)	2.4	0.55	下部欠損。	上部部は削りにより丸く成形。	やや滑らか		板目
433	不明	不明	3区東	T-19	12	(6.4)	1.7	(0.7)	上部部のみ残存。	全体的に削って面取りを施す。上部部は緩やかに尖らせる。	やや粗い		板目
434	不明	不明	3区東	T-17	12	(8.7)	(4.0)	(3.4)	裏面は欠損。全体的に摩滅。	四角錐を縦に半分に割った形状。	粗い		板目
435	不明	不明	3区東	T-17	12	(7.1)	(3.1)	0.3	下部・左側欠損。	上部部は左右両側から削って山形に成形。下部は切り折り。斎串の可能性も有り。	粗い		板目
474	服飾具	留針	3区東	T-19	13	(16.5)	0.4	0.4	上部欠損。	全面を細かく削って棒状に成形。下部部は1方向から斜めに削って尖らせる。	滑らか		辺材
475	容器	円形曲物蓋板	3区東	T-19	13	(15.6)	(4.3)	0.8	全体の1/4程度残存。	側板による圧痕が2重に巡る。復元径=19.0cm。	やや滑らか		板目
476	容器	楕円形曲物底板	3区東	T-19	13	(50.4)	(9.3)	1.0		楕円形の底板を二次整形する途中のものか。上下両端部は切り折り。木釘孔4ヶ所(内、2ヶ所貫通)。	やや粗い		板目
477	祭祀具	棒状祭祀具	3区東	T-19	13	(12.5)	1.0	0.55	上部欠損。	下部部を左右両側から削って尖らせる。	滑らか		板目
478	祭祀具	斎串	3区東	T-19	13	7.9	1.6	0.4	上部部左側欠損。	上端を山形に、下端を左右両側から削って尖らせる。斎串としては、かなり短い。		C I	板目
480	農具	横槌	3区東	T-18	14	27.5	8.2	6.95	ほぼ完形。	頭部は角をとって緩やかな円錐状。柄部は細く削り出す。下部部は下から工具による切込みが多数有る。	滑らか		芯持ち材
481	紡織具	糸巻棒	3区東	T-17-18	15 14	24.5	1.25	1.7	ほぼ完形。(中央部欠損)	円形の貫通しないホゾ穴2ヶ所。上部のホゾ穴には横木が残存。下部部は3方向から丁寧な削り。	やや滑らか		板目
482	農具	編棒	3区東	T-17	14	(15.1)	1.3	0.7	上部欠損。左側中央部欠損。	下部部は両側から尖らせる。細かく面取りし、断面形状は楕円形。	やや滑らか		板目
483	農具	編棒	3区東	T-17	14	(15.6)	0.95	0.8	上下両端欠損。	全体に細かく面取りを施す。	やや滑らか		板目
484	容器	円形曲物	3区東	T-18	14	(14.5)	(4.9)	0.8	全体の1/4残存。	復元径=17.0cm。	やや滑らか		板目
485	容器	円形曲物	3区東	T-17	14	(11.9)	(3.1)	0.5	全体の1/5残存。	復元径=14.6cm。	やや滑らか		板目
486	容器	曲物蓋板	3区東	T-17	14	(56.4)	(7.9)	0.8	全体の約1/10残存。	側板によると思われる細い線状痕有り。復元径不明。	やや滑らか	E	板目
487	容器	円形曲物	3区東	T-18	14	(11.1)	(3.95)	0.75	全体の約1/8残存。中程に焦げ有り。	復元径=15.4cm。	やや滑らか		板目
488	祭祀具	人形	3区東	T-17	14	37.0	2.7	3.0	ほぼ完形。	芯持ち材の上部を削って目・口・首を成形。	やや滑らか	円筒状人形	芯持ち材
489	祭祀具	人形	3区東	T-18	14	(7.5)	2.3	2.1	下部欠損。	目・口を深く切り込んでいる。上部部は3方向から削って尖らせる。	滑らか	円筒状人形	芯持ち材

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 L	法量 W	法量 H	特徴 1 (残存部分に関する情報)	特徴 2 (形状に関する情報)	表面の状態	型式	木取
490	祭祀具	舟形	3区東	T-17	14	14.8	3.0	3.1	ほぼ完形。下面に樹皮残存。	船首・船尾を裏面から斜めに削る。屋形部はなし。平底。屋形船形だが、屋形部は見られない。	やや滑らか	A 2	芯持ち材
491	祭祀具	舟形	3区東	T-17	14	(16.3)	2.6	2.8	船首欠損。	丸木の2ヶ所に削り込みを入れて屋形部を表現。船首・船尾は下面から削り落とす。丸底。屋形船形。	やや粗い	A 2	芯持ち材
492	祭祀具	舟形	3区東	T-19	14	(11.4)	4.5	3.3	船首上部のみ欠損。	船首部のみ。下面と左右両側面から削って丁寧な成形。芯は直径3mmくり抜く。屋形船形。平底。		A 2	芯持ち材
493	祭祀具	斎串	3区東	T-18	14	(10.0)	2.55	0.6	上端部右側欠損。表面の一部剥離。	上端部は山形に成形。下端部は左右両側から削って尖らせる。切り込み：左側上部に上から1回。右側上部に上から2回。	粗い	C IV	板目
494	祭祀具	斎串	3区東	T-19	14	(16.8)	1.5	0.45	ほぼ完形。	上端部は山形、下端部も左右両側から削って尖らせる。上部の左右両側に切り込み有り。	やや滑らか	C I	柁目
495	祭祀具	斎串	3区東	T-17	14	(13.5)	1.2	0.4	上端欠損。	下端部は左側から削って尖らせる。	やや滑らか	A	板目
496	祭祀具	斎串	3区東	T-17	14	(11.0)	1.8	0.5	下端部のみ残存。	289と類似した形状。下端部は左右両側から削って鋭く尖らせる。	粗い	C	柁目
497	農具	馬鍬	3区東	T-18	14	(16.5)	2.0	1.7	上部欠損。裏面下2/3欠損。	全体に細かく面取りを施し、断面楕円形に成形。下端部は尖らせる。			辺材
498	部材	部材	3区東	T-19	14	6.4	2.9	1.8	ほぼ完形。	縦断面が直角三角形。中央部に穿孔有り。下部はくさび状に薄く削られる。	粗い		柁目
505	服飾具	留針	3区東	T-18	15	(11.2)	0.4	0.4	上部欠損。	全体を細かく面取りし、棒状に成形。下端部は尖らせる。	滑らか		辺材
506	容器	円形曲物	3区東	T-18	15	(13.1)	(2.4)	0.6	全体の1/5程度残存。	復元径=14.0cm。	やや滑らか		板目
507	容器	円形曲物 蓋板	3区東	T-18	15	(10.7)	(3.3)	0.4	全体の約1/10残存。	側板による線状痕有り。復元径=20.3cm。	粗い	E か	柁目
508	杭	杭	3区東	T-18	15	(30.8)	1.6	1.35	下端欠損。	上端部は3方向からの削りで成形。下端部は6方向からの削りで尖らせる。	やや滑らか		辺材
514	容器	円形曲物	3区東	3区	-	15.8	16.3	0.6	ほぼ完形。	復元径=16.3cm。	やや滑らか		柁目
515	容器	円形曲物	3区東	3区	-	(10.2)	(3.6)	1.35	全体の1/3残存。	復元径=11.0cm。釘が刺さって折れている穴が2ヶ所、側面に有り。	やや滑らか		板目
516	杭	杭	3区東	3区	-	(9.6)	1.1	1.1	上部欠損。	下端部を斜めに削って尖らせる。	やや滑らか		芯持ち材
517	杭	杭	3区東	3区	-	(8.5)	0.75	0.75	上部欠損。	下端部を斜めに削って尖らせる。	やや滑らか		芯持ち材
518	容器	挽物 漆器椀蓋	E	T-19	A	(11.2)	(10.9)	2.35	ほぼ完形。端部の大部分が欠損。	表裏とも黒漆が塗られている。高台内には赤漆で文字有り。復元径=11.3cm。	粗い		横木取り
520	農具	編棒	E	T-19	B	(17.35)	1.0	0.85	上部欠損。	細かい削りによって下端が細くなるように成形。	滑らか		辺材
521	杭	杭	E	T-19	B	23.9	1.7	1.35	完形。	表面中央部・左側面と裏面上部が炭化する。下端部は削って尖らせる。	やや滑らか		板目
525	農具	木錘	E	T-19	C	(10.09)	4.85	4.8	上端部と下部欠損。	芯持ち材の中央部を削って、くびれを成形。上端部は角を斜めに削って尖らせる。	滑らか		芯持ち材
526	容器	円形曲物 側板	E	T-19	C	(2.15)	(14.9)	0.45	左右両端・上部欠損。	穿孔1ヶ所。罫引線25本。	やや粗い		板目
527	部材	部材	E	T-19	C	(17.0)	3.3	1.8	下部欠損。	上端部は表面から斜めに削って薄く成形。中央からやや上部に貫通したホゾ穴有り。ホゾの一部残存。	やや粗い		板目
528	不明	不明	E	T-19	C	(6.8)	(7.4)	(4.2)	上部及び裏面欠損。	底面は平坦。台座の一部か。	やや粗い		辺材
532	祭祀具	棒状祭祀 具	E	T-19	D	24.1	0.75	0.4	ほぼ完形。2ヶ所で折れ。	全体に細かく削る。上端部は裏面から斜めに削り、下端部はおもに右側からの削りによって尖らせる。	やや粗い		辺材
533	祭祀具	棒状祭祀 具	E	T-19	D	(14.3)	0.95	0.8	上部・下端欠損。	全体を削って下端部を尖らせる。	滑らか		辺材
534	杭	杭	E	T-19	D	(13.0)	1.6	0.95	上部欠損。左側面一部欠損。	左右両側面を削って下端を尖らせる。	やや滑らか		板目
535	不明	不明	E	T-19	D	7.6	2.4	2.25	ほぼ完形。	裏面は平坦。表側面を丁寧な削りにより成形。頭部を細く削り頭部を成形。立体人形又は陽物形の可能性有り。	滑らか		板目
546	祭祀具	斎串	E	T-19	H	(6.6)	1.9	0.2	下端部のみ残存。	下端部を左右両側から削って尖らせる。	やや滑らか	C	板目
547	部材	部材	E	T-19	H	63.1	11.2	4.65	ほぼ完形。	上部は大きく切り込んで、二股に。下部は右側面から削って尖らせる。	粗い		板目
558	容器	円形曲物	E	T-19	北壁崩 落土	(13.9)	(6.0)	0.55	1/2残存。	表裏両面に漆が付着。復元径=14.0cm。	やや滑らか		板目
559	祭祀具	剣形	E	T-19	北壁崩 落土	(20.7)	2.3	5.5	上端・下部欠損。左右両側一部欠損。	上端部は剣先形に尖らせる。表面は削って鑄を成形。下端部は両側面をなだらかに削って柄を成形。	粗い		板目

表2 出土土器・土製品・その他観察表

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 鏝径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (高台高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
5	土師器	杯	3区西	T-16	5~10	(14.3)			3.15	(9.4)		口縁部 1/4	外面：ヨコナデ。底部ナデ。 内面：ヨコナデ。底部ナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~6.5mm	外面：10YR6/3にぶい黄橙。 内面：10YR5/3にぶい黄橙。
6	土師器	椀	3区西	T-16	5~10	(12.4)			4.4	6.9	0.9	1/2	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。貼付高台。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~4.5mm	外面：7.5YR8/3浅黄橙。 内面：7.5YR8/2灰白。
7	土師器	皿	3区西	S-16	5	12.5			1.3	10.4		3/4	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 外面にスス附着。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~4.5mm	外面：10YR7/2にぶい黄橙。 内面：10YR7/2にぶい黄橙。
8	土師器	羽釜の脚部	3区西	S・T-16	5	残存長 (8.7)			残存幅 (6.2)				外面：ユビオサエ。	焼成：良。 密度：良。 外面にスス附着。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~7.5mm	外面：5YR4/4にぶい赤褐。 内面：7.5YR4/3褐。
9	瓦	平瓦	3区西	S-16	5	長さ (9.2)			幅 (11.2)	厚さ (2.8)			凹面：布目痕。 凸面：縄唐文タタキ。	焼成：良。 密度：良。	雲母、黒色斑粒 法量：0.1~8.5mm	凹面：5PB5/1青灰。 凸面：5PB5/1青灰。
10	石製品	丸靱	3区西	S-16	5	長さ 2.7			幅 4.2	厚さ 0.75	重量 16.57g	ほぼ完形		半円形。潜り穴式の3孔である。表面に無数の削痕。裏面に研磨痕あり。	泥岩	
15	黒色土器B	椀	3区西	S-16	6	(12.6)			4.4	6.4	0.8	2/3	外面：ヨコナデのちヘラミガキ(幅0.2~0.6cm)。底部回転ヘラ切りのちナデ。貼付高台。 内面：ヨコナデのちヘラミガキ(幅0.2~1.0cm)。	焼成：良。 密度：良。 一部反転復元。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~2.0mm	外面：10YR5/2灰黄褐。N3/0暗灰。 内面：10YR5/3にぶい黄褐。N3/0暗灰。
16	土師器	皿	3区西	S-16	6	11.4			1.3	8.4		9/10	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~1.5mm	外面：7.5YR7/2明褐灰。 内面：10YR7/2にぶい黄橙。
17	土師器	甗の把手	3区西	S-16	6	残存長 (5.6)			残存幅 (5.0)				把手部のみ ほぼ完形	外面：ナデのちユビオサエ。 内面：ナデ。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~7.0mm	外面：7.5YR5/3にぶい褐。 内面：7.5YR5/2灰褐。
18	土師器	羽釜	3区西	S-16	6 7	23.4	鏝径 28.7		(23.9)			4/5	外面：口縁鏝部ヨコナデ。体部上部ハケ(6条/cm)のちユビオサエのちナデ縦方向のハケ(6条/cm)、下部横方向のハケ(6条/cm)。 内面：ユビオサエのち板ナデ(幅2.5cm)。口縁ユビオサエのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面にスス附着。一部反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~5.0mm	外面：10YR5/3にぶい黄褐。 内面：10YR5/3にぶい黄褐。
29	土師器	杯	3区西	S・T-16	7	13.4			(4.1)	8.4		3/4	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 外面全体と口縁部内面の一部にスス附着。一部合成及び反転復元。	石英、長石、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~2.5mm	外面：5YR6/6橙。 内面：7.5YR6/6橙。
30	土師器	皿	3区西	3区	2~9 7	10.75			1.4	9.5		4/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切り。内面：ヨコナデ。工底具による溝あり。工底部ヨコナデのちユビオサエ。	焼成：やや不良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~2.0mm	外面：2.5YR6/6橙。 内面：2.5YR6/6橙。
31	土師器	皿	3区西	S・T-16	7	(9.8)			1.6	(6.6)		1/2	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~1.0mm	外面：5YR6/6橙。 内面：5YR6/4にぶい橙。
47	土師器	杯	3区西	S・T-16	8 9	(12.7)			(3.95)	8.1		3/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 底部欠損は焼成時の破裂によるものと思われる。一部反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~5.0mm	外面：10YR7/2にぶい黄橙。 内面：10YR7/4にぶい黄橙。
48	土師器	杯	3区西	S-16	8 9	12.8			3.8	7.5		4/5	外面：ヨコナデ。底部ナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：精。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1~1.0mm	外面：5YR7/4にぶい橙。 内面：5YR7/6橙。

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 銜径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (高台高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
49	土師器	杯	3区西	S-16	8 9	(14.8)			4.3	8.7		1/3	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 一部反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～5.0mm	外面：7.5YR7/4に ぶい橙。 内面：7.5YR7/4に ぶい橙。
50	土師器	皿	3区西	S-16	8	13.1			1.8	9.8		完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：やや不良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～5.0mm	外面：7.5YR7/4に ぶい橙。 内面：7.5YR7/4に ぶい橙。
59	土師器	甕	3区西	T-16	9	(26.0)	22.2	26.9	(7.35)			口縁部 1/4	外面：ユビオサエのちハケ。頸部ハケのちナデ。 内面：ユビオサエのちハケ。頸部ハケ。	焼成：良。 密度：良。 外面スス付着。内面に付着物。反転復元。	石英、結晶片岩、雲母、砂 法量：0.1～2.6mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：10YR6/2灰黄 褐。
62	土師器	杯	3区西	T-17	10 11	(17.0)			(3.1)			1/7	外面：ヨコナデのちヘラミガキ。 内面：ヨコナデのち暗文。	焼成：良。 密度：精。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.2mm	外面：5 YR5/4にぶ い赤褐。 内面：5 YR6/4にぶ い橙。
63	土師器	甕の把手	3区西	S・T-16	10	残存長 (6.15)			残存幅 (6.6)			把手部の み ほぼ完形	外面：ハケ(9条/cm)。把手部ユビオサエ。ユビナデ。 内面：ユビオサエのち板ナデ(幅1cm)。	焼成：やや不良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：2.5Y6/2灰黄。 内面：2.5Y6/2灰黄。
64	土師器	甕	3区西	T-16	10	(22.8)		(23.6)	(8.2)			口縁部 1/7	外面：ヨコナデのちハケ。口縁部ヨコナデ。 内面：ヘラケズリ。口縁部ヨコナデのちハケ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：7.5YR6/3に ぶい褐。 内面：7.5YR6/2灰 褐。
76	土師器	蓋	3区西	S-16	11			15.6	2.3			ほぼ完形	外面：ヨコナデのちヘラミガキ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に赤色塗彩。内外面に付着物あり。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～6.8mm	外面：2.5YR7/6橙。 内面：2.5YR7/4淡 赤橙。
77	須恵器	蓋	3区西	T-16	11	(20.7)			1.2			1/6	外面：回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。 内面：回転ナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、結晶片岩、黒色斑粒 法量：0.1～1.5mm	外面：N6/0灰。 内面：N6/0灰。
78	土師器	皿か	3区西	S-16	11				(0.9)	17.0		底部ほぼ 完形	外面：底部ヨコナデのちヘラミガキ(螺旋状暗文)。(体部へ向かう放射線状暗文の端がわずかに見られる)	焼成：良。 密度：良。 輪積み成形？	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～8.0mm	外面：5 YR6/4にぶ い橙。 内面：7.5YR6/4に ぶい橙。
79	土師器	高台付皿	3区西	T-16	11				(3.5)	脚径 11.9	2.75	4/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。高台部分ヨコナデ。貼付高台。 内面：ナデ。	焼成：良。 密度：良。 一部合成及び反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：5 YR6/4にぶ い橙。 内面：10YR4/2灰黄 褐。
80	土師器	皿	3区西	S・T-16	11	(19.4)			2.7	(16.4)		1/4	外面：ヨコナデ。底部ヘラケズリのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 外面に赤色塗彩。口縁部内面は確認できるがそれ以外は不明。外面にスス付着。輪積み成形か？反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：10YR6/1褐灰。 内面：7.5YR4/1褐 灰。
81	土師器	甕	3区西	T-16	11	(32.6)	(26.4)		(8.0)			1/8	外面：ハケ(6条/cm)。口縁部ヨコナデ。頸部ユビオサエのちヨコナデ。 内面：ユビオサエのちハケ(6条/cm)。口縁部ヨコナデ。頸部ヨコナデのちハケ(6条/cm)。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.5mm	外面：7.5YR6/4に ぶい橙。 内面：5 YR6/4にぶ い橙。
82	須恵器	甕	3区西	3区	11				(4.3)				外面：口縁部回転ナデ・沈線・回転ナデのちハケ(5条/cm)。 内面：口縁部回転ナデ。	焼成：良。 密度：精。 内外面に自然釉付着。	石英、結晶片岩、雲母、黒色斑粒 法量：0.1～2.0mm	外面：N5/0灰。 内面：N5/0灰。

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 銜径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (高台高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
83	土師器	甌	3区西	S-16	11	28.8		33.2	23.15	15.4		1/4	外面：口縁部ヨコナデ。体部上部ハケ(6条/cm)のちナデ、中部ユビオサエのちハケ(6条/cm)、下部ハケ(4条/cm)、把手部ユビオサエ・ユビナデ。底部タタキ(3条/cm)のちハケ(6条/cm)。内面：口縁部ヨコナデ。体部上部ユビオサエのち横方向のハケ(6条/cm)。体部下部分から底部下から上へ斜め方向のハケ(6条/cm)。	焼成：良。 密度：良。 内外面にスス附着。反転復元。	石英、結晶片岩、雲母、砂 法量：0.1～3.0mm	外面：2.5Y5/2暗灰黄、2.5Y6/4にぶい橙。 内面：2.5Y5/2暗灰黄。
84	金属製品	鉄鎌	3区西	S-16	11	長さ 13.3			幅 0.8	厚さ 0.3	重量 8.13g		鎌身部：片刃形・断面平片刃造・撫間。頸部：有頸・台形闊。茎部：有茎・断面方形。			
87	土師器	皿	3区北	T-16	6	9.6			1.8	6.9		9/10	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのち板目状圧痕。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：5YR6/4にぶい橙。 内面：5YR6/6橙。
93	土師器	杯	3区北	T-16	7 8	11.8			2.85	9.4		9/10	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのち板ナデ。 内面：ヨコナデ。底部ナデ。	焼成：良。 密度：良。 口縁部、体部内外面にスス附着。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：5YR5/3にぶい赤褐。 内面：5YR5/4にぶい赤褐。
94	土師器	高台付皿	3区北	T-16	8	16.2			3.1	10.5	1.2	ほぼ完形	外面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。貼付高台。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～8.0mm	外面：10YR6/3にぶい黄橙。 内面：10YR7/3にぶい黄橙。
95	金属製品	鉄鎌	3区北	T-16	8	長さ (7.9)			幅 1.95	厚さ 0.3	重量 9.89g					
96	金属製品	鉄鎌	3区北	T-16	8	長さ 10.5			幅 2.0	厚さ 0.4	重量 21.15g			先端は折り曲がっている。		
97	土師器	皿	3区北	T-17	9	(14.8)		(15.0)	1.5	(11.4)		1/3	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に赤色塗彩。底部外面にスス附着。内面にスス附着。反転復元。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：7.5YR7/2明褐灰。 内面：7.5YR6/3にぶい褐。
98	土製品	土錘	3区北	T-16	9	長さ 4.05		孔径 0.5	幅 1.65	厚さ 1.5	重量 9.29g	完形	外面：ユビオサエ。	焼成：良。 密度：精。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：7.5Y5/1灰。
100	土師器	杯	3区北	T-16	11	15.2			3.85	12.0		完形	外面：ヨコナデ。底部ヘラケズリのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面全体と体部外面に赤色塗彩。輪積み成形か？回転ヘラ切りの可能性もあり。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：7.5Y6/1灰。 内面：7.5Y6/1灰。
106	瓦	平瓦	3区東	T-18	3～5	長さ (11.25)			幅 (11.85)	厚さ (2.95)			凹面：布目圧痕。 凸面：縄文タタキ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～6.0mm	外面：2.5Y6/1黄灰。 内面：5Y6/1灰。
109	土師器	杯	3区東	T-18	5～7				(1.8)	6.8	0.8	底部1/5	外面：ヨコナデ。底部ナデ。貼付高台。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：精。 反転復元。体部外面から高台部に墨書。	結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～0.5mm	外面：10YR6/2灰黄褐。 内面：10YR6/2灰黄褐。
110	土師器	高杯	3区東	3区東	5	5.9			(13.2)			脚部3/4	外面：ヨコナデ。 内面：ナデ(絞り痕？)。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～6.0mm	外面：7.5YR6/3にぶい褐。 内面：7.5YR6/3にぶい褐。
111	瓦	平瓦	3区東	T-18	5～7	長さ (13.2)			幅 (6.8)	厚さ (2.15)			凹面：布目痕。 凸面：縄文タタキ。	焼成：良。 密度：良。 凹面スス附着。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.0mm	凹面：N6/0灰。 凸面：N6/0灰。
112	金属製品	鉄鎌	3区東	T-18	5	長さ (6.25)			幅 (2.85)	厚さ 1.2	重量 9.5g	上下端部欠損。	鎌身部：方頭形・断面平造。頸部：有頸・台形闊。茎部：有頸・断面方形。			
116	土師器	高台付皿	3区東	T-17	6				(2.6)	6.4	1.6	高台部完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～5.0mm	外面：7.5YR6/4にぶい橙。 内面：7.5YR6/4にぶい橙。
178	土師器	杯	3区東	T-18	7	12.6			4.1	6.8		ほぼ完形	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～5.0mm	外面：5YR7/4にぶい橙。 内面：5YR7/4にぶい橙。

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 鍔径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (台高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
179	土師器	杯	3区東	T-17	7	(13.2)			(4.4)	(6.2)		1/4	外面：ヨコナデ・回転ヘラケズリ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：5 YR6/4にぶい橙。 内面：7.5 YR6/4にぶい橙。
180	土師器	杯	3区東	T-17	7～8	15.4			5.2	8.6		2/3	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 外面にスス附着。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～3.6mm	外面：2.5 Y7/1灰白。 内面：10 YR8/1灰白。
181	土師器	杯	3区東	T-17	7	16.0			(4.5)	9.5		1/2	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：5 YR6/4にぶい橙。 内面：5 YR6/4にぶい橙。
182	土師器	杯	3区東	T-18	7	11.4			2.4	7.9		1/3	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：5 YR6/4にぶい橙。 内面：5 YR7/4にぶい橙。
183	土師器	杯	3区東	T-18	7	12.0			2.8	8.6		5/6	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ、板目状圧痕。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 外面に一部付着物あり。内面に赤色塗彩？	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.5mm	外面：7.5 YR6/4にぶい橙。 内面：5 YR6/6橙。
184	土師器	杯	3区東	T-17	7	(12.2)			3.0	9.0		3/4	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～0.8mm	外面：10 YR6/3にぶい黄橙。 内面：10 YR7/2にぶい黄橙。
185	土師器	杯	3区東	T-17	7～8	13.0			3.2	7.4		4/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 外面スス附着。反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～5.5mm	外面：10 YR8/1灰白。 内面：7.5 YR8/2灰白。
186	土師器	杯	3区東	T-18	7	13.8			3.8	9.3		2/3	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのち板ナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちユビナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、長石、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.5mm	外面：10 YR6/2灰黄褐。 内面：7.5 YR6/4にぶい橙。
187	土師器	高台付杯	3区東	T-18	7	(15.3)			5.35	8.1	1.8	1/4	外面：ヨコナデ。底部ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 高台部にスス附着。一部反転復元。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：7.5 YR6/4にぶい橙。 内面：7.5 YR6/4にぶい橙。
188	土師器	皿	3区東	T-18	7	8.4			1.2	6.25		9/10	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～1.8mm	外面：10 YR5/2灰黄褐。 内面：7.5 YR7/4にぶい橙。
189	土師器	皿	3区東	T-17	7	(9.6)			(1.2)	(7.6)		1/5	外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：やや不良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.6mm	外面：5 YR6/4にぶい橙。 内面：5 YR6/4にぶい橙。
190	土師器	皿	3区東	T-18	7	9.8			1.8	8.3		3/4	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ、板目状圧痕。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面にスス附着。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：10 YR5/2灰黄褐。 内面：10 YR5/2灰黄褐。
191	陶器	碗	3区東	T-17	7			(1.3)	4.2			底部1/2	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面：ロクロナデ。	焼成：良。 密度：精。 反転復元。	黒色斑粒 法量：0.1～0.5mm	内・外面：10 YG 黄緑。4.5/1S 明るいオリブみのグレイ。 胎土：5 Y8/1灰白。
192	土師器	甕	3区東	T-18	7	(23.6)	(20.7)	(5.3)				口縁～頸部 1/5	外面：ハケ(6条/cm)。口縁部ヨコナデ。 内面：板ナデ。口縁頸部ハケ(6条/cm)。	焼成：良。 密度：粗。 外面に炭化物多量に附着。反転復元。	石英、結晶片岩 法量：0.1～5.0mm	外面：5 Y3/1オリブ黒。 内面：10 YR5/3にぶい黄褐。
193	土師器	甕	3区東	T-17・18	7～8			横幅(24.5) 厚さ(7.6) 高さ(17.1)					鏝表面：ユビオサエ・ユビナデのちハケ(4条/cm)。口縁部ユビナデ。 鏝裏面：ハケ(4条/cm)。口縁部ユビナデ。付け根部分ユビオサエ・ユビナデ。	焼成：良。 密度：粗。 表面全体と裏面の一部にスス附着。	石英、長石、結晶片岩、赤色斑粒、雲母、砂岩、泥岩 法量：0.1～9.0mm	鏝表面：5 YR5/4にぶい赤褐。 鏝裏面：7.5 YR5/4にぶい褐。
194	土製品	土錘	3区東	T-18	7	長さ 8.6	孔径 1.35	幅 3.5	厚さ 3.2	重量 73.65g		ほぼ完形	外面：ユビオサエ・ナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英 法量：0.1～7.5mm	外面：10 YR8/1灰白。
195	瓦	平瓦	3区東	T-18	7	長さ (9.6)		幅 (10.0)	厚さ (3.2)			不明	凹面：布目痕。 凸面：縄文タタキ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.0mm	凹面：2.5 Y7/1灰白。 凸面：2.5 Y6/1黄灰。

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 鏑径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (高台高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
196	金属製品	鉄鏃	3区東	T-19	7	長さ (9.1)			幅 1.3	厚さ 0.9	重量 66.7g	下部欠損	鍍身部：圭頭形・断面両鑄造。頸部：有頸・台形闊。茎部：有茎・断面方形			
197	金属製品	不明	3区東	T-18	7	長さ (3.5)			幅 (7.4)	厚さ (4.8)					重量：32.92g	
259	土師器	杯	3区東	T-18	8	(11.9)			3.5	8.7		2/3	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.8mm	外面：2.5Y6/2灰黄。 内面：10YR6/2灰黄褐。
260	土師器	杯	3区東	T-19	8	(12.0)			2.8	8.4		1/6	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：10YR6/3にぶい黄橙。 内面：10YR6/2灰黄褐。
261	土師器	杯	3区東	T-17	8	13.0			3.2	8.0		9/10	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面にスス附着。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：7.5YR7/3にぶい橙。 内面：7.5YR7/3にぶい橙。
262	土師器	杯	3区東	T-17	8～9	12.8			3.45	9.0		4/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：精。 体部内外面に赤色塗彩。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：10YR7/1灰白。 内面：10YR7/2にぶい黄橙。
263	土師器	杯	3区東	T-18	8	13.2			3.7	8.9		完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 口縁部内面にスス附着。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～3.5mm	外面：10YR7/2にぶい黄橙。 内面：10YR7/3にぶい黄橙。
264	土師器	杯	3区東	T-17	8	13.2			3.7	8.4		完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちユビナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちユビナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～6.0mm	外面：10YR7/2にぶい黄橙。 内面：7.5YR7/2明褐灰。
265	土師器	杯	3区東	T-18	8	13.1			4.0	8.5		3/4	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 内面に附着物あり。口縁部外面にスス附着。	石英 法量：0.1～2.0mm	外面：5 YR7/4にぶい橙。 内面：5 YR6/3にぶい橙。
266	土師器	杯	3区東	T-18	8	12.9			3.75	7.9		2/3	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：7.5YR7/3にぶい橙。 内面：7.5YR7/3にぶい橙。
267	土師器	杯	3区東	T-18	8	13.6			4.6	8.0		4/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ナデのちヘラ状工具による板ナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～5.0mm	外面：10YR6/3にぶい黄橙。 内面：10YR6/3にぶい黄橙。
268	土師器	皿	3区東	T-18	8	10.1			1.1	6.8		9/10	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ、板ナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.5mm	外面：7.5YR7/1明褐灰。 内面：7.5YR7/1明褐灰。
269	土師器	皿	3区東	T-19	8	12.5			1.5	7.2		4/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面に赤色塗彩。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～6.0mm	外面：10YR7/2にぶい黄橙。 内面：7.5YR7/4にぶい橙。
270	土師器	皿	3区東	T-17	8	13.5			1.4	10.0		完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切り。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちユビナデ。	焼成：良。 密度：良。 底部内面にスス附着。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：7.5YR6/3にぶい褐。 内面：7.5YR7/3にぶい橙。
271	土師器	皿	3区東	T-18	8	13.2			1.9	8.6		完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に附着物。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.6mm	外面：5 YR8/2灰白。 内面：5 YR8/2灰白。
272	土師器	皿	3区東	T-18	8	13.1			2.2	8.3		4/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 底部内面に黒斑あり。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：7.5YR7/3にぶい橙。 内面：7.5YR7/3にぶい橙。
273	土師器	皿	3区東	T-18	8	13.6			1.6	9.1		4/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 口縁部内外面にスス附着。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～6.4mm	外面：5 YR7/3にぶい橙。口縁一部2.5 YR6/6橙。 内面：5 YR8/1灰白。

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 鏝径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (高台高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
274	黒色土器 A	椀	3区東	T-18	8	(13.5)			5.0	7.9	0.95	口縁部 1/4	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。 内面：ヘラミガキ。	焼成：良。 密度：良。 底部外面に墨書あり。一部反転復元。	石英、雲母 法量：0.1～5.0mm	外面：7.5YR6/4に ぶい橙。 内面：N3/0暗灰。
358	須恵器	蓋	3区東	T-18	9	ツマミ径 3.8			1.45			ツマミ部 分 ほぼ完形	外面：回転ナデ。 内面：回転ナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑 粒、雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：N6/0灰。 内面：2.5GY6/1オ リーブ灰。
359	土師器	杯	3区東	T-18	9	12.3			3.2	7.2		完形	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ、板ナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面に付着物あり。	石英、赤色斑 粒、雲母 法量：0.1～2.5mm	外面：5 YR8/3淡橙。 内面：5 YR7/3にぶ い橙。
360	土師器	杯	3区東	T-17	9	12.2			3.6	8.4		完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に赤色 塗彩。	雲母 法量：0.1mm	外面：10YR7/3にぶ い黄橙。 内面：2.5YR6/6橙。
361	土師器	杯	3区東	T-18	9	(13.0)			3.3	8.3		3/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 一部反転復元。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：7.5YR7/4に ぶい橙。 内面：7.5YR6/4に ぶい橙。
362	土師器	杯	3区東	T-17	9	(13.0)			3.4	7.6		1/2	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 口縁部内面に スス附着。反 転復元。	石英、結晶片 岩、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：10YR6/2灰黄 褐。
363	土師器	杯	3区東	T-17	9	12.9			3.6	7.9		9/10	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面にスス 附着。	石英、結晶片 岩、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：2.5Y7/3浅黄。 内面：5 Y7/1灰白。
364	土師器	杯	3区東	T-18	9	13.2			3.4	8.2		完形	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に赤色 塗彩。	雲母 法量：0.1～0.5mm	外面：口縁部2.5YR 7/6橙。体部・底部 5 YR8/3淡橙。 内面：2.5YR7/4淡 赤橙。
365	土師器	杯	3区東	T-17	9 10	(13.7)			3.85	8.6		1/2	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑 粒、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：5 YR6/4にぶ い橙。 内面：5 YR7/4にぶ い橙。
366	土師器	杯	3区東	T-18	9	(14.6)		(4.8)	9.1			2/3	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。底部回転ナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 底部外面にス ス附着。一部 反転復元。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～6.0mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：10YR6/2灰黄 褐。
367	土師器	杯	3区東	T-19	9	(14.2)			5.0	9.0	1.1	2/3	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。貼付高台。 内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 底部外面にス ス附着。一部 反転復元。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：7.5YR7/3に ぶい橙。 内面：7.5YR7/4に ぶい橙。
368	土師器	杯	3区東	T-19	9	15.4			5.2	8.9	1.6	2/3	外面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。貼付高台。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 口縁部内面に スス附着。一 部反転復元。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～9.0mm	外面：5 YR6/6橙。 内面：5 YR6/6橙。
369	土師器	皿	3区東	T-17	9	13.35			1.9	9.4		9/10	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 口縁部内外面 にスス附着。	石英、長石、 雲母 法量：0.1～5.0mm	外面：5 YR7/3にぶ い橙。 内面：5 YR7/4にぶ い橙。
370	土師器	火舎の高台	3区東	T-17・ 18・19	9, 12 12~13 12~14			(25.4)	(7.1)	(24.6)	(4.8)	高台部 1/4	外面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。 内面：ナデ。	焼成：良。 密度：良。 高台部内外面 にスス附着。 反転復元。	石英、長石、 結晶片岩、赤 色斑粒、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：5 YR6/4にぶ い橙。 内面：5 YR6/4にぶ い橙。
371	土製品	土錘	3区東	T-17	9	長さ (4.05)		孔径 0.7	幅 1.9	厚さ 1.7	重量 11.6g	4/5	外面：ユビオサエ・ユビナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：2.5Y6/2灰黄。
372	金属製品	刀子	3区東	T-19	9	長さ 11.1			幅 1.2	厚さ 0.55	重量 7.82g					
385	須恵器	蓋	3区東	T-17	10	(20.0)			1.9			口縁部 1/5	外面：回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内面：回転ナデのちナデ。回転ナデのちナデ。口縁部回転ナデ。	焼成：やや不 良。 密度：良。	石英、長石、 結晶片岩、赤 色斑粒、雲母 法量：0.1～5.0mm	外面：5 Y6/1灰。 内面：5 Y6/1灰。
386	土師器	蓋	3区東	T-17	10 11 12	(13.9)		(14.4)	1.9			2/3	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に赤色 塗彩。反転復元。	石英、雲母 法量：0.1～2.5mm	外面：2.5YR5/6明 赤褐。 内面：2.5YR5/6明 赤褐。

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 鏑径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (高台高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
387	土師器	蓋	3区東	T-17	10			17.0	2.85			5/6	外面：ヨコナデ・ヘ ラミガキ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑 粒、雲母 法量：0.1～ 5.5mm	外面：5YR7/3にぶ い橙。 内面：5YR7/3にぶ い橙。
388	土師器	杯	3区東	3区東	10	(15.0)			3.3	(11.6)		1/2	外面：ヨコナデ。底 部ヘラ切りのちな デ。 内面：ヨコナデ。底 部ナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に赤色 塗彩。反転復元。	石英、雲母 法量：0.1～ 5.0mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：10YR6/2灰黄 褐。
389	土師器	高杯	3区東	3区東	10	(15.8)			(4.6)			口縁部 1/6	外面：ヨコナデのち ユビオサエ。口縁部 ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑 粒、雲母 法量：0.1～ 3.0mm	外面：7.5YR6/4に ぶい橙。 内面：10YR6/4にぶ い黄橙。
390	土師器	皿	3区東	T-17	10	16.1			2.5	12.9		完形	外面：ヨコナデ。底 部ナデ。 内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちな デ。	焼成：良。 密度：良。 内面に十字と 内外面の口縁 部から体部に 液状の墨書あ り。内面全体 と外面の口縁 部から体部に 赤色塗彩。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 2.2mm	外面：2.5Y6/2灰黄。 内面：2.5Y6/2灰黄。
391	土師器	高杯の 脚部	3区東	T-17	10				(8.8)			脚部1/2	外面：ヘラケズリ のち板ナデ。 内面：杯部ナデ。脚 部ユビオサエ・ユビ オサエ。	焼成：良。 密度：良。 杯部内面と脚 部外面に赤色 塗彩。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 5.5mm	外面：5YR6/4にぶ い橙。 内面：7.5YR6/2灰 褐。
392	土師器	甕	3区東	T-17	10	(27.7)			(5.6)			口縁部 1/8	外面：ヨコナデのち ハケ。口縁部ヨコナ デ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 外面にスス付 着。反転復元。	石英、雲母 法量：0.1～ 4.0mm	外面：7.5YR4/3褐。 内面：7.5YR5/3に ぶい褐。
393	土師器	甕	3区東	T-18	10 12～13	(25.4)	(21.1)		(14.1)			1/7	外面：ユビオサエの ちハケ(6条/cm)。 口縁部・頸部ユビオ サエのちヨコナデ。 内面：ユビオサエの ちハケ(3条/cm)。 口縁部・頸部ハケ (6条/cm)。	焼成：良。 密度：良。 頸部に穿孔痕 (内→外)1 ヶ所あり(一 部残存)。内 外面に赤色塗 彩。反転復元。	石英、長石、 結晶片岩、赤 色斑粒、雲母、 泥岩 法量：0.1～ 3.5mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：10YR6/2灰黄 褐。
394	土師器	甕	3区東	T-17	10				(9.3)	(13.0)		体部1/4	外面：カキ目(5条/ cm)。底部ナデ。 内面：ナデ。底部ユ ビオサエ。	焼成：良。 密度：良。 体部外面(底 部は一部)と 内面全体に赤 色塗彩。鉢か？ 反転復元。	石英、結晶片 岩、雲母 法量：0.1～ 5.0mm	外面：10YR7/3にぶ い黄橙。 内面：2.5Y6/2灰黄。
436	土師器	蓋	3区東	T-17	12	(20.0)			2.35	天井 (16.0)		1/12	外面：ヨコナデ。天 井部回転ヘラケズ リ。 内面：ヨコナデ。天 井部ヨコナデのちな デ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、雲母 法量：0.1～ 6.0mm	外面：N3/0暗灰。 内面：2.5Y6/1黄灰。
437	土師器	蓋	3区東	T-18	12	(15.3)			(1.45)			口縁部 1/6	外面：ヘラケズリ。 口縁部ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面に墨書あ り。内外面に 赤色塗彩。反 転復元。	石英、結晶片 岩、雲母 法量：0.1～ 8.0mm	外面：5YR6/4にぶ い橙。 内面：2.5YR6/6橙。
438	土師器	杯	3区東	T-17	12	(13.7)			2.75	(11.5)		1/3	外面：ヨコナデ。底 部回転ヘラ切りのち ナデ。 内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちな デ。	焼成：良。 密度：良。 底部内外面に スス附着。内 外面に赤色塗 彩。反転復元。	石英、結晶片 岩、雲母 法量：0.1～ 4.5mm	外面：2.5Y6/2灰黄。 内面：2.5Y6/2灰黄。
439	土師器	皿	3区東	T-18	12～13	(17.9)			2.4	(14.1)		1/4	外面：ヨコナデ。底 部回転ヘラ切りのち ナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：精。 内外面に赤色 塗彩。内面に スス附着。輪 積み成形か？ 反転復元。	石英、雲母 法量：0.1～ 1.0mm	外面：7.5YR7/3に ぶい橙。 内面：7.5YR7/3に ぶい橙。
440	土師器	杯	3区東	T-18	12～15	(13.0)			3.6	(11.6)		口縁部 1/4	外面：ヨコナデ。底 部ヘラ切りのちな デ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、雲母 法量：0.1～ 1.0mm	外面：5YR5/4にぶ い赤褐。 内面：5YR5/4にぶ い赤褐。
441	土師器	杯	3区東	T-18	12	(12.6)			2.8	(8.4)		1/2	外面：ヨコナデ。底 部ヘラ切りのちな デ。 内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちな デ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に赤色 塗彩。内外面 一部にスス付 着。反転復元。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 3.5mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：10YR6/2灰黄 褐。
442	土師器	杯	3区東	T-18	12	13.0			3.1	8.6		完形	外面：ヨコナデ。底 部ヘラ切りのち板ナ デ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に赤色 塗彩。内面に スス附着。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 4.2mm	外面：7.5YR8/2灰 白。 内面：7.5YR8/2灰 白。

掲載 番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 鏝径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (高台高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
443	土師器	杯	3区東	T-18	12	13.0			3.4	9.1		完形	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。密度：良。底部内面にスス付着。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：7.5YR6/4に ぶい橙。 内面：7.5YR7/4に ぶい橙。
444	土師器	杯	3区東	T-17	12	14.4			3.35	9.8		4/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。密度：良。内外面にスス付着。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～3.5mm	外面：7.5YR6/2灰 褐。 内面：10YR6/3にぶ い黄橙。
445	土師器	杯	3区東	T-17	12	13.0			3.3	8.3		2/3	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。密度：良。	石英、雲母、 黒色斑粒 法量：0.1～3.0mm	外面：N5/0灰。 内面：N5/0灰。
446	土師器	杯	3区東	T-19	12	12.6			3.6	8.3		2/3	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちヘラ状工具によるナデ。	焼成：良。密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.5mm	外面：7.5YR7/3に ぶい橙。 内面：5YR7/3にぶ い橙。
447	土師器	杯	3区東	T-19	12	13.3			3.65	8.0		完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちユビナデ。	焼成：良。密度：良。	石英・結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.5mm	外面：7.5YR7/3に ぶい橙。 内面：7.5YR7/3に ぶい橙。
448	土師器	杯	3区東	T-18	12	12.4			3.5	7.6		4/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。密度：良。口縁部内外面にスス付着。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～6.0mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：10YR6/3にぶ い黄橙。
449	土師器	杯	3区東	T-19	12	13.0			3.3	8.4		4/5	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。密度：良。内外面に赤色塗彩。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～5.0mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：10YR6/2灰黄 褐。
450	土師器	杯	3区東	T-18	12	(12.8)			3.5	(8.5)		2/3	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。密度：良。内外面に赤色塗彩。内面に付着物。反転復元。	石英、雲母 法量：0.1～1.5mm	外面：2.5YR6/6橙。 内面：2.5YR5/6明 赤褐。
451	土師器	杯	3区東	T-18	12	15.7			5.2	8.7		3/4	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：やや不良。密度：精。	石英、雲母 法量：0.1～6.0mm	外面：2.5Y7/3浅黄。 内面：2.5Y7/3浅黄。
452	土師器	杯	3区東	T-19	12～13	16.0			4.85	8.6		9/10	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。密度：良。口縁部内外面にスス付着。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～9.0mm	外面：7.5YR7/2明 褐灰。 内面：7.5YR7/2明 褐灰。
453	土師器	杯	3区東	T-18	12～15				(1.7)	(9.4)		底部1/5	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。	焼成：良。密度：良。内面に漆残存。内外面に赤色塗彩。反転復元。	石英、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：10YR7/2にぶ い黄橙。 内面：不明。
454	土師器	杯	3区東	T-17	12	15.5			5.7	9.3	0.9	9/10	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。貼付高台。内面：ヨコナデ。	焼成：良。密度：良。内外面にスス付着。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：10YR7/1灰白。
455	土師器	杯	3区東	T-18	12				(3.7)	8.55	1.1	底部完形	外面：ヨコナデのちユビナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。密度：良。内外面に赤色塗彩。外面に炭化物付着。底部外面に爪痕あり。一部反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：2.5Y5/1黄灰。 内面：10YR5/1褐灰。
456	土師器	杯	3区東	T-17	12				9.0	1.2	高台部完形	外面：底部ヨコナデのちナデ。内面：底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。密度：良。内外面(外面は高台部より上部)に赤色塗彩。	石英、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：7.5YR6/3に ぶい褐。 内面：7.5YR6/3に ぶい褐。	
457	土師器	皿	3区東	T-18	12～15	(10.8)			1.5	(8.8)		1/4	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。密度：良。反転復元。	石英、長石、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～1.0mm	外面：7.5YR7/3に ぶい橙。 内面：7.5YR7/3に ぶい橙。
458	土師器	皿	3区東	T-17	12	(14.4)			1.6	(10.7)		1/4	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。密度：良。内外面(底部外面は一部のみ?)に赤色塗彩。底部内面にスス付着。反転復元。	石英、長石、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：10YR6/2灰黄 褐。

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 銜径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (高台高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調	
459	土師器	皿	3区東	T-19	12	(16.8)			1.5	(12.4)		1/7	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：7.5YR7/3に ぶい橙。 内面：7.5YR7/3に ぶい橙。	
460	土師器	高杯	3区東	T-17	12				(6.3)				外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 外面に炭素付着。	石英、雲母 法量：0.1～5.0mm	外面：不明。 内面：5Y7/1灰白。	
461	須恵器	杯	3区東	T-17	12	(12.4)			3.25	(8.9)		口縁部 1/5	外面：回転ナデ。底部 回転ヘラケズリ。 内面：回転ナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英 法量：0.1～1.5mm	外面：N6/0灰。 内面：N6/0灰。	
462	須恵器	杯	3区東	T-17	12				(2.0)	(10.8)	0.45	底部1/2	外面：回転ナデ。底部 回転ナデのちナデ。 内面：回転ナデ。底部 回転ナデ。	焼成：良。 密度：粗。 反転復元。	石英、長石、 結晶片岩 法量：0.1～5.0mm	外面：2.5Y5/1黄灰。 内面：2.5Y5/1黄灰。	
463	黒色土 器A類	椀	3区東	T-18	12	14.6			5.0	7.8	0.9	2/3	外面：ヨコナデ。底部 回転ヘラ切りのち ナデ。貼付高台部ヨ コナデ。 内面：ヨコナデのち ヘラミガキ。口縁部 ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 一部反転復元。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：N2/0黒。	
464	土師器	甕	3区東	T-18	12	26.6	22.4					口縁部 3/4	外面：ハケ（6～7 条/cm）。口縁部ナデ。 頸部ハケのちユビナ デ。 内面：口縁部ハケ （5～7条/cm）の ちナデ。頸部ハケ（8 条/cm）。ユビオサエ のちナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面にスス 付着。反転復元。	石英、赤色斑 粒、雲母 法量：0.1～8.4mm	外面：7.5YR6/1褐 灰。 内面：7.5YR6/1褐 灰。	
465	土師器	甕	3区東	T-18	12	(22.4)	(18.8)			(2.9)		口縁部 1/10	外面：ハケ。口縁部 ナデ・穿孔あり。頸 部タタキ（5条/cm） のちナデ消し。 内面：ハケ（14条/ cm）。口縁頸部ナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、長石、 結晶片岩、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：2.5YR5/6明 赤褐。 内面：2.5YR6/6橙。	
466	土師器	甕	3区東	T-18	12	(16.4)	(15.6)	(17.4)	(6.4)			口縁部 1/4	外面：ハケ（6条/ cm）。口縁部ヨコナデ。 内面：ナデ。口縁部 ヨコナデ。頸部ハケ （5条/cm）。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、赤色斑 粒、雲母 法量：0.1～2.6mm	外面：5YR8/3淡橙。 内面：2.5YR7/4淡 赤橙。	
467	土師器	甕	3区東	T-18	12	残存長 (10.5)			残存幅 (13.1)	厚さ (8.35)				外面：ハケ（5条/ cm）のち板ナデ（幅 1.4cm）。口縁部ナデ。 内面：ハケ（5条/ cm）のち板ナデ（幅 1.4cm）のちユビナ デ。口縁部ナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面にスス 付着。	石英、結晶片 岩、雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：7.5YR5/4に ぶい褐。 内面：7.5YR5/2灰 褐。
468	瓦	平瓦	3区東	T-18	12	残存長 (19.6)			残存幅 (9.8)	厚さ (3.5)				凹面：布目圧痕。 凸面：縄文タタキ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、雲母 法量：0.1～7.0mm	外面：N8/0灰白。 内面：N4/0灰。
469	土製品	土錘	3区東	T-18	12	長さ 7.2	孔径 1.35	幅 4.35	厚さ 4.2	重量 130.0g		完形	外面：ユビオサエ・ ユビナデ（摩滅のた め調整不明瞭）。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：2.5Y6/2灰 黄。	
470	土製品	土錘	3区東	T-18	12	長さ 5.0	孔径 0.75	幅 1.65	厚さ 1.65	重量 11.46g		完形	外面：ナデ。	焼成：良。 密度：良。	雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：5YR7/3にぶ い橙。	
471	土製品	土錘	3区東	T-17	12	長さ 4.7	孔径 0.75	幅 2.15	厚さ 2.05	重量 19.33g		完形	外面：ナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、雲母 法量：0.1～1.0mm	外面：N6/0灰。	
472	金属製 品	刀子	3区東	T-17	12	長さ (26.4)		幅 2.0	厚さ 1.6				柄部分の 端部欠損	表面の状態： やや滑らか。 木取：刃材。			
473		スラグ	3区東	T-18	12	長さ (3.25)		幅 (3.75)	厚さ (2.0)	重量 16.3g					石英 法量：0.1～2.5mm	外面：18B（あお） 2.4/0くらいグレイ。 4 ro（あかみのだ い）4.5/5s 赤みの ブラウン。	
479	土師器	杯	3区東	T-19	13	17.3			5.45	10.1	0.8	2/3	外面：ヨコナデ。底 部回転ヘラ切りのち ナデ。貼付高台。 内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちナ デ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に赤色 塗彩。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～6.0mm	外面：7.5YR7/4に ぶい橙。 内面：7.5YR7/4に ぶい橙。	
499	須恵器	蓋	3区東	T-17	14	(11.0)			1.5			1/6	外面：回転ヘラケズ リ。口縁部回転ナデ。 内面：回転ナデ。	焼成：やや不 良。 密度：粗。 反転復元。	石英、長石、 結晶片岩 法量：0.1～6.0mm	外面：N6/0灰。 内面：N6/0灰。	

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 鏝径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (高台高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調	
500	土師器	杯	3区東	T-19	14	13.6			3.4	8.8		2/3	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：7.5YR6/4に ぶい橙。 内面：7.5YR6/4に ぶい橙。	
501	土師器	杯	3区東	T-19	14	15.7			5.2	8.9	0.85	ほぼ完形	外面：ヨコナデ。口縁部ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。貼付高台。内面：ヨコナデ。底部ナデ。	焼成：良。 密度：良。 底部外面にス ス付着。内面 付着物あり (ス?)。	石英、長石、 結晶片岩、雲 母 法量：0.1～ 6.5mm	外面：2.5YR5/6明 赤褐。 内面：2.5YR5/4に ぶい赤褐。	
502	土師器	杯	3区東	T-19	14	(17.3)			4.5	(9.5)		口縁部 1/4	外面：ナデのちヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。内面：ヨコナデのち暗文。底部ナデのち暗文。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、雲母 法量：0.1～ 1.0mm	外面：5 YR5/4にぶ い赤褐。 内面：5 YR6/6橙。	
503	土師器	皿	3区東	T-19	14	(20.8)			2.45	(16.0)		2/5	外面：ヨコナデ。底部ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に赤色 塗彩。 反転復元。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 3.0mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：10YR6/1褐灰。	
504	土師器	羽釜 (摂津 C型)	3区東	T-19	14	(22.1)	(26.8)		(6.5)			口縁部 1/6	外面：ユビオサエのちハケ。口縁部ヨコナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 外面にスス付 着。反転復元。	石英、赤色斑 粒、砂岩 法量：0.1～ 8.0mm	外面：7.5YR3/1黒 褐。 内面：7.5YR3/1黒 褐。	
509	土師器	杯	3区東	T-18	15				(2.3)	(10.2)		1/8	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面に炭化物 付着。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 1.0mm	外面：10YR4/1褐灰。 内面：2.5Y3/1黒褐。	
510	土師器	甕	3区東	T-19	15	(32.2)	(28.0)		(3.5)			1/7	外面：口縁部ヨコナデ。頸部ユビオサエのちヨコナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：粗。 内面にスス付 着。反転復元。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母、砂岩 法量：0.1～ 4.5mm	外面：10YR7/3にぶ い黄橙。 内面：10YR8/2灰白。	
511	土師器	甕	3区東	T-18	15	(18.4)	(15.7)		(3.9)			1/5	外面：ハケ(9条/cm)。口縁部ヨコナデ。沈線1条。内面：ユビオサエ・ユビナデ。口縁部ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、長石、 結晶片岩、赤 色斑粒、雲母 法量：0.1～ 1.5mm	外面：10YR6/2灰黄 褐。 内面：10YR6/2灰黄 褐。	
512	土師器	甕の把手	3区東	T-18	15	残存長 (2.8)						残存幅 (6.3)	把手部の み ほぼ完形	外面：ユビオサエ、ハケ。内面：棒状工具でナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 4.0mm	外面：5 YR8/2灰白。
513	金属製品	鉄鎌	3区東	S-18	15	長さ 9.5			幅 3.4	厚さ 0.6	重量 18.31g		鎌身部：方頭形・断面平造・角閃。頸部：無頸。基部：有茎・断面方形				
519	土師器	高台付 杯	E	T-19	A	(14.6)			4.7	7.9	1.4	1/2	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。高台部ヨコナデ。貼付高台。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 一部反転復 元。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 3.2mm	外面：7.5YR6/4に ぶい橙。 内面：5 YR5/4にぶ い赤褐。	
522	土師器	杯	E	T-19	B	(14.5)			3.9	9.1		1/2	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 一部反転復 元。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 2.5mm	外面：2.5Y7/2灰黄。 内面：10YR6/4にぶ い黄橙。	
523	土師器	杯	E	T-19	B	(12.8)			4.1	(8.2)		1/4	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 外面全体にス ス付着。口縁 部内面に付着 物あり。反転 復元。	石英、結晶片 岩、雲母 法量：0.1～ 3.0mm	外面：10YR4/2灰黄 褐。 内面：2.5Y6/2灰黄。	
524	土師器	杯	E	T-19	B	12.6			3.5	7.7		3/4	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 4.0mm	外面：7.5YR7/3に ぶい橙。 内面：7.5YR7/3に ぶい橙。	
529	土師器	杯	E	T-19	C	12.95			3.65	7.7		ほぼ完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ナデ。	焼成：良。 密度：良。 口縁部外面に 自然釉?付着	石英、赤色斑 粒、雲母 法量：0.1～ 5.0mm	外面：10YR6/3にぶ い黄橙。 内面：10YR7/3にぶ い黄橙。	
530	土師器	杯	E	T-19	C	13.6			3.9	8.2		3/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑 粒、雲母 法量：0.1～ 2.6mm	外面：10YR8/1灰白。 内面：10YR8/1灰白。	

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 鏝径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (高台高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
531	土師器	高台付杯	E	T-19	C	15.0			5.6	9.4	1.1	9/10	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。高台部ヨコナデ。貼付高台。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：10YR7/3にぶい黄橙。 内面：10YR7/3にぶい黄橙。
536	土師器	杯	E	T-19	D	(13.25)			3.8	7.2		口縁部 1/4	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 一部反転復元。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.7mm	外面：10YR7/2にぶい黄橙。 内面：10YR7/3にぶい黄橙。
537	土師器	杯	E	T-19	D	16.0			4.9	9.95		完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面にスス附着。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～5.5mm	外面：10YR6/2灰黄褐。 内面：7.5YR7/1明褐灰。
538	土師器	杯	E	T-19	F	12.9			3.4	7.9		完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：精。 内面全体と体部外面に赤色塗彩。	石英、長石、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～2.0mm	外面：2.5Y7/2灰黄。 内面：10YR6/2灰黄褐。
539	土師器	杯	E	T-19	F	12.6			3.3	7.75		3/4	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 内外面に赤色塗彩。	石英、雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：5 YR8/4淡橙。
540	土師器	杯	E	T-19	F	16.3			5.4	9.3		2/3	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.0mm	外面：7.5YR6/3にぶい褐。 内面：7.5YR6/4にぶい橙。
541	土師器	甕	E	T-19	F	(30.4)	(26.6)		(10.0)			口縁部 1/8	外面：ハケ。口縁部ヨコナデ。内面：ハケ。口縁部ヨコナデ。頸部ハケ。	焼成：良。 密度：良。 反転復元。	石英、雲母 法量：0.1～4.6mm	外面：10YR8/1灰白。 内面：10YR7/2にぶい黄橙。
542	土師器	甕	E	T-19	F	(24.3)	(20.4)		(7.4)			口縁～体 部上部 1/8	外面：ハケ(6条/cm)。口縁部ヨコナデ。内面：ユビオサエのち横方向のハケ(6条/cm)、ユビオサエのち斜め方向のハケ(6条/cm)。口縁部ヨコナデ。頸部横方向のハケ(6条/cm)。	焼成：良。 密度：粗。 内外面ともにスス附着。反転復元。	石英、赤色斑粒、雲母、砂 法量：0.1～5.0mm	外面：10YR4/2灰黄褐。 内面：7.5YR4/2灰褐。
543	土師器	杯	E	T-19	G	13.4			3.55	9.3		完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～7.0mm	外面：7.5YR6/4にぶい橙。 内面：7.5YR6/4にぶい橙。
544	土師器	杯	E	T-19	G	12.8			3.65	8.4		4/5	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。板目状圧痕。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：精。 内外面に赤色塗彩。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～1.7mm	外面：7.5YR6/4にぶい橙。 内面：7.5YR6/4にぶい橙。
545	土師器	杯	E	T-19	G	13.6			3.2	9.1		完形	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～4.8mm	外面：2.5Y7/1灰白。 内面：10YR7/2にぶい黄橙。
548	土師器	杯	E	T-19	H	13.5			3.5	8.9		9/10	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 底部外面以外に赤色塗彩。口縁部外面と内面全体にスス附着。	石英、結晶片岩、雲母 法量：0.1～6.0mm	外面：2.5YR5/6明赤褐。 内面：2.5YR5/6明赤褐。
549	土師器	杯	E	T-19	H	12.6			3.45	8.1		9/10	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 外面にスス附着。	石英、雲母 法量：0.1～3.0mm	外面：7.5YR8/2灰白。 内面：7.5YR8/3浅黄橙。
550	土師器	皿	E	T-19	H	14.3			1.9	11.7		9/10	外面：ヨコナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。内面：ヨコナデ。底部ヨコナデのちナデ。	焼成：良。 密度：良。 内面に墨書あり。内外面に赤色塗彩。	石英、結晶片岩、赤色斑粒、雲母 法量：0.1～4.5mm	外面：5 Y7/2灰白。 内面：5 Y7/2灰白。

掲載番号	分類	名称	調査区	出土位置 (小グリッド)	層位	法量 (口径)	法量 (頸径・ 銜径)	法量 (最大径)	法量 (器高)	法量 (底径)	法量 (高台高)	残存率	調整技法	特徴	含有物	色調
551	土製品	土錘	E	T-19	H	長さ 7.1		孔径 0.9	幅 3.7	厚さ 3.5	重量 75.76g	ほぼ完形	外面：ナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 5.6mm	外面：2.5Y7/2灰黄。
552	土製品	土錘	E	T-19	H	長さ 6.0		孔径 0.8	幅 2.2	厚さ 2.05	重量 29.91g	完形	外面：ユビオサエ・ ナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、赤色斑 粒、雲母 法量：0.1～ 2.5mm	外面：5 Y7/1灰白。
553	土製品	土錘	E	T-19	H	長さ (4.65)		孔径 0.3	幅 1.2	厚さ 1.2	重量 5.32g	ほぼ完形	外面：ユビオサエの ちナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、雲母 法量：0.1～ 1.0mm	外面：10Y6/1灰。
554	土師器	ミニチュア	E	T-19	H				(2.1)	4.1		底部完形	外面：ヨコナデ。底 部回転ヘラ切りのち ナデ。 内面：ヨコナデ。	焼成：良。 密度：良。 一部反転復 元。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 3.0mm	外面：10YR7/3にぶ い黄橙。 内面：10YR6/3にぶ い黄橙。
555	土師器	杯	E	T-19	I	(12.9)			(3.6)	(8.7)		1/3	外面：ヨコナデ。底 部回転ヘラ切りのち ナデ。 内面：ヨコナデ。底 部ヨコナデのちナ デ。	焼成：良。 密度：良。 外面にスス付 着。反転復元。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 3.0mm	外面：10YR7/3にぶ い黄橙。 内面：7.5YR7/4に ぶい橙。
556	土製品	土錘	E	T-19	I	長さ 4.3		孔径 0.6	幅 1.45	厚さ (1.3)	重量 7.58g	4/5	外面：ユビオサエの ちナデ。	焼成：良。 密度：良。	石英、結晶片 岩、雲母 法量：0.1～ 2.5mm	外面：5 Y5/1灰。
557	土製品	土錘	E	T-19	I	長さ (5.15)		孔径 0.75	幅 1.75	厚さ 1.65	重量 13.76g	ほぼ完形	外面：ナデ。(摩減 のため調整不明)	焼成：良。 密度：良。 側面に穿孔あ り。	石英、結晶片 岩、赤色斑粒、 雲母 法量：0.1～ 2.0mm	外面：2.5Y6/2灰黄。



写真図版



斎串出土状況（3区東9層）



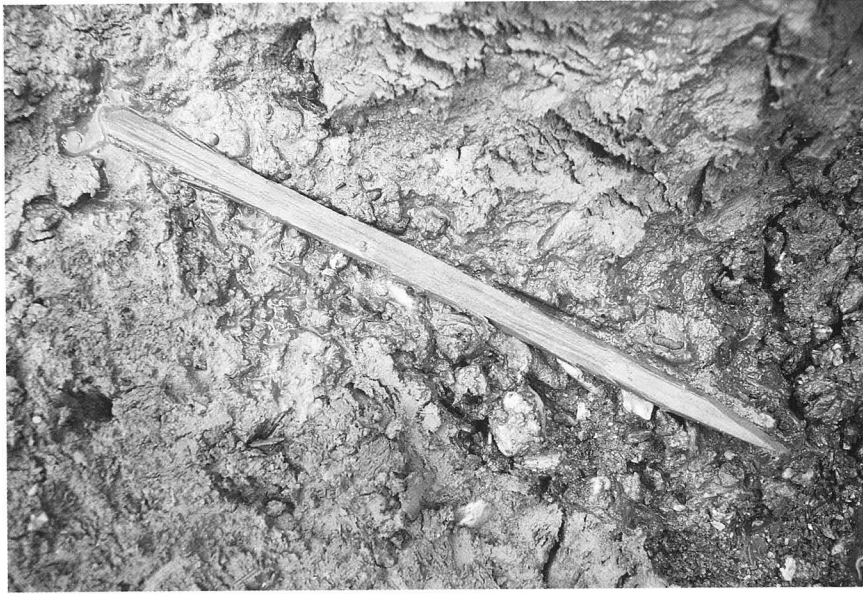
斎串出土状況（3区東9層）



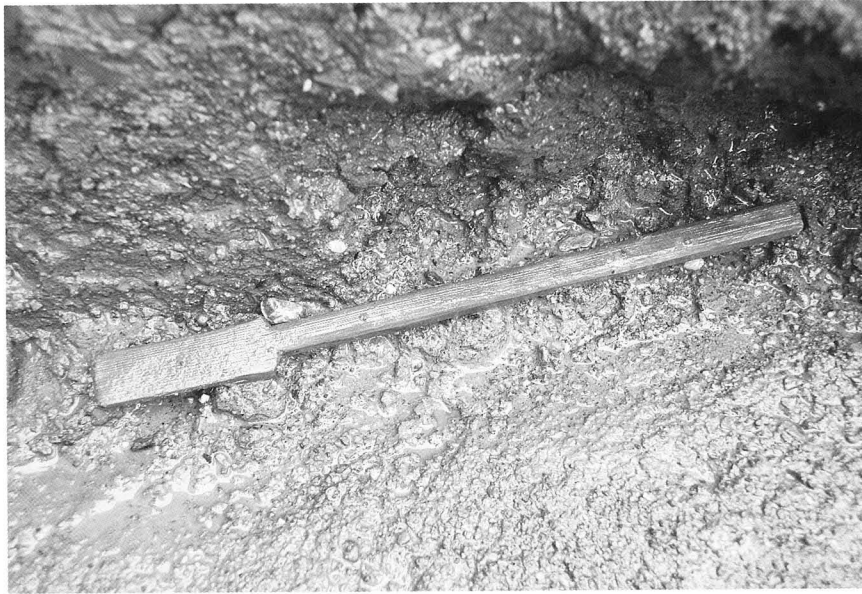
人形出土状況（3区東8層）



图版 2



斎串出土状況（3区東9層）



題籤軸出土状況
（3区東12層）



刀子出土状況（3区東12層）

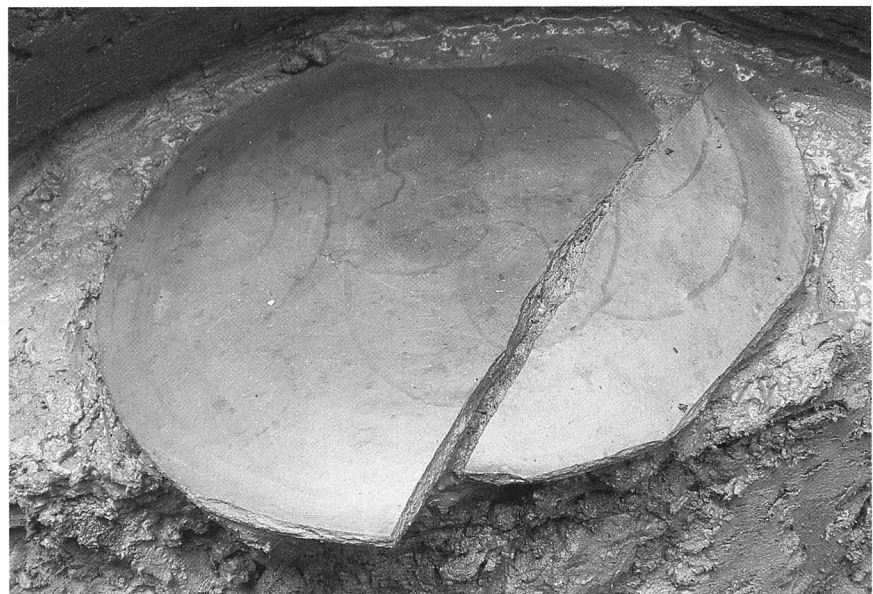
墨書土器出土状況
(3区東8層)



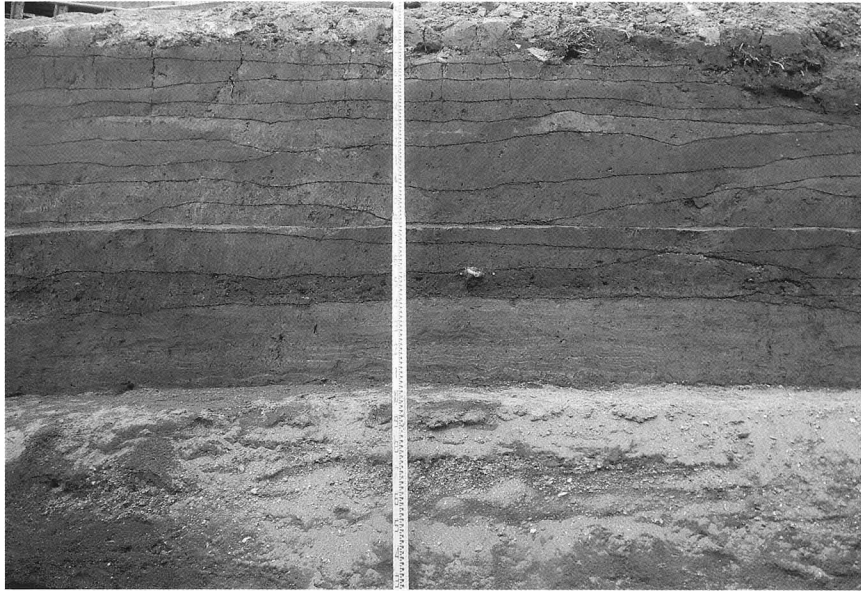
土器出土状況 (3区東9層)



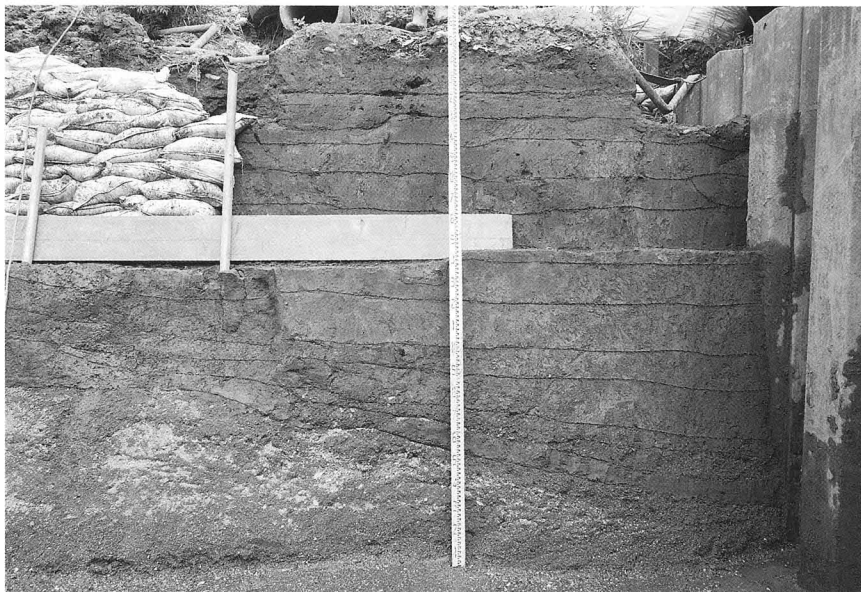
土器出土状況 (3区西11層)



図版 4



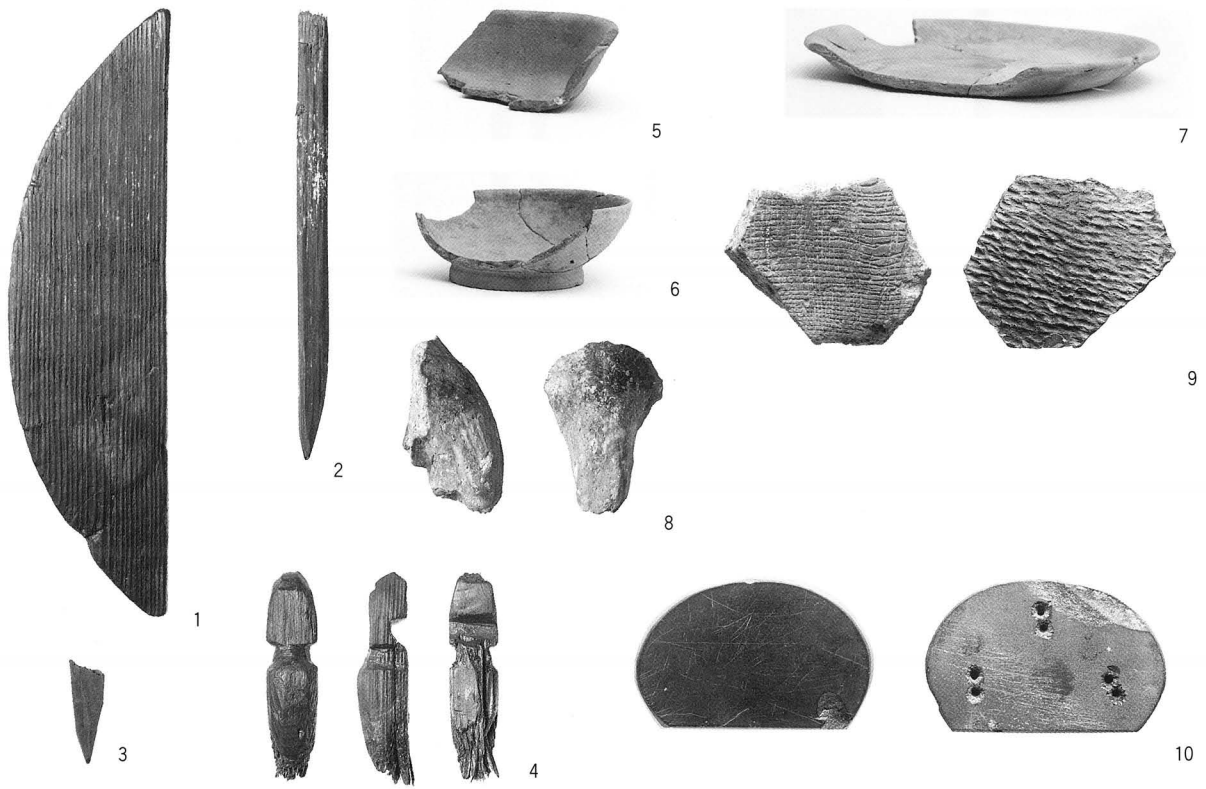
3区東 北壁土層堆積状況



3区東 東壁土層堆積状況



3区東 完掘状況
(東から撮影)



3区西5層 出土遺物

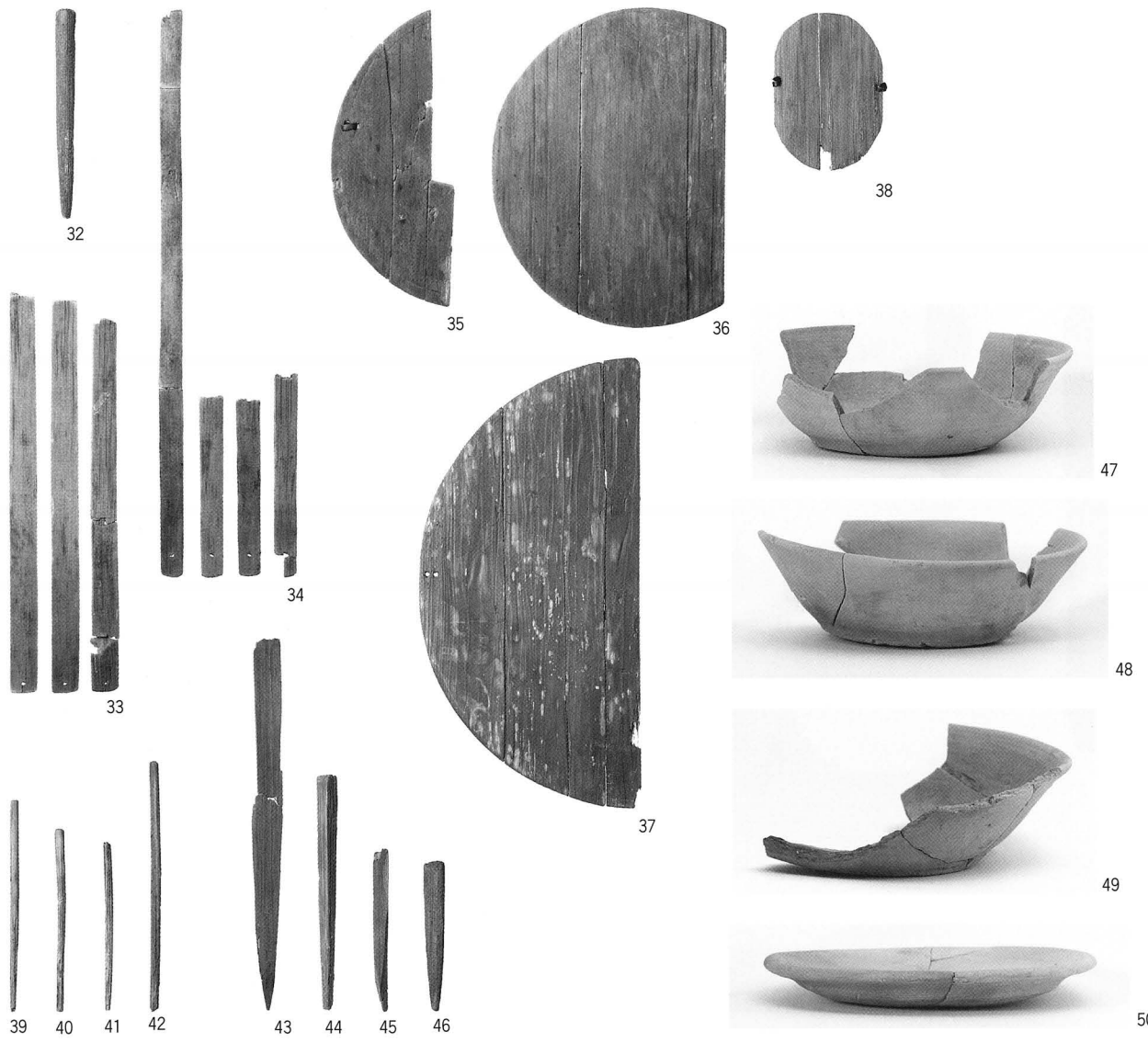


3区西6層 出土遺物

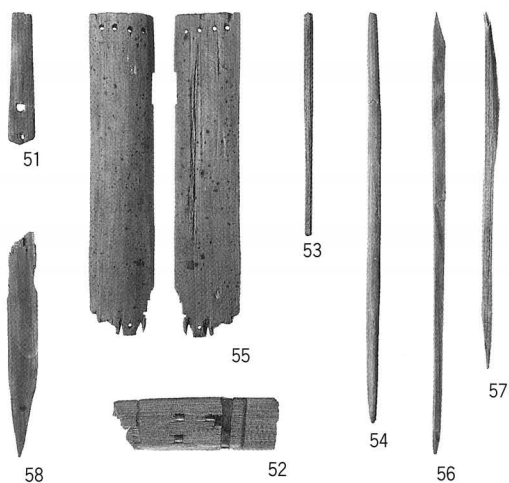
图版 6



3区西7層 出土遺物



3区西8層 出土遺物



51

53

55

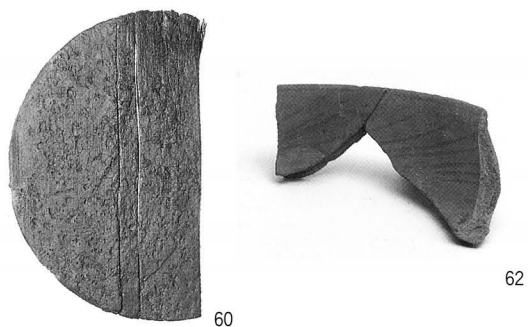
52

54

56

57

58



60

62

59



63

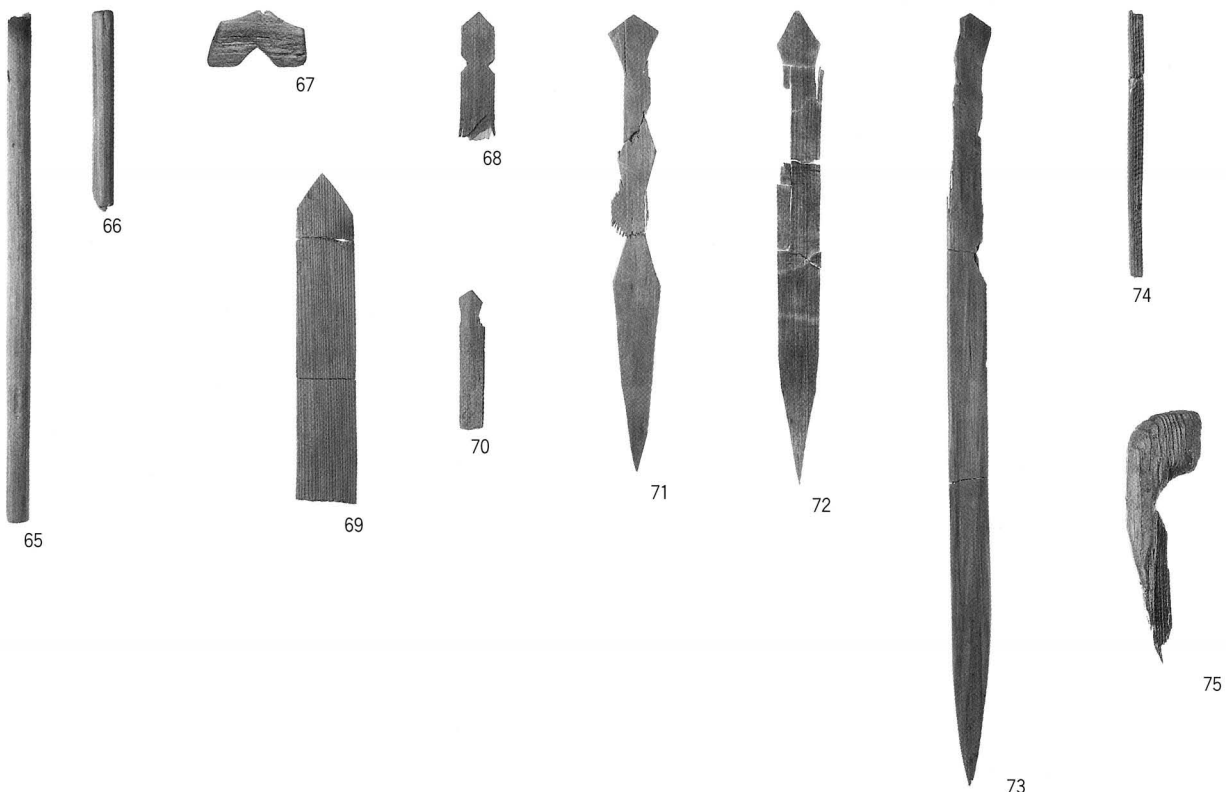
61



64

3区西9層 出土遺物

3区西10層 出土遺物



65

66

67

68

70

71

72

74

75

73

3区西11層 出土遺物(1)

图版 8



76



80



82



84



81



78

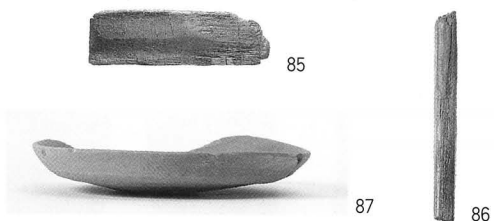


79



83

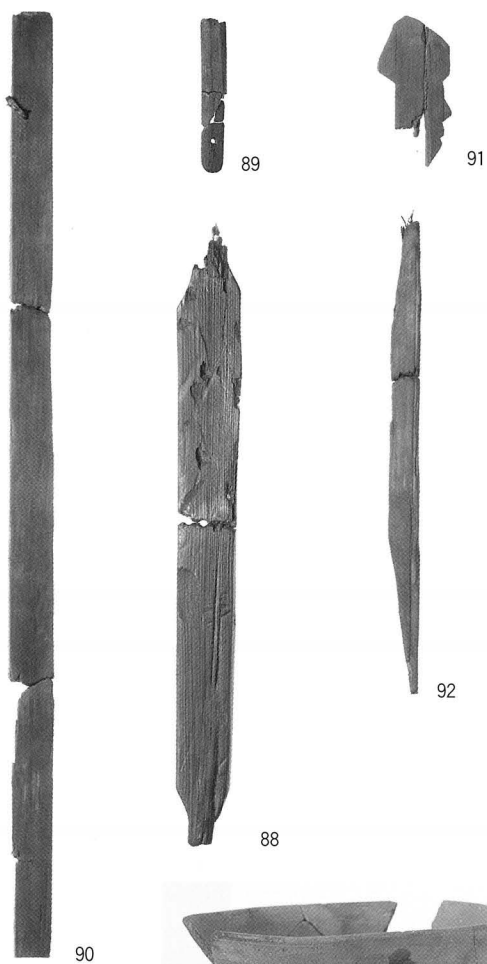
3区西11層 出土遺物(2)



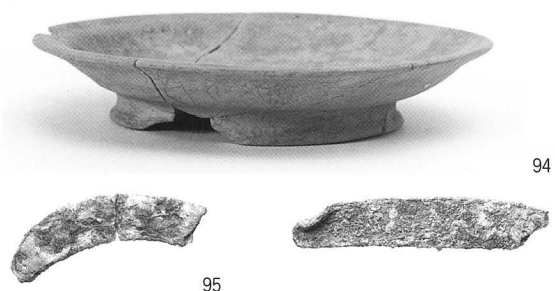
3区北6層 出土遺物



3区北9層 出土遺物



3区北7層 出土遺物

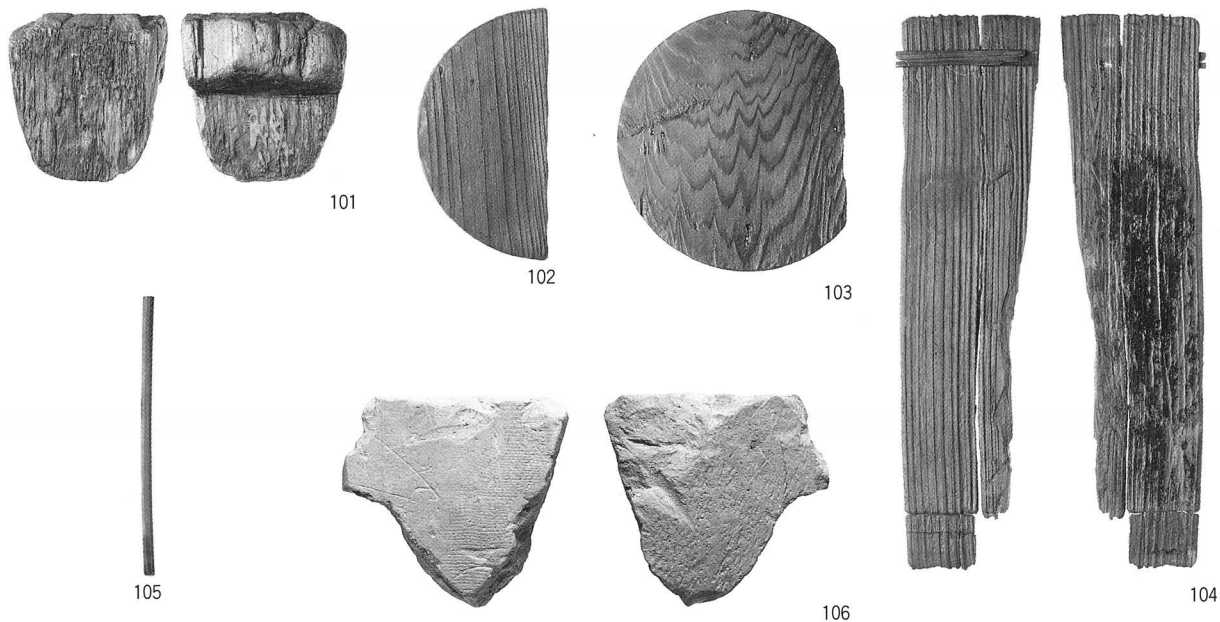


3区北8層 出土遺物

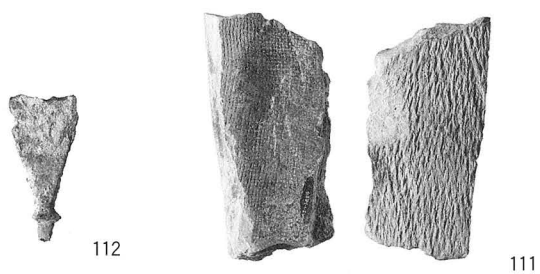
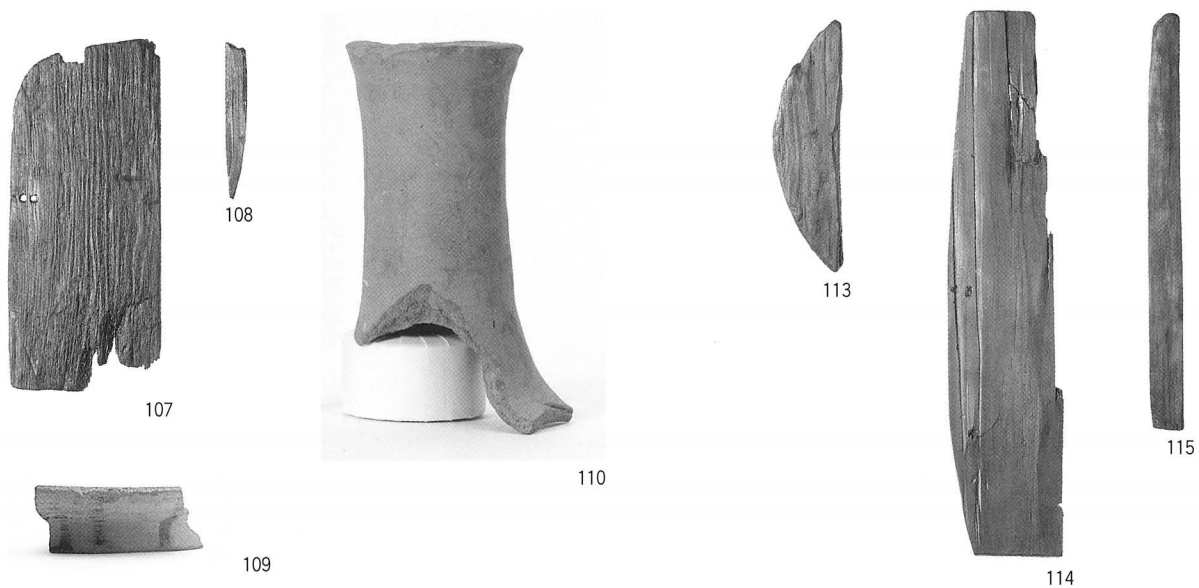


3区北11層 出土遺物

図版10



3区東3層 出土遺物



3区東5層 出土遺物



3区東6層 出土遺物